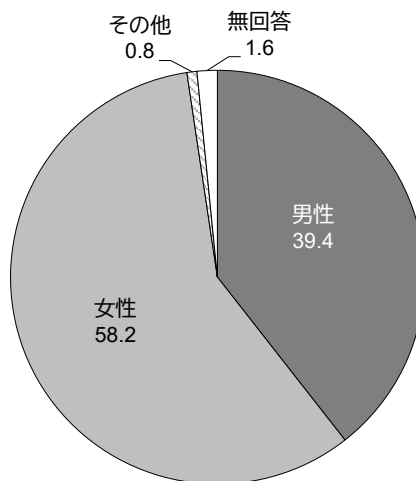


Ⅲ 調査結果

回答者の属性

(1) 性別

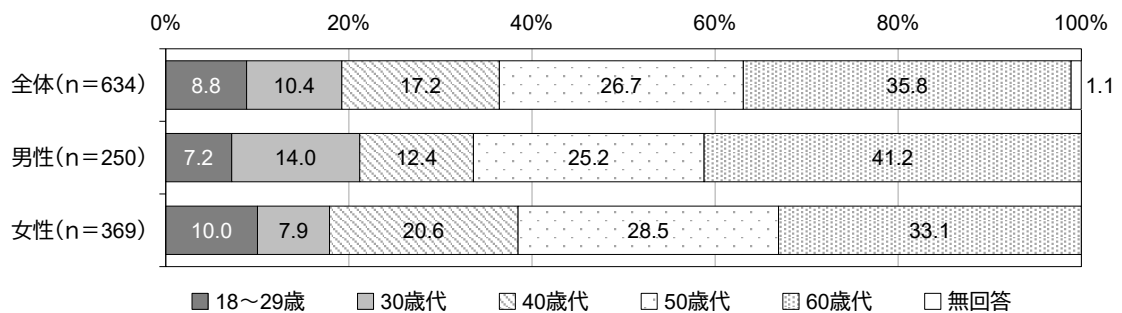
男性（39.4％）が約4割、女性（58.2％）が約6割となっています。



(2) 年齢

「60 歳代」（35.8％）が3割以上で最も高く、次いで「50 歳代」（26.7％）が約3割となっています。

性別でみると、全体傾向と同様に、男女とも「60 歳代」（男性 41.2％、女性 33.1％）が最も高く、次いで「50 歳代」（男性 25.2％、女性 28.5％）が高くなっています。

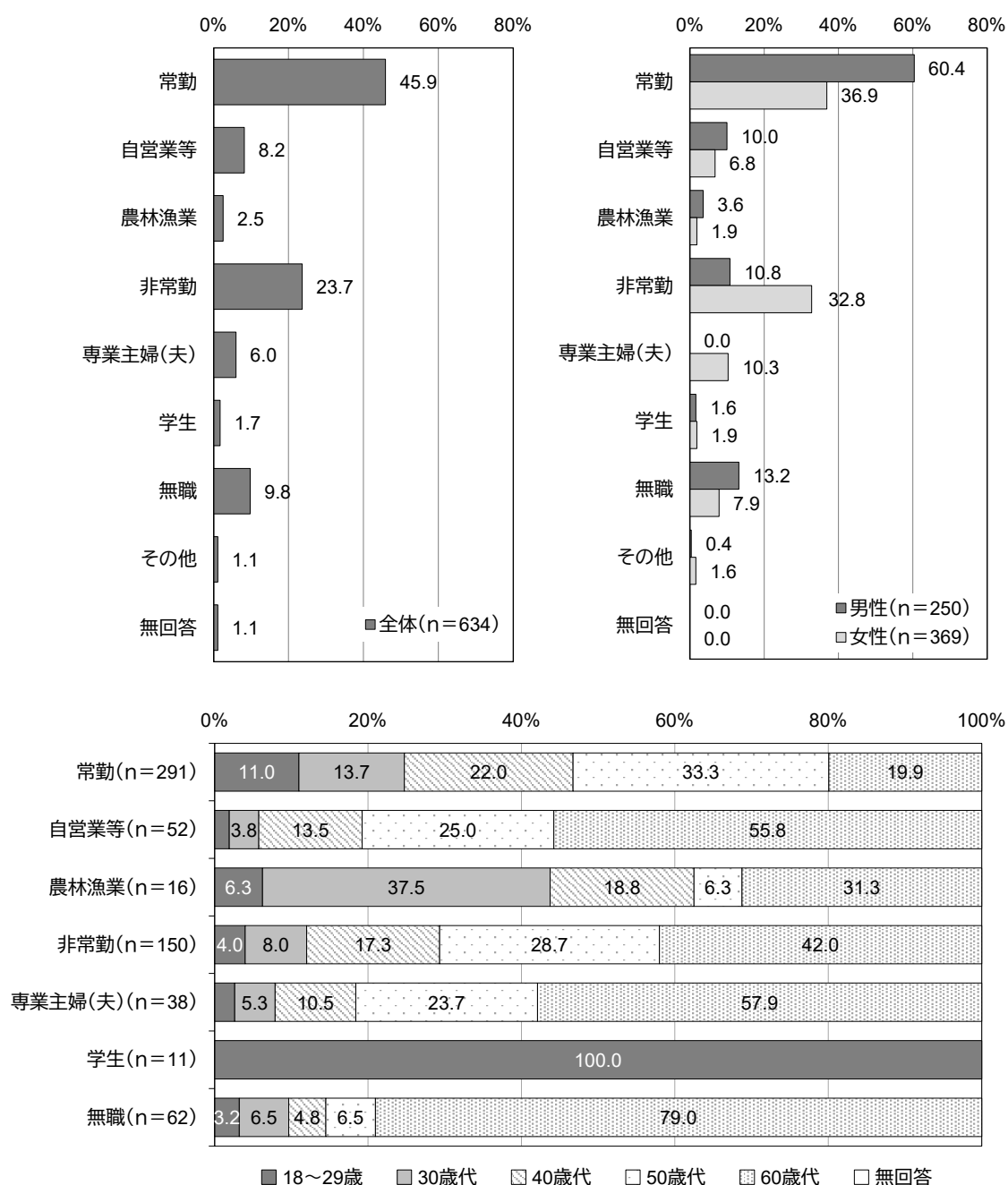


(3) 職業

「常勤」(45.9%)が4割以上で最も高く、次いで「非常勤」(23.7%)が2割以上となっています。

性別でみると、男女とも「常勤」(男性 60.4%、女性 36.9%)が最も高くなっていますが、男性の6割以上に対して、女性は約4割となっています。また、女性は「非常勤」(32.8%)が3割以上で比較的高くなっています。

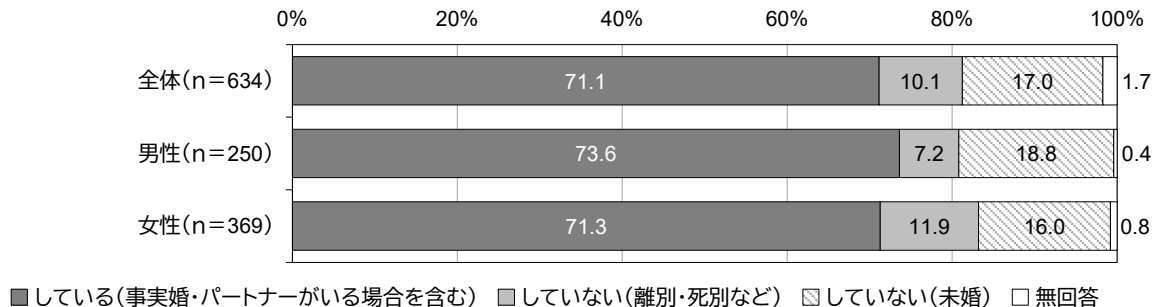
年代別でみると、「自営業等」「専業主婦(夫)」「無職」は60歳代(それぞれ55.8%、57.9%、79.0%)が特に高くなっています。



※「その他」の内容：製造業、会社役員など

(4) 結婚の状況

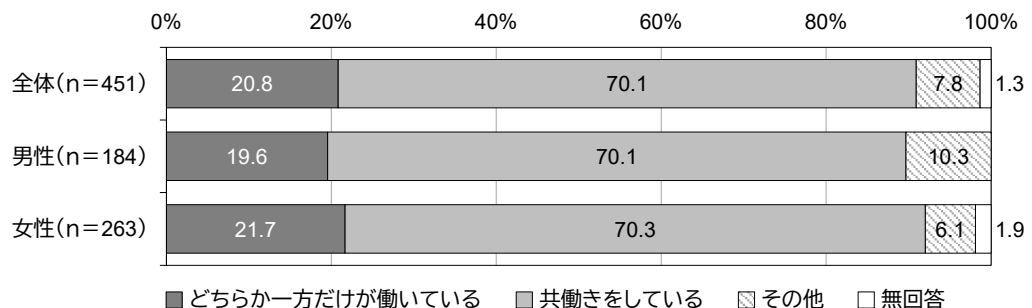
「している（事実婚・パートナーがいる場合を含む）」（71.1％）が7割以上で最も高くなっています。次いで高い「していない（未婚）」（17.0％）と「していない（離別・死別など）」（10.1％）との合計値『していない』（27.1％）は約3割となっています。



(5) 夫婦・パートナーの働き方

【(4)で「している」と回答した場合】

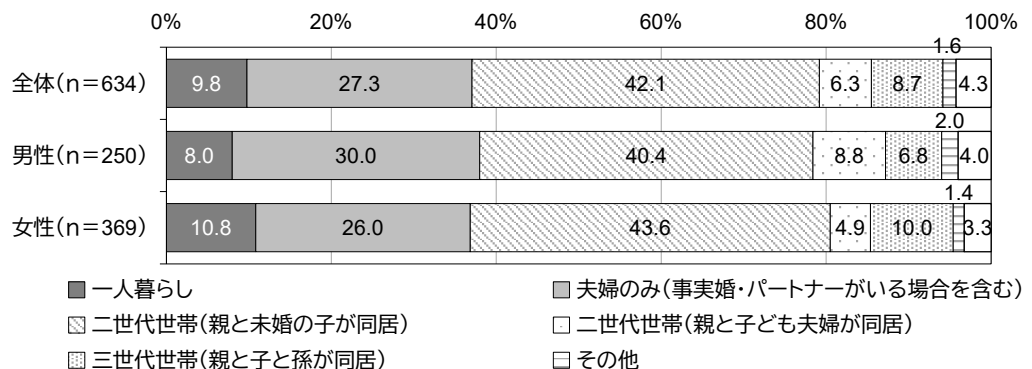
「共働きをしている」（70.1％）が7割以上で最も高く、次いで「どちらか一方だけが働いている」（20.8％）が2割以上となっています。



※「その他」の内容：夫婦（二人）ともに無職、年金（生活者）など

(6) 世帯構成

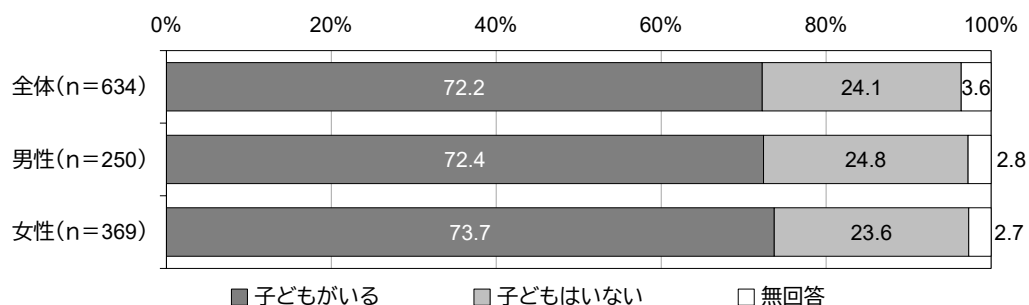
「二世世代（親と未婚の子が同居）」（42.1％）が4割以上で最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚・パートナーがいる場合を含む）」（27.3％）が約3割となっています。



※「その他」の内容：姉と二人、4世代世帯、親と離別した子が同居、夫婦と妻の妹、親の介護があるので3人とも一人暮らし

(7) 子どもの有無

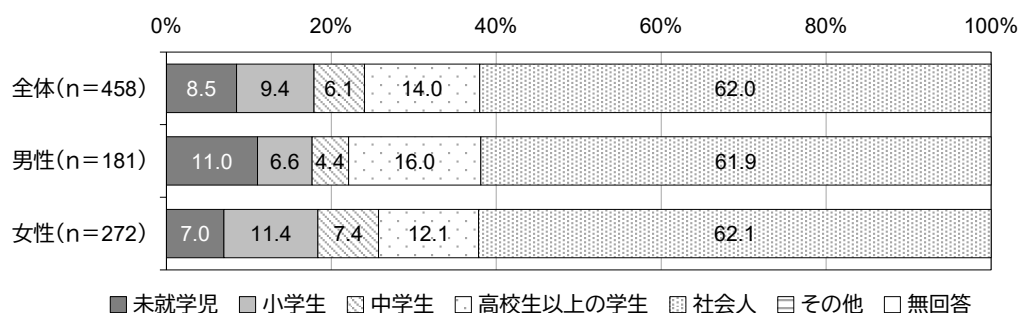
「子どもがいる」(72.2%) が7割以上、「子どもはいない」(24.1%) が2割以上となっています。



(8) 末子の年代等

【(7) で「子どもがいる」と回答した場合】

「社会人」(62.0%) が6割以上で最も高く、次いで「高校生以上の学生」(14.0%) が1割以上となっています。



※「その他」の回答なし

1 男女平等について（問1）

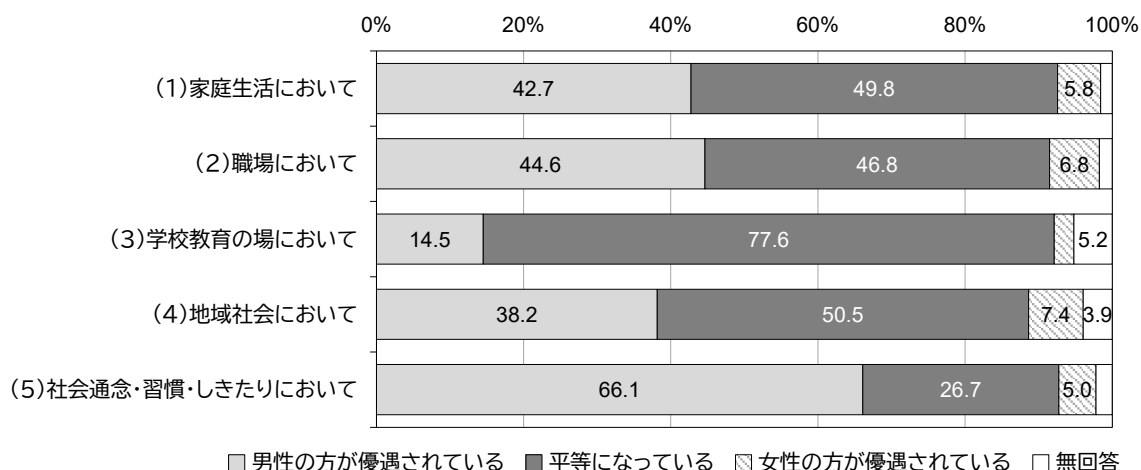
問1. あなたは、以下の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（それぞれ1つに○）

◆「平等になっている」は「学校教育の場」が約8割で特に高く、「社会通念・習慣・しきたり」が3割未満で特に低い

「(5) 社会通念・習慣・しきたりにおいて」を除き「平等になっている」が最も高く、その中でも「(3) 学校教育の場において」(77.6%)は約8割で特に高くなっています。

「(5) 社会通念・習慣・しきたりにおいて」は「男性の方が優遇されている」(66.1%)が6割以上で最も高い一方、「平等になっている」(26.7%)は約3割となっています。

一方、「女性の方が優遇されている」はいずれの項目も1割未満となっています。



□ 男性の方が優遇されている ■ 平等になっている ▨ 女性の方が優遇されている □ 無回答

2024年度(n=634)

※「(4) 地域社会において」は、「(4) 地域社会（自治会やPTAなどの地域活動）において」として設定

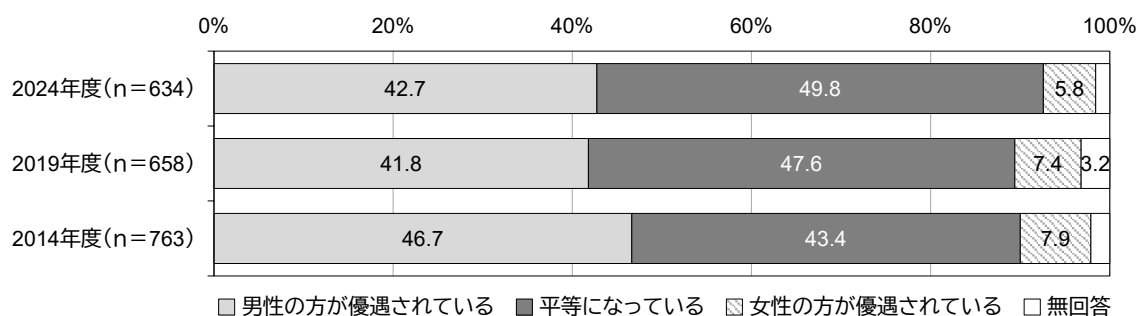
(1) 家庭生活において

◆「平等になっている」が約5割で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が4割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「平等になっている」(49.8%)が約5割で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(42.7%)が4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「平等になっている」は若干高くなる傾向がみられます。



〈属性別〉

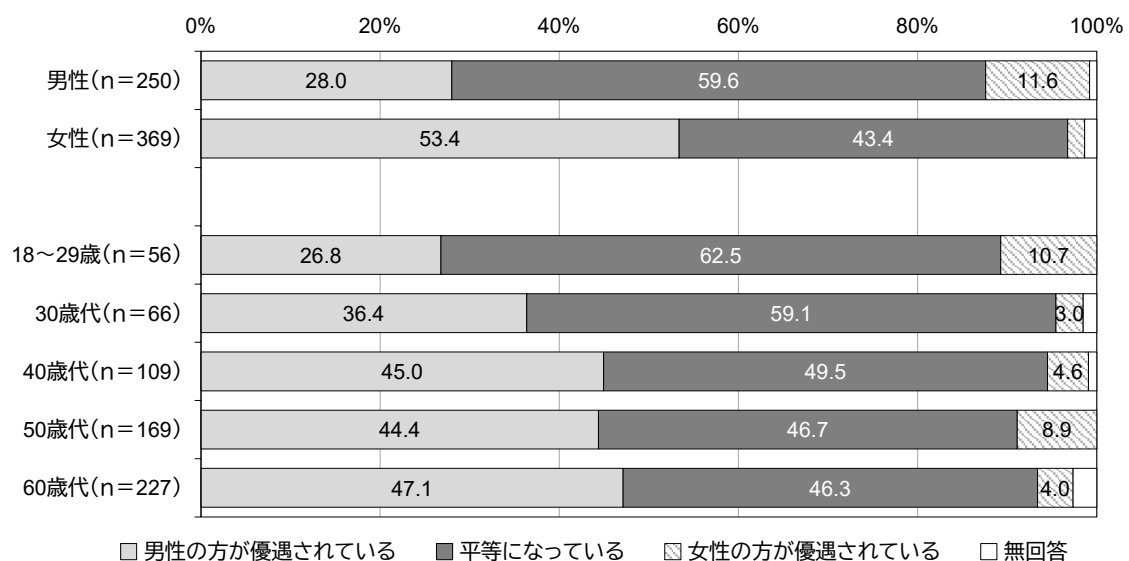
◆男性は「平等になっている」、女性は「男性の方が優遇されている」が最も高い

◆年代別では、高い年代ほど「平等になっている」が低い

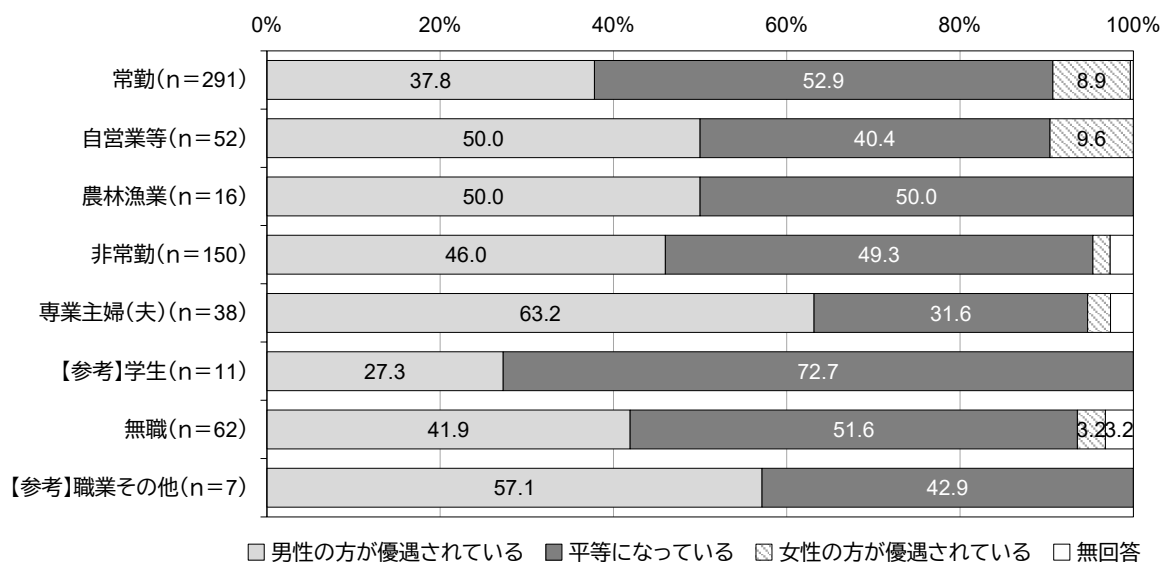
◆職業別では、専業主婦(夫)は「男性の方が優遇されている」が高い

性別でみると、男性は「平等になっている」(59.6%)が約6割、女性は「男性の方が優遇されている」(53.4%)が5割以上で最も高くなっています。

年代別でみると、60歳代を除き「平等になっている」が最も高く、「平等になっている」は高い年代ほど低くなっています。60歳代は「男性の方が優遇されている」(47.1%)、「平等になっている」(46.3%)が約5割で同程度に高くなっています。



職業別でみると、自営業等、専業主婦（夫）は「男性の方が優遇されている」（それぞれ50.0%、63.2%）が最も高く（農林漁業は「男性の方が優遇されている」「平等になっている」が50.0%で同値）、特に専業主婦（夫）は6割以上となっています。



※学生、職業その他は回答者数が少ないため参考値として表示

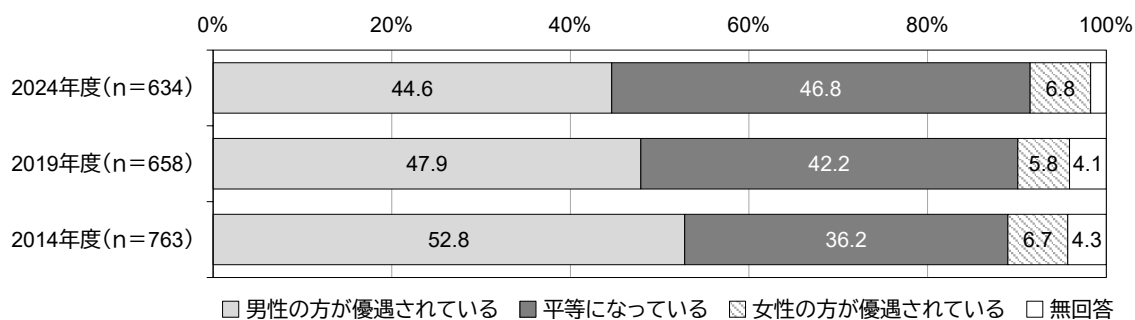
(2) 職場において

◆「平等になっている」「男性の方が優遇されている」が約4割で同程度に高い

◆「平等になっている」が高くなる傾向

「平等になっている」(46.8%)、「男性の方が優遇されている」(44.6%)が4割以上で同程度に高くなっています。

過去2回の調査と比較すると、「平等になっている」は高くなる傾向がみられます。



〈属性別〉

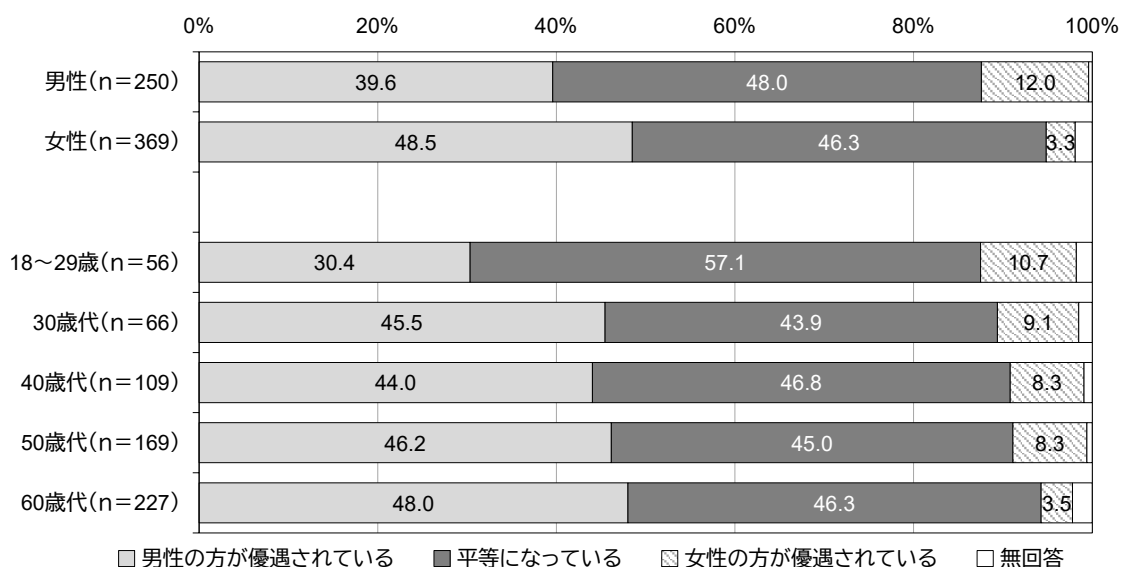
◆男性は「平等になっている」、女性は「男性の方が優遇されている」が最も高い

◆年代別では、18～29歳は「平等になっている」が高く、他の年代は「男性の方が優遇されている」「平等になっている」が同程度に高い

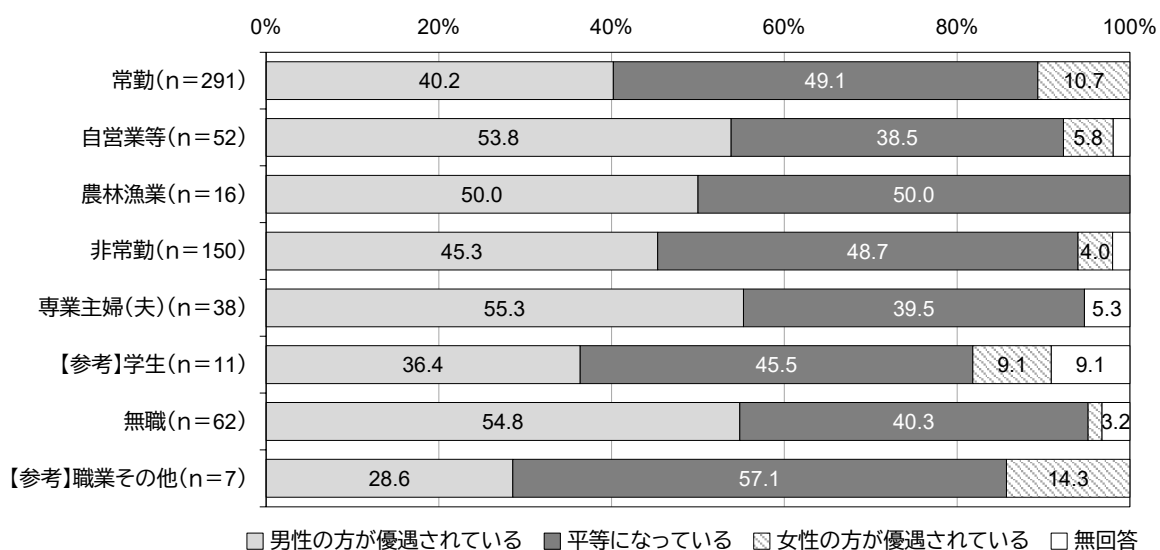
◆職業別では、自営業等、専業主婦(夫)、無職は「男性の方が優遇されている」が高い

性別でみると、男性は「平等になっている」(48.0%)が約5割、女性は「男性の方が優遇されている」(48.5%)が約5割で最も高くなっています。

年代別でみると、18～29歳を除き「男性の方が優遇されている」「平等になっている」が同程度に高く、18～29歳は「平等になっている」(57.1%)が約6割で最も高くなっています。



職業別でみると、自営業等、専業主婦（夫）、無職は「男性の方が優遇されている」（それぞれ 53.8%、55.3%、54.8%）、それ以外は「平等になっている」が最も高くなっています。



※学生、職業その他は回答者数が少ないため参考値として表示

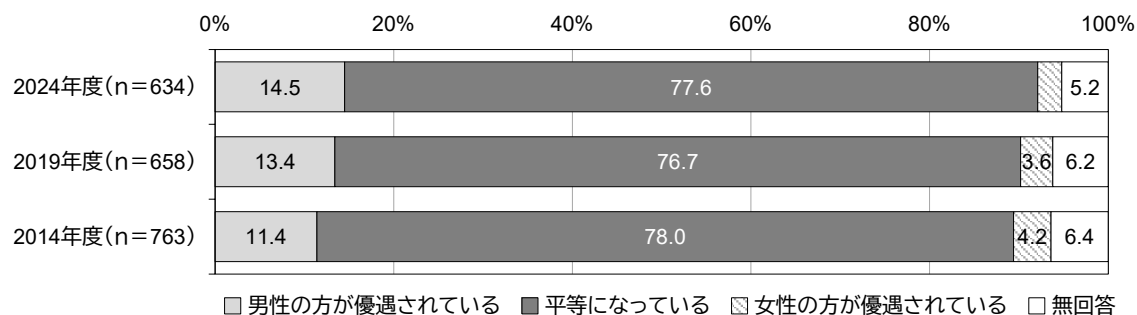
(3) 学校教育の場において

◆「平等になっている」が約8割で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が1割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「平等になっている」(77.6%) が約8割で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(14.5%) が1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

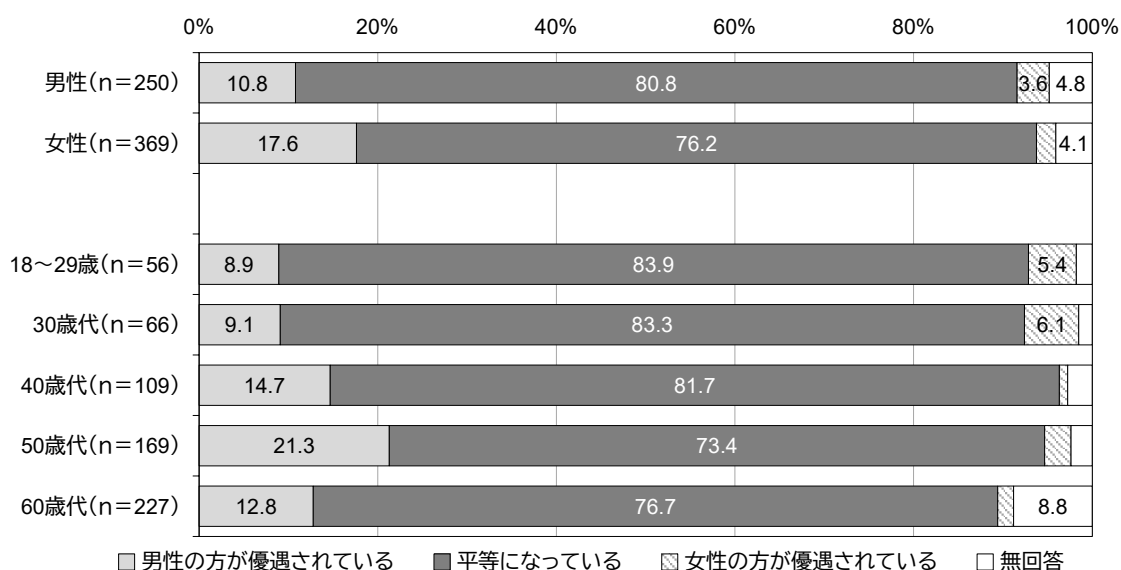


〈属性別〉

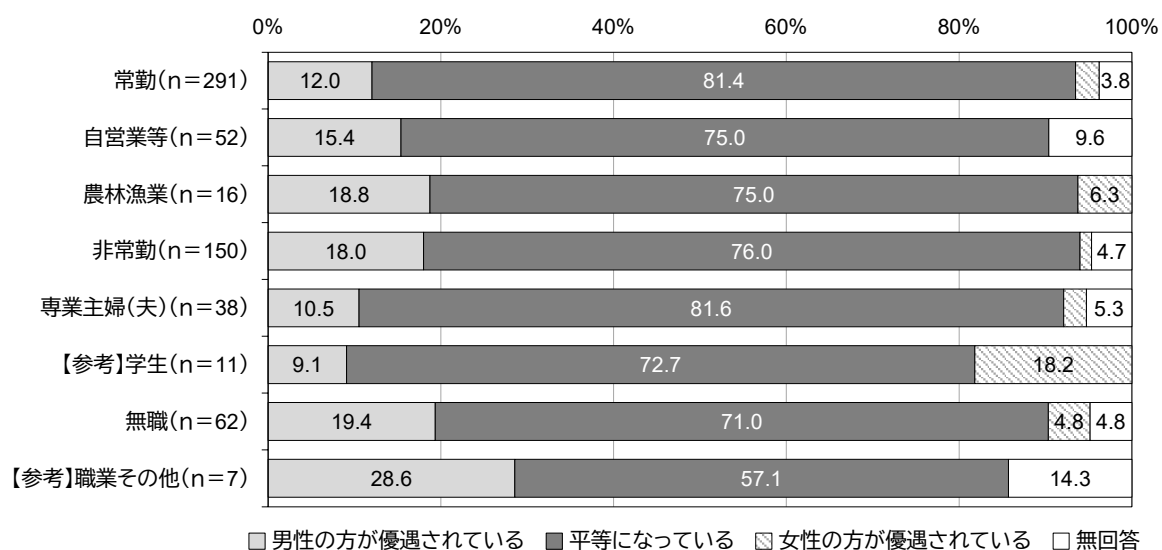
◆性別、年代別、職業別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「平等になっている」(男性 80.8%、女性 76.2%) が最も高く、性別による大きな差はみられませんが、「男性の方が優遇されている」は女性(17.6%)が男性(10.8%)より若干高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「平等になっている」が最も高く、年代による大きな差はみられませんが、その中で 50 歳代は「男性の方が優遇されている」(21.3%) が2割以上で比較的高くなっています。



職業別でみると、いずれの職業も「平等になっている」が最も高く、職業による大きな差はみられません。



※学生、職業その他は回答者数が少ないため参考値として表示

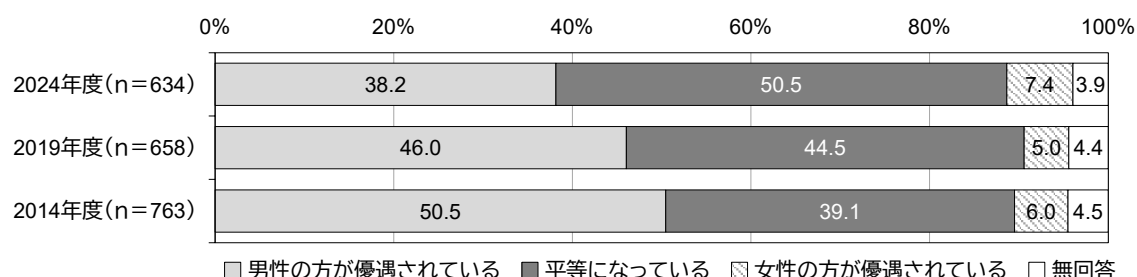
(4) 地域社会において

◆「平等になっている」が5割以上で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」が約4割

◆「男性の方が優遇されている」は低くなる傾向、「平等になっている」は高くなる傾向

「平等になっている」(50.5%)が5割以上で最も高く、次いで「男性の方が優遇されている」(38.2%)が約4割となっています。

過去2回の調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」は低くなる傾向、「平等になっている」は高くなる傾向がみられます。



〈属性別〉

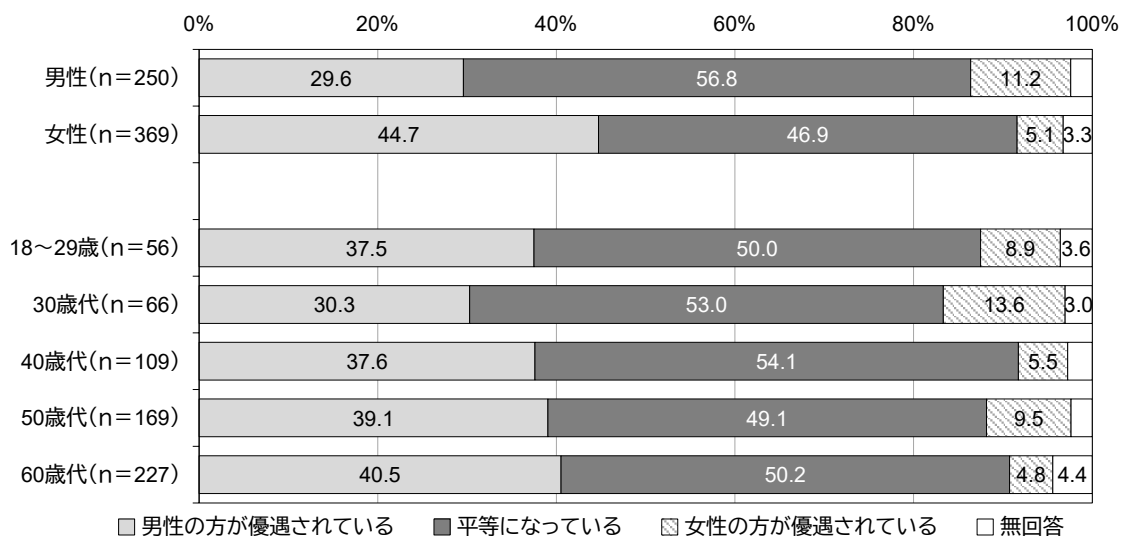
◆男女とも最も高い「平等になっている」は、男性が女性より高い

◆年代別による大きな差はみられない

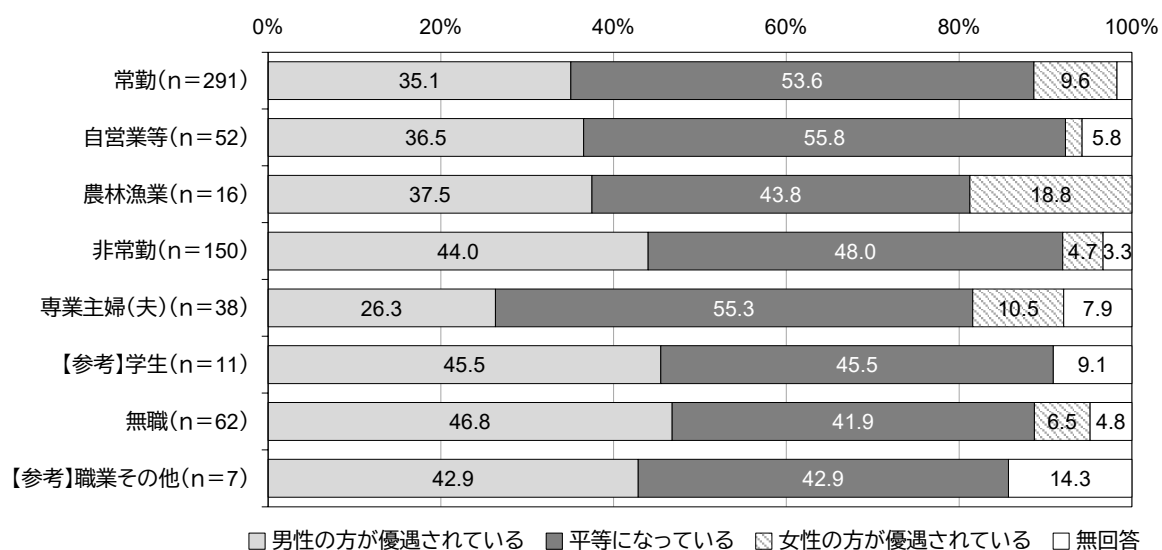
◆職業別では、無職は「男性の方が優遇されている」が高い

性別でみると、男女とも「平等になっている」(男性 56.8%、女性 46.9%)が最も高く、男性は女性より約10ポイント高くなっています。また、女性は「男性の方が優遇されている」(44.7%)が同程度に高く、男性(29.6%)より15ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「平等になっている」が最も高く、年代による大きな差はみられません。その中で30歳代は「女性の方が優遇されている」(13.6%)が1割以上で比較的高くなっています。



職業別でみると、無職は「男性の方が優遇されている」(46.8%)、それ以外は「平等になっている」が最も高くなっています。



※学生、職業その他は回答者数が少ないため参考値として表示

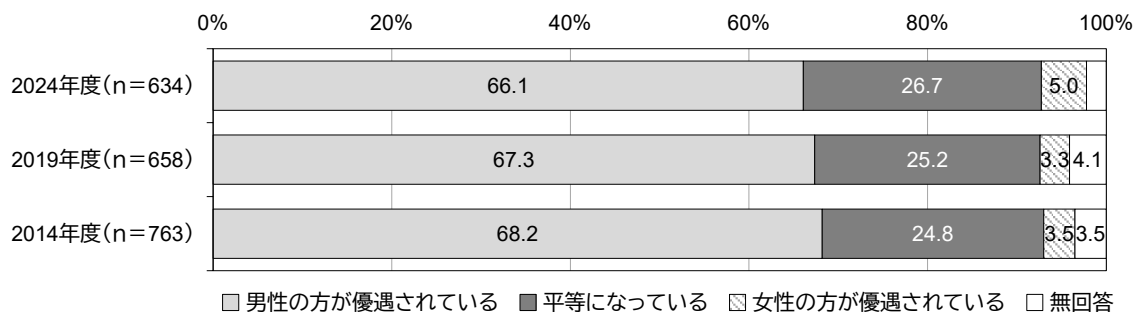
（５）社会通念・習慣・しきたりにおいて

◆「男性の方が優遇されている」が６割以上で最も高く、次いで「平等になっている」が約３割

◆過去２回の調査と同様の傾向

「男性の方が優遇されている」（66.1％）が６割以上で最も高く、次いで「平等になっている」（26.7％）が約３割となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



〈属性別〉

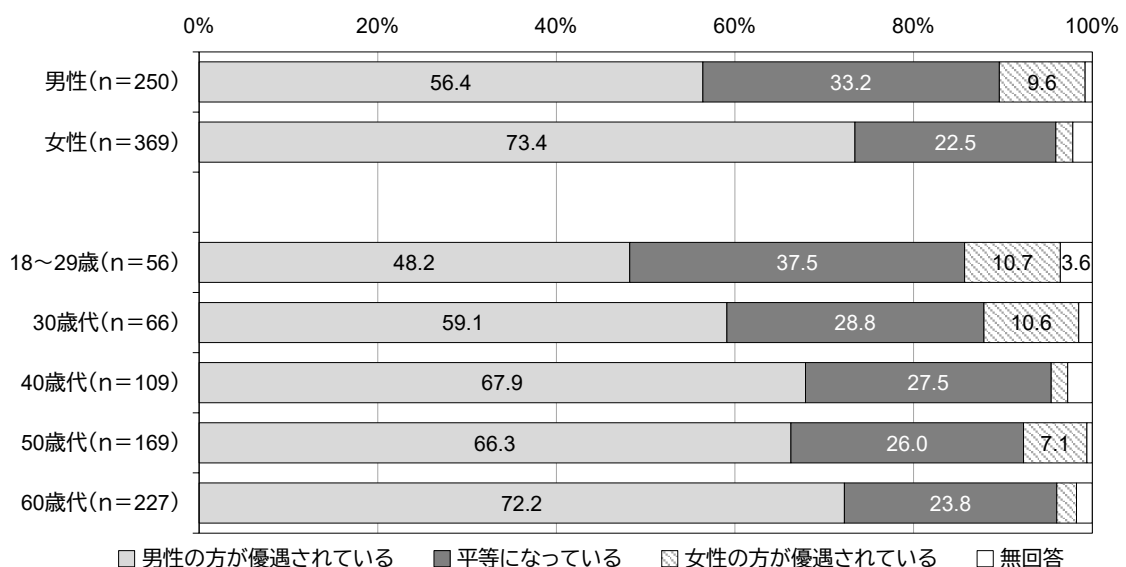
◆男女とも最も高い「男性の方が優遇されている」は、女性が男性より高い

◆年代別では、高い年代ほど「男性の方が優遇されている」が高い

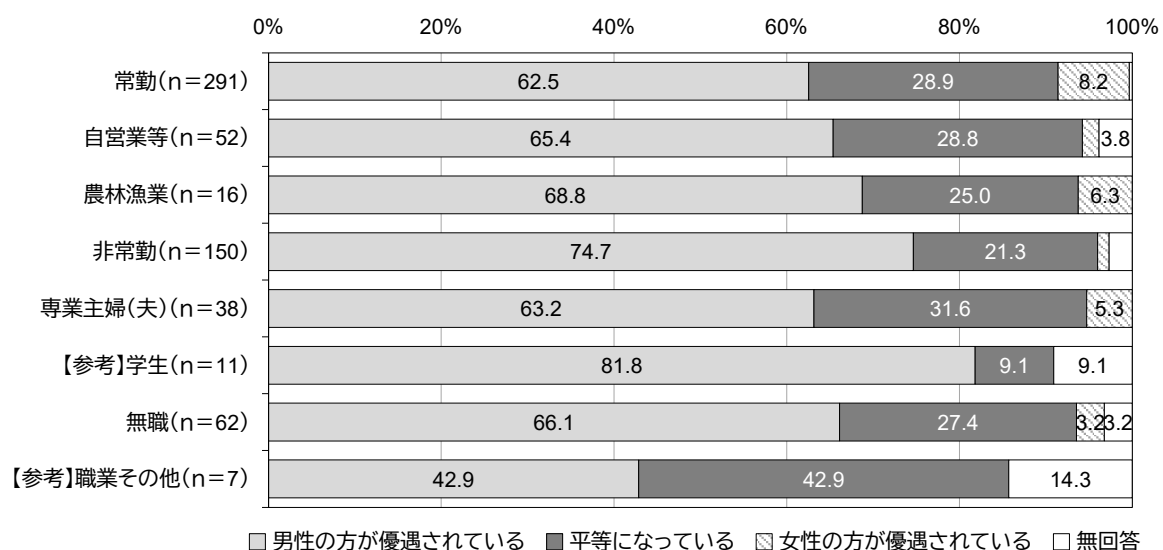
◆職業別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」（男性 56.4％、女性 73.4％）が最も高く、女性は男性より 17 ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「男性の方が優遇されている」が最も高く、おおむね高い年代ほど高くなっています。



職業別でみると、いずれの職業も「男性の方が優遇されている」が最も高く、職業による大きな差はみられません。



※学生、職業その他は回答者数が少ないため参考値として表示

2 家庭生活について（問2～問4）

問2. あなたの家庭では、以下の家庭内の役割について、それぞれ主にだれが担っていますか。（それぞれ1つに○）

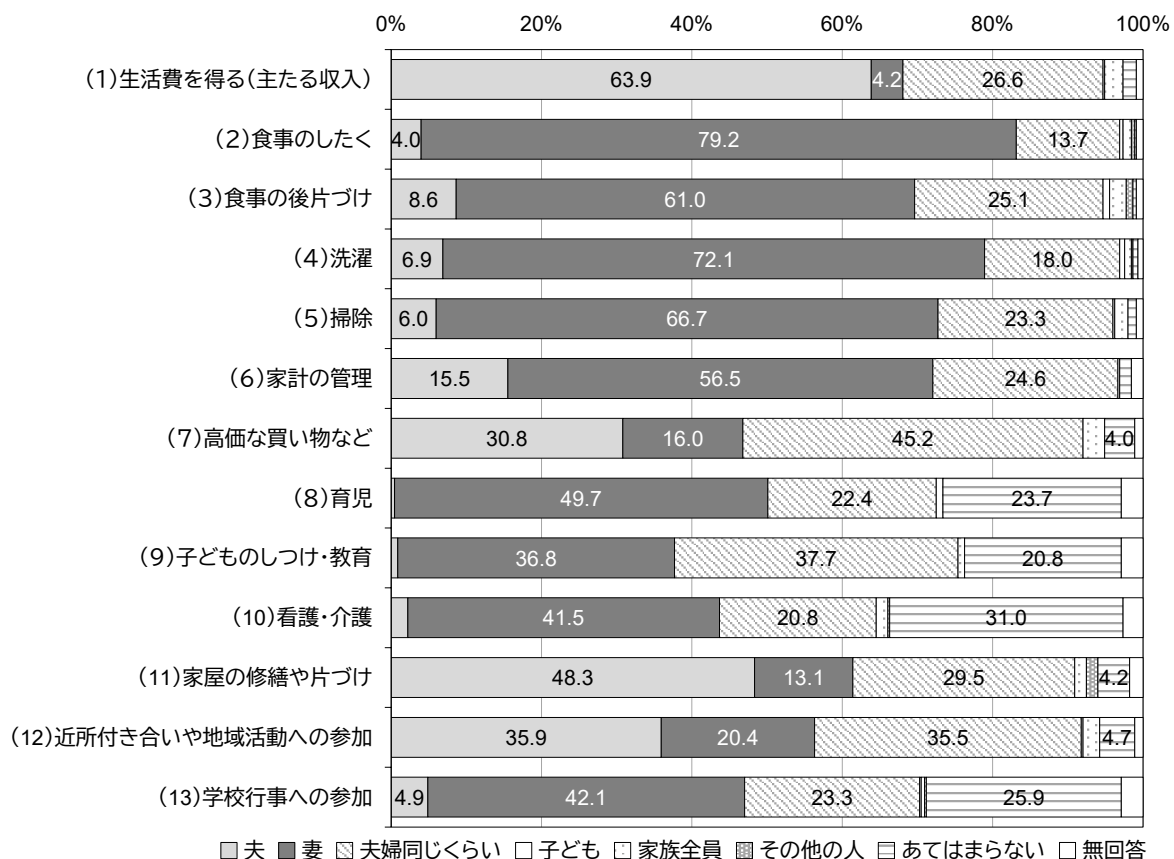
【現在、結婚（事実婚・パートナーがいる場合を含む）している場合】

◆「生活費を得る」など3項目は「夫」、「食事のしたく」「洗濯」など8項目は「妻」、「高価な買い物」など2項目は「夫婦同じくらい」が最も高い

「(1) 生活費を得る（主たる収入）」「(11) 家屋の修繕や片づけ」「(12) 近所付き合いや地域活動への参加」の3項目は「夫」（それぞれ63.9%、48.3%、35.9%）が最も高く、その中でも「(1) 生活費を得る（主たる収入）」は6割以上となっています。また、「(12) 近所付き合いや地域活動への参加」は「夫婦同じくらい」（35.5%）も同程度となっています。

「(2) 食事のしたく」「(3) 食後の片づけ」「(4) 洗濯」「(5) 掃除」「(6) 家計の管理」「(8) 育児」「(10) 看護・介護」「(13) 学校行事への参加」の8項目は「妻」が最も高く、その中でも「(2) 食事のしたく」（79.2%）、「(4) 洗濯」（72.1%）は7割以上となっています。

「(7) 高価な買い物など」「(9) 子どものしつけ・教育」の2項目は「夫婦同じくらい」（それぞれ45.2%、37.7%）が最も高く、「(9) 子どものしつけ・教育」は「妻」（36.8%）が同程度に高くなっています。



□ 夫 ■ 妻 ▨ 夫婦同じくらい □ 子ども ▨ 家族全員 ▨ その他の人 □ あてはまらない □ 無回答

2024年度(n=451)

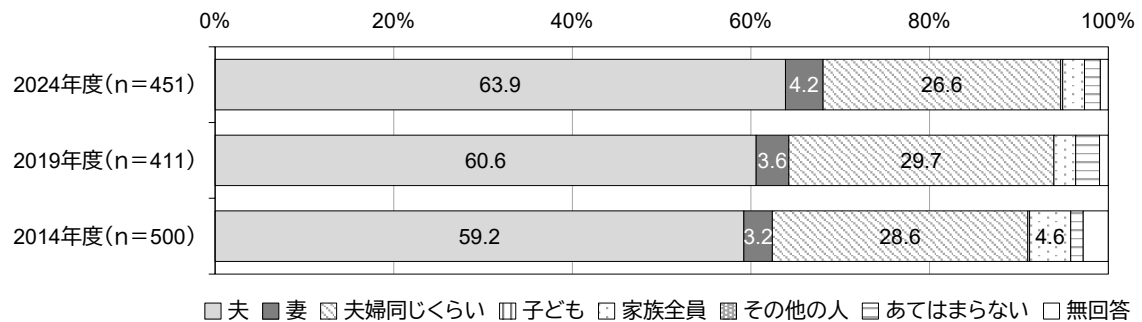
（１）生活費を得る（主たる収入）

◆「夫」が６割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が約３割

◆過去２回の調査と同様の傾向

「夫」（63.9％）が６割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」（26.6％）が約３割となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「夫」は若干高くなる傾向がみられます。



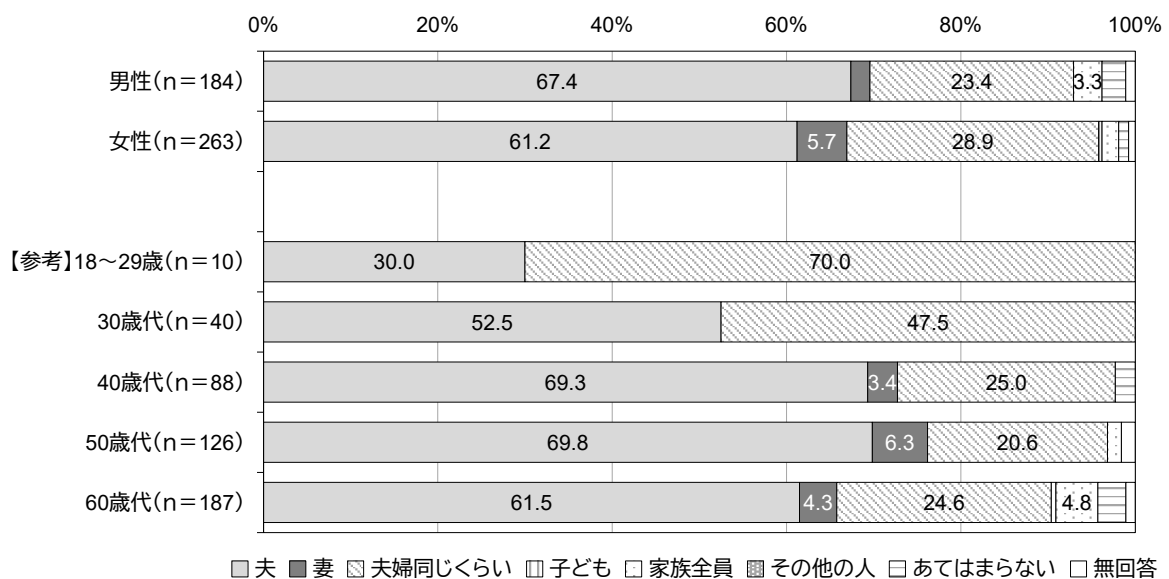
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、30歳代は「夫」「夫婦同じくらい」が同程度に高い

性別でみると、男女とも「夫」（男性 67.4％、女性 61.2％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「夫」が最も高く、30歳代は「夫」（52.5％）と「夫婦同じくらい」（47.5％）が同程度に高くなっています。



※18～29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

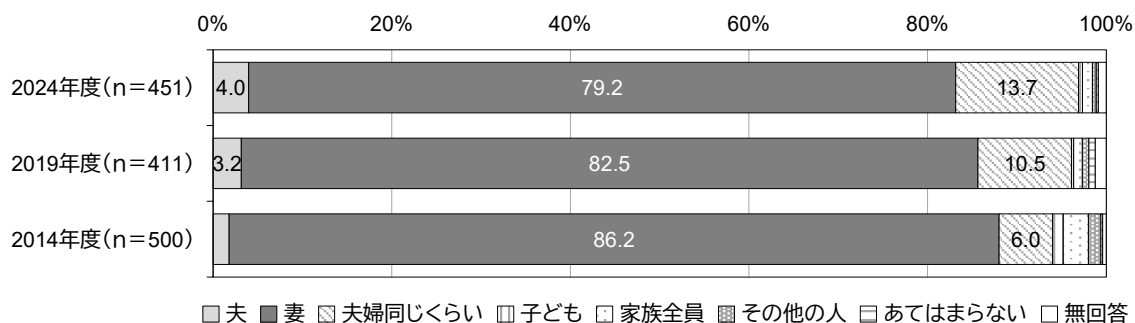
(2) 食事のしたく

◆「妻」が約8割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が1割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「妻」(79.2%)が約8割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」(13.7%)が1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「妻」は若干低くなる傾向がみられます。



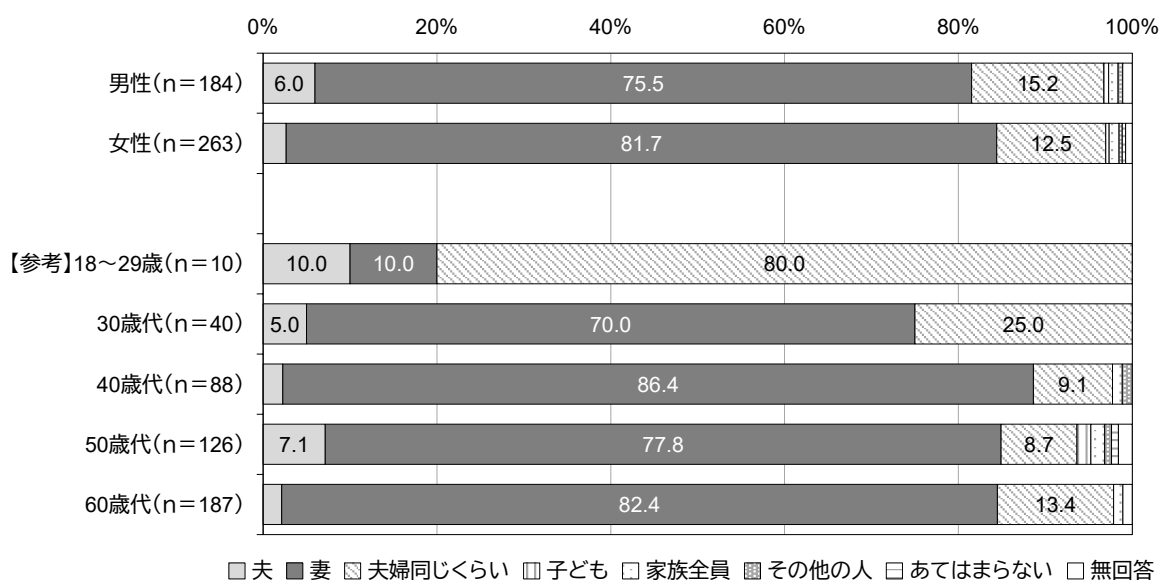
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、30歳代は「夫婦同じくらい」が2割以上で他の年代より高い

性別でみると、男女とも「妻」(男性 75.5%、女性 81.7%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「妻」が最も高く、30歳代は「夫婦同じくらい」(25.0%)が2割以上で高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

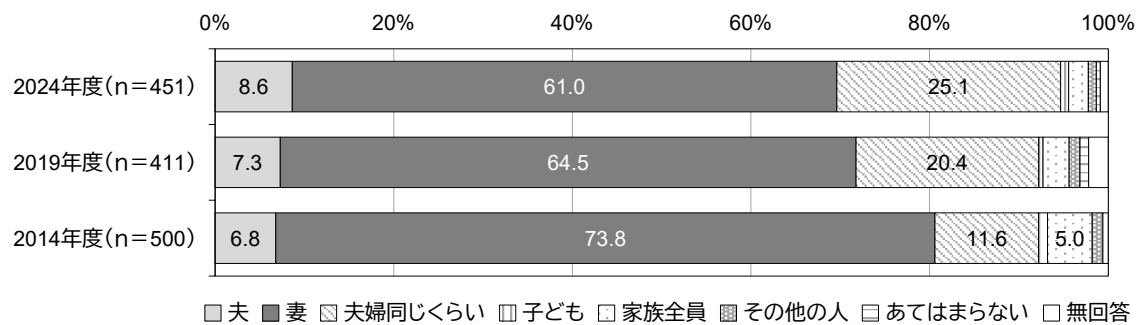
(3) 食事の後片づけ

◆「妻」が6割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が2割以上

◆「夫婦同じくらい」が高くなる傾向

「妻」(61.0%)が6割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」(25.1%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「夫婦同じくらい」は高くなる傾向がみられます。



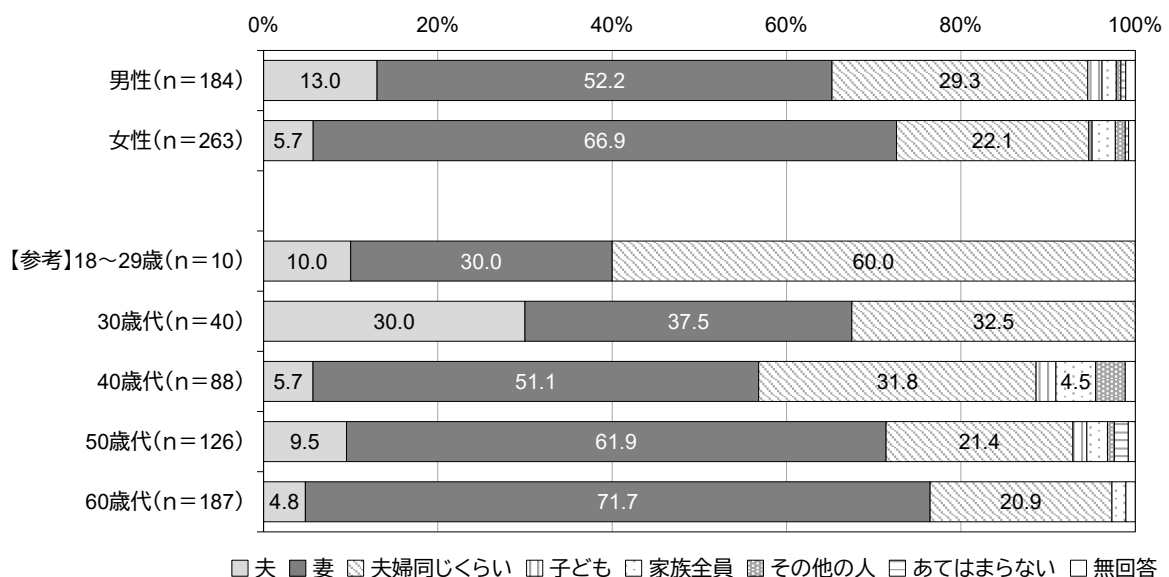
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「妻」は、女性が男性より高い

◆年代別では、高い年代ほど「妻」が高く、30歳代は「夫」が他の年代より高い

性別でみると、男女とも「妻」(男性 52.2%、女性 66.9%)が最も高く、女性が男性より約15ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「妻」が最も高く、高い年代ほど高くなっています。また、30歳代は「妻」(37.5%)と「夫婦同じくらい」(32.5%)、「夫」(30.0%)がいずれも3割台となっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

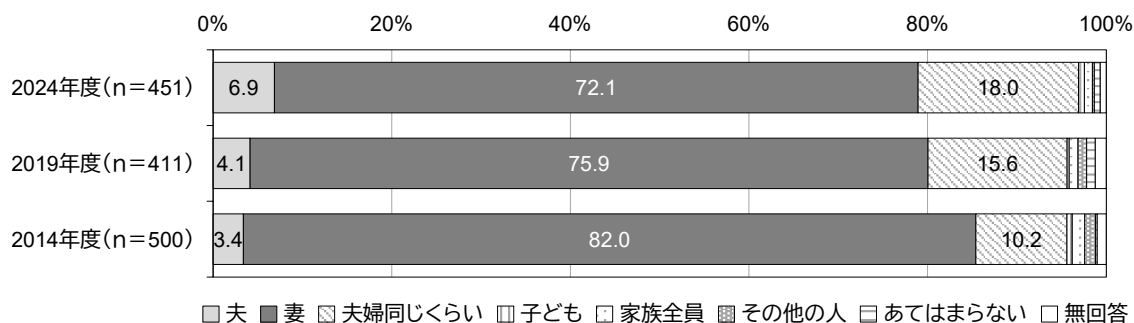
(4) 洗濯

◆「妻」が7割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が約2割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「妻」(72.1%)が7割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」(18.0%)が約2割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「妻」は若干低くなる傾向がみられます。



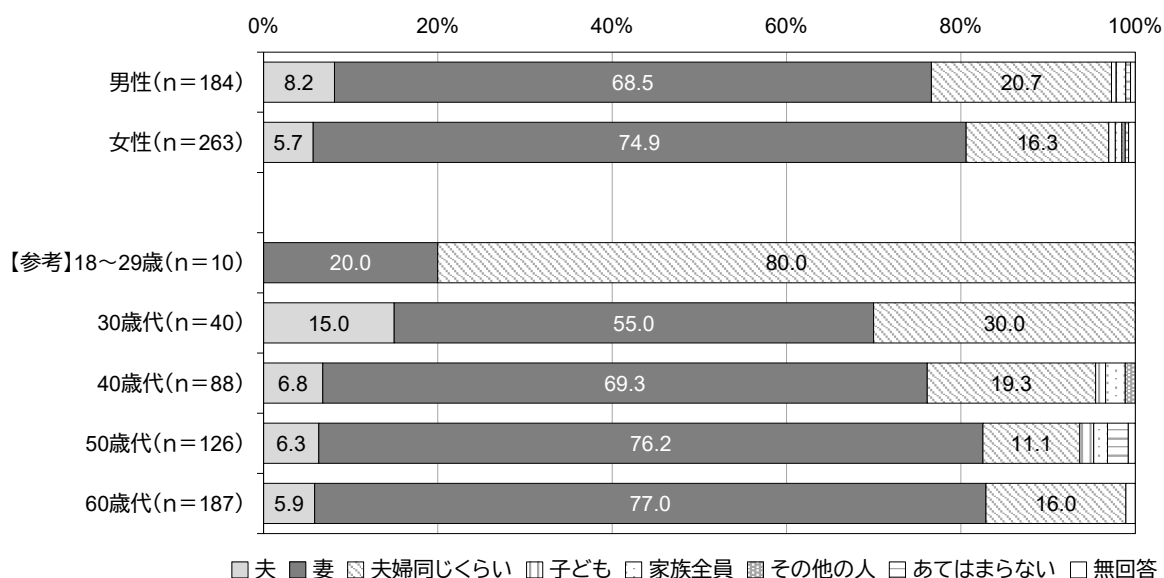
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、高い年代ほど「妻」が高い

性別でみると、男女とも「妻」(男性 68.5%、女性 74.9%)が最も高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「妻」が最も高く、高い年代ほど高くなっています。また、30歳代は「夫婦同じくらい」(30.0%)が比較的高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

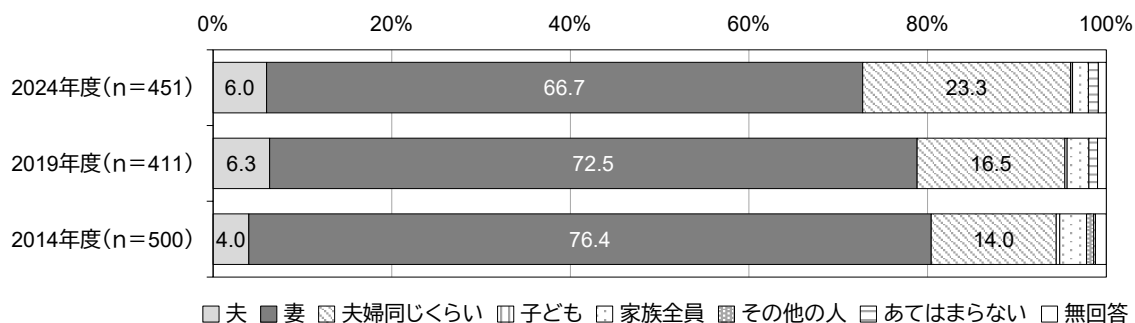
(5) 掃除

◆「妻」が約7割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が2割以上

◆「妻」が低くなり、「夫婦同じくらい」が高くなる傾向

「妻」(66.7%)が約7割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」(23.3%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「妻」は低くなり、「夫婦同じくらい」は高くなる傾向がみられます。



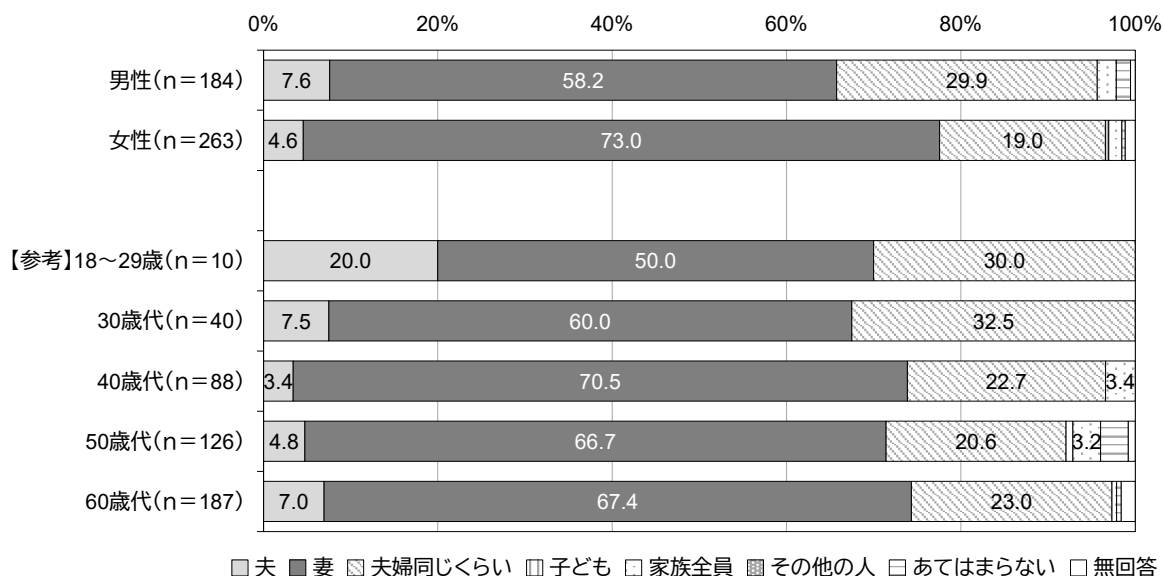
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「妻」は、女性が男性より高い

◆年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「妻」(男性 58.2%、女性 73.0%)が最も高く、女性が男性より約15ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「妻」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

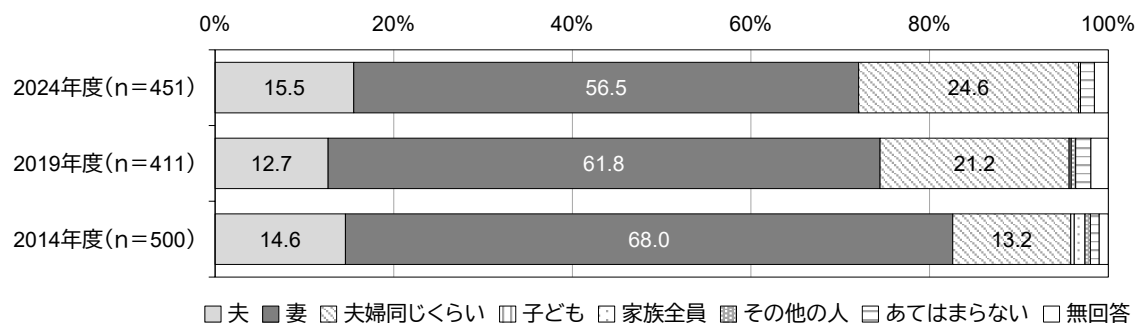
（６）家計の管理

◆「妻」が約６割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が２割以上

◆「妻」が低くなり、「夫婦同じくらい」が高くなる傾向

「妻」（56.5％）が約６割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」（24.6％）が２割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、「妻」は低くなり、「夫婦同じくらい」は高くなる傾向がみられます。



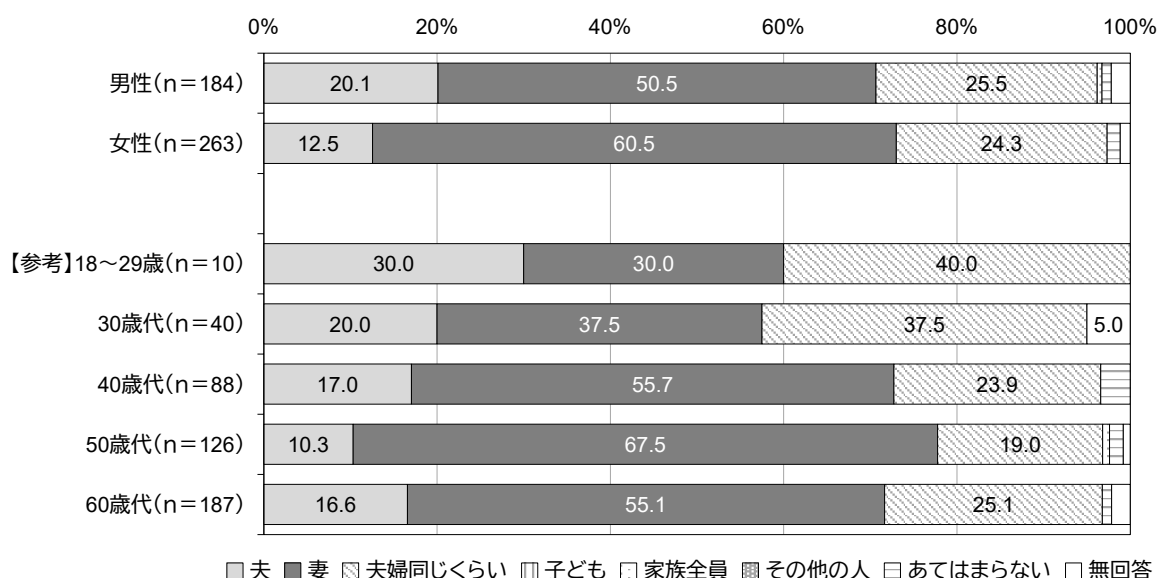
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「妻」は、女性が男性より高い

◆年代別では、30歳代は「妻」「夫婦同じくらい」が同程度に高い

性別でみると、男女とも「妻」（男性 50.5％、女性 60.5％）が最も高く、女性が男性より10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「妻」が最も高く、30歳代は「夫婦同じくらい」（37.5％）が同値となっています。



※18～29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

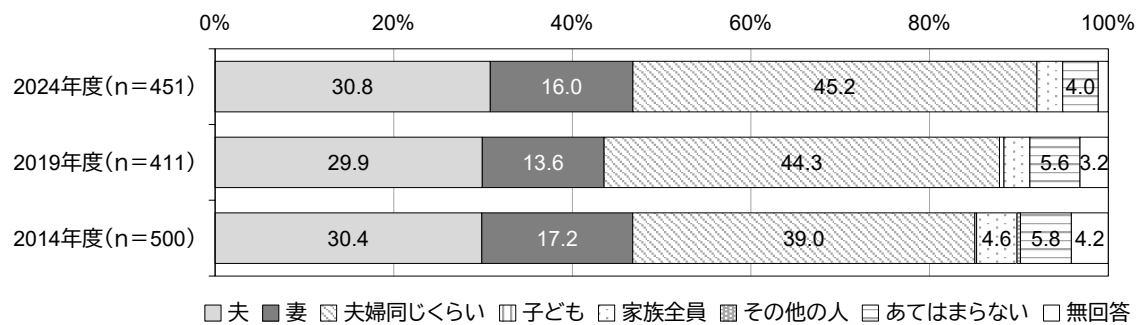
（７）高価な買い物など

◆「夫婦同じくらい」が４割以上で最も高く、次いで「夫」が３割以上

◆過去２回の調査と同様の傾向

「夫婦同じくらい」（４５．２％）が４割以上で最も高く、次いで「夫」（３０．８％）が３割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

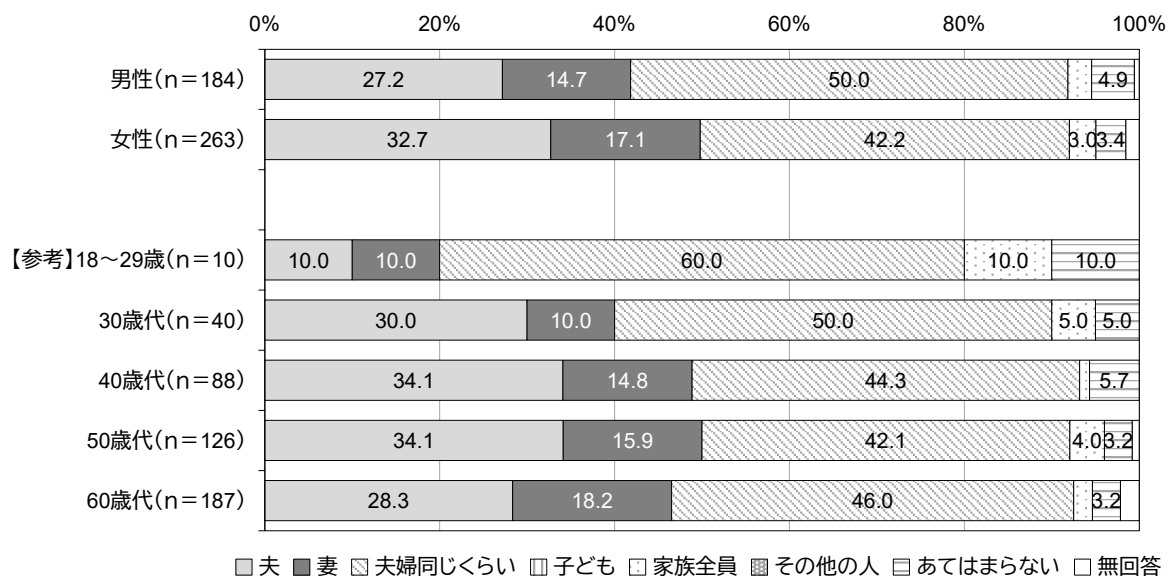


〈属性別〉

◆性別、年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「夫婦同じくらい」（男性 ５０．０％、女性 ４２．２％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「夫婦同じくらい」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



※18～29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

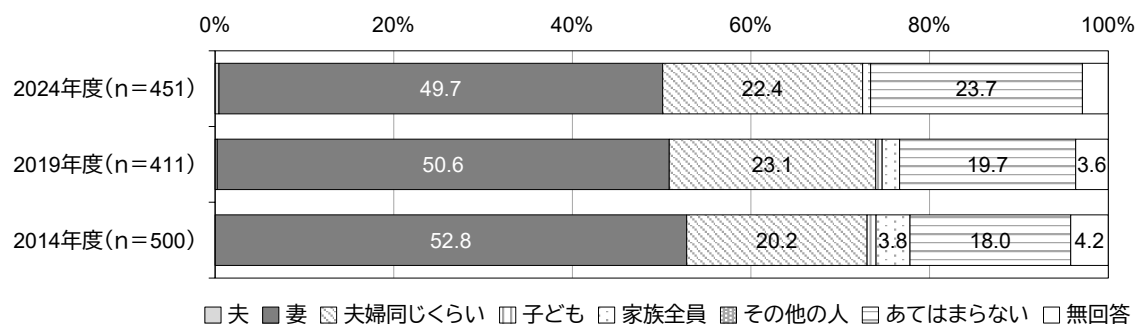
(8) 育児

◆「妻」が約5割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「妻」(49.7%) が約5割で最も高く、次いで「あてはまらない」(23.7%)を除き、「夫婦同じくらい」(22.4%) が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



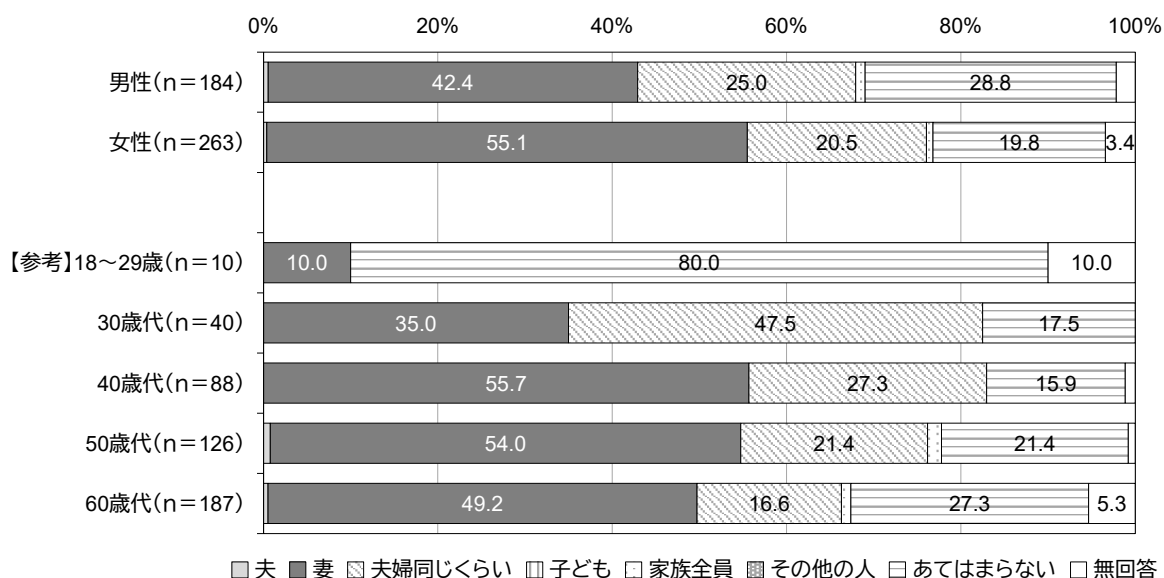
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「妻」は、女性が男性より高い

◆年代別では、30歳代は「男女同じくらい」が最も高い

性別でみると、男女とも「妻」(男性 42.4%、女性 55.1%) が最も高く、女性が男性より約13ポイント高くなっています。

年代別でみると、30歳代は「夫婦同じくらい」(47.5%)、40歳代以上はいずれも「妻」が最も高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

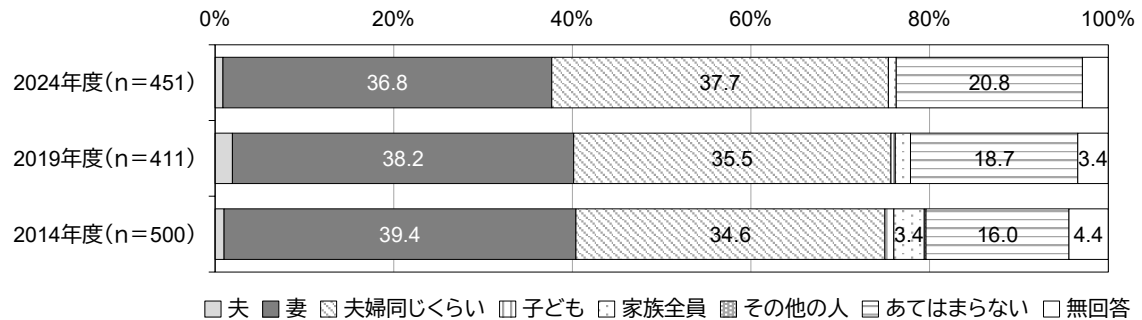
(9) 子どものしつけ・教育

◆「夫婦同じくらい」「妻」が約4割で同程度に高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「夫婦同じくらい」(37.7%)、「妻」(36.8%)が約4割で同程度に高くなっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



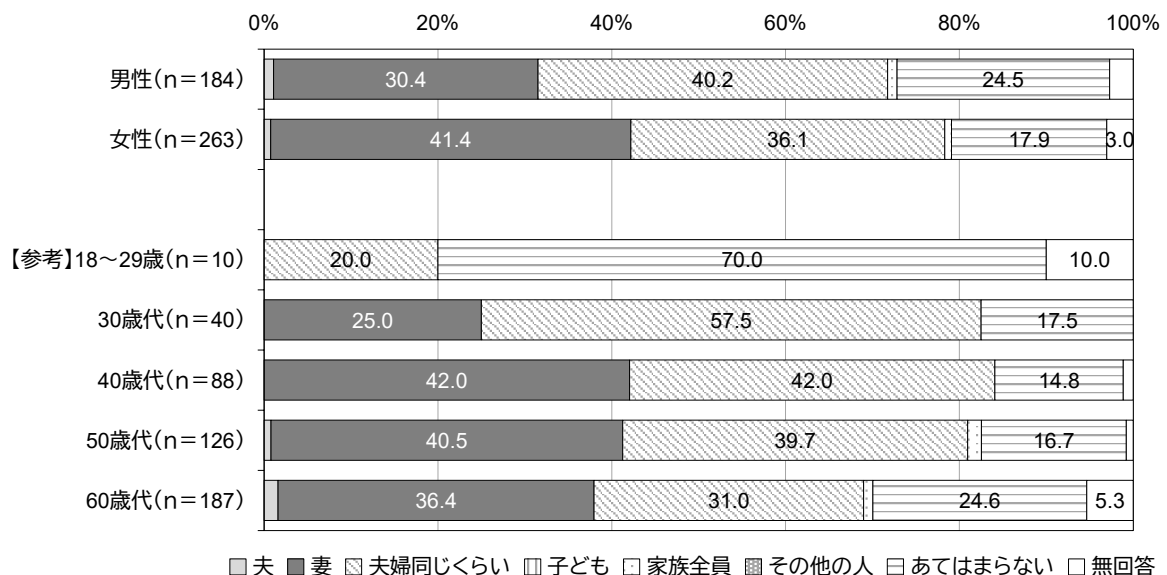
〈属性別〉

◆性別では、男性は「夫婦同じくらい」、女性は「妻」が最も高い

◆年代別では、30歳代は「男女同じくらい」が最も高い

性別でみると、男性は「夫婦同じくらい」(40.2%)、女性は「妻」(41.4%)が最も高くなっています。

年代別でみると、30歳代は「夫婦同じくらい」(57.5%)が最も高く、40歳代以上はいずれも「妻」「夫婦同じくらい」が同程度に高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

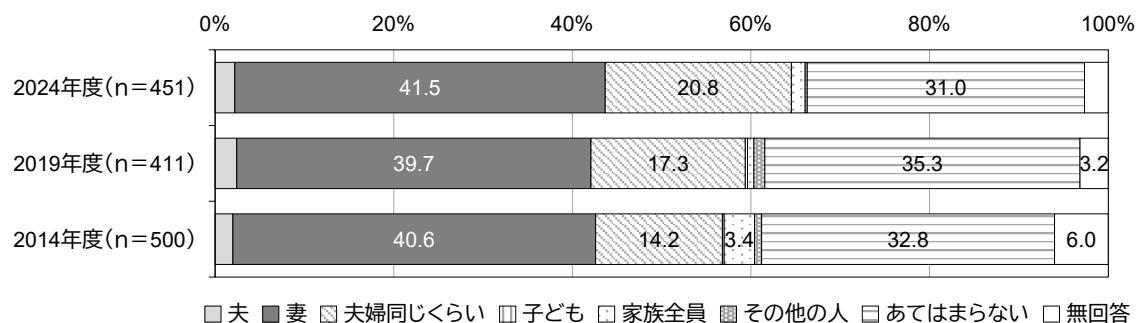
(10) 看護・介護

◆「妻」が4割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「妻」(41.5%)が4割以上で最も高く、次いで「あてはまらない」(31.0%)を除き、「夫婦同じくらい」(20.8%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「夫婦同じくらい」は若干高くなる傾向がみられます。



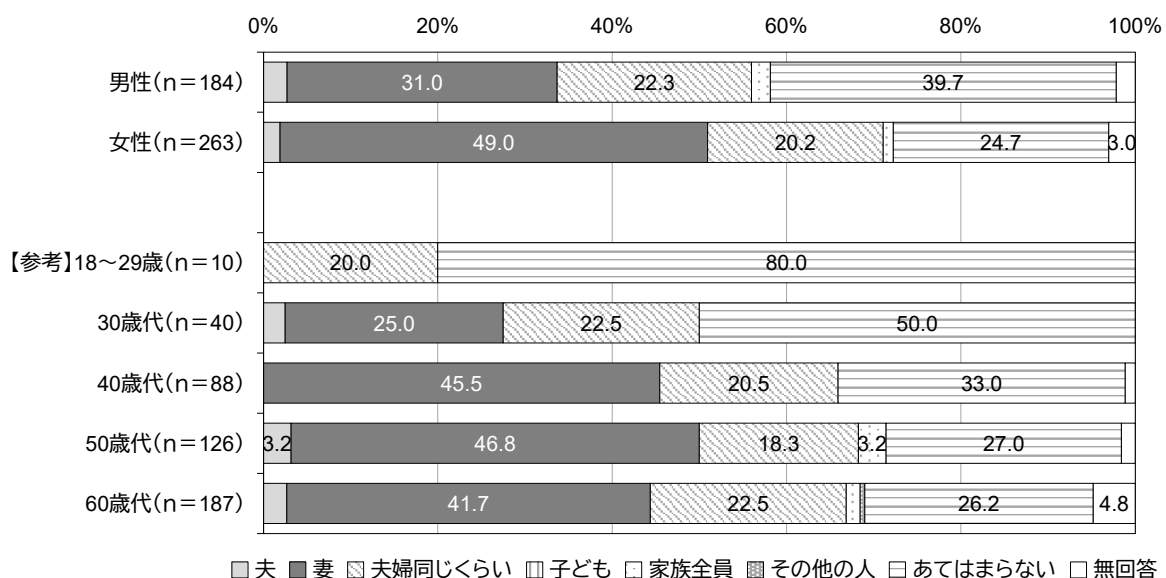
〈属性別〉

◆性別では、男性は「あてはまらない」、女性は「妻」が最も高い

◆年代別では、いずれの年代も「妻」が最も高い

性別でみると、男性は「あてはまらない」(39.7%)、女性は「妻」(49.0%)が最も高くなっています。

年代別でみると、「あてはまらない」を除き「妻」が最も高くなっています。



※18～29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

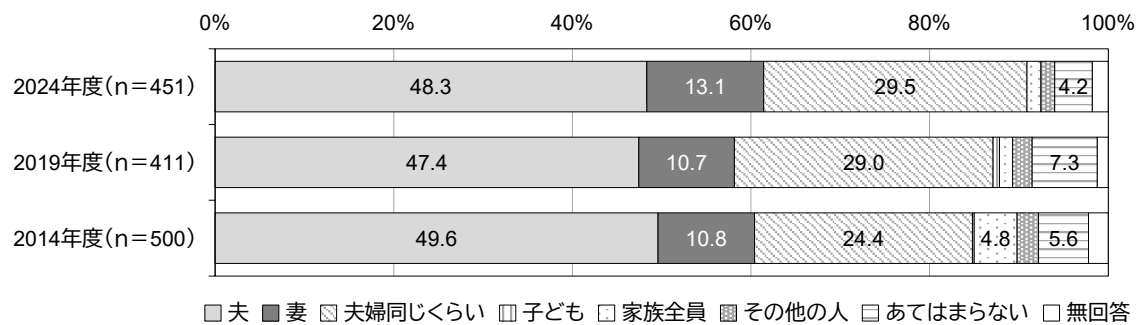
(11) 家屋の修繕や片づけ

◆「夫」が約5割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が約3割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「夫」(48.3%)が約5割で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」(29.5%)が約3割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



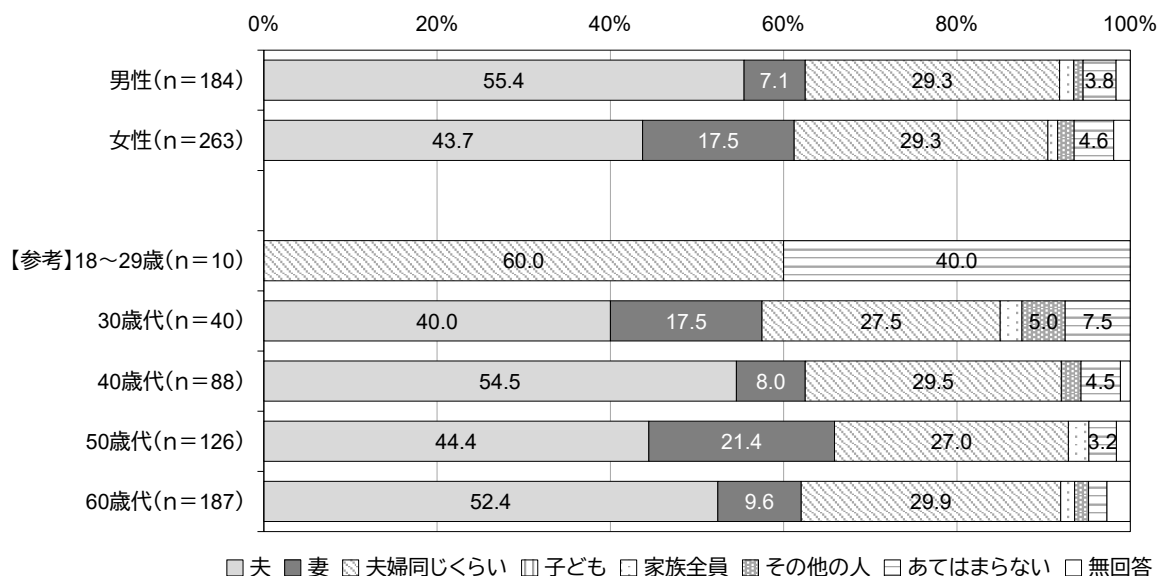
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「夫」は、男性が女性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「夫」が最も高い

性別でみると、男女とも「夫」(男性 55.4%、女性 43.7%)が最も高く、男性が女性より約12ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「夫」が最も高くなっています。また、50歳代は「妻」(21.4%)が2割以上で比較的高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

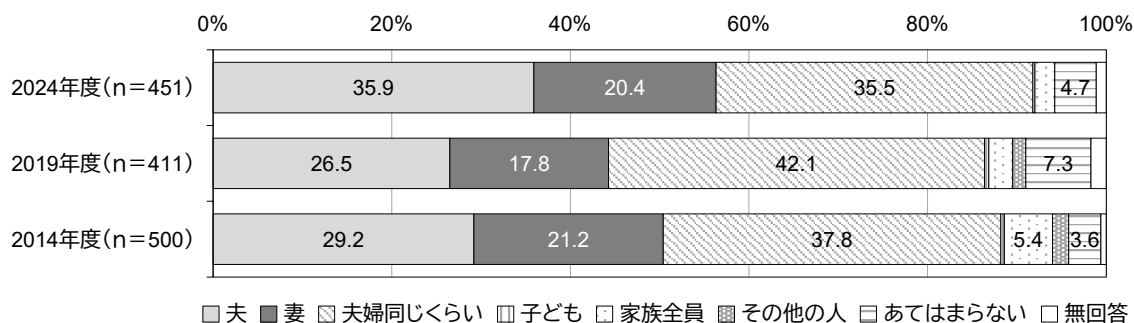
(12) 近所付き合いや地域活動への参加

◆「夫」「夫婦同じくらい」が3割以上で同程度に高い

◆前回調査より「夫」が高く、「夫婦同じくらい」が低い

「夫」(35.9%)、「夫婦同じくらい」(35.5%)が3割以上で同程度に高く、次いで「妻」(20.4%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「夫」は前回(26.5%)より高く、「夫婦同じくらい」は前回(42.1%)より若干低くなっており、前々回調査とは同様の傾向となっています。



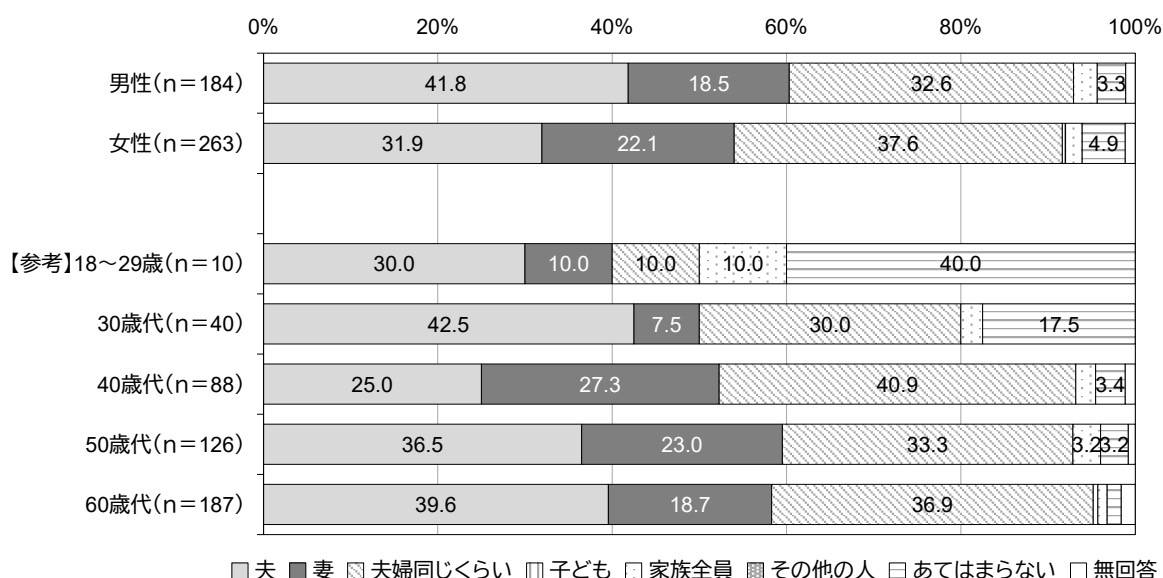
〈属性別〉

◆性別では、男性は「夫」、女性は「夫婦同じくらい」が最も高い

◆年代別では、年代によって最も高い項目が異なる

性別でみると、男性は「夫」(41.8%)、女性は「夫婦同じくらい」(37.6%)が最も高くなっています。

年代別でみると、30歳代、50歳代、60歳代は「夫」(それぞれ42.5%、36.5%、39.6%)、40歳代は「夫婦同じくらい」(40.9%)が最も高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

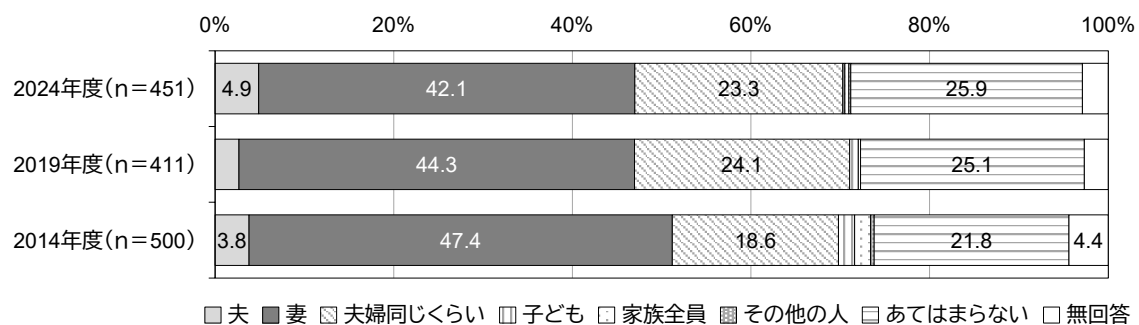
(13) 学校行事への参加

◆「妻」が4割以上で最も高く、次いで「夫婦同じくらい」が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「妻」(42.1%)が4割以上で最も高く、次いで「あてはまらない」(25.9%)を除き、「夫婦同じくらい」(23.3%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



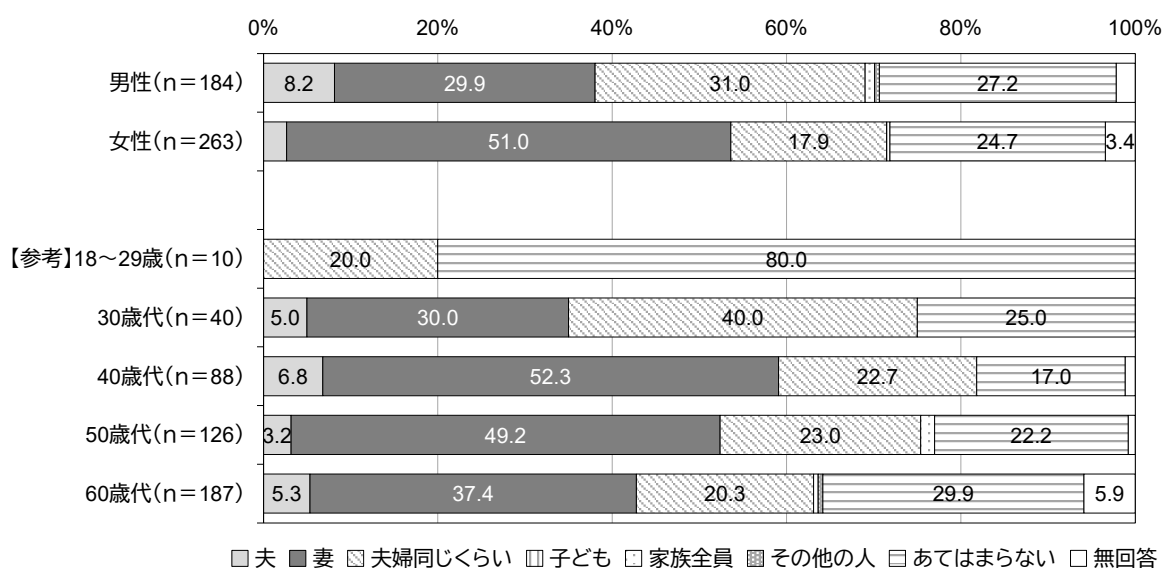
〈属性別〉

◆性別では、男性は「妻」「夫婦同じくらい」が同程度に高く、女性は「妻」が最も高い

◆年代別では、30歳代は「夫婦同じくらい」、40歳代以上は「妻」が最も高い

性別でみると、男性は「あてはまらない」(27.2%)を除き、「夫婦同じくらい」(31.0%)、「夫」(29.9%)が約3割で同程度に高く、女性は「妻」(51.0%)が最も高くなっています。

年代別でみると、30歳代は「夫婦同じくらい」(40.0%)、40歳代以上はいずれも「妻」(それぞれ52.3%、49.2%、37.4%)が最も高くなっています。



※18~29歳は回答者数が少ないため参考値として表示

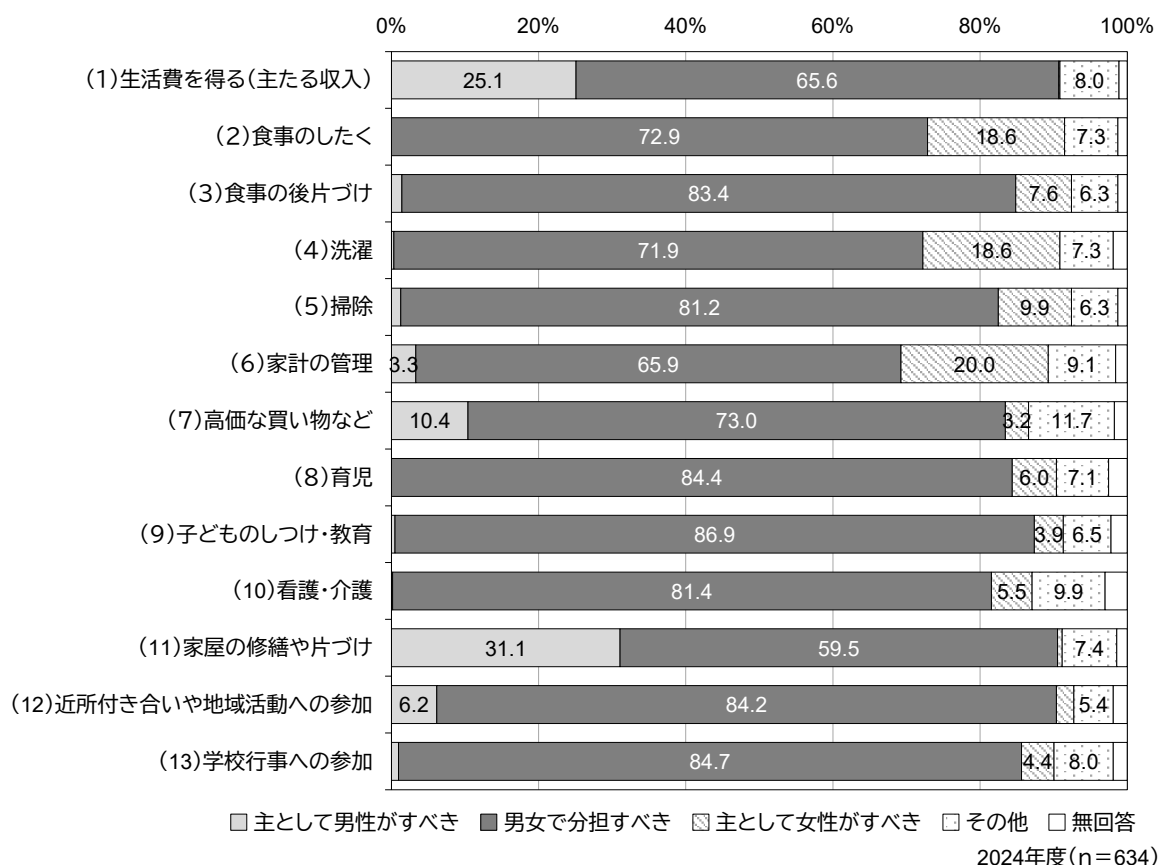
問3. あなたは、次の家庭内の役割について、どのように分担するのが理想だと思いますか。(それぞれ1つに○)

◆いずれの項目も「男女で分担すべき」が特に高く、「子どものしつけ・教育」では約9割で最も高い

◆「生活費を得る」「家屋の修繕や片づけ」は「主として男性がすべき」が約3割、「食事のしたく」「洗濯」「家計の管理」は「主として女性がすべき」が約2割で比較的高い

いずれの項目も「男女で分担すべき」が特に高く、その中でも「(9) 子どものしつけ・教育」(86.9%) は約9割で最も高くなっています。

一方、「(11) 家屋の修繕や片づけ」「(1) 生活費を得る(主たる収入)」は「主として男性がすべき」(それぞれ31.1%、25.1%) が約3割で比較的高くなっています。また、「(2) 食事のしたく」「(4) 洗濯」「(6) 家計の管理」は「主として女性がすべき」(それぞれ18.6%、18.6%、20.0%) が約2割で比較的高くなっています。



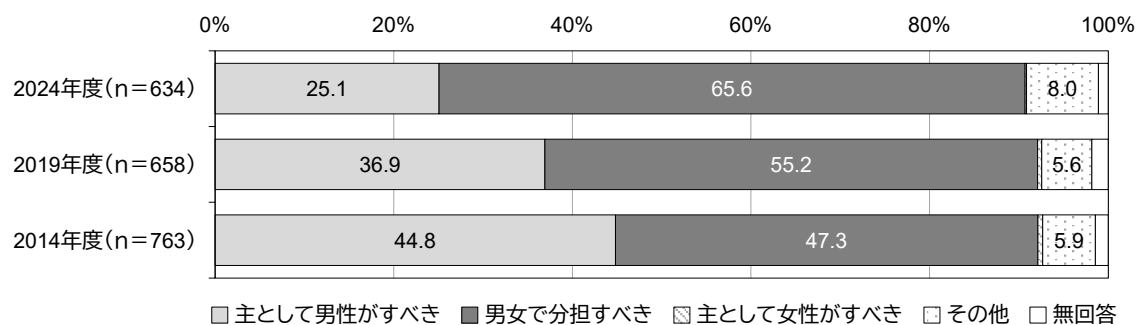
（１）生活費を得る（主たる収入）

◆「男女で分担すべき」が６割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」が２割以上

◆「男女で分担すべき」が高くなり、「主として男性がすべき」が低くなる傾向

「男女で分担すべき」（65.6％）が６割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」（25.1％）が２割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、「男女で分担すべき」は高くなり、「主として男性がすべき」は低くなる傾向がみられます。



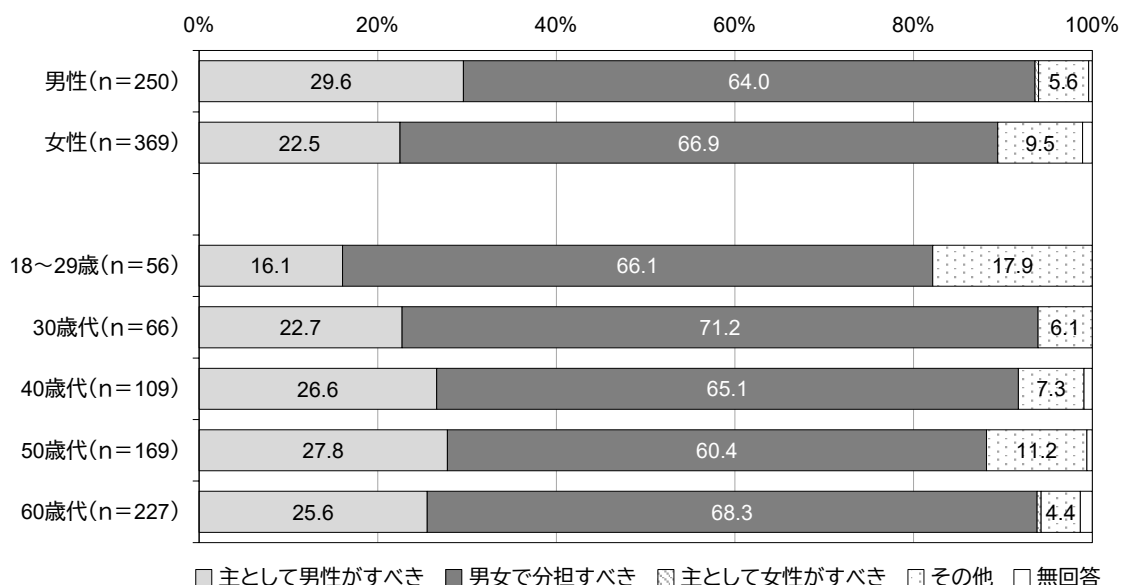
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」（男性 64.0％、女性 66.9％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、18～29歳は「主として女性がすべき」（17.9％）が約２割で比較的高くなっています。

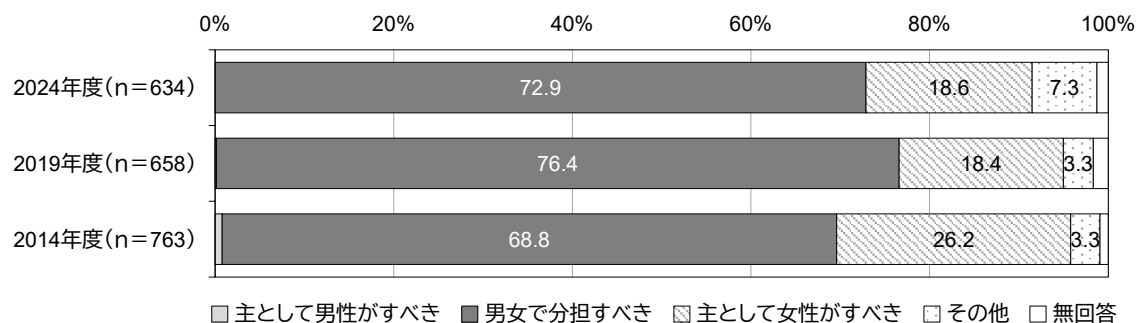


(2) 食事のしたく

◆「男女で分担すべき」が7割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が約2割で、「主として男性がすべき」の回答はみられない

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(72.9%)が7割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」(18.6%)が約2割となっています。一方、「主として男性がすべき」の回答はみられません。
過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※過去2回の調査では「家事（炊事・洗濯・掃除）」として設定していたものを表示

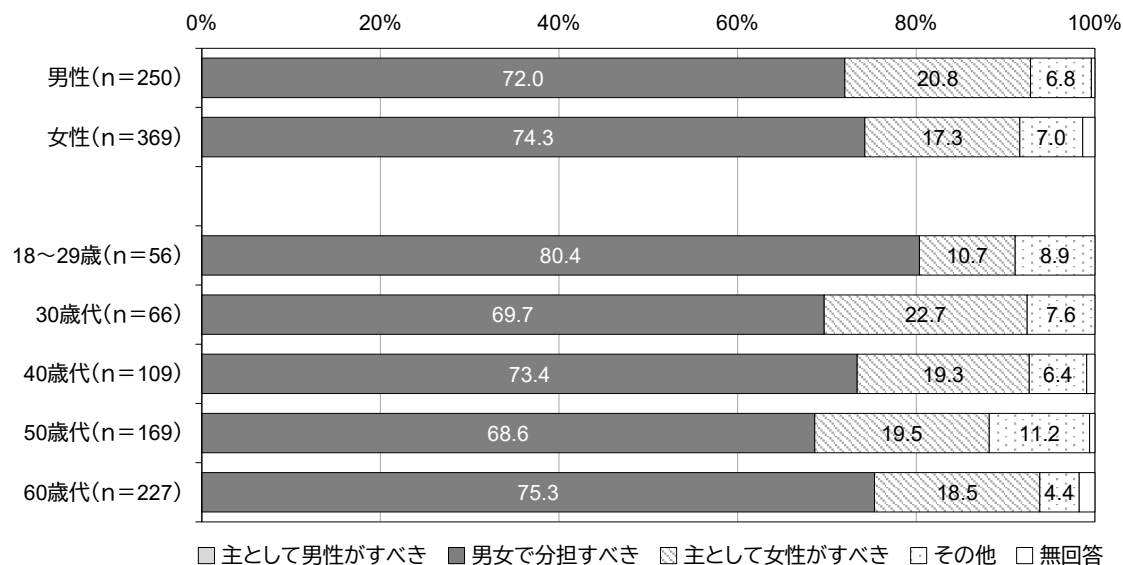
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 72.0%、女性 74.3%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、18～29歳は「主として女性がすべき」(10.7%)が約1割で比較的低くなっています。



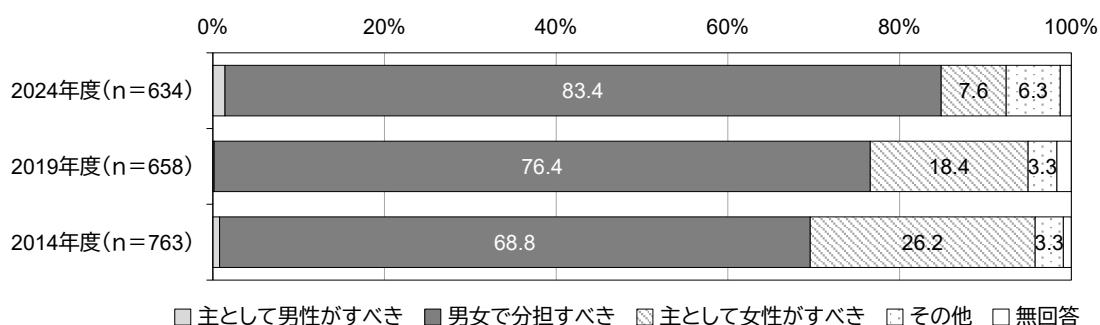
(3) 食事の後片づけ

◆「男女で分担すべき」が8割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が約1割

◆「男女で分担すべき」が高くなり、「主として女性がすべき」が低くなる傾向

「男女で分担すべき」(83.4%)が8割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」(7.6%)が約1割となっています。

過去2回の調査と比較すると、「男女で分担すべき」は高くなり、「主として女性がすべき」は低くなる傾向がみられます。



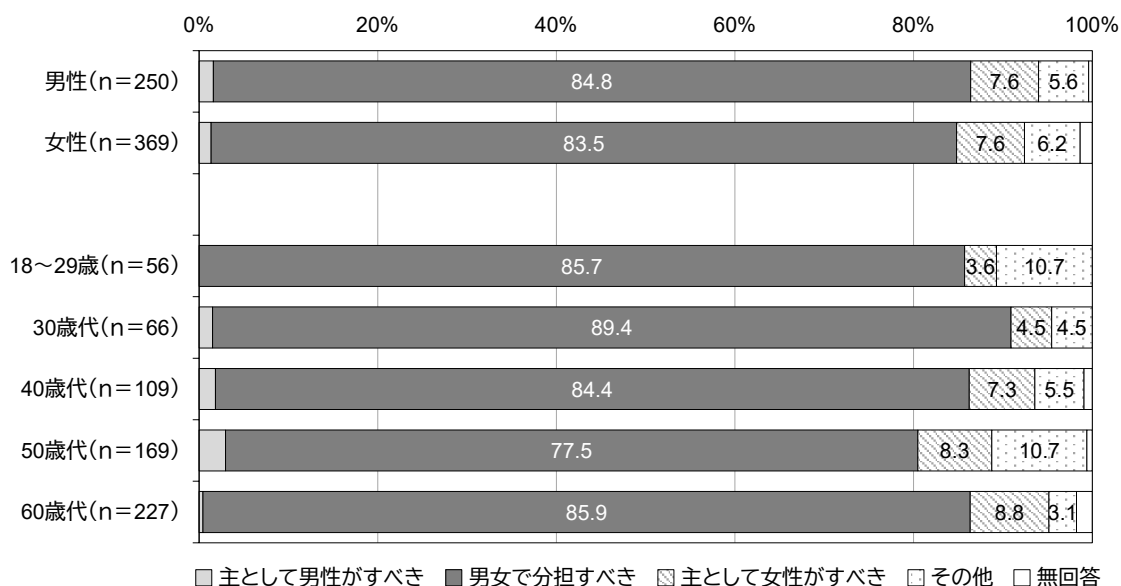
※過去2回の調査では「家事（炊事・洗濯・掃除）」として設定していたものを表示

〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 84.8%、女性 83.5%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



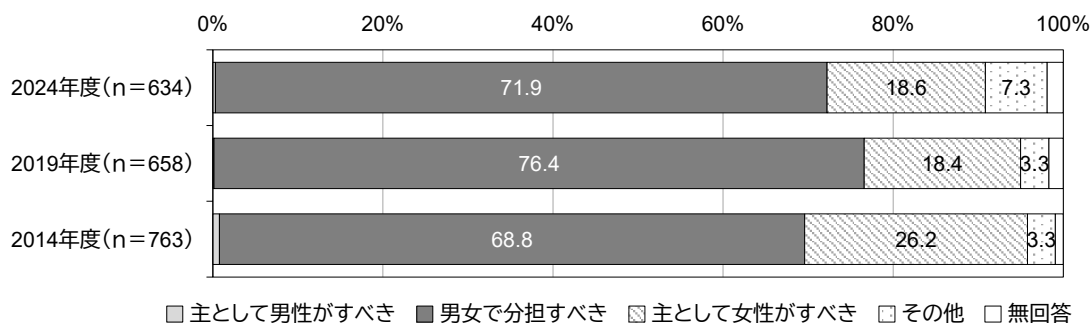
(4) 洗濯

◆「男女で分担すべき」が7割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が約2割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(71.9%)が7割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」(18.6%)が約2割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※過去2回の調査では「家事（炊事・洗濯・掃除）」として設定していたものを表示

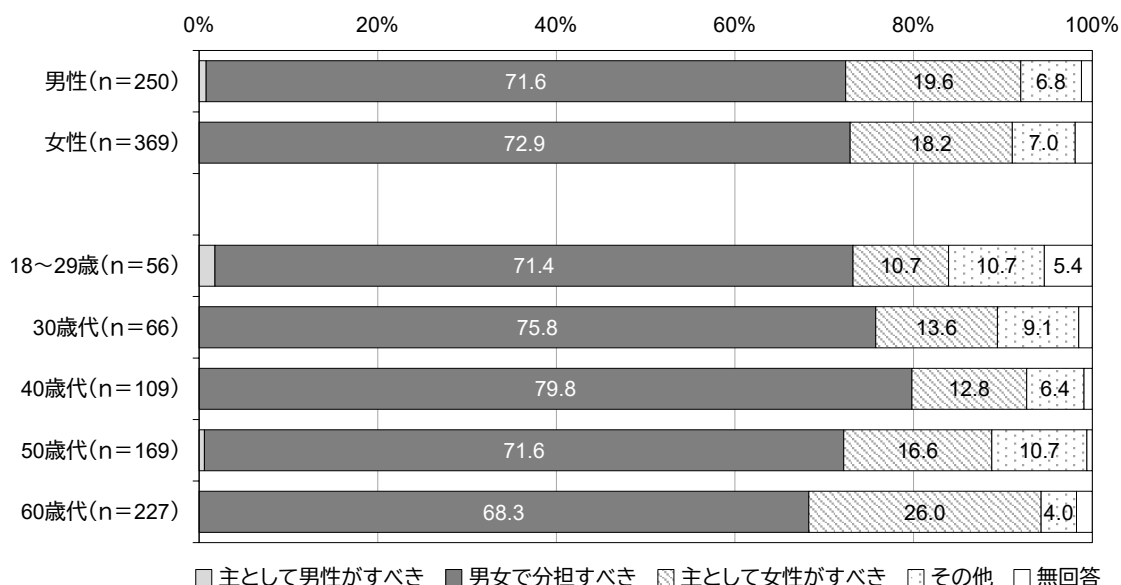
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 71.6%、女性 72.9%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、60歳代は「主として女性がすべき」(26.0%)が2割以上で比較的高くなっています。



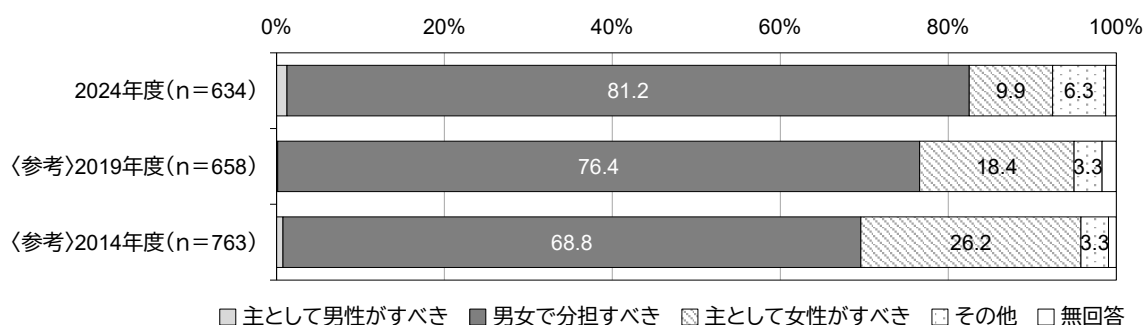
（５）掃除

◆「男女で分担すべき」が８割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が約１割

◆「男女で分担すべき」が高くなり、「主として女性がすべき」が低くなる傾向

「男女で分担すべき」（81.2％）が８割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」（9.9％）が約１割となっています。

過去２回の調査と比較すると、「男女で分担すべき」は高くなり、「主として女性がすべき」は低くなる傾向がみられます。



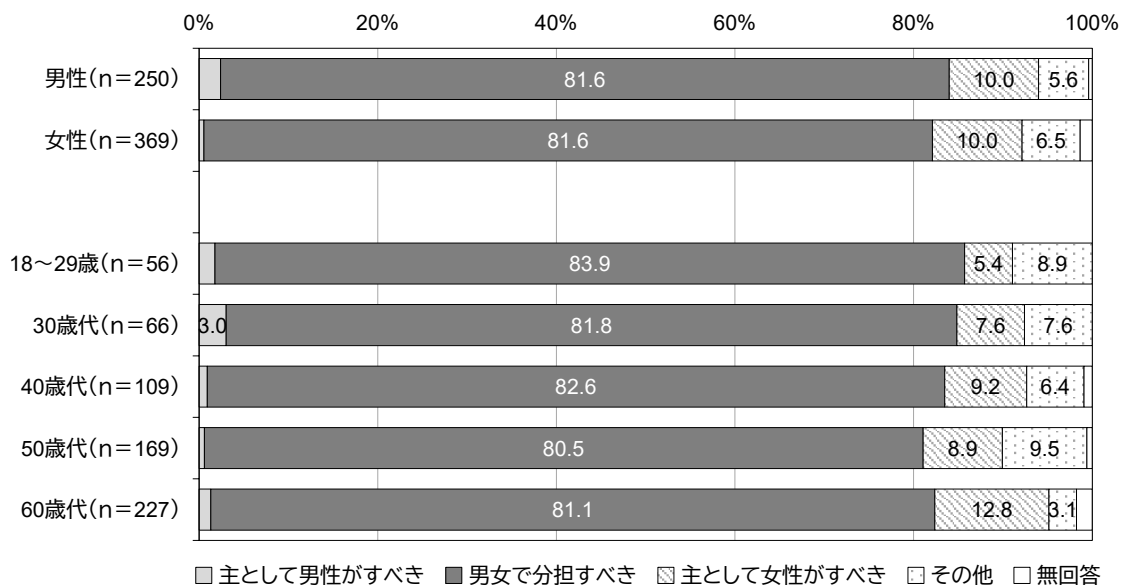
※過去２回の調査では「家事（炊事・洗濯・掃除）」として設定していたものを表示

〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」（81.6％で同値）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



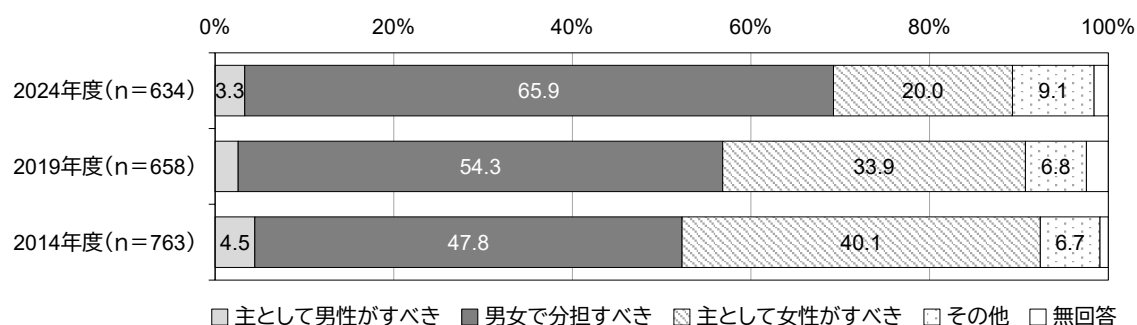
（６）家計の管理

◆「男女で分担すべき」が６割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が２割以上

◆「男女で分担すべき」が高くなり、「主として女性がすべき」が低くなる傾向

「男女で分担すべき」（65.9%）が６割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」（20.0%）が２割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、「男女で分担すべき」は高くなり、「主として女性がすべき」は低くなる傾向がみられます。



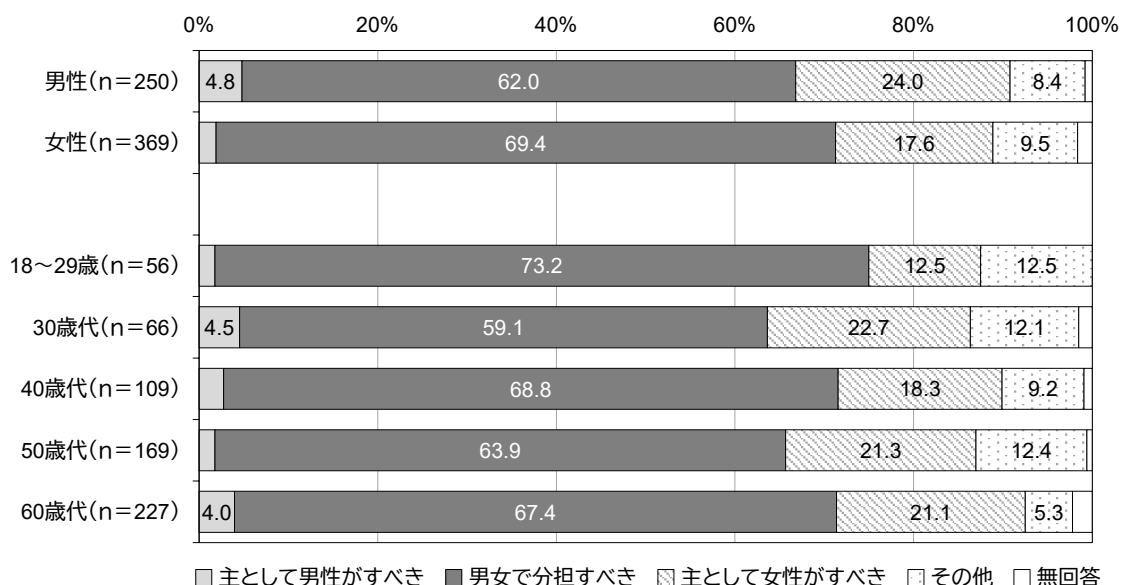
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」（男性 62.0%、女性 69.4%）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、18～29歳は「主として女性がすべき」（12.5%）が約１割で比較的低くなっています。



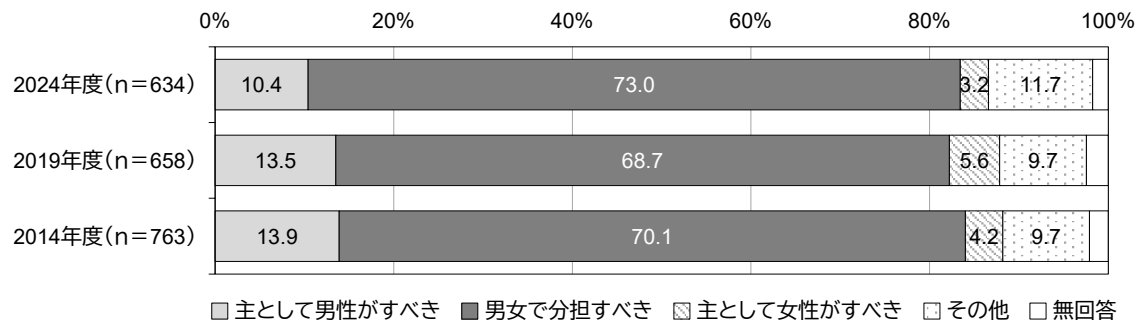
（７）高価な買い物など

◆「男女で分担すべき」が7割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」が1割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」（73.0％）が7割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」（10.4％）が1割以上で、「その他」（11.7％）も1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



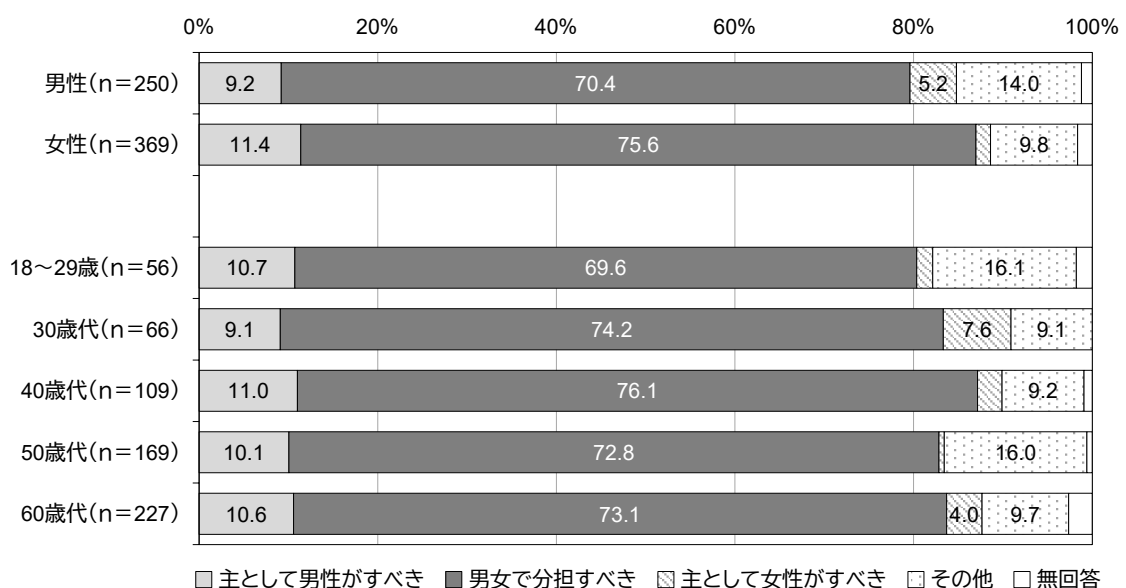
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」（男性 70.4％、女性 75.6％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、30歳代は「主として女性がすべき」（7.6％）が約1割で比較的高くなっています。



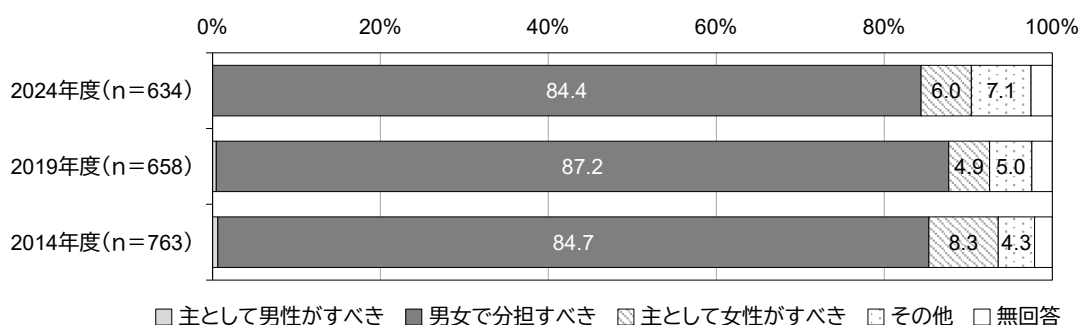
（８）育児

◆「男女で分担すべき」が８割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」が約１割で、「主として男性がすべき」の回答はみられない

◆過去２回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」（84.4％）が８割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」（6.0％）が約１割で、「その他」（7.1％）も約１割となっています。一方、「主として男性がすべき」の回答はみられません。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



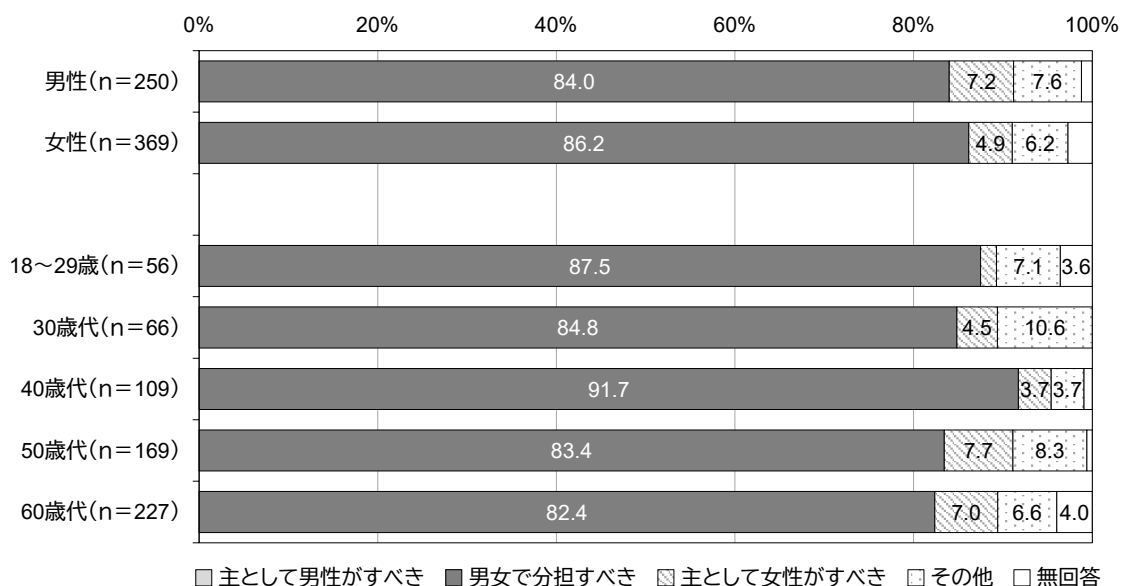
※過去２回の調査では「育児・しつけ・教育」として設定していたものを表示

〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」（男性 84.0％、女性 86.2％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



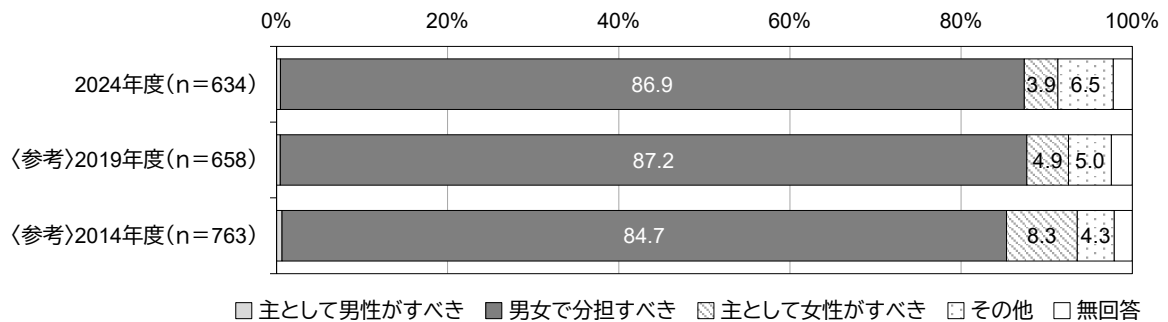
(9) 子どものしつけ・教育

◆「男女で分担すべき」が約9割で最も高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(86.9%)が約9割で最も高く、「主として女性がすべき」(3.9%)が1割未満で、「その他」(6.5%)が約1割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



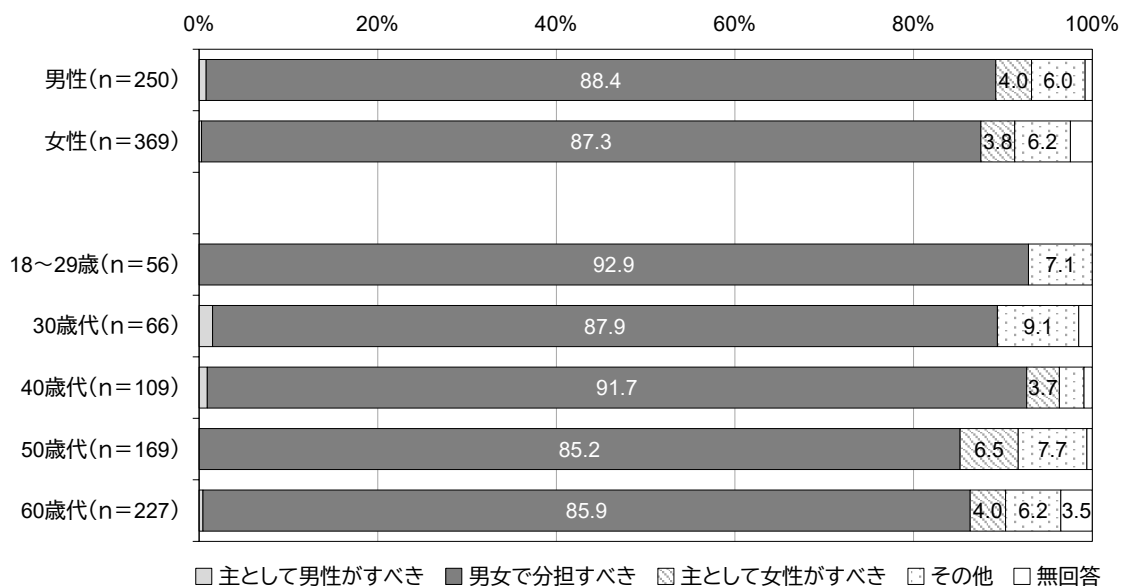
※過去2回の調査では「育児・しつけ・教育」として設定していたものを表示

〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 88.4%、女性 87.3%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



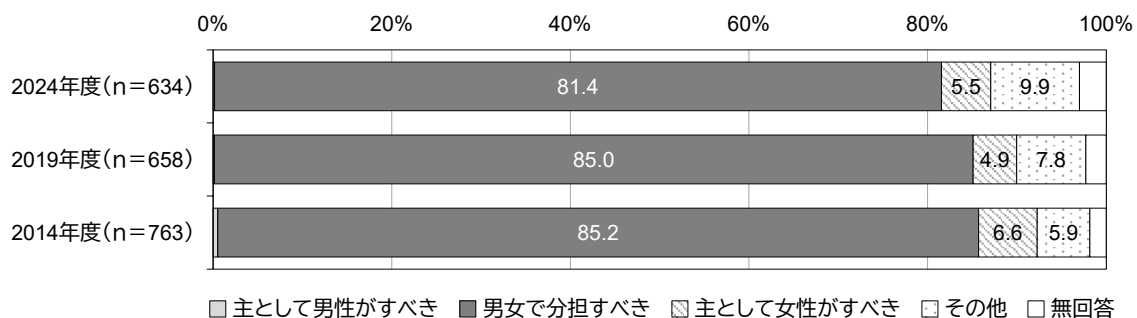
(10) 看護・介護

◆「男女で分担すべき」が8割以上で最も高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(81.4%)が8割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」(5.5%)が1割未満で、「その他」(9.9%)が約1割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



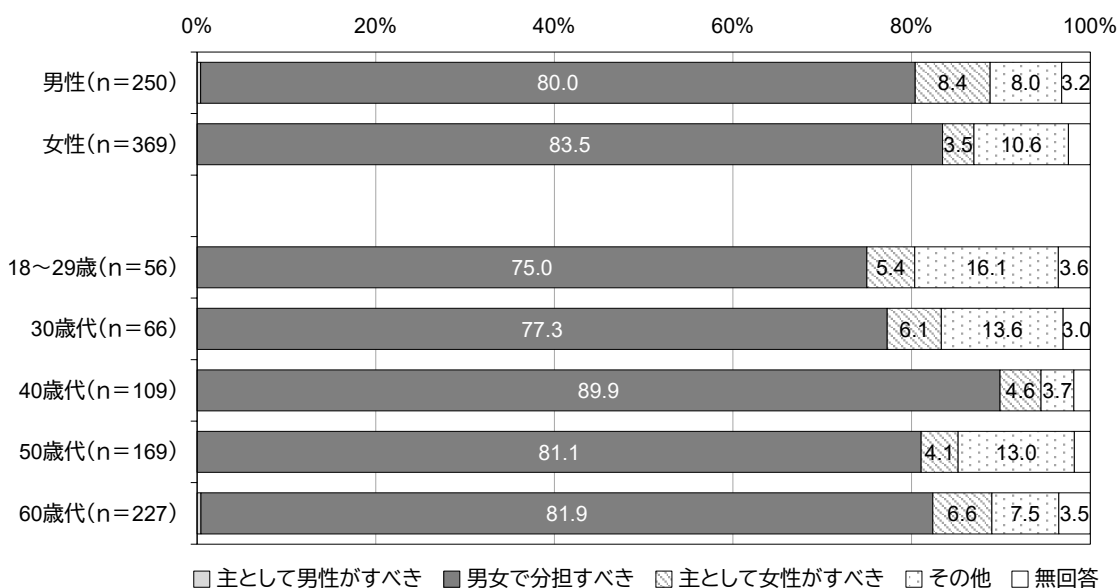
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 80.0%、女性 83.5%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、その中でも40歳代(89.9%)は約9割で比較的高くなっています。



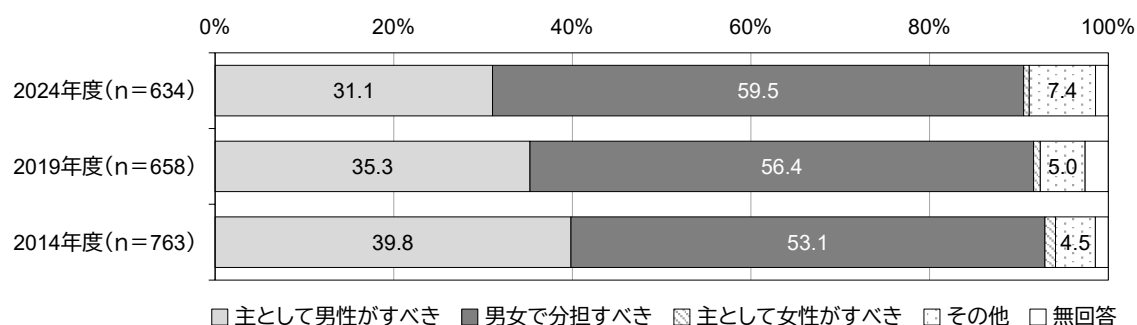
(11) 家屋の修繕や片づけ

◆「男女で分担すべき」が6割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」が3割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(59.5%)が約6割で最も高く、次いで「主として男性が担うべき」(31.1%)が3割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「男女で分担すべき」は若干高くなり、「主として男性がすべき」は若干低くなる傾向がみられます。



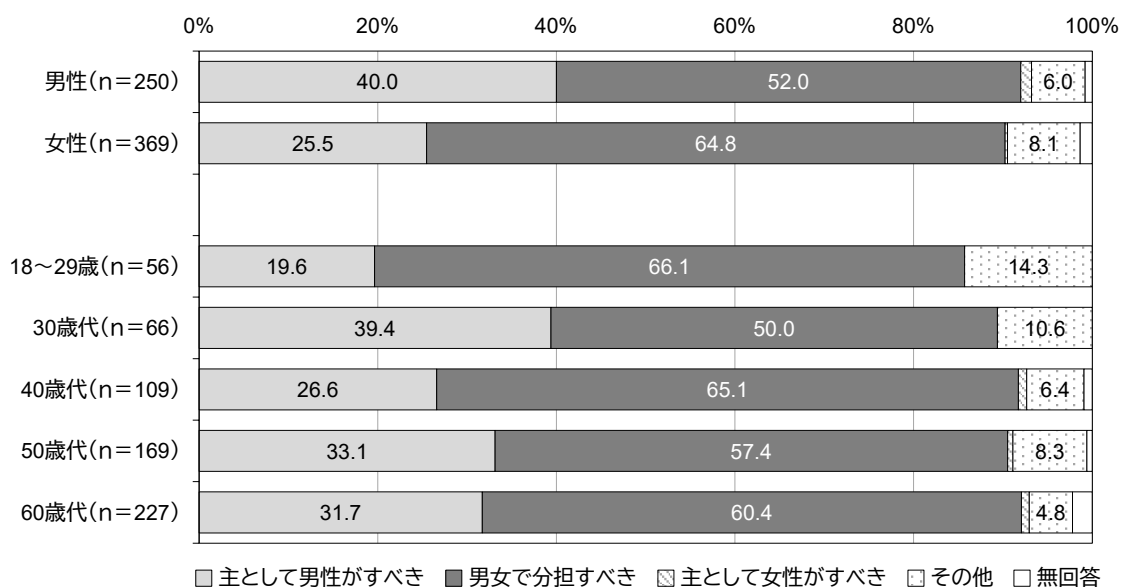
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「男女で分担すべき」は、女性が男性より若干高い

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 52.0%、女性 64.8%)が最も高く、女性が男性より約13ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、30歳代は「主として男性がすべき」(39.4%)が約4割で比較的高くなっています。



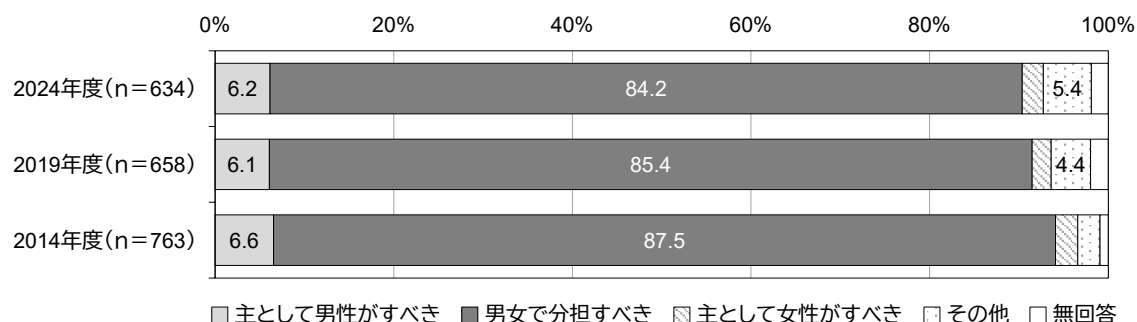
(12) 近所付き合いや地域活動への参加

◆「男女で分担すべき」が8割以上で最も高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(84.2%)が8割以上で最も高く、次いで「主として男性がすべき」(6.2%)が1割未満で、「その他」(5.4%)も1割未満となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



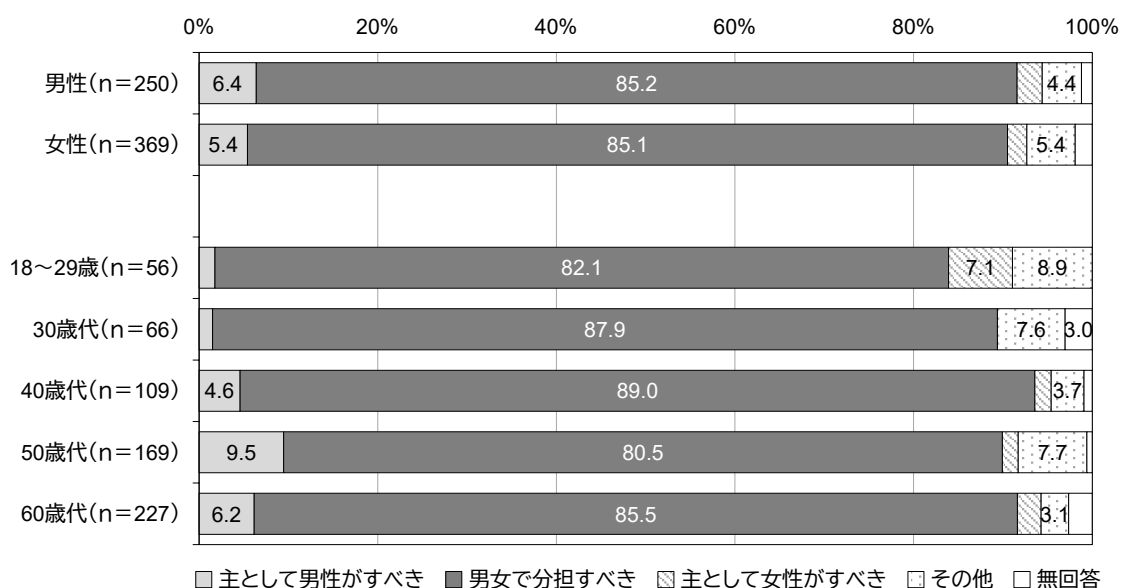
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高い

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 85.2%、女性 85.1%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、18～29歳は「主として女性がすべき」(7.1%)、50歳代は「主として男性がすべき」(9.5%)が約1割で比較的高くなっています。



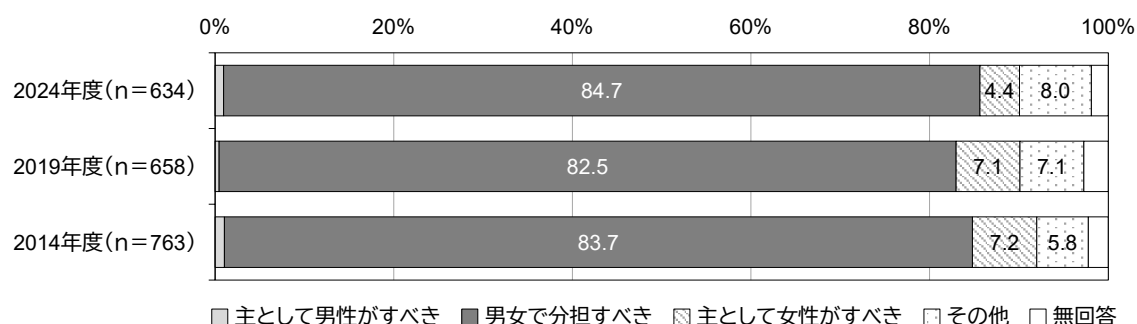
(13) 学校行事への参加

◆「男女で分担すべき」が8割以上で最も高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女で分担すべき」(84.7%)が8割以上で最も高く、次いで「主として女性がすべき」(4.4%)が1割未満で、「その他」(8.0%)が約1割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

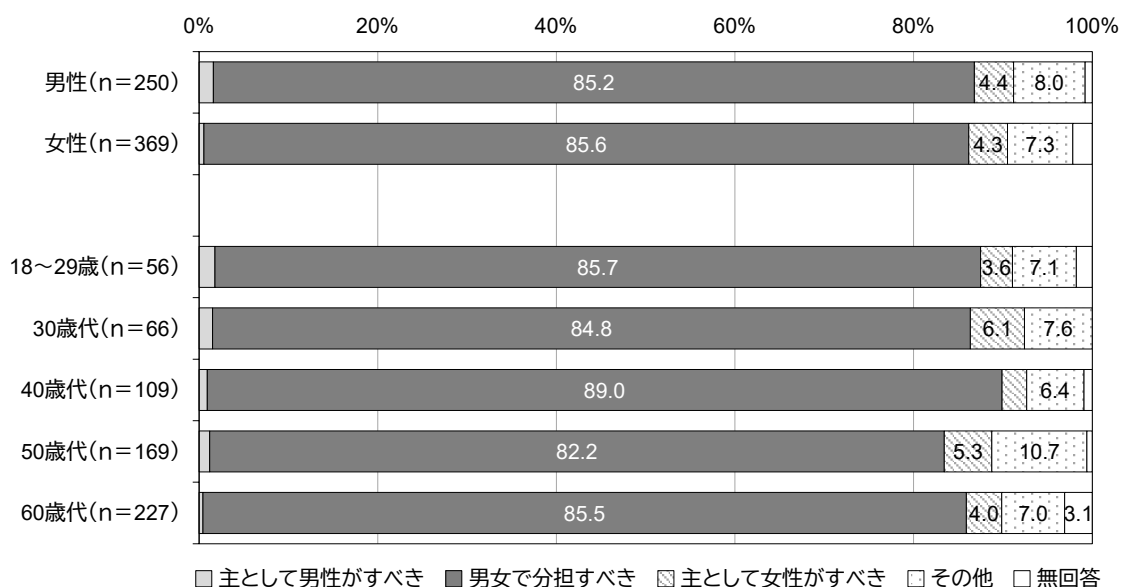


〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男女で分担すべき」(男性 85.2%、女性 85.6%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男女で分担すべき」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



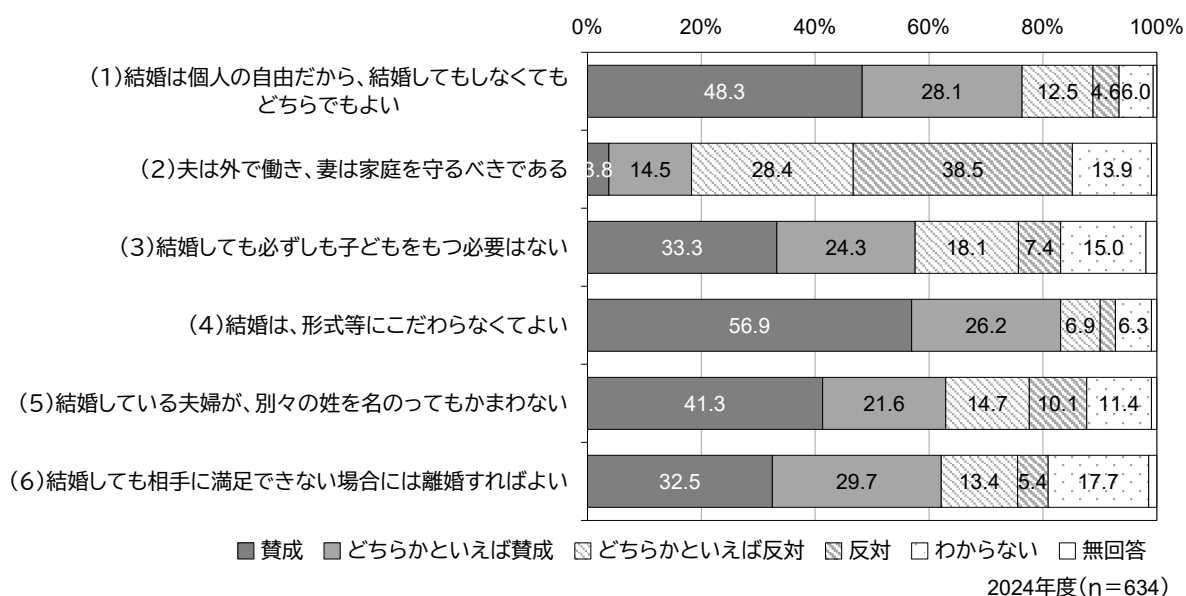
問4. あなたは、結婚や家庭観についてどう考えますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」は「反対」が最も高く、合計値『反対』が約7割

◆他の項目はいずれも「賛成」が最も高く、「結婚は形式等にこだわらなくてよい」は合計値『賛成』が8割以上で特に高い

性別による役割分担についての項目「(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は、「反対」(38.5%)が約4割で最も高く、次いで高い「どちらかといえば反対」(28.4%)を合わせた合計値『反対』(66.9%)は約7割となっています。一方、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計値『賛成』(18.3%)は約2割となっています。

それ以外の結婚に関する5項目では、いずれも「賛成」が最も高く、「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計値『賛成』は「(4) 結婚は、形式等にこだわらなくてよい」(83.1%)が8割以上で最も高く、次いで「(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(76.4%)が7割以上となっています。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の合計値『反対』は「(3) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」(25.5%)、「(5) 結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない」(24.8%)が2割以上で同程度となっています。

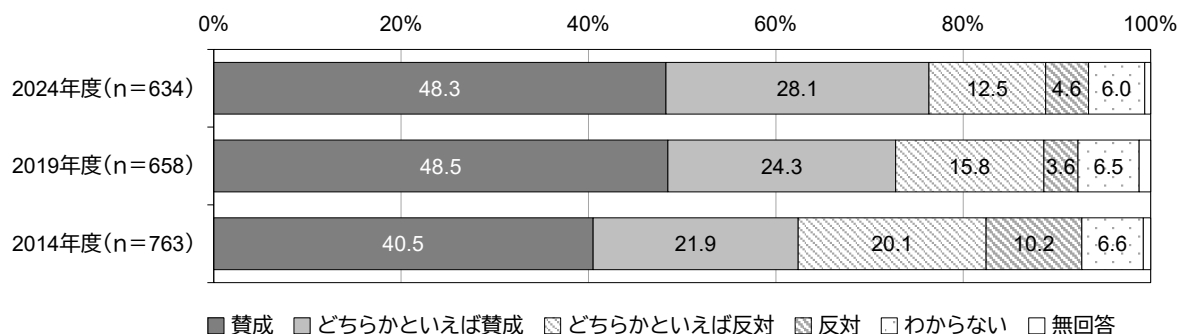


(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

◆合計値『賛成』が7割以上で、高くなる傾向

「賛成」(48.3%)が約5割で最も高く、次いで高い「どちらかといえば賛成」(28.1%)との合計値『賛成』(76.4%)は7割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『賛成』は前回(72.8%)や前々回(62.4%)より高くなる傾向がみられます。



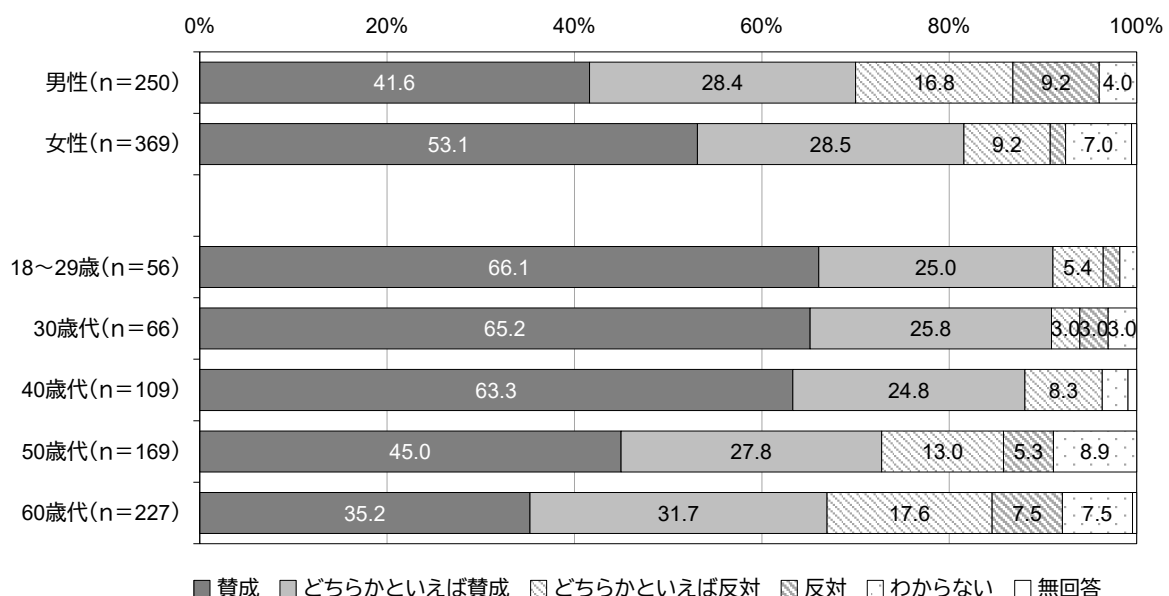
〈属性別〉

◆合計値『賛成』は、女性が男性より高い

◆年代別では、50歳代以上は40歳代以下より合計値『賛成』が低い

性別でみると、男女とも「賛成」(男性41.6%、53.1%)が最も高く、合計値『賛成』(男性70.0%、女性81.6%)は、女性が男性より約12ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「賛成」が最も高く、合計値『賛成』は50歳代以上が40歳代以下より低くなっています。

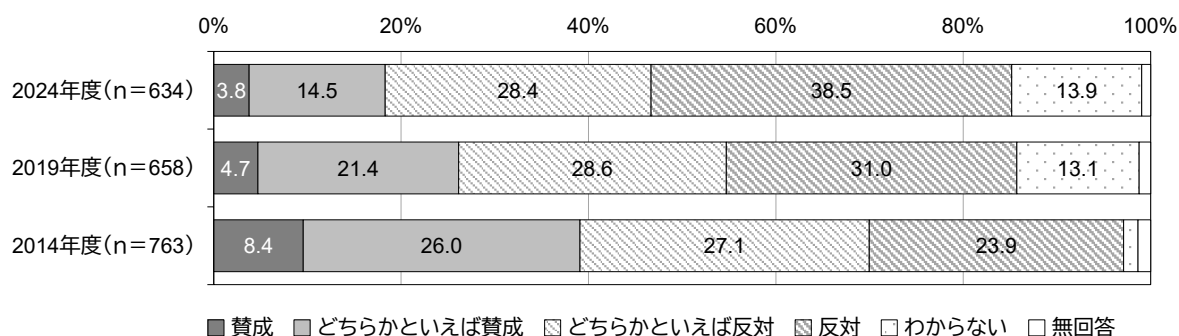


(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

◆合計値『反対』が約7割で、高くなる傾向

「反対」(38.5%)が約4割で最も高く、次いで高い「どちらかといえば反対」(28.4%)との合計値『反対』(66.9%)は約7割となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『反対』は前回(59.6%)や前々回(51.0%)より高くなる傾向がみられます。



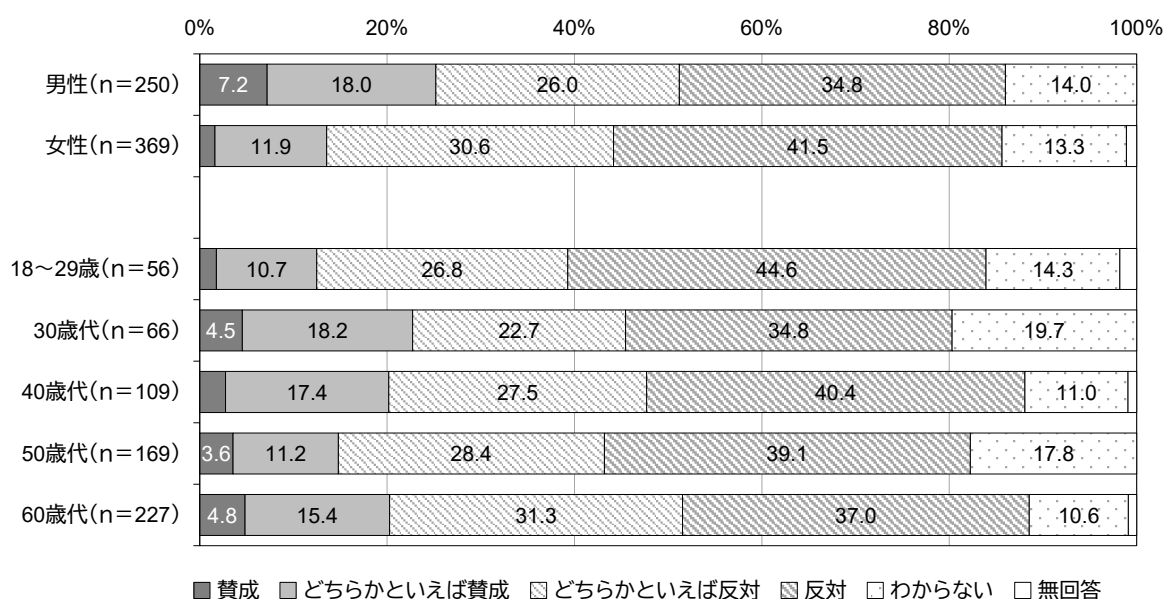
〈属性別〉

◆合計値『反対』は、女性が男性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「反対」が最も高い

性別でみると、男女とも「反対」(男性 34.8%、女性 41.5%)が最も高く、合計値『反対』(男性 60.8%、女性 72.1%)は、女性が男性より11ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「反対」が最も高くなっています。

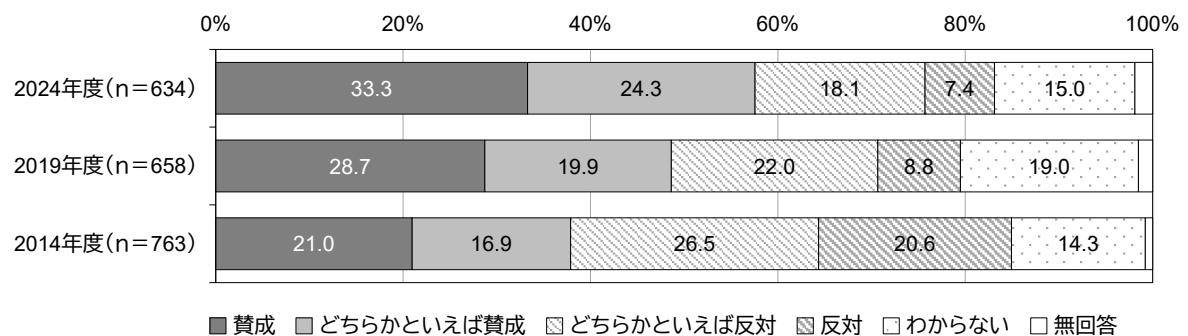


(3) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

◆合計値『賛成』が約6割で、高くなる傾向

「賛成」(33.3%)が3割以上で最も高く、次いで高い「どちらかといえば賛成」(24.3%)との合計値『賛成』(57.6%)は約6割となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『賛成』は前回(48.6%)や前々回(37.9%)より高くなる傾向がみられます。



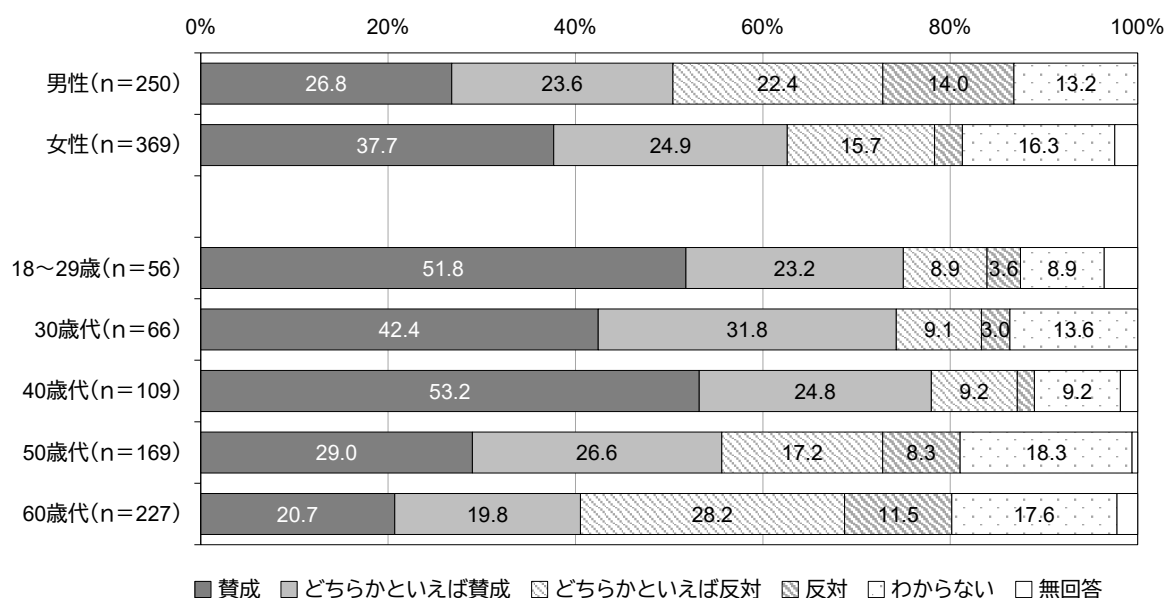
〈属性別〉

◆合計値『賛成』は、女性が男性より高い

◆年代別では、50歳代以上は40歳代以下より合計値『賛成』が低い

性別でみると、男女とも「賛成」(男性26.8%、女性37.7%)が最も高く、合計値『賛成』(男性50.4%、女性62.6%)は、女性が男性より12ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、60歳代を除き「賛成」が最も高く、60歳代は「どちらかといえば反対」(28.2%)が約3割で最も高くなっています。合計値『賛成』は50歳代以上が40歳代以下より低くなっています。



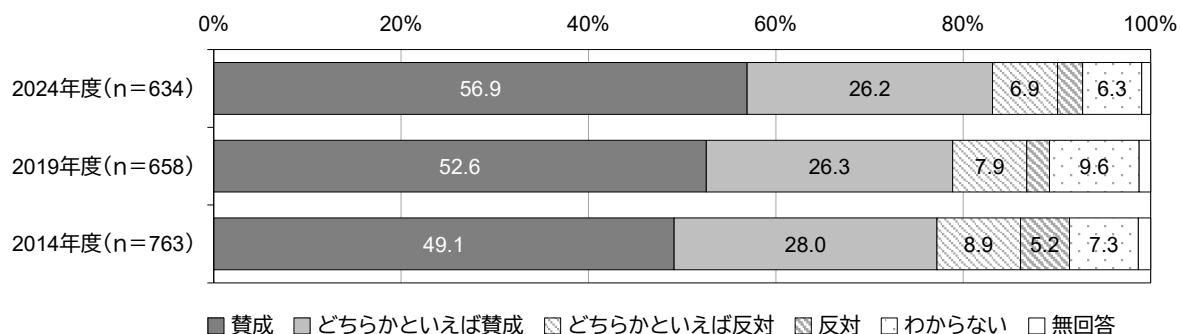
（４）結婚は、形式等にこだわらなくてよい

◆合計値『賛成』が８割以上

◆過去２回の調査と同様の傾向

「賛成」（56.9％）が約６割で最も高く、次いで高い「どちらかといえば賛成」（26.2％）との合計値『賛成』（83.1％）は８割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、合計値『賛成』は前回（78.9％）や前々回（77.1％）より若干高くなる傾向がみられます。

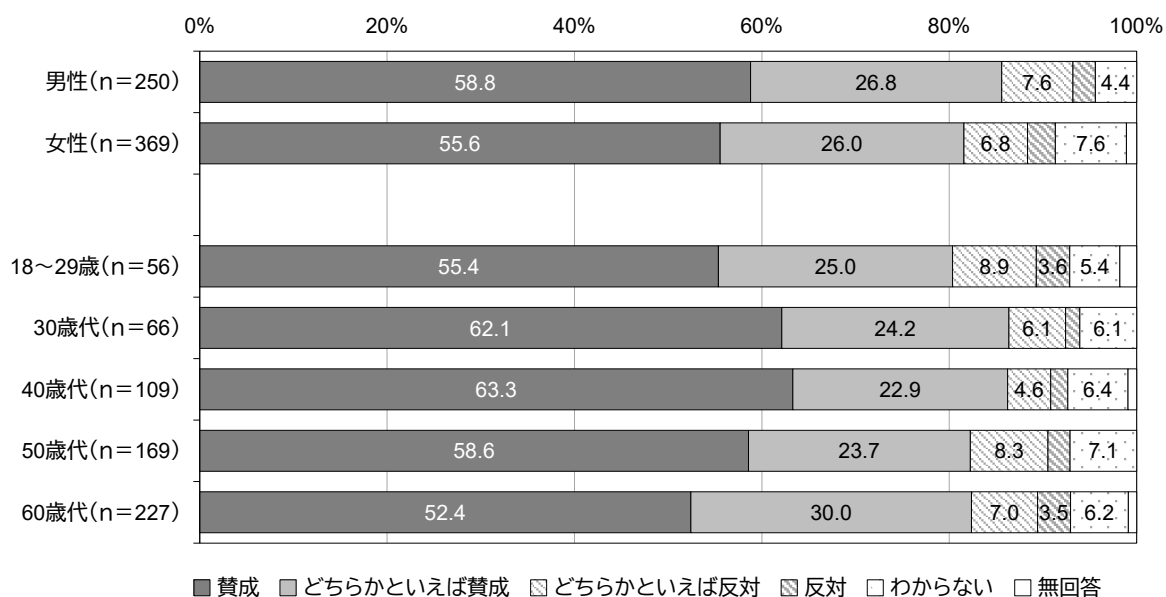


〈属性別〉

◆性別・年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「賛成」（男性 58.8％、女性 55.6％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「賛成」が最も高く、年代による大きな差はみられません。

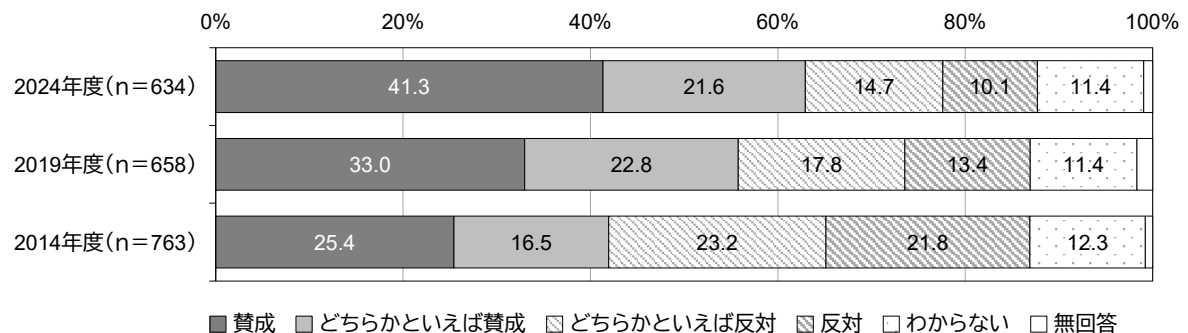


(5) 結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない

◆合計値『賛成』が6割以上で、高くなる傾向

「賛成」(41.3%)が4割以上で最も高く、次いで高い「どちらかといえば賛成」(21.6%)との合計値『賛成』(62.9%)は6割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『賛成』は前回(55.8%)や前々回(41.9%)より高くなる傾向がみられます。



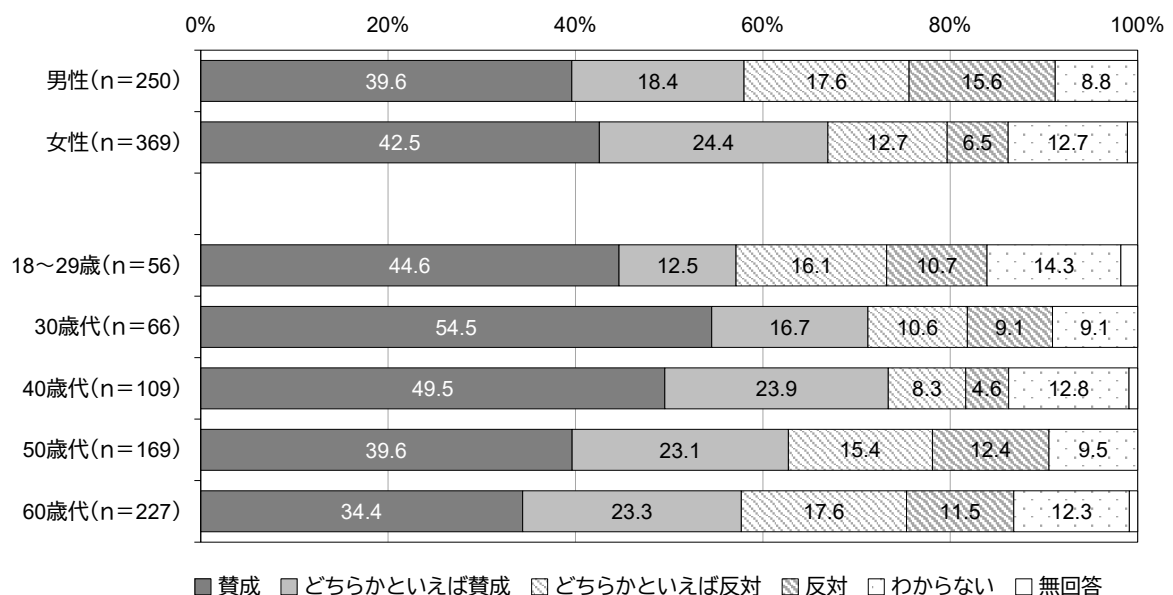
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「賛成」が最も高い

性別でみると、男女とも「賛成」(男性 39.6%、女性 42.5%)が最も高く、性別による大きな差はみられませんが、合計値『賛成』(男性 58.0%、女性 66.9%)は女性が男性より若干高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「賛成」が最も高く、次いで18~29歳を除き「どちらかといえば賛成」、18~29歳は「どちらかといえば反対」(16.1%)が高くなっています。

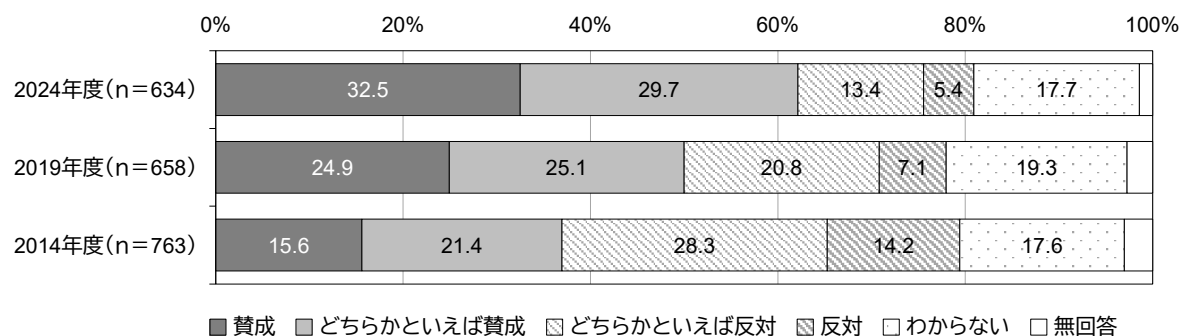


（６）結婚しても相手に満足できない場合には離婚すればよい

◆合計値『賛成』が６割以上で、高くなる傾向

「賛成」（32.5％）が３割以上で最も高く、次いで高い「どちらかといえば賛成」（29.7％）との合計値『賛成』（62.2％）は６割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、合計値『賛成』は前回（50.0％）や前々回（37.0％）より高くなる傾向がみられます。



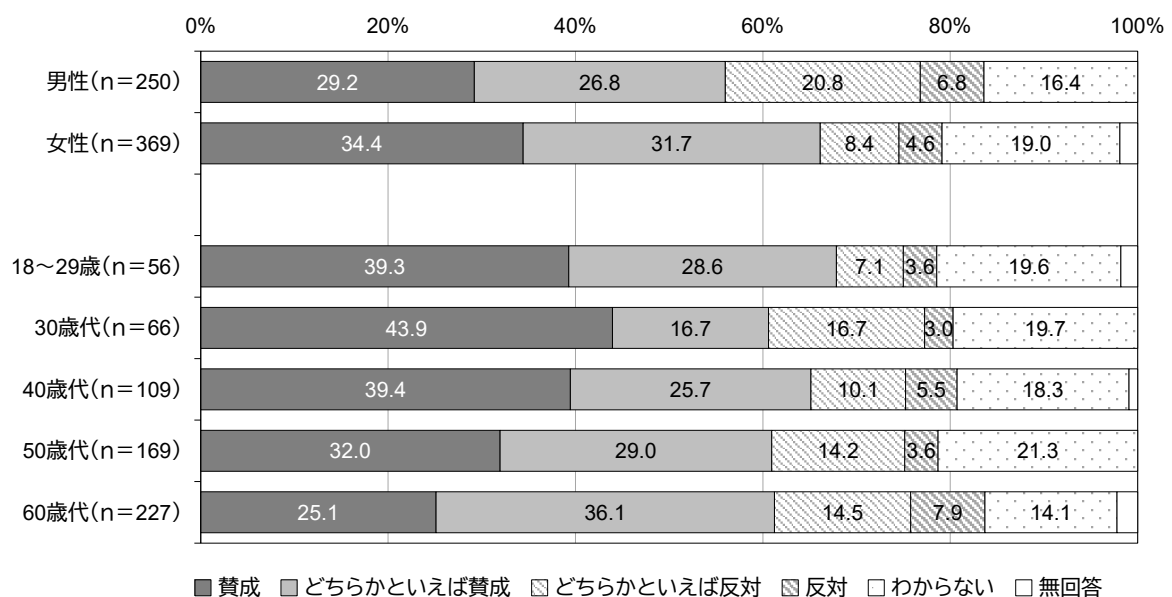
〈属性別〉

◆合計値『賛成』は、女性が男性より高い

◆年代別では、60歳代は「どちらかといえば賛成」、他の年代は「賛成」が最も高い

性別でみると、男女とも「賛成」（男性 29.2％、女性 34.4％）が最も高く、合計値『賛成』（男性 56.0％、女性 66.1％）は、女性が男性より 10 ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、60歳代を除き「賛成」が最も高く、60歳代は「どちらかといえば賛成」（36.1％）が３割以上で最も高くなっています。



(7) その他、具体的に考えること（自由記述）

- ・男と女と分ける考えもあるが、二人で相談することが大事
- ・子どもが小さいと、妻は夫の意見に従わざるをえない場合が多い。
- ・当事者、お互いを尊重した方が良いと思います。
- ・いくら好きでも、ベタベタしすぎは良くないと思う。かげんが大事
- ・本人同志考えるようにすればよいと思う。
- ・家庭が社会の基本単位という概念から変わる必要がある。
- ・色々な事情などがあると思うので、お互いの良き道を考えるべきと思う。
- ・子どもが欲しくてもできない人がある。
- ・4択では判断できない。
- ・夫婦、同じ姓を名のる時、姓を変える方の負担が大きい。
- ・夫婦別姓はぜひ考えてほしいです。
- ・何十年前の法律そのまま。今の時代にあった法律にすべき。夫婦別姓など。
- ・形式にこだわる必要はないと思うし、結婚、家庭、子どもについては、もっと多様性でよいと思う。
- ・大人なのだから自由でよいが、最後まで責任をもつのも大人だと思う。
- ・その人それぞれの考えがあるため自身の考えをおしつけないでほしい。
- ・本当のジェンダー平等をかけるのなら、同性婚を認めるべき。
- ・結婚して離職しても、家庭に入ってもおおむね同水準に生活できれば、考えも変わってくると思います。
- ・夫婦で決めたら良いと思う。
- ・政府が検討していた「移住婚」は愚策です。若い女性には支援金などで、地方へ行きません。
- ・「満足できない場合、離婚」といってもその先が心配で、そうとも言いきれないと思う。離婚して満足するのか。
- ・「満足できなければ離婚」の質問は愚問と感じる。結婚は男女平等で相手を敬う気持ちが必要であり、まして子を授かりこのような考えでは子は不幸せになる。相手に不満があればお互いに改善し決して子の養育を放棄してはならない。余りにも自主体の身勝手な判断である。
- ・子どもを産ませて人口を維持するためには、結婚による権利の保障は必要と考える。
- ・結婚して子どもを育てるなら、育児手当ではなく対価としての給料制にすべき。子どもは、個人の所有ではなく、国の保護下にあるべきなので、育児放棄したら給料没収、子育てに責任を（育てる意識を持って愛情を注ぐ）。
- ・結婚する・しないは個人の自由なのですが、将来日本は、移民で成り立つ国になることを、覚悟しなければならない。
- ・どんな形であっても双方納得していればいい。押しつけはダメ。
- ・本人同士が良ければ良い。
- ・男だから、女だから、反対できる人ができる事をすればいいと考える。
- ・目に見える連帯感として、夫婦同じ姓、同居が理想。
- ・昔と今は、時代が違うので個人による。
- ・子どもをもつことにより得る幸福について、今一度考えたり他者に知らせたりすることが必要と考えます。
- ・結婚してからお互いにわかる事もあるので離婚や別居もありえる
- ・個人の自由は尊重しつつも、社会を混乱させてはいけない。
- ・夫婦の問題より、その親や近所とのかかわりが大変
- ・基本的に、その方の自由であるが、結婚や出産、家庭生活を経験してほしいと思っています。育児を通じた社会貢献も人生で必要とは思っています。
- ・子どもがいる場合は子どもの事を考えて決めるべき。
- ・親の介護も身内でそれぞれ分担すべき。
- ・離婚については子どもの有無や年齢が大きく関係してくると思います。
- ・家庭に満足していない場合は、結婚する前に考えるべきです。なぜなら、結婚は一人の人だけの問題ではないからです。両方の家族が結婚について理解する必要があります。インドネシアと日本では、結婚の問題は大きく異なります。正直に言うと、インドネシアでは結婚したいときにあまり考えていません。なぜなら、非常に高度な家父長制が男性にやりたいことを何でもさせるからです。人は必ずしもお互いの気持ちが合わないから結婚したくないのだと思います。日本人は命に対して非常に慎重で、将来の命についても考えており、それは良いことだと思います。
- ・結婚は他人じゃなくても色々問題があるもの。簡単に離婚するべきではない。
- ・価値観、生活スタイルが変わっても種族保存本能は生物の生存において大切な営みである。人口のバランスは将来にわたり考えるべき課題である。
- ・男女平等社会を目指すなら男女問わず働き、家事や社会参加は互いに話し合い、予定を立ててできることをやればいいと考えます
- ・「〇〇すべき」ということではなく、それぞれ個人や、家庭の考え方で良いと思う。
- ・個人の自由で良いと思う。
- ・結婚感は経済的に安定していないと、なかなか厳しいものがあると感じます。夫の給料のみで生計が立

てられるのであれば、共稼ぎも少なくなるのではないのでしょうか。

- ・経済格差の是正、就業する場所の確保、安定した収入が、得られる地域づくりがまず重要かと考えます。
- ・一人親が優遇されるのはおかしいと思う。優遇される原資を、頑張って結婚の継続と仕事を両立している人達が負担するのはいかなるものなのでしょうか。
- ・個人個人の能力・立場に応じてできることを負担したら良いと思うが、子どもを産めるのは女性だけだし、少子化改善は喫緊の課題なので。女性の社会進出をことさらに推し進めようとするのには反対。
- ・若い人が将来に希望を持てるような国にしていきたいです。働いても税金などが高すぎて手取りが

絶望的です。そして、国の税金の使い方もなんかおかしいと思う。今の日本で子孫を残したいなんて思えないのでは。

- ・結婚という制度が、現代人の考えに合わなくなっている。
- ・これを聞いてどうするのですか。
- ・女性、かみさんの指示に（全て）しがいます。
- ・When married, the couple should be loyal to each other, no other parties should be involve like dating other men or women. Cheating should be avoided. (結婚したら、夫婦は互いに忠実であるべきで、他の男性や女性とデートするなど、他の人が関与すべきではありません。浮気は避けるべきです。)

3 子育てや介護について（問5～問9）

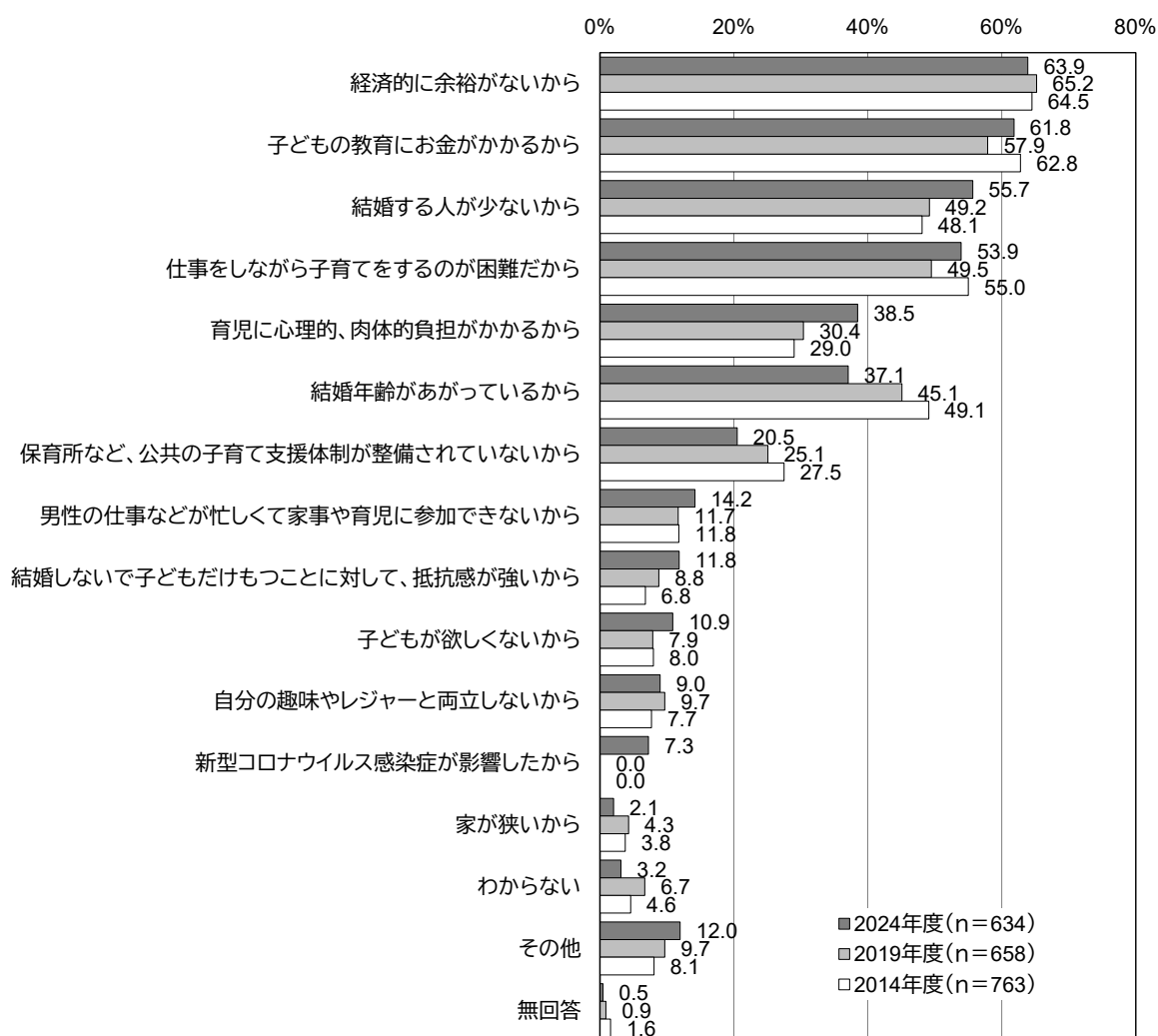
問5. 沼田市の出生率低下の理由は、どのようなことだと思いますか。（○はいくつでも）

◆「経済的に余裕がない」「子どもの教育にお金がかかる」の2項目が6割以上、次いで「結婚する人が少ない」「仕事をしながら子育てをするのが困難」の2項目が5割以上

◆「結婚年齢があがっているから」は低くなる傾向

「経済的に余裕がないから」（63.9%）、「子どもの教育にお金がかかるから」（61.8%）が6割以上で同程度に高く、次いで「結婚する人が少ないから」（55.7%）、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」（53.9%）の2項目が5割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「結婚年齢があがっているから」は低くなる傾向がみられます。また、「結婚する人が少ないから」「育児に心理的、肉体的負担がかかるから」は若干高くなる傾向、「保育所など、公共の子育て支援体制が整備されていないから」は若干低くなる傾向がみられます。

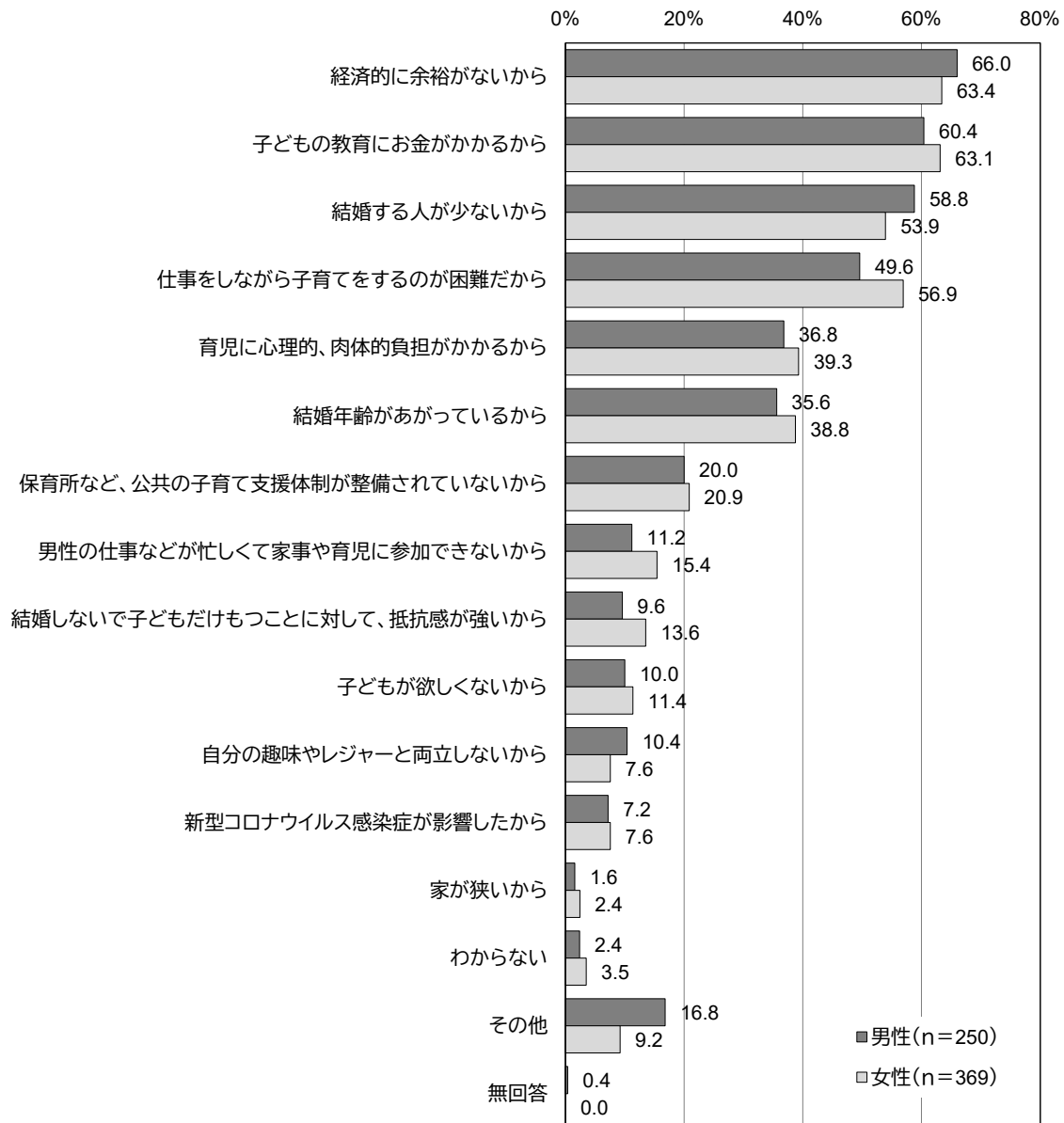


※問文の前に、「全国的に少子化が進む中、沼田市においても出生率が年々低下し、平成23（2011）年に367人だった出生数は、令和3（2021）年には188人に減っています。」と表示

〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「経済的に余裕がないから」（男性 66.0%、女性 63.4%）、「子どもの教育にお金がかかるから」（男性 60.4%、女性 63.1%）の2項目が高く、性別による大きな差はみられません。その中で「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」は女性（56.9%）が男性（49.6%）より若干高くなっています。



◆50 歳代以下は「経済的に余裕がない」、60 歳代は「結婚する人が少ない」が最も高い

◆年代差は「仕事をしながら子育てをするのが困難」で最も大きい

年代別でみると、60 歳代を除き「経済的に余裕がないから」、60 歳代は「結婚する人が少ないから」（59.5%）が最も高くなっています。

年代差は「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」で最も大きく、最も高い 30 歳代（69.7%）と最も低い 50 歳代（47.9%）では約 22 ポイントの差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
経済的に余裕がないから	60.7	72.7	69.7	65.7	58.6
子どもの教育にお金がかかるから	57.1	66.7	68.8	60.9	59.0
結婚する人が少ないから	57.1	51.5	53.2	53.8	59.5
仕事をしながら子育てをするのが困難だから	55.4	69.7	57.8	47.9	52.0
育児に心理的、肉体的負担がかかるから	32.1	48.5	45.0	32.0	38.8
結婚年齢があがっているから	30.4	39.4	41.3	37.9	35.7
保育所など、公共の子育て支援体制が整備されていないから	28.6	21.2	17.4	21.3	19.8
男性の仕事などが忙しくて家事や育児に参加できないから	8.9	15.2	14.7	14.8	13.2
結婚しないで子どもだけもつことに対して、抵抗感が強いから	16.1	18.2	6.4	11.2	12.3
子どもが欲しくないから	21.4	16.7	10.1	10.1	7.9
自分の趣味やレジャーと両立しないから	8.9	13.6	2.8	10.7	9.7
新型コロナウイルス感染症が影響したから	7.1	10.6	8.3	7.7	5.7
家が狭いから	0.0	6.1	0.0	1.2	3.1
わからない	1.8	0.0	2.8	3.6	4.0
その他	19.6	18.2	8.3	10.7	11.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・収入が少なく、出産費用、育児教育費用に不安があるからだと思う。
- ・沼田市は住むのにとても良い所だけど、若い人が少ない。
- ・趣味が合う人がいないから。
- ・政治が悪い、物価がめちゃくちゃ上がっている。給料は上がらない。
- ・働く場が少ない、大学がない。
- ・人生の「価値」の多様性を容認する社会になったから
- ・沼田市は人がいないから
- ・そもそも沼田に子育て世代が少なくなっている。
- ・出産できる場所が限られている。少ない。
- ・沼田は特に 20～30 代の人口が減っているから。
- ・子どもに対する支援が少ない。
- ・病気とかで子どもができない場合
- ・若い世代が少ない、出会いの場がない。
- ・個人主義が広まり、家族を持とうとする意識が低下した。

- ・育児をする＝経済的に負担増、物価（ガソリン代）も高騰→夫婦共働きをせざるをえない→子は保育必要。また経済的に負担増→預け先が少ない→結果、子どもを増やそうとは思えない。市の助けが少ない。
- ・仕事が少ない。
- ・若い方をみていて、全員といわないが、結婚もしかり、子どもを生み育てる、自分ともうひとつ責任を負う自信がないように見える、自分のことでいっぱい。
- ・自分の自由な時間がほしいから。
- ・沼田市に働く場が少ないので、外に出てしまい若い人が少なくなっている。
- ・結婚する前に若い人が市外に出てしまうから。
- ・人間同士の直接的なつながりが低い気がする。収入が少ないので結婚がむずかしくなっている。
- ・職場でのキャリアを中断したくないから。
- ・自分と価値観が同じ人がいないから。
- ・子どもを産む世代の人口が少ないから、若い人が市外に出てしまうから。
- ・若年層の他県への流出
- ・親と子どもが一緒になって遊べる大型の公園がない。のびのび遊べることをアピールするような場所が沼田にない。
- ・政府や自治体が子育て世代の支援をしていない。または効果の無い方法でしているから。
- ・若い人が少ないから。
- ・結婚・出産する年齢の人口が減っている。沼田から出て行ってしまうから。
- ・不妊症・不育症の人が増えているから。
- ・未婚化、男女の感情の劣化
- ・育児のための協力が得にくい、しにくい。
- ・不妊治療助成金を周知すること。早めに治療する。
- ・出産年齢が上がって、リスクもあがるが、もし障害があっても生まれても、安心して子育てできる環境が整っていない。相談窓口や病院
- ・女性が自分の道を持ちたいと思っていると思う。
- ・子どもをもてる若い世代がそもそも減っているため。
- ・地球の自然環境の悪さが影響している。
- ・お金がない。全体的に余裕がない。
- ・結婚、子どもをもつかもたないかは個人的な事
- ・仕事がない、就職先がない。
- ・20代や若者で沼田市に住む人が減っている。
- ・若者世代の働く場所がない、少ない。夜間に対応してくれる小児科がない。産科がないため、前橋や高崎へ若者が出て行き出産している。その後のケアも考えると病院に近い所に住居をかまえている。
- ・仕事場が少ない。
- ・市外へ転出したため（人口が減っているから）
- ・税金が高過ぎる。
- ・沼田市の人口減少が関連すると思います。
- ・女性を働かせるからだと思う。
- ・不妊問題もあると思いますが、若者自体が少なく、目的がここにはないのが理由ではないでしょうか。
- ・出会いがない。
- ・女性が働くことが多くなったから。交通機関や店が少なくて住みやすさを感じない。
- ・生産年齢の世代が少ない。
- ・結婚に魅力を感じず、経済的に自分の事で精一杯なのだと思います。
- ・若い人が定住したいと思える、魅力的な地域、子育てがしやすい、仕事があるなど魅力的な地域づくりが必要
- ・単純に、若い世代の都市部への流出が原因だと思います。出て行った人は帰ってこないで、群馬に戻っても働ける場所があれば良いのでは。
- ・沼田からの人口流出による結婚世代の減少
- ・沼田市という地域に魅力がなく、沼田市を出て生活する人が多いから。特に若い世代で。
- ・私はインドネシア人です。日本で家族をもつことはまったく気にしません。ただ、他に考えなければならぬことがたくさんあります。インドネシア人と日本人の考え方は異なります。結婚していない場合、または一緒に住むことができない場合の夫婦関係。だから彼らがそれをしたいなら結婚しなければなりません。
- ・沼田市で出産する魅力、メリットが無いから。
- ・若い世代が沼田市外に転出してしまいう状況が理由だと感じています。
- ・現在の日本の政治の在り方に問題がある。
- ・子どもの老後が大変そうだから。
- ・若い政治家が担っておらず、高齢な政治家が中心となっているのが現状。市政や国政は高齢者中心の政策となっているため、政治家にも65歳までなどの定年退職を求め、育児に直結している若手が政治をする必要があると考えます。
- ・若い世代が、沼田市に定住しないから。
- ・沼田市が教育、財政、交通等、生活に不便だから。
- ・沼田市として考えると 高収入を得られる企業誘致や 将来希望が持てる農業林業のシステムづくりなど、若者が大学を卒業したら戻ってきたい市になれば、結果的に子どもが増えていくのでは。理想ですけど。
- ・働く場所がないから、若い人がいないため。
- ・社会が高度化（職業につくためにはある程度の学歴が必要）すると、少子化に傾くのは普遍的な傾向ではある。
- ・先々の出費が、収入に追いついていかない。
- ・出産・育児の年齢層の人口が少ないから。
- ・収入が少なくて子育てができる自信がないから。

- ・人口減少、地方での男女の偏り(主に若年層)
- ・自分の幸せしか考えないから。
- ・子どもをなす年齢層がそもそも減っているのではなかろうか。
- ・沼田市という地方で若い人が結婚して家庭を築きたいと思わせるだけの魅力が無い事が、出生率の低下に繋がっていると思う。
- ・独身や子なし世帯と比べた時に、生活レベルが落ちたと実感する。子ども持たなくても許容される世間

の空気感がある。学校の再編が遅れていて少人数過ぎる。国レベルの話だが、手当を増やして控除を無くすといった、騙すような政策ばかりで支援を得られていないから。

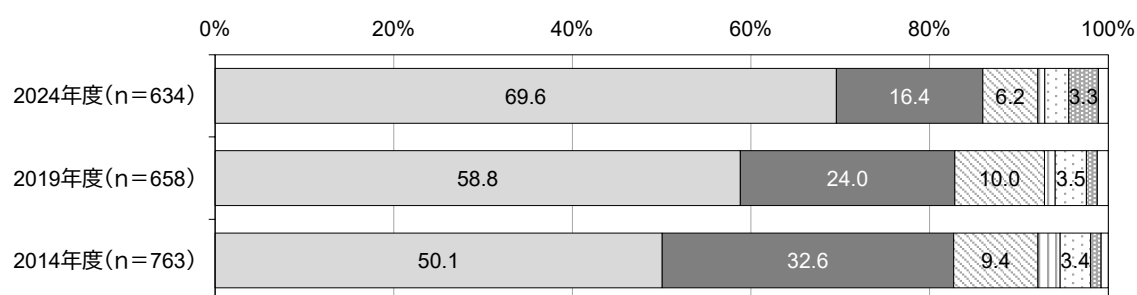
- ・小泉内閣時から始まったとされる漠然とした将来への不安による結婚・出産・子育てへのためらいは、グローバリズム・新自由主義・規制緩和・労働力の流動化・人口減少などによって、現在の働く世代の貧困化でとどめを刺されたと思います。この間の国の失政の責任は重いものです。

問6. あなたは、父親の育児参加について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)

◆「父親も母親と分担して、積極的に育児をするのがよい」が約7割で最も高く、高くなる傾向

「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」(69.6%)が約7割で最も高く、次いで「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」(16.4%)が1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」は高くなり、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」は低くなる傾向がみられます。



- 父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい
- 父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい
- ▨ 父親はできるかぎり育児をするのがよい
- 父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい
- わからない
- その他
- 無回答

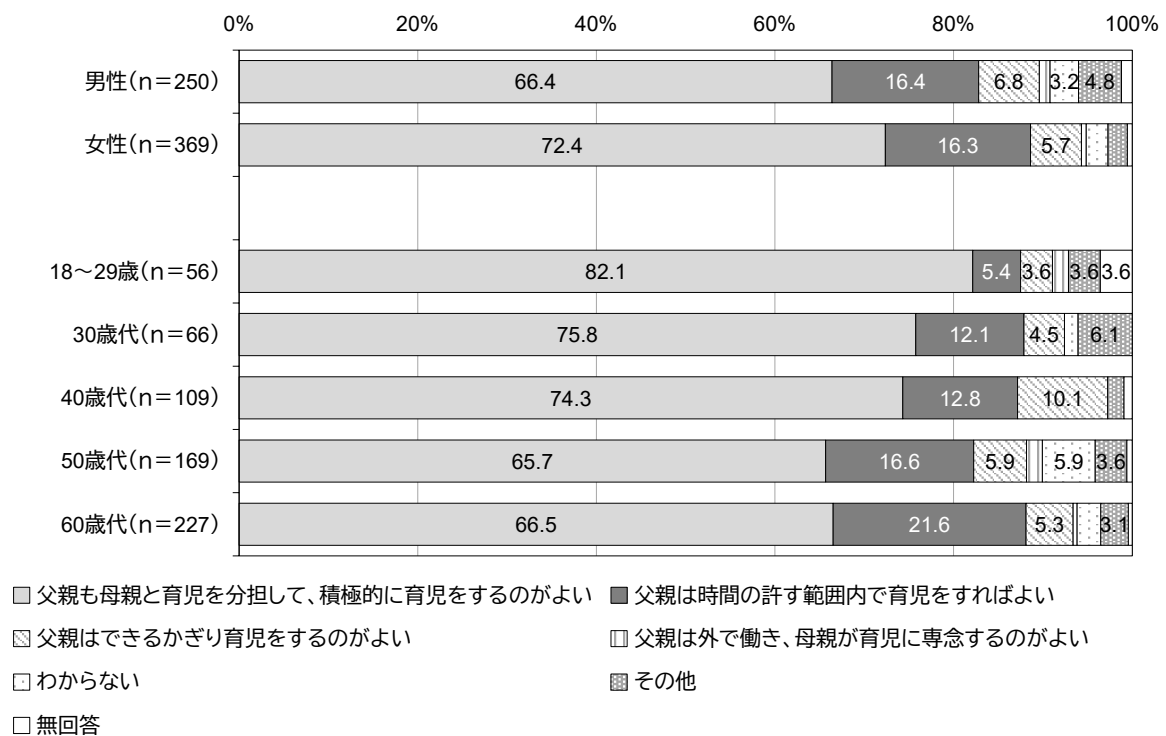
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、高い年代ほど「父親も母親と分担して、積極的に育児をするのがよい」が低い

性別でみると、男女とも「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」（男性 66.4%、女性 72.4%）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」が最も高く、おおむね高い年代ほど低くなっています。また、60歳代は「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」（21.6%）が比較的高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・環境によるけど、けんかが起きやすい。
- ・父、母関係なく近くの大人がするのがよい。
- ・考えや価値観は人それぞれなので、その家庭に合った育児をするのがよい。
- ・育児参加は、いつ何時でも行うのが当たり前
- ・ケースバイケース
- ・家庭による。夫婦で納得できる形ならそれがよい。
- ・育児は父母の共同作業であるが、子どもにとってどのような形が良いかで考えるべきである。大人目線で線を引こうとし過ぎ。
- ・勤め先が育児に関して理解があるか、ないかで変わってくる。
- ・両親で話し合い、その家庭の最良を見つける
- ・女性が働いているか、いないかで異なる。
- ・分担という言葉に違和感、協力で良い。
- ・父親不在の家庭はどう答えていいのか。
- ・時代のながれ。
- ・生活が成り立つのであればどちらが主でもよいと思う。
- ・父親が育児に参加することへの理解が社会的に少ないと思う。子どもの事で仕事を休むのは母親で、父親はたまにしか言いづらい社会だと思う。けれど、仕事をもつ母親も、子どもの力ゼなど休みが多いと仕事場から困るといわれる。

- ・父親と母親の果たすべき役割がある。父親は子どもの様子を気配りし、必要な時に子どもと接し、母親は日常で子どもと接することが大切と考える。
- ・産後の時期にもよりますが、分担などせず、父親が育児に専念して母親が外で働くのも、男女共同参画社会を目指すならひとつの考え方かと考えます。
- ・やりたいと思うならやれば良い。
- ・現状男性のほうが、平均年収が高いので、仕事をしながら時間の許す限り父親は育児をするのが良い。
- ・家庭環境により条件が違うので一概には言えない。
- ・父親や母親の仕事の有無などの家庭環境やそれぞれの考え方などによって変わってくると思います。それぞれの家庭の状況や考え方に合わせて育児参加するのが良いかと思います。
- ・育児は平等に分担して参加した方がよいが、その家庭(仕事、周囲の協力や考え)により父親が主か、母親が主になるか異なると思う。
- ・共働きの場合は育児負担も平等に行いたい。

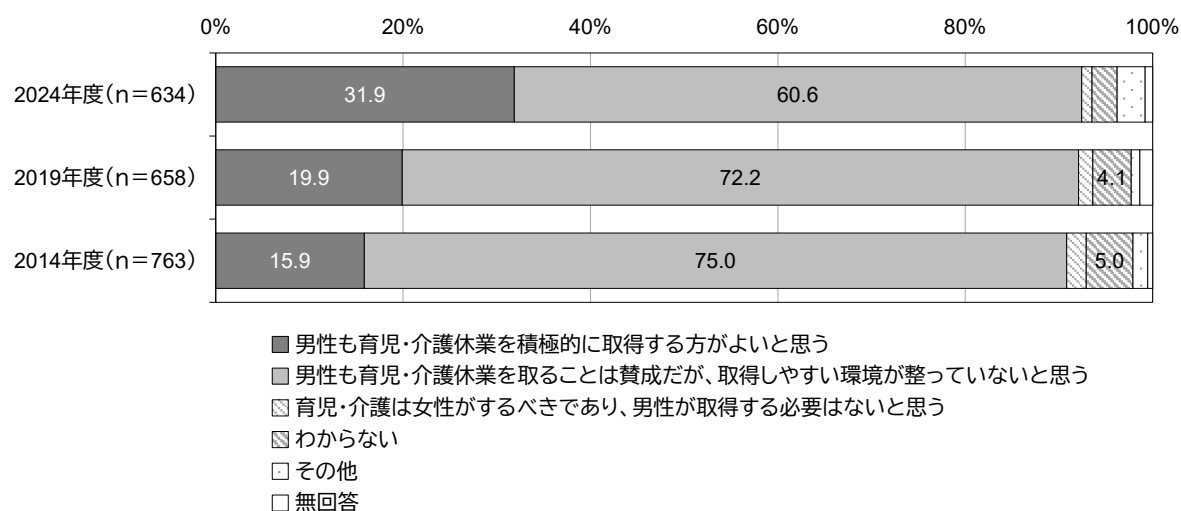
問7. あなたは、男性の育児・介護休業の取得について、どのようにお考えですか。
あなたの考えに最も近いものを選んでください。(1つだけに○)

◆「賛成だが、取得しやすい環境が整っていない」が6割以上で最も高く、次いで「積極的に取得する方がよい」が3割以上

◆「積極的に取得する方がよい」が高くなる傾向

「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」(60.6%)が6割以上で最も高く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」(31.9%)が3割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」は高くなり、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」は低くなる傾向がみられます。



※問文の前に、「育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度が「育児・介護休業法」により定められています。」と表示

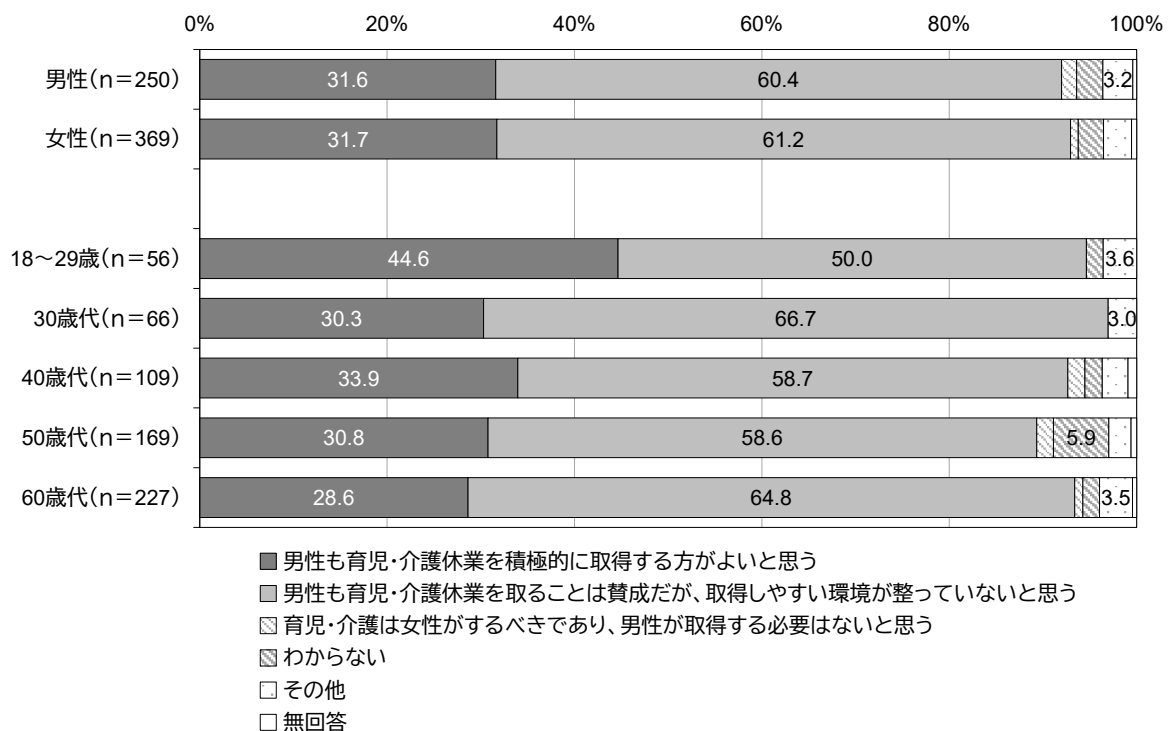
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「賛成だが、取得しやすい環境が整っていない」が最も高い

性別でみると、男女とも「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」（男性 60.4%、女性 61.2%）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」が最も高く、18～29歳は「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」（44.6%）が4割以上で比較的高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・育児・介護休業がないため、仕事を辞めざるをえない。
- ・介護で仕事ができないから援助がほしい。
- ・男女関係なく休業すればいい。
- ・考えや価値観は人それぞれなので、その家庭に合った育児をするのがよい。
- ・男性が育児休業を取得しても、女性任せで手伝い程度しかないのは違うと思います。
- ・会社で育休の理解を深めてもらえないことが多いため、取得しやすくなれば積極的に取得してもらいたいと思う。
- ・自営業のため、休業を積極的に取るには無理がある。
- ・男性が育児休業をとっても、女性と同等にこなせないのではないか。
- ・介護休業の取得は難しいと感じる。しかし介護しながら仕事を続けて行く事も難しく、私の場合、仕事を辞めて専念したが、それでも介護は大変であった。現実はまだ大変である、制度ができて負担はなくなる。
- ・家で何もしないなら取得する必要はない。
- ・自営業なのでその時々で考える。

- ・自分の子の育児をしない人は、子をもたないのも選択肢
- ・できる限り助け合いが必要
- ・取得するのが良いが、休んでいる間の職場のフォローも考えてほしい。
- ・それぞれの家庭にあったかたちでよいと思う。
- ・育児・介護休業を取得した際に減給されてしまうので、減給された分を国や県、市が負担する制度や、育児・介護した時間や日数によって補助があると、少子化対策や福祉施設の負担軽減になるのではないかと考えます。
- ・環境はあっても、使える雰囲気、将来的な事を考えると使えないのではないのでしょうか。ある程度義務化が大事だと思います。
- ・10割の収入が得られれば。
- ・介護は、先が見えないことや、金銭的な問題もあり、家庭の状況も全部違うので、こうすべきと決められない。
- ・人手不足などにより、取る権利はあっても取りにくい現状がある。実際に男性が取る必要はないという意見もちろほら聞こえる。
- ・零細の経営側だと何も対処できない。

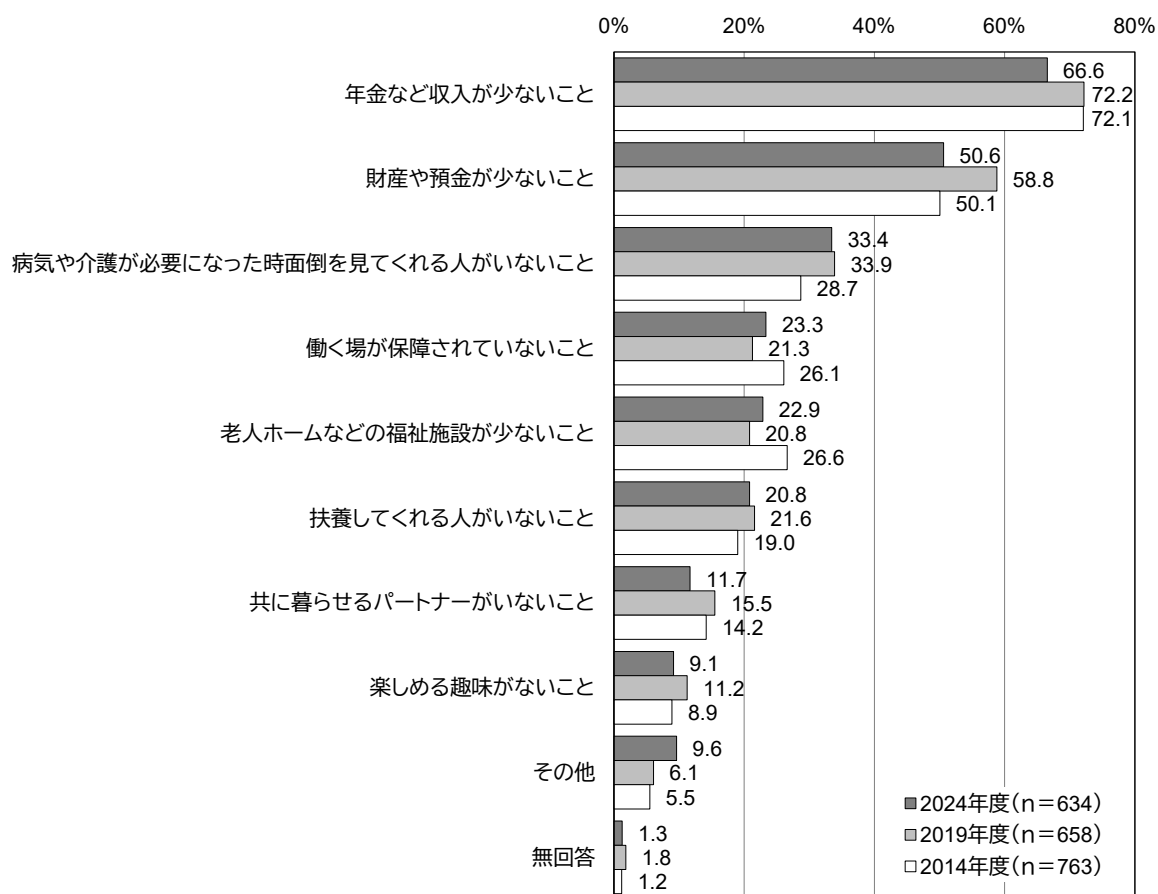
問8. あなたは、老後の生活にどのような不安を感じますか。(〇はいくつでも)

◆「年金など収入が少ないこと」が約7割で最も高く、次いで「財産や預金が少ないこと」が5割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「年金など収入が少ないこと」(66.6%)が約7割で最も高く、次いで「財産や預金が少ないこと」(50.6%)が5割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「年金など収入が少ないこと」「財産や預金が少ないこと」は前回(それぞれ72.2%、58.8%)より若干低くなっています。

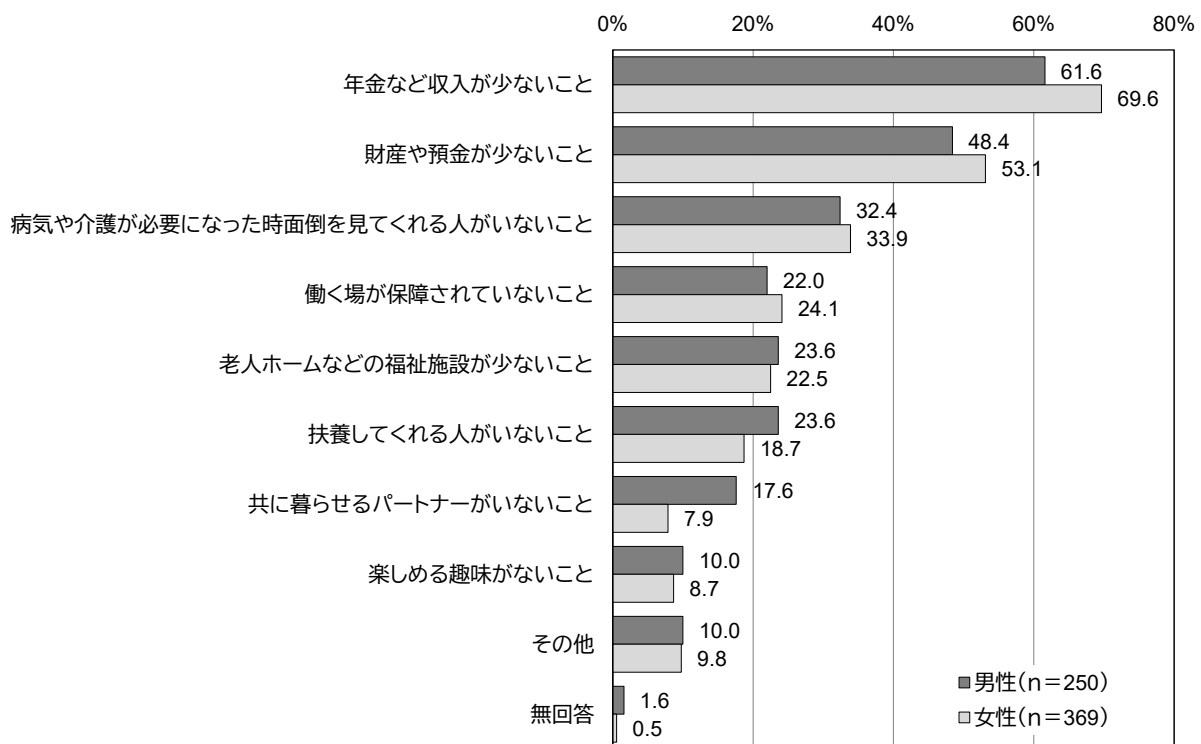


※問文の前に、「沼田市の高齢化率(総人口に対する65歳以上人口の割合)は高く、平成27(2015)年では30.6%でしたが、令和5(2023)年には35.8%と上昇を続けています。」と表示

〈属性別〉

◆ほとんどの項目で性別による大きな差はみられないが、「共に暮らせるパートナーがいないこと」は、男性が女性より高い

性別でみると、男女とも「年金など収入に関すること」（男性 61.6%、女性 69.6%）が最も高く、次いで「財産や預金が少ないこと」が高くなっており、ほとんどの項目で性別による大きな差はみられません。その中で「共に暮らせる人がいないこと」（男性 17.6%、女性 7.9%）は男性が女性より約 10 ポイント高くなっています。また、「年金など収入が少ないこと」は女性が男性より若干高くなっています。



◆いずれの年代も「年金など収入が少ないこと」が最も高い

◆年代差は「財産や預金が少ないこと」「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」で大きい

年代別でみると、いずれの年代も「年金など収入に関すること」が最も高く、次いで「財産や預金が少ないこと」が高くなっています。

年代差は「財産や預金が少ないこと」「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」で大きく、「財産や預金が少ないこと」は 30 歳代（65.2%）、「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」は 18～29 歳（51.8%）が最も高く、いずれも最も低い 60 歳代（それぞれ 44.1%、30.0%）とは 21 ポイント以上の差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
年金など収入が少ないこと	75.0	69.7	68.8	62.7	65.6
財産や預金が少ないこと	53.6	65.2	54.1	52.1	44.1
病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと	51.8	31.8	33.9	32.5	30.0
働く場が保障されていないこと	25.0	30.3	29.4	27.8	14.5
老人ホームなどの福祉施設が少ないこと	14.3	18.2	14.7	26.0	27.8
扶養してくれる人がいないこと	33.9	30.3	19.3	19.5	16.3
共に暮らせるパートナーがいないこと	23.2	24.2	10.1	11.2	6.6
楽しめる趣味がないこと	8.9	6.1	14.7	7.7	8.8
その他	5.4	7.6	10.1	12.4	9.3
無回答	1.8	1.5	0.0	0.6	1.3

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・ 60 才以上になると面接をする前に断わられてしまう。
- ・ 孤独死
- ・ 老いに対して、単純に不安がある。
- ・ 嫌われるかもしれない。
- ・ 長男なので、長野へ帰らないといけない。しかし、嫁さんが沼田なので、長野へは行くなと言う。
- ・ いくつまで健康で自由に自分らしく生活できるのか。
- ・ 障害がある事
- ・ 健康寿命で人生を全うしたい。長生きするのが不安。
- ・ 人の世話にならずに生きていきたい。介護が必要となるような生活は嫌だ。
- ・ 田畑や山林の維持・管理
- ・ 施設というより、働く人が少なくなる。忙しい中でどれだけ対応していただけるか不安である。
- ・ 今までと同じ生活はできない。
- ・ 特に考えてない。なるようにしかならない。
- ・ 老後に備えているか、どんな形になるか、お金が足りるか不安
- ・ 施設に入っても他人と仲良くすることができるかということ
- ・ 車の運転が難しくなった場合、買い物や通院が困難になること
- ・ 年金がもらえるか
- ・ 60 歳以上や 70 歳以上で、働かないと食っていけないのはおかしい。年金やその他の制度を充実させてほしい。物価高による家計の圧迫も響いている。
- ・ 社会から活力が失われてゆく事
- ・ 老後、子どもに迷惑をかけたくない。
- ・ 健康であれば良いが、病気になった場合不安

- ・危機意識がないこの国
- ・老後に必要なお金が足りるのかどうか不安に思う。
- ・土地（田・畑）・家の管理ができなくなる。
- ・店や病院がない。
- ・お金がなくて相談もしていたのに孤独死した市民がいる。自分も、何もしてもらえなくて、そうなるのではと心配です。安心して老後を過ごせるサービスをつくってほしいです。
- ・利根沼田の人口の割に老人ホームはあると思う。趣味もあり、できるだけ自宅で暮らしたいと考える。
- ・日々の生活の様子を気にかけてくれる若い人が近くに少ないこと
- ・徒歩で行ける距離にスーパーや病院等がないこと
- ・子どもにあまり負担をかけたくない。
- ・ICT 化が進みすぎてついていけない。機械の使い方がわからない（ATM できえ）。医療費が高い。病院の待ち時間が長く、連れて行ってくれる人がいない。買い物に不安
- ・介護施設での人員が少なく、十分な介護が受けられるか心配
- ・痴呆など病気が不安です。
- ・車の運転ができなくなったときの行動制限のようなもの
- ・降雪地域にも関わらず、市が除雪に力を入れてないので、冬の運転が心配だし、運転できなくなった場合の交通手段が心配。デマンドバスは不便。働いていない生活保護者や障害者ばかり優遇されて、正直に働いて年金を納めている者が老後苦労するなんて変。
- ・免許返納後の移動手段が、市街地以外では確保困難と感じる。買い物一つをとっても困難な地域が散見される。
- ・沼田市が、生涯住み続けることに不安を感じない、魅力ある街に変わらないといけない。
- ・外国人が増えて良い面もありますが、犯罪や多種多様な文化が入り混じり、日本国の社会が脅かされているのが現状。これ以上悪化する未来しか考えられない。
- ・移動、交通手段。除雪
- ・介護施設で働く職員は大変だと思うが、自分がもし行くことになったら、家族を行かせるようになったとしたら、行きたいと思うような考え方の方や施設環境が整っていないような気がする。
- ・家族の肉体的、精神的、金銭的負担になりたくない。
- ・医療機関が少ない。徒歩圏内にスーパーマーケットが少ない。人口が減少している。
- ・公共交通網が密でない田舎で、車の運転が難しくなった後、どうやって暮らしていけるのか確信がない。
- ・選択肢全部に不安を感じるが、なるようにしかならない。
- ・扶養してくれる人がいなかったら不安にはなるが、今の段階で扶養してくれる人がいるかいないかは分からない。同じく、病気や介護が必要になった時のことは不安だけど、面倒を見てくれる人がいるかいないかはその時になってみないと分からない。
- ・移動手段が少ないこと
- ・生きながらえさせられること
- ・そもそもこの町で老後を過ごす事が怖い。周りに身寄りもなく、独りで沼田に住めるとは到底思えない。
- ・病気で苦しんで死にたくない。できれば早めに死にたい。
- ・交通機関が不便である。
- ・不安はない（5件）。
- ・何を不安に感じるべきなのか。
- ・特に感じない。

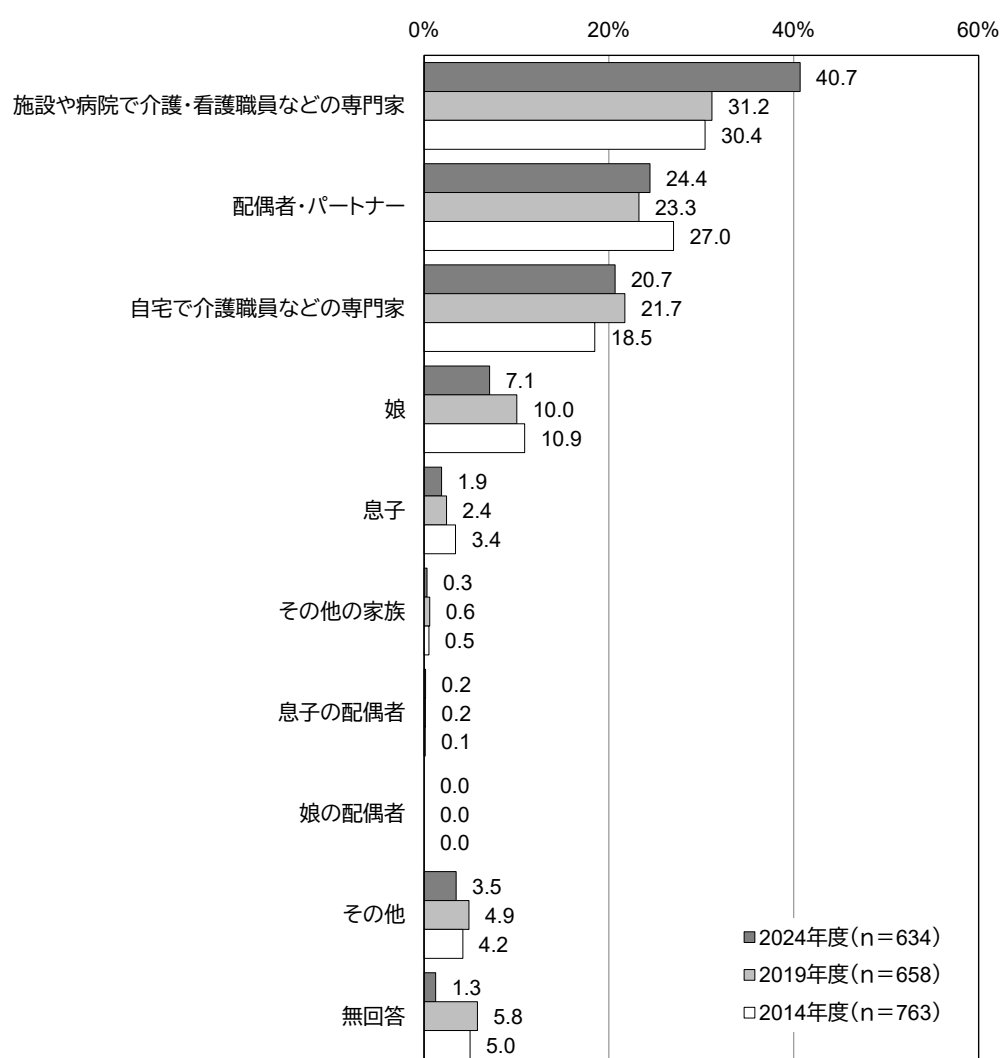
問9. あなたは、介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいと思いますか。
(1つだけに○)

◆「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」が4割以上、次いで「配偶者・パートナー」「自宅で介護職員などの専門家」の2項目が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」(40.7%)が4割以上で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(24.4%)、「自宅で介護職員などの専門家」(20.7%)の2項目が2割以上で同程度となっています。

過去2回の調査とは一部の選択肢が異なることを考慮する必要がありますが、おおむね同様の傾向となっています。



※問文の前に、「国民生活基礎調査（令和4年7月厚生労働省発表）では、介護者の約70%が女性という実態が示されています。」と表示

※過去2回の調査では「施設や病院での介護・看護職員などの専門家」は「施設や病院での介護」、「配偶者・パートナー」は「配偶者（夫）」と「配偶者（妻）」の別に設定していたものを合計して表示、「自宅で介護職員などの専門家」は「介護職員などの専門家」として設定していたものを参考表示

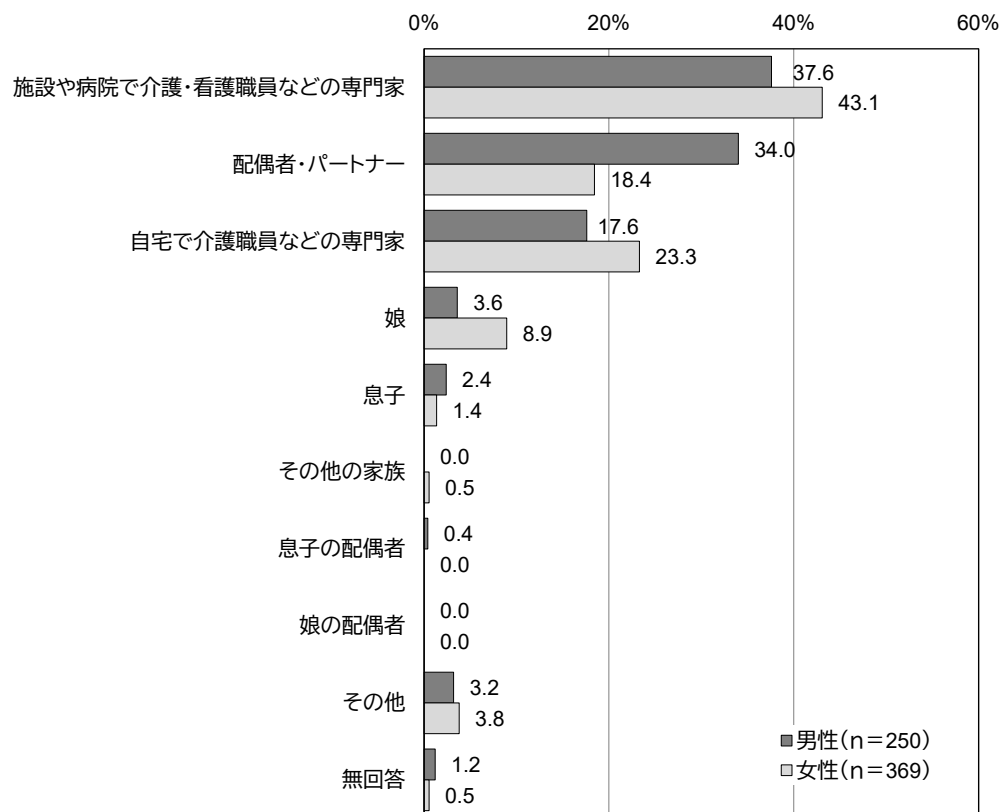
〈属性別〉

◆男女とも「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」が最も高く、次いで男性は「配偶者・パートナー」、女性は「自宅で介護職員などの専門家」が高い

◆男女差は「配偶者・パートナー」で最も大きく、男性が女性より高い

性別でみると、男女とも「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」（男性 37.6%、女性 43.1%）が最も高く、次いで男性は「配偶者・パートナー」（34.0%）、女性は「自宅で介護職員などの専門家」（23.3%）が高くなっています。

男女差は「配偶者・パートナー」で最も大きく、男性（34.0%）が女性（18.4%）より約 16 ポイント高くなっています。



◆いずれの年代も「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」が最も高く、次いで高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」「配偶者・パートナー」で大きい

年代別でみると、いずれの年代も「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」が最も高く、次いで 18～29 歳、50 歳代は「自宅で介護職員などの専門家」（18～29 歳 26.8%、50 歳代 20.1%）、他の年代は「配偶者・パートナー」が高くなっています。

年代差は「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」「配偶者・パートナー」で大きく、「施設や病院で介護・看護職員などの専門家」では最も高い 30 歳代（50.0%）と最も低い 60 歳代（33.5%）、「配偶者・パートナー」では最も高い 60 歳代（31.7%）と最も低い 18～29 歳（16.1%）でそれぞれ約 16 ポイントの差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
施設や病院で介護・看護職員などの専門家	39.3	50.0	42.2	47.3	33.5
配偶者・パートナー	16.1	28.8	22.9	16.6	31.7
自宅で介護職員などの専門家	26.8	13.6	21.1	20.1	22.0
娘	7.1	3.0	5.5	7.7	8.4
息子	1.8	0.0	2.8	3.0	0.9
その他の家族	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0
息子の配偶者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
娘の配偶者	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.1	4.5	4.6	3.6	1.8
無回答	1.8	0.0	0.9	0.6	1.3

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他の家族」の内容〉

・孫

〈「その他」の内容〉

- ・夫が高齢で病気なのでわかりません。
- ・子ども達には迷惑をかけたくないが、金銭的に余欲がないので、どうしたらいいのか不安なだけ。
- ・考えた事が無い。
- ・介護されたくない（2 件）
- ・ぼっくりいきたい
- ・いない
- ・1 つだけを選べない
- ・介護は望まない。
- ・専門家でも日本人がいい。
- ・高齢になり、介護されるようになったら、安楽死も選択できる社会であってほしい。

- ・介護が必要になる前に亡くなりたい。介護をしてもらいたい人はいない。
- ・介護になる前に地獄へ落ちると、嫁さんに言われています。早く死にたい。嫁さん怖すぎ。
- ・痴呆になってまで生きたくないので、安楽死を認めてほしい。
- ・介護が必要になる前に死を選択したい。
- ・わからない（2 件）
- ・その時の状況による。
- ・介護度、その時の経済状況や社会制度による。
- ・誰にもされたくありません。

4 社会活動・地域活動について（問 10～問 12）

問 10. あなたは、現在、家庭の外で何か活動に参加していますか。また、今後してみたいと思いますか。（1つだけに○）

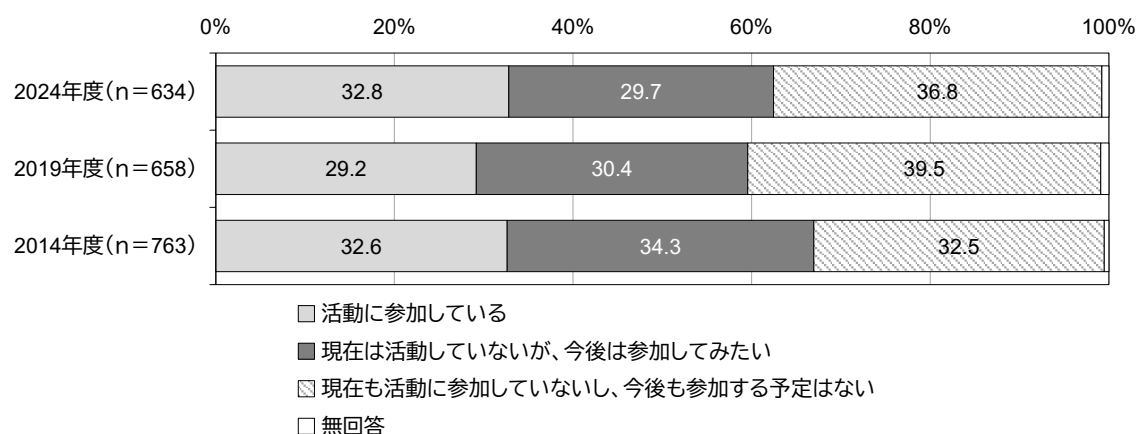
◆「現在参加していないし、今後も予定はない」が約4割、次いで「活動に参加している」「現在活動していないが、今後は参加してみたい」の2項目が約3割

◆合計値『参加している・してみたい』は6割以上で、過去2回の調査と同程度

「現在も活動に参加していないし、今後も参加する予定はない」（36.8%）が約4割、「活動に参加している」（32.8%）、「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」（29.7%）の2項目が約3割で同程度となっています。

「活動に参加している」「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」の合計値『参加している・してみたい』（62.5%）は6割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



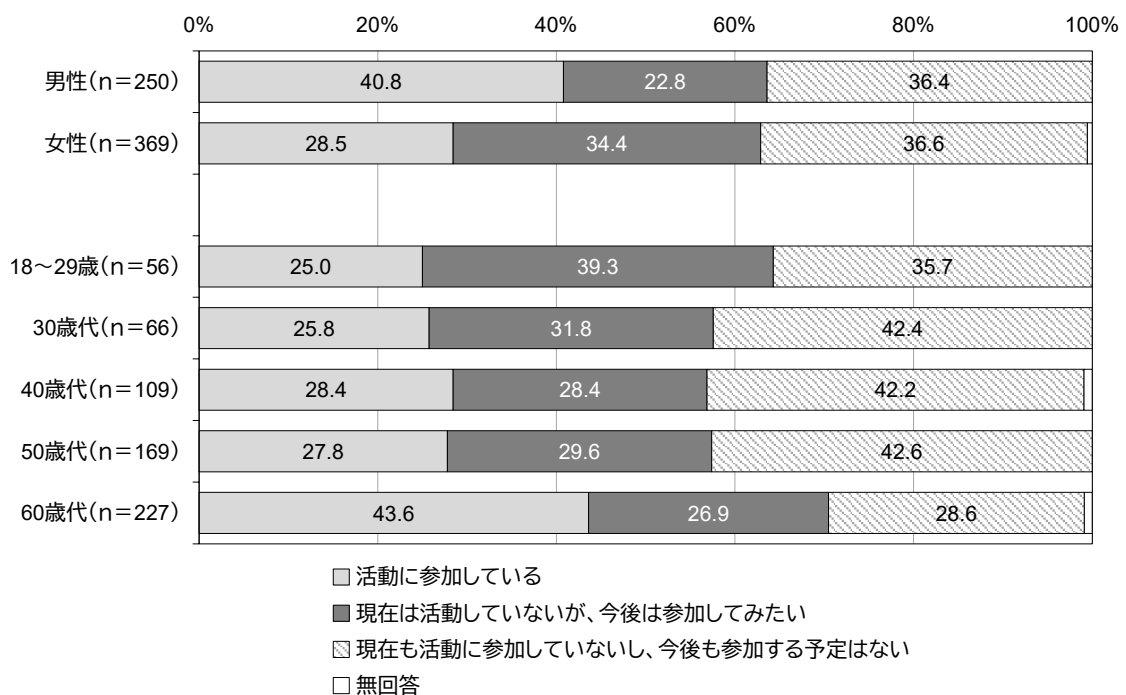
〈属性別〉

◆性別では、男性は「活動に参加している」、女性は「現在参加していないし、今後
も予定はない」が最も高い

◆年代別では、18～29 歳は「現在活動していないが、今後は参加してみたい」、30～
50 歳代は「現在参加していないし、今後も予定はない」、60 歳代は「活動に参加し
ている」が最も高い

性別でみると、男性は「活動に参加している」(40.8%)、女性は「現在も活動に参加してい
ないし、今後参加する予定はない」(36.6%) が最も高くなっていますが、合計値『参加し
ている・してみたい』(男性 63.6%、女性 62.9%) は同程度となっています。

年代別でみると、18～29 歳、は「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」(39.3%)、
30 歳代、40 歳代、50 歳代は「現在も活動に参加していないし、今後参加する予定はない」
(それぞれ 42.4%、42.2%、42.6%)、60 歳代は「活動に参加している」(43.6%) がそれぞ
れ最も高くなっています。また、合計値『参加している・してみたい』は、60 歳代 (70.5%)
が7割以上で最も高く、他の年代はいずれも約6割となっています。



※問文の末尾に、「例えば、スポーツ・サークル活動、ボランティア活動、地域の活動など。」と表示

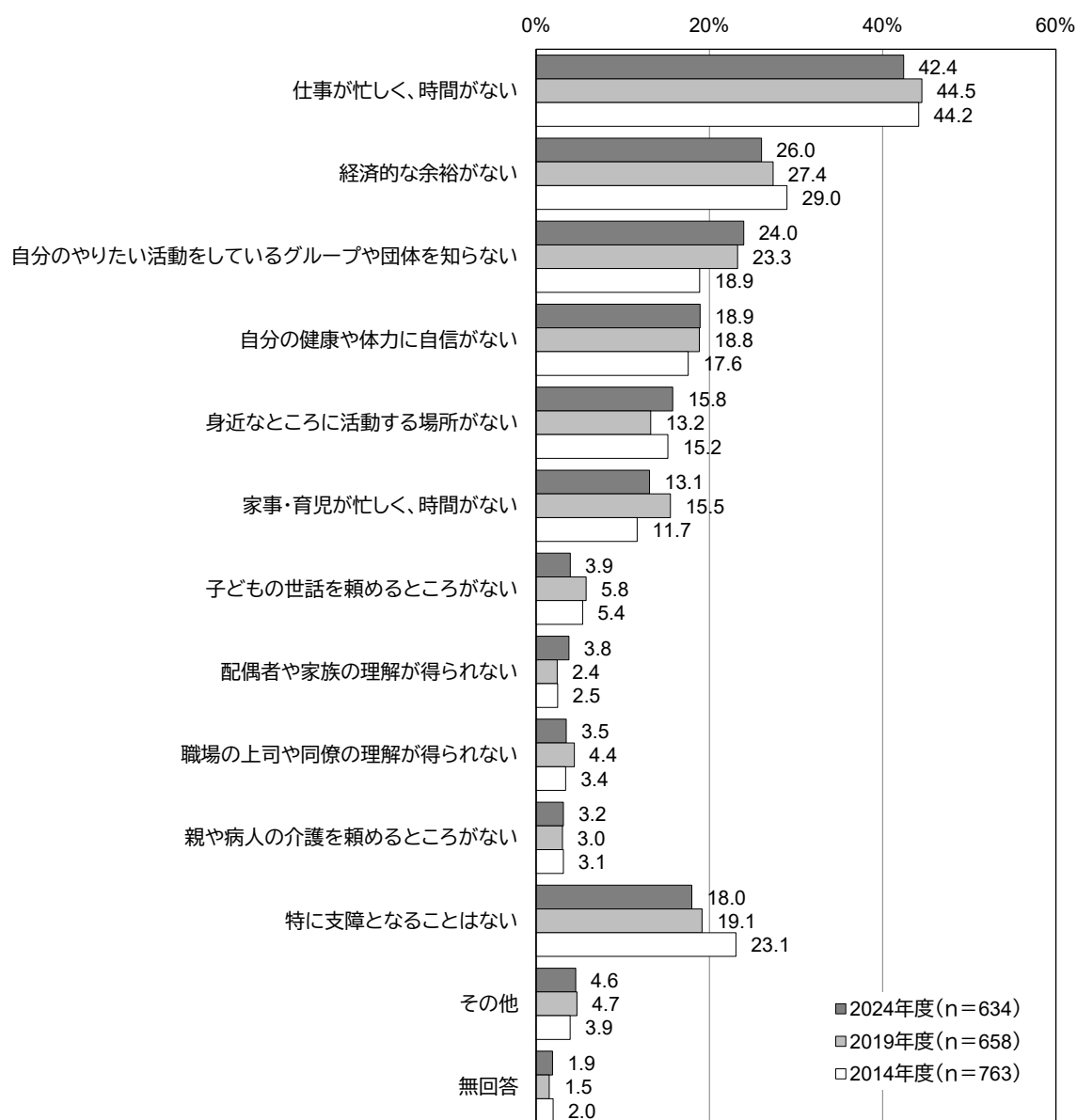
問 11. あなたが社会活動や地域活動に参加しようとする際に支障になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

◆「仕事が忙しく、時間がない」が4割以上で最も高く、次いで「経済的な余裕がない」「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の2項目が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「仕事が忙しく、時間がない」(42.4%)が4割以上で最も高く、次いで「経済的な余裕がない」(26.0%)、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(24.0%)の2項目が2割以上で同程度となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「特に支障となることはない」は若干低くなり、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」は若干高くなる傾向がみられます。

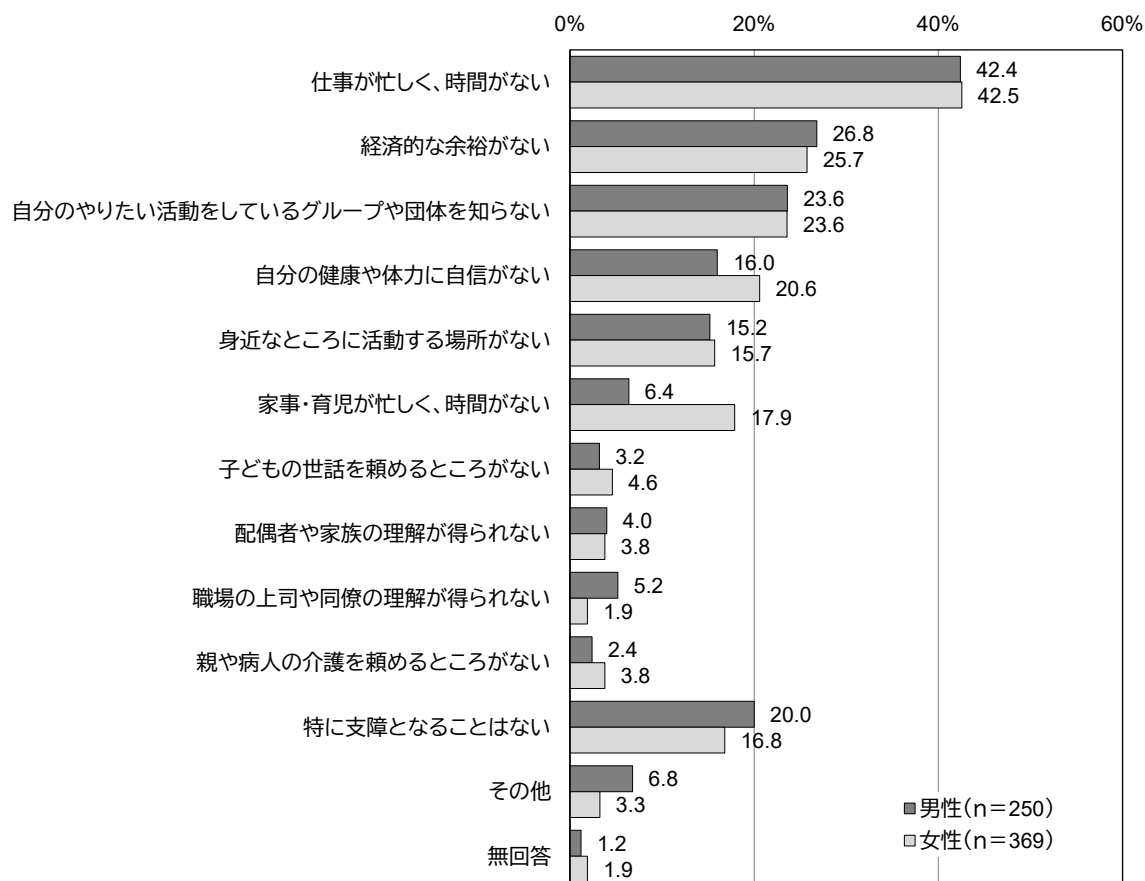


〈属性別〉

◆ほとんどの項目で性別による大きな差はみられないが、「家事・育児が忙しく、時間がない」は、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「仕事が忙しく、時間がない」（男性 42.4%、女性 42.5%）が最も高く、ほとんどの項目で性別による大きな差はみられません。

男女差は「家事・育児が忙しく、時間がない」で最も大きく、女性（17.9%）が男性（6.4%）より 11 ポイント以上高くなっています。



◆50 歳代以下は「仕事が忙しく、時間がない」、60 歳代は「特に支障となることはない」が最も高い

◆年代差は「仕事が忙しく、時間がない」「家事・育児が忙しく、時間がない」で大きい

年代別でみると、60 歳代を除き「仕事が忙しく、時間がない」、60 歳代は「特に支障となることはない」（26.9%）が最も高くなっています。

年代差は「仕事が忙しく、時間がない」で最も大きく、最も高い 18～29 歳（58.9%）と最も低い 60 歳代（22.5%）では 36 ポイント以上の差がみられます。また、「家事・育児が忙しく、時間がない」も年代差が大きく、最も高い 30 歳代（31.8%）と最も低い 60 歳代（3.5%）では 28 ポイント以上の差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
仕事が忙しく、時間がない	58.9	53.0	57.8	50.3	22.5
経済的な余裕がない	37.5	37.9	26.6	24.9	20.3
自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	41.1	34.8	18.3	21.3	20.7
自分の健康や体力に自信がない	17.9	18.2	12.8	17.8	22.9
身近なところに活動する場所がない	26.8	19.7	13.8	12.4	15.0
家事・育児が忙しく、時間がない	7.1	31.8	29.4	10.1	3.5
子どもの世話を頼めるところがない	0.0	15.2	10.1	1.8	0.4
配偶者や家族の理解が得られない	1.8	4.5	3.7	4.1	4.0
職場の上司や同僚の理解が得られない	1.8	6.1	2.8	4.7	1.8
親や病人の介護を頼めるところがない	5.4	0.0	1.8	5.3	2.6
特に支障となることはない	14.3	6.1	13.8	15.4	26.9
その他	0.0	4.5	3.7	5.3	5.7
無回答	0.0	0.0	1.8	0.6	3.1

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・自分でやってみたい活動が特に無い。
- ・両ひざに人工関節が入っているから
- ・障害者の介護で活動ができない。
- ・関心がない。参加したいと思うものがない。
- ・地域活動に参加したいとは思わない。
- ・親の介護のため、時間がとれない。
- ・タイミングと時間があえばやってみたい。
- ・集団の中で他人とうまくやっていくことが難しい。
- ・自分の休日は自分の家庭のために使いたい。
- ・まったく参加する意志がない。
- ・人とかわかりたくないから。
- ・動機がない、つまらない。
- ・人間関係が苦手なため
- ・自分の気持ち
- ・何がしたいかわからない。
- ・地域活動は参加したくない。
- ・私自身高度脳機能障害（障害者）
- ・できる時にできるだけ地域活動に参加している。
- ・団体で活動することを好まないから
- ・活動に参加しているが、家族にその分余分な負担がかかっている。
- ・活動を強制されたくない。
- ・同世代の参加者が少なく、何となく遠慮してしまう。
- ・対人関係に自信が無い。
- ・参加する気がないから
- ・受け入れ側に受け入れる気がない。
- ・会社勤めをしていますが、市の会議は平日の昼間のため、休みをとらなくてはならなく、ちょくちょくいけない。
- ・知る機会が無い。
- ・何もしたくない。平穩に暮らせればそれで良い。

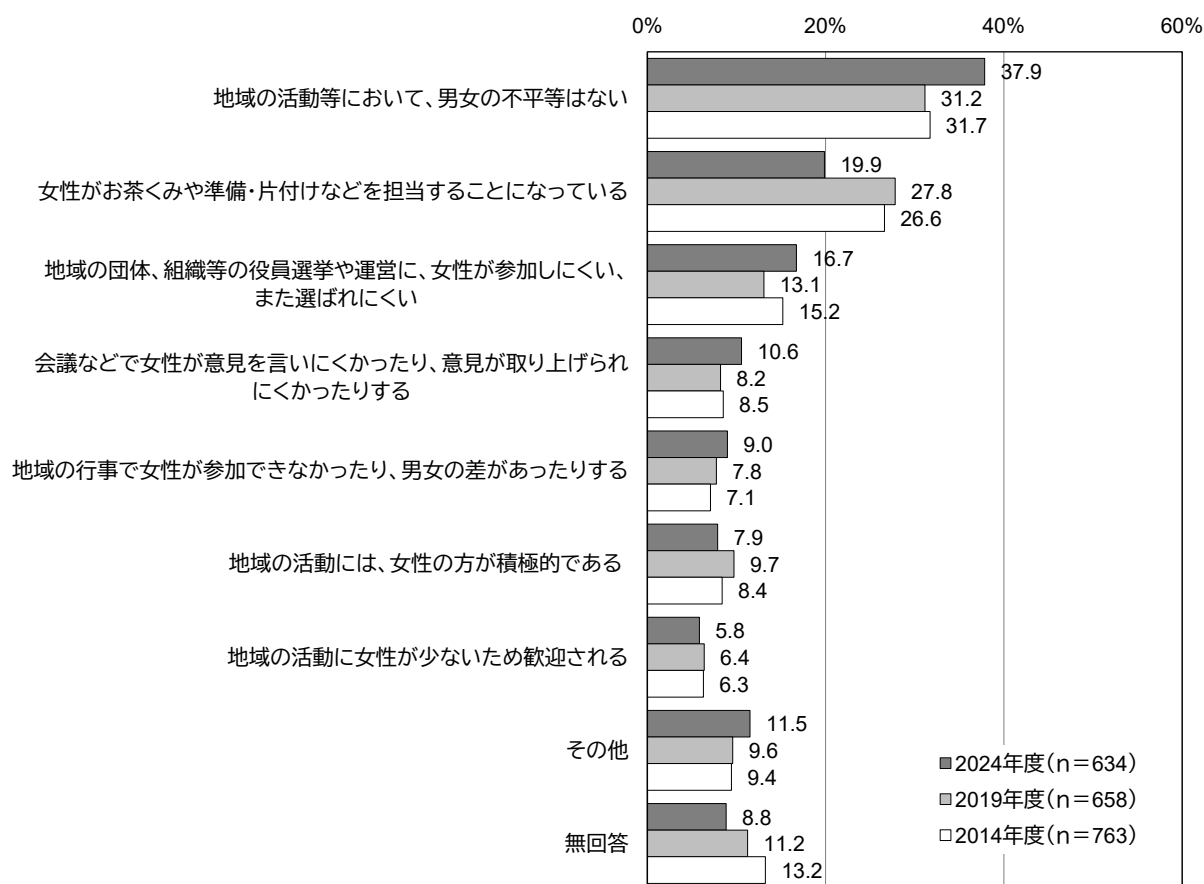
問 12. あなたが住んでいる地域において、次のようなことがありますか。
(○はいくつでも)

◆「地域の活動等において、男女の不平等はない」が約4割で最も高く、次いで「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」が約2割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「地域の活動等において、男女の不平等はない」(37.9%)が約4割で最も高く、次いで「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」(19.9%)、「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」(16.7%)の2項目が約2割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「地域の活動等において、男女の不平等はない」は若干高く、「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」は若干低くなっています。



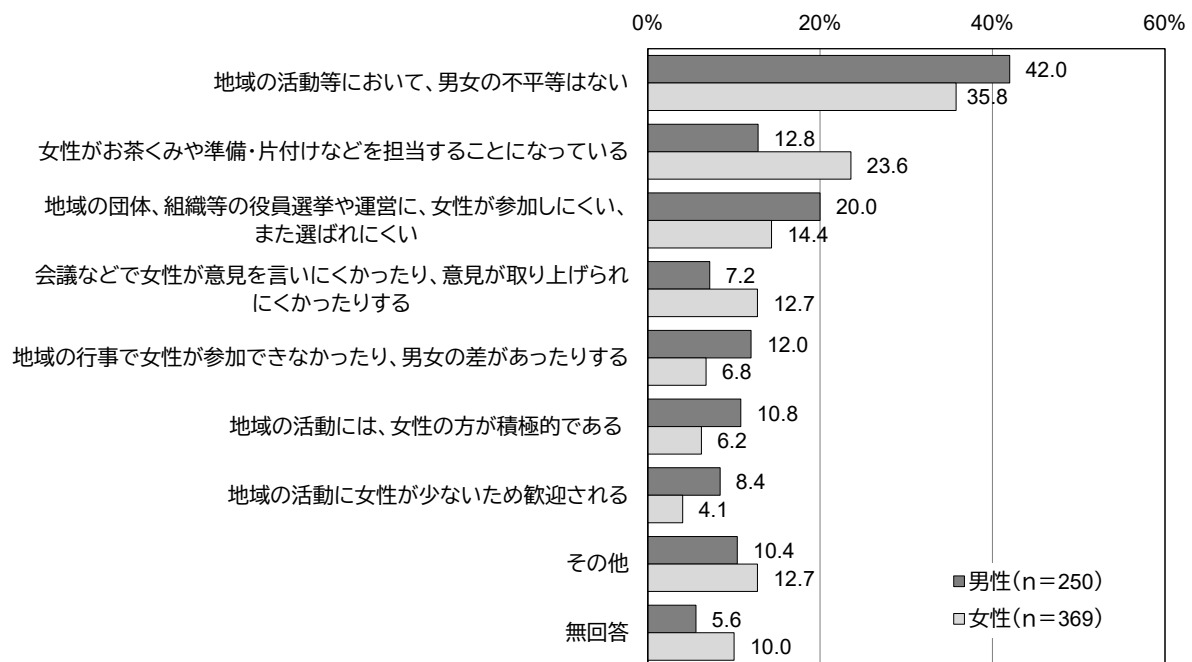
〈属性別〉

◆男女とも「地域の活動等において、男女の不平等はない」が最も高く、次いで男性は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」、女性は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」が高い

◆男女差は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」で最も大きく、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「地域の活動等において、男女の不平等はない」（男性 42.0%、女性 35.8%）が最も高く、次いで男性は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」（20.0%）、女性は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」（23.6%）が高くなっています。

男女差は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」で最も大きく、女性（23.6%）が男性（12.8%）より約 11 ポイント高くなっています。



◆いずれの年代も「地域の活動等において、男女の不平等はない」が最も高く、次いで 50 歳代以下は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」、60 歳代は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」が高い

◆年代差は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「地域の活動等において、男女の不平等はない」が最も高く、次いで 50 歳代以下は「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」、60 歳代は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」(23.8%) が高くなっています。

年代差は「地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい」で最も大きく、最も高い 60 歳代 (23.8%) と最も低い 30 歳代 (7.6%) では 16 ポイント以上の差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
地域の活動等において、男女の不平等はない	35.7	34.8	43.1	39.6	36.1
女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている	23.2	27.3	22.9	21.3	13.7
地域の団体、組織等の役員選挙や運営に、女性が参加しにくい、また選ばれにくい	10.7	7.6	11.0	16.0	23.8
会議などで女性が意見を言いにくかったり、意見が取り上げられにくかったりする	7.1	7.6	10.1	13.6	9.7
地域の行事で女性が参加できなかつたり、男女の差があつたりする	5.4	4.5	7.3	8.3	11.9
地域の活動には、女性の方が積極的である	10.7	10.6	4.6	7.7	8.4
地域の活動に女性が少ないため歓迎される	3.6	4.5	1.8	7.7	7.5
その他	10.7	12.1	13.8	11.2	11.0
無回答	12.5	7.6	7.3	5.9	10.1

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・性別を問わないと言いながら女性は断られる。
- ・選択肢にあるような事は聞いた事はない。
- ・回覧板が回ってこない。
- ・地域の活動のことは良く知りません。
- ・女性が下だというより、男性が下に見られる場面も増えてきた。
- ・女性を特別扱いする傾向がある。
- ・男女は平等で行っていると思う。
- ・区長などは女性に依頼しても「女性だから」という理由で断られることがほとんどである。それ以外の役員は積極的に引き受けてくれる。
- ・高齢のひとり住まいで身体的につらいのではないかな。
- ・適材適所であれば効率がよいと思う。
- ・年齢が若くなるほど地域との関わりを多く求めている。
- ・地域の活動には参加したくない。
- ・何で旦那が来ないのか、といわれる。
- ・地区の活動は男女平等です。
- ・子どもの割合が比較的多い地域ではあるが、会議等に出席するのは高齢の方が多く、若い人達が地域の活動にもっと参加して子ども達のための活動を活発にできないのかと思っている。
- ・そもそも男性の担当としていて女性が参加したがない。

- ・女性が出席したがない。
- ・女性蔑視がはげしい。
- ・活動や組織などの見直しや新規ごとなど取り上げられにくい。
- ・子ども会・育成会・PTA などは女性まかせの感があります。
- ・これといった、地域の活動にまだ参加した事が無い。
- ・「女性初の〇〇」といまだに聞くこと
- ・昔と異なり、地域行事に女性の参加が極端に減っている。育成会活動もほとんど男性となっている。

- ・特にそういう場に参加する事がない
- ・男女の役割や立場は暗黙の習わしがある。今までと同じが良いとされている。
- ・地域の活動に参加できていないので、実態を把握していない。
- ・不平等があると叫んでいる人間がいることが不平等を生む。
- ・団体について知りません。
- ・わからない・知らない（36 件）

5 就労について（問 13～問 20）

問 13. あなたは、進路や職業を選択する際に、ご自分の性別を意識しましたか。
（1 つだけに○）

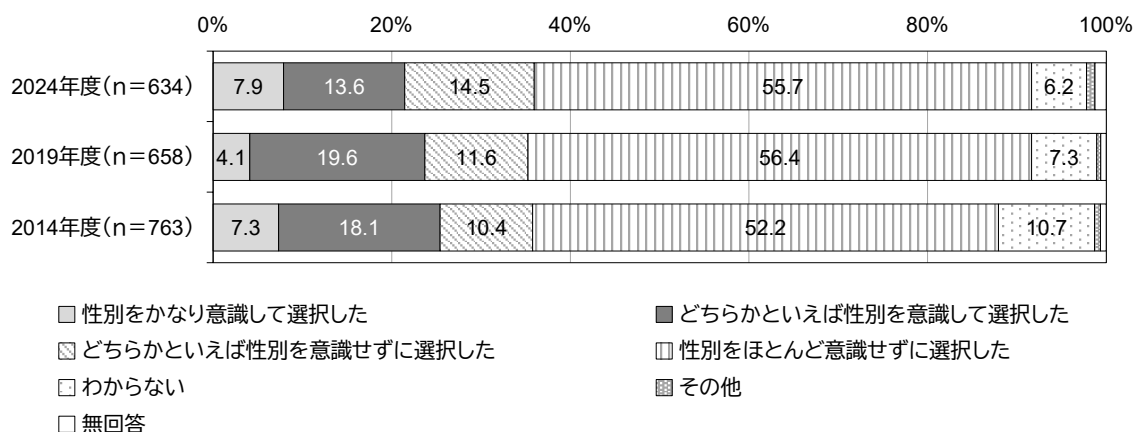
◆「ほとんど意識せずに選択」が5割以上、次いで「どちらかといえば意識せずに選択」「どちらかといえば意識して選択」が1割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「性別をほとんど意識せずに選択した」（55.7%）が5割以上で最も高く、次いで「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」（14.5%）、「どちらかといえば性別を意識して選択した」（13.6%）の2項目が1割以上で同程度となっています。

「性別をかなり意識して選択した」「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計値『意識して選択した』（21.5%）は2割以上、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」「性別をほとんど意識せずに選択した」の合計値『意識せずに選択した』（70.2%）は7割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、合計値『意識せずに選択した』は前回（68.0%）や前々回（62.6%）より若干高くなる傾向がみられます。



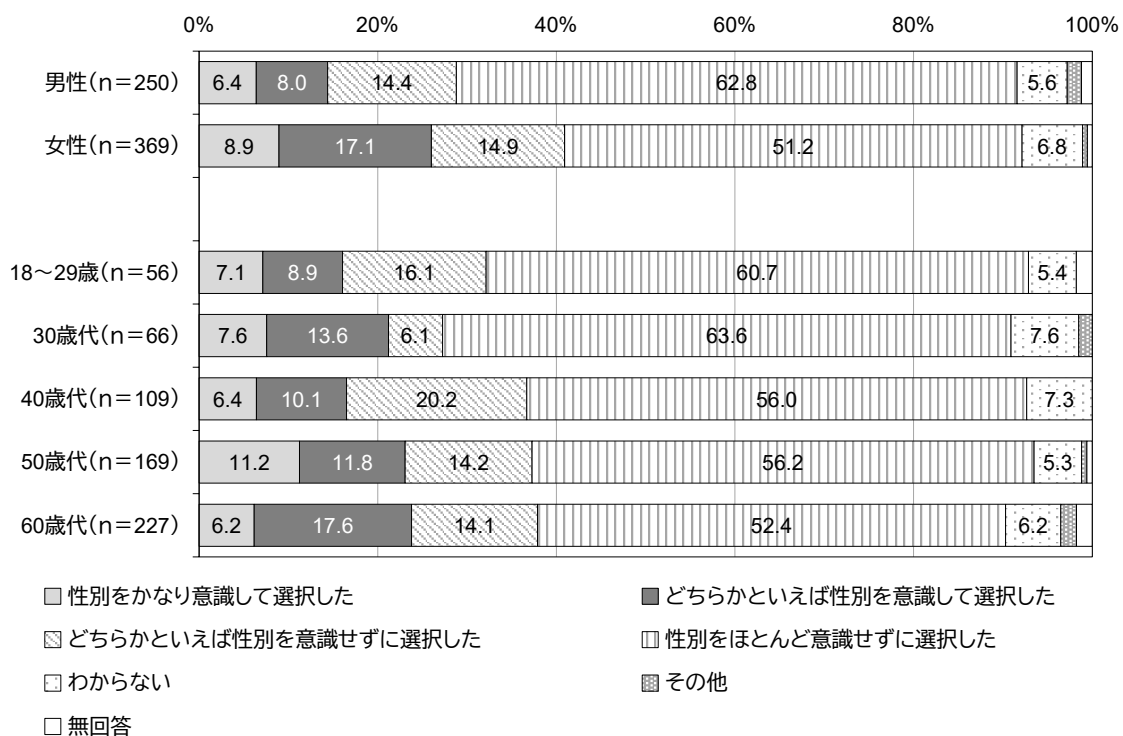
〈属性別〉

◆性別では、「ほとんど意識せずに選択」は男性が女性より高い

◆年代別では、合計値『意識して選択』はおおむね高い年代ほど高い

性別でみると、男女とも「性別をほとんど意識せずに選択した」(男性 62.8%、女性 51.2%) が最も高く、男性が女性より約 12 ポイント高くなっています。また、女性は「どちらかといえば性別を意識して選択した」(17.1%) が約 2 割で比較的高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「性別をほとんど意識せずに選択した」が最も高くなっています。また、40 歳代は「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」(20.2%)、60 歳代は「どちらかといえば性別を意識して選択した」(17.6%) が約 2 割で比較的高く、合計値『意識して選択した』は 40 歳代 (16.5%) を除き高い年代ほど高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・自分のやりたい職業にしばって選択した。
- ・長男で農業
- ・性別を全く意識せずに選択した。
- ・まったく意識していない。
- ・女に学問は必要ないと親に言われた。勉強は得意だったのだが。

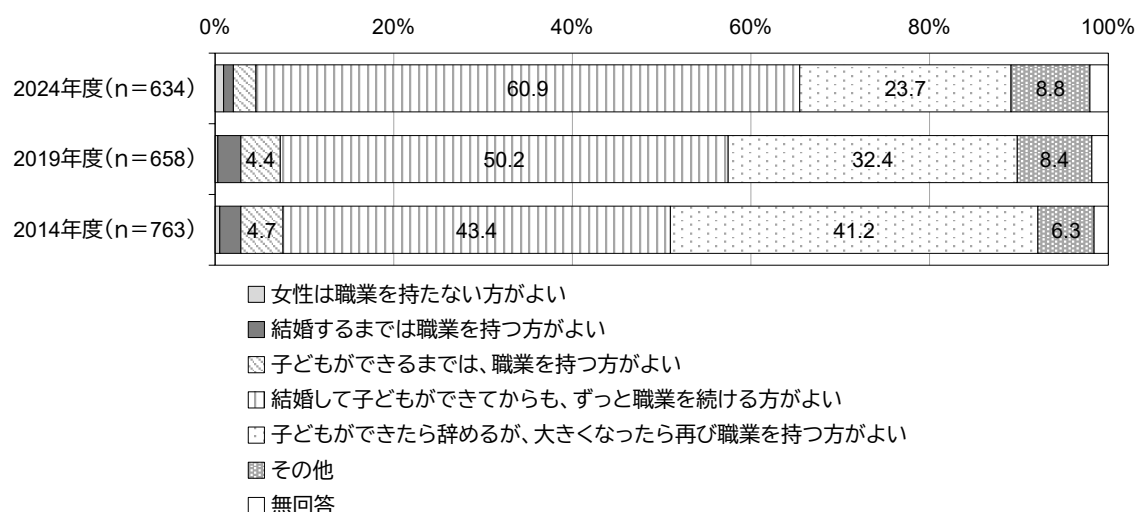
問 14. あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。
(1つだけに○)

◆「ずっと職業を続ける方がよい」が6割以上で最も高く、次いで「子どもができたら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が2割以上

◆「ずっと職業を続ける方がよい」が高くなり、「子どもができたら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が低くなる傾向

「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」(60.9%)が6割以上で最も高く、次いで「子どもができたら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(23.7%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」は高くなり、「子どもができたら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」は低くなる傾向がみられます。



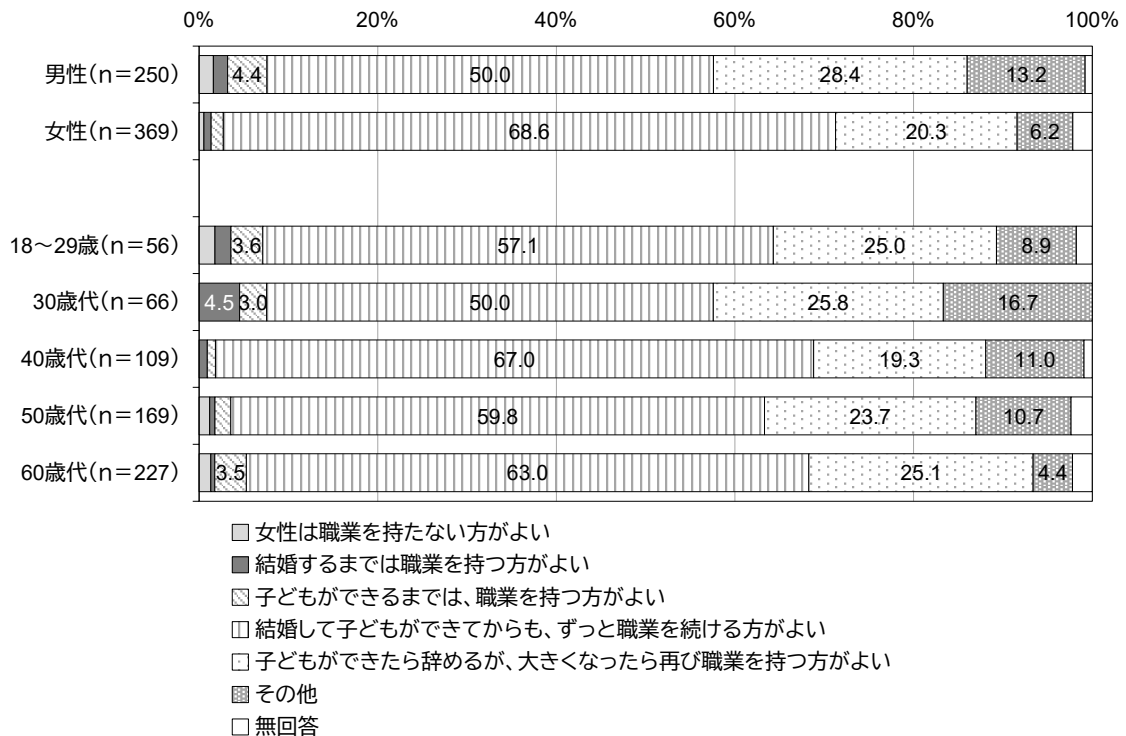
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「ずっと職業を続ける方がよい」は、女性が男性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「ずっと職業を続ける方がよい」が最も高い

性別でみると、男女とも「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」（男性 50.0%、女性 68.6%）が最も高く、女性が男性より約 19 ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高く、40 歳代（67.0%）は約 7 割で比較的高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・どちらでもよい
- ・人それぞれ（3 件）
- ・価値は人それぞれで良いと思う。
- ・パワハラばかりで、すぐに退職するので無理しなくていい。
- ・自分の好きにすれば良い。他人が決める事ではない。
- ・結婚や子育てに関係なく職業を持つべきですが、選択肢がないことが問題
- ・男女関係ない
- ・その人のやりたいようにやり、周りが支えればよい。
- ・個人の自由（4 件）
- ・状況に応じて個人の自由だと思う。
- ・本人の自由
- ・やりたいようにやればよい
- ・好きにすればよい（3 件）
- ・本人の意思に任せればよい。
- ・仕事は大事だが、状況によってで良いと思う。
- ・どれも当てはまらない
- ・いつであろうと、やりたければやればよい。
- ・家庭の生活環境により対応すべきと考える
- ・結婚、子どもを区切りにすべきでない。職業を続けるべき。
- ・やれる人がやりたい時にすればよい。
- ・戻りたい時に戻れると良いと思う。
- ・各家族で話し合えばよい。
- ・個人や家庭で相談して決めればよい。
- ・個人の自由であり、生活状況も違うので、どちらとも言えない。

- ・経済的に職業を持たないと生活難になるが、できれば子育て中は女性が家事をしてほしい。
- ・本人の希望次第、やりたい人がやればいいし、辞めたかったら辞める。
- ・職業を持ちたい人が、男女その他関係なく持つ方がよい。
- ・時代の流れ
- ・家庭に祖父母がいれば異なる。
- ・そのときの環境と本人の気持ちによると思う。
- ・経済的に困っていないなら好きにすればよい。
- ・やりたい事があるならやったらよいと思う。
- ・その時の状況に合わせて判断したら良いと思う。
- ・職業を持つことも、持たないことも、ご自身の環境によって、選べたら良い。
- ・短時間など家庭に無理ない範囲で働き続けるのが良いと思う。
- ・夫婦が話し合いの上で方向性を決めることが良いと思う。
- ・決めないで人それぞれ自由でいいと思う。
- ・その時々状況において、ずっと続けて行ける事が理想と思えます。

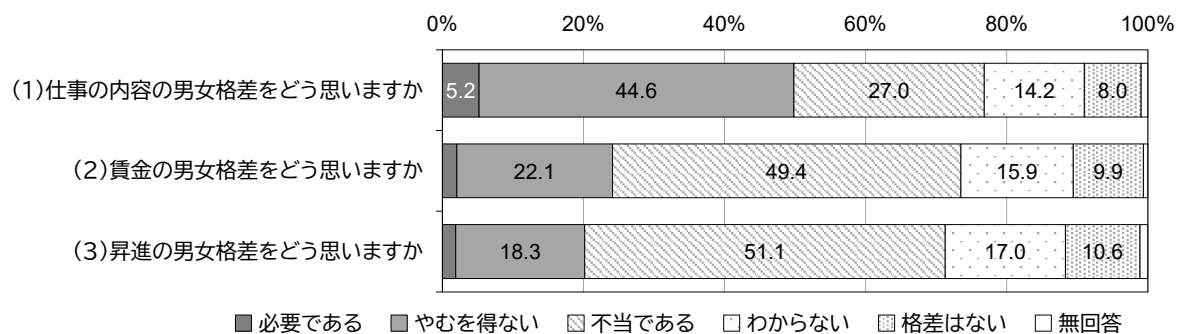
- ・個々の経済的な問題だと思う。
- ・能力と希望に応じて選択すればいい。
- ・無理の無い範囲で、経済的に厳しければ本人の意思で働けばいい。
- ・必要であれば仕事をすればいいと思う。男女平等であれば女性が仕事をする事は当たり前であってほしい。
- ・仕事は持つ方がいいと思うが、結婚したり子どもができたりしたら仕事を続けるかは、その人の考え次第だと思う。
- ・仕事をやりたい人もいれば、家庭を大切にしたい人もいると思うので、一般論で語ってはいけない項目だと思います。
- ・子どもがいる場合、生物学的女性は長時間労働の職場への復帰が難しく、会社側は人手不足に陥る場所が多く、退職か短時間労働への転換がやむを得ない場合が多い。
- ・自分で考えて選択すれば良い。
- ・別になんとも思わない。どうでも良い。
- ・結婚や育児に関わらず、自分の好きな仕事をしたらよい。

問 15. あなたは、仕事のうえでの以下のようなことについて、どう思いますか。
(それぞれ1つに○)

◆「仕事の内容の男女格差」は「やむを得ない」が4割以上で最も高い

◆「賃金の男女格差」「昇進の男女格差」は「不当である」が約5割で最も高い

「(1) 仕事の内容の男女格差をどう思いますか」は「やむを得ない」(44.6%) が4割以上、
「(2) 賃金の男女格差をどう思いますか」「(3) 昇進の男女格差をどう思いますか」はいずれも「不当である」(それぞれ49.4%、51.1%) が約5割で最も高くなっています。



2024年度(n=634)

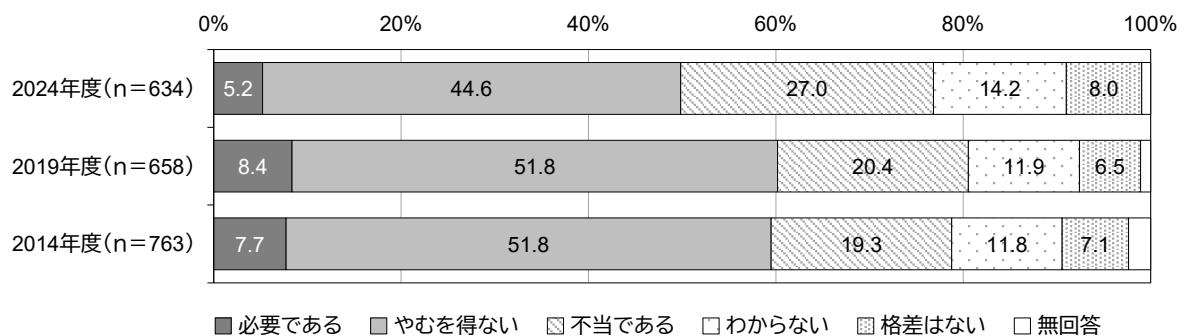
(1) 仕事の内容の男女格差をどう思いますか

◆「やむを得ない」が4割以上で最も高く、次いで「不当である」が約3割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「やむを得ない」(44.6%)が4割以上で最も高く、次いで「不当である」(27.0%)が約3割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「やむを得ない」は若干低く、「不当である」は若干高くなる傾向がみられます。



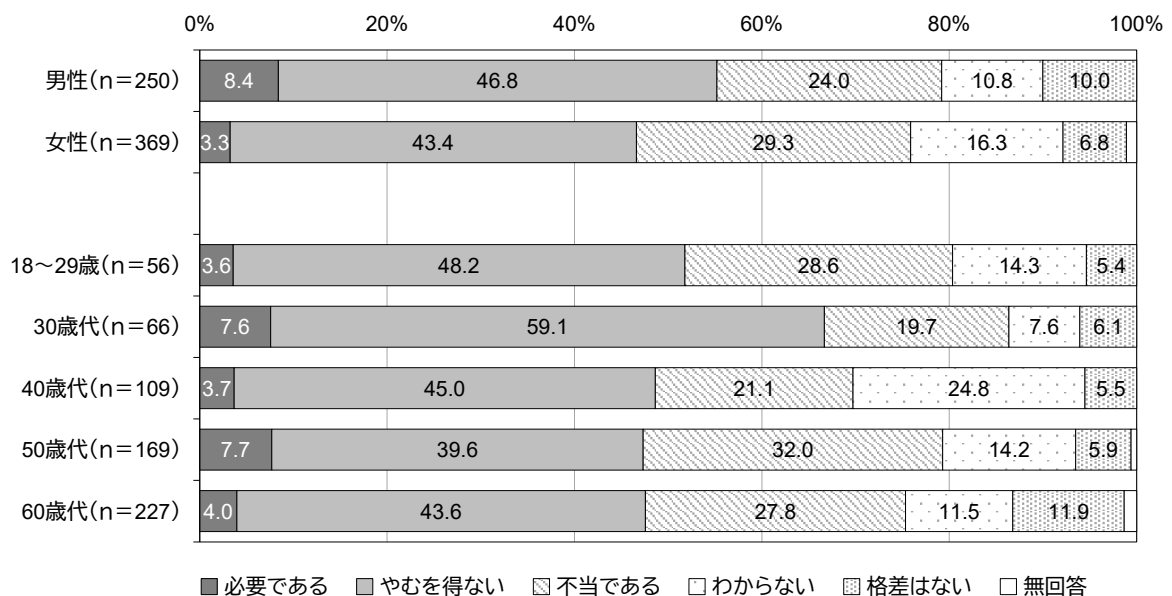
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、30歳代は「やむを得ない」が約6割で他の年代より高い

性別でみると、男女とも「やむを得ない」(男性 46.8%、女性 43.4%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「やむを得ない」が最も高く、その中でも30歳代(59.1%)は約6割で最も高くなっています。



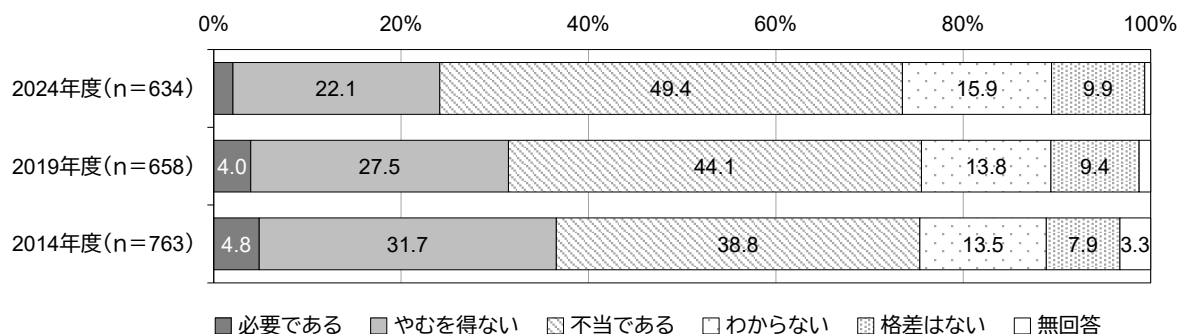
(2) 賃金の男女格差をどう思いますか

◆「不当である」が約5割で最も高く、次いで「やむを得ない」が2割以上

◆「不当である」が高くなり、「やむを得ない」が低くなる傾向

「不当である」(49.4%)が約5割で最も高く、次いで「やむを得ない」(22.1%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、「不当である」は高くなり、「やむを得ない」は低くなる傾向がみられます。



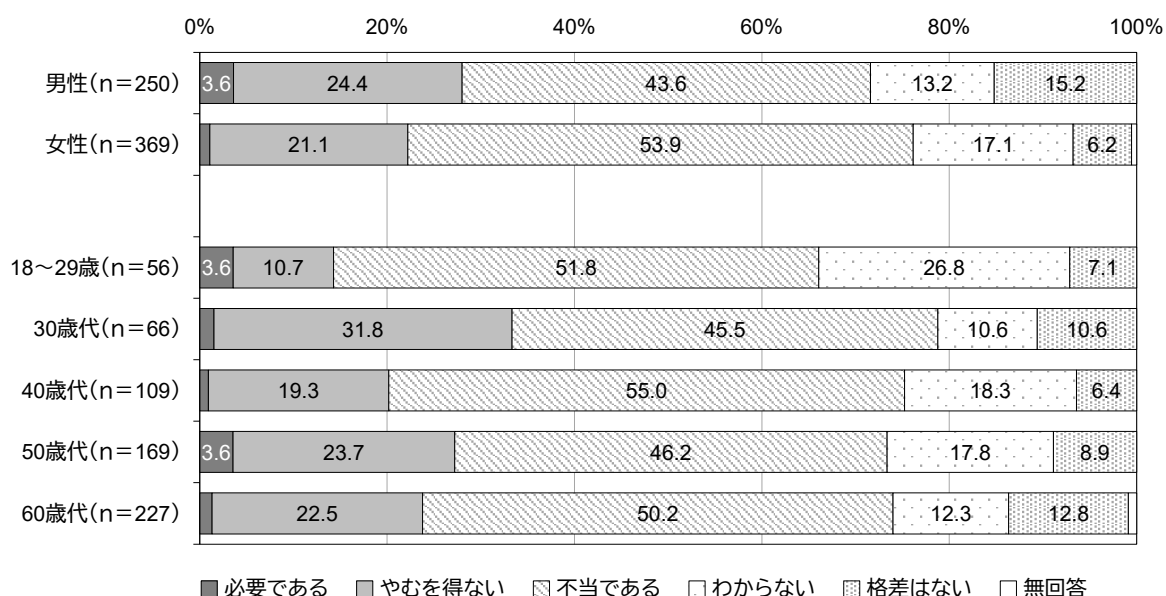
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「不当である」は、女性が男性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「不当である」が最も高い

性別でみると、男女とも「不当である」(男性 43.6%、女性 53.9%)が最も高く、女性が男性より10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「不当である」が最も高くなっています。また、18～29歳は「わからない」(26.8%)が約3割で比較的高くなっています。



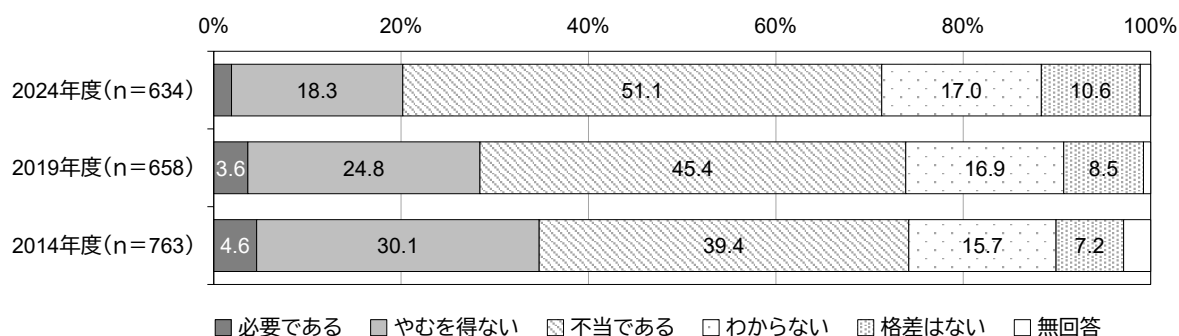
(3) 昇進の男女格差をどう思いますか

◆「不当である」が5割以上で最も高く、次いで「やむを得ない」「わからない」が約2割

◆「不当である」が高くなり、「やむを得ない」が低くなる傾向

「不当である」(51.1%)が5割以上で最も高く、次いで「やむを得ない」(18.3%)、「わからない」(17.0%)の2項目が約2割となっています。

過去2回の調査と比較すると、「不当である」は高くなり、「やむを得ない」は低くなる傾向がみられます。



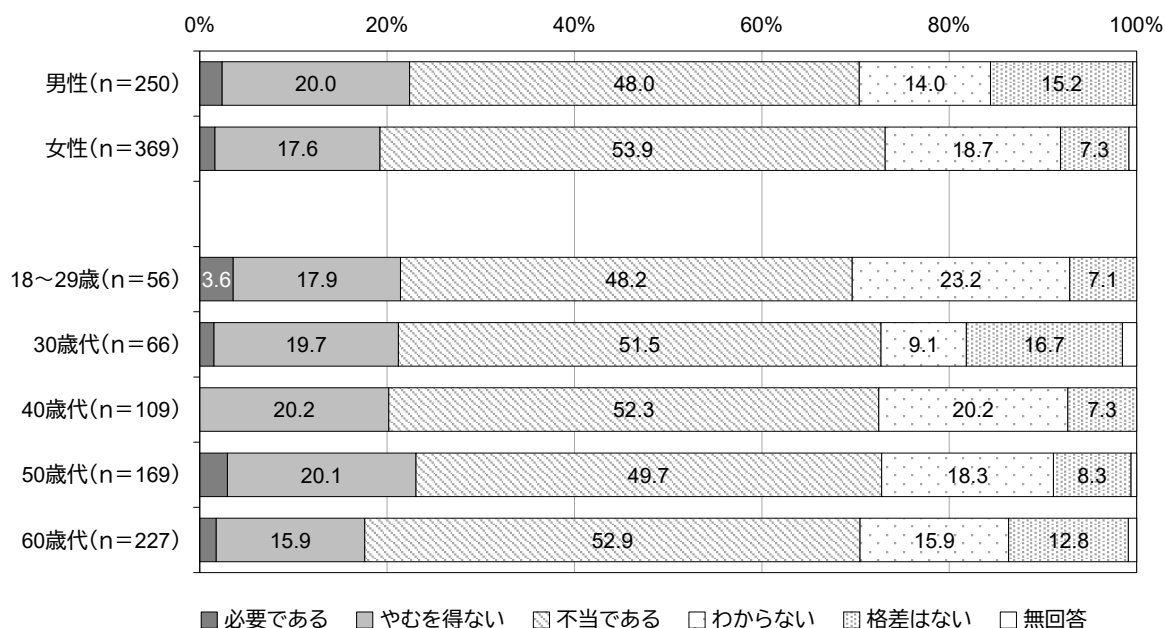
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「不当である」が最も高い

性別でみると、男女とも「不当である」(男性 48.0%、女性 53.9%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「不当である」が最も高くなっています。また、30歳代は「格差はない」(16.7%)が約2割で比較的高くなっています。



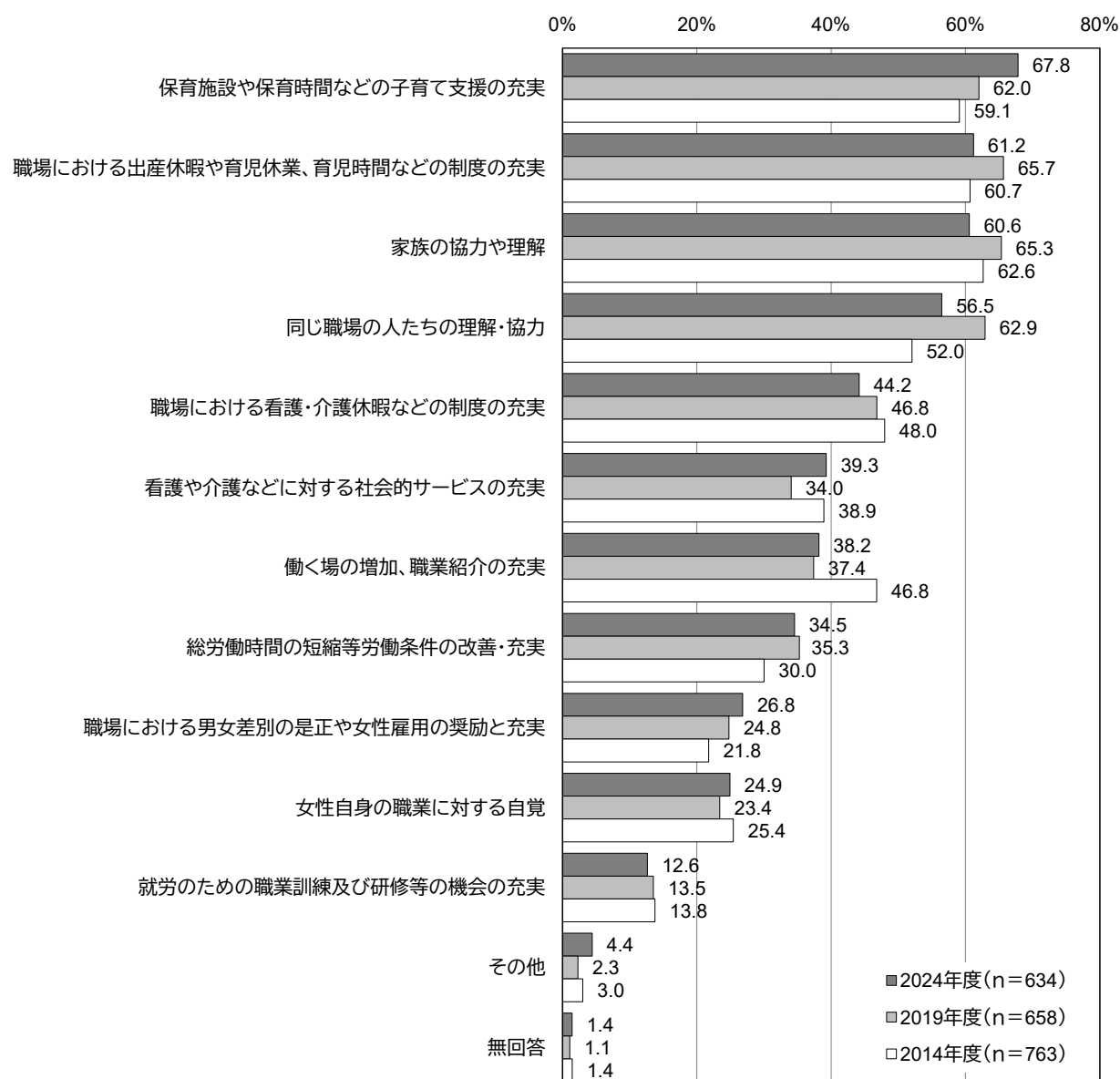
問 16. あなたは、女性が働き続けるため、特に必要なことは何だと思いますか。
(○はいくつでも)

◆「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」が約7割で最も高く、次いで「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」「家族の協力や理解」の2項目が6割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(67.8%) が約7割で最も高く、次いで「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」(61.2%)、「家族の協力や理解」(60.6%) の2項目が6割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」「職場における男女差別の是正や女性雇用の奨励と充実」は若干高くなる傾向がみられます。

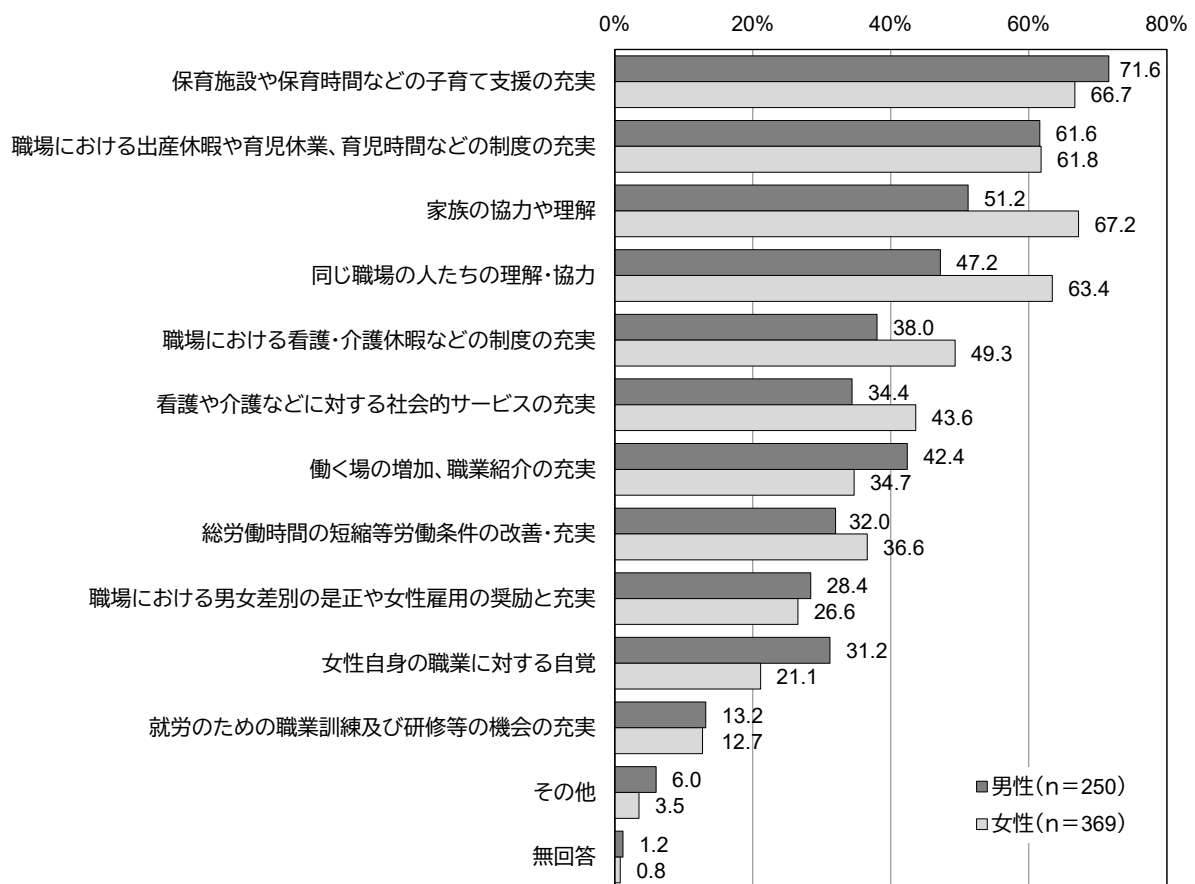


〈属性別〉

- ◆男性は「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」が最も高く、女性は「家族の協力や理解」「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」が同程度に高い
- ◆男女差は「家族の協力や理解」「同じ職場の人たちの理解・協力」で大きく、いずれも女性が男性より高い

性別でみると、男性は「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(71.6%)が7割以上で最も高くなっています。女性は「家族の協力や理解」(67.2%)、「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」(66.7%)の2項目が約7割で同程度に高くなっています。

男女差は「家族の協力や理解」(男性 51.2%、女性 67.2%)、「同じ職場の人たちの理解・協力」(男性 47.2%、女性 63.4%)で大きく、いずれも女性が男性より16ポイント以上高くなっています。



◆40 歳代は「家族の協力や理解」、他の年代は「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」が最も高い

◆年代差は「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」「家族の協力や理解」で大きい

年代別でみると、40 歳代を除き「保育施設や保育時間などの子育て支援の充実」が最も高くなっています。40 歳代は「家族の協力や理解」（72.5%）が最も高くなっています。

年代差は、「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」「家族の協力や理解」で大きく、「職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」は最も高い 30 歳代（71.2%）と最も低い 50 歳代（49.7%）で 21 ポイント以上、「家族の協力や理解」は最も高い 40 歳代（72.5%）と最も低い 18～29 歳（48.2%）で 24 ポイント以上の差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
保育施設や保育時間などの子育て支援の充実	67.9	81.8	67.0	64.5	67.4
職場における出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実	64.3	71.2	64.2	49.7	65.6
家族の協力や理解	48.2	54.5	72.5	56.2	63.0
同じ職場の人たちの理解・協力	51.8	66.7	56.0	56.2	55.5
職場における看護・介護休暇などの制度の充実	46.4	37.9	50.5	40.8	45.8
看護や介護などに対する社会的サービスの充実	35.7	34.8	40.4	43.8	38.3
働く場の増加、職業紹介の充実	32.1	43.9	38.5	33.7	40.5
総労働時間の短縮等労働条件の改善・充実	41.1	40.9	35.8	28.4	35.2
職場における男女差別の是正や女性雇用の奨励と充実	37.5	28.8	23.9	27.8	24.7
女性自身の職業に対する自覚	28.6	19.7	27.5	23.1	26.0
就労のための職業訓練及び研修等の機会の充実	12.5	13.6	11.0	10.7	15.0
その他	5.4	6.1	3.7	4.1	4.4
無回答	1.8	0.0	0.0	1.2	1.8

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・政治、行政、企業の主要ポストの半数を女性にすべき
- ・やる気と「女性」を感じさせない行動力
- ・扶養範囲が労働の邪魔でパートがもっと働けない。
- ・責任をもってやってもらう。
- ・自分のやる気
- ・男性も含めて、1 日の労働時間の短縮は必要
- ・経営者、採用する側の理解、意識改革
- ・女性に限らず男性にもあてはまる。
- ・特に親の協力
- ・子どものために育児休業を 3 年にしてほしい（3 才までは母親の存在は子どもにとって重要）。最近の子どもの心の成長のアンバランスな面をととても感じる。
- ・生活環境に関係なく、その職が好きか。
- ・幼少の頃からの教育
- ・生理や更年期への理解
- ・男性の「女のくせに」という考えを改める事

- ・日本全国民各々が自覚し、連帯意識を持つことが最も必要です。
- ・女性は、日中の賃金に換算される仕事以外の家事育児など、無償労働をかなりしている。男女で家事分担や、シングルなど、ひとり親への支援サービスを拡充してほしい。
- ・すべての国民ではないが、最低限の生活を営むことが可能な世の中になり、欲というものがなくなり、働くことに意欲がなくなっているのではないかと感じる。働けるのに働かなくなっている。
- ・女性が働き続ける理由は、男性が働き続ける理由と同じだと考えます。働く事に男女を別にする設問の意味がわからない。
- ・今以上に女性進出を促す必要はない。
- ・自身の覚悟。やる気
- ・職場の人手不足の解決
- ・女性自身の疎外感や不満の払拭
- ・短時間勤務の制度が充実していても、代わりの人が見つからず、使いにくい現実がある。そのため子育て世代でやむを得ず退職する仲間も多い。そこが解消されるとよい。
- ・会社ではなく社会として、子どもを産んだらどちらかが働かなくても生活できるよう支援すべき。

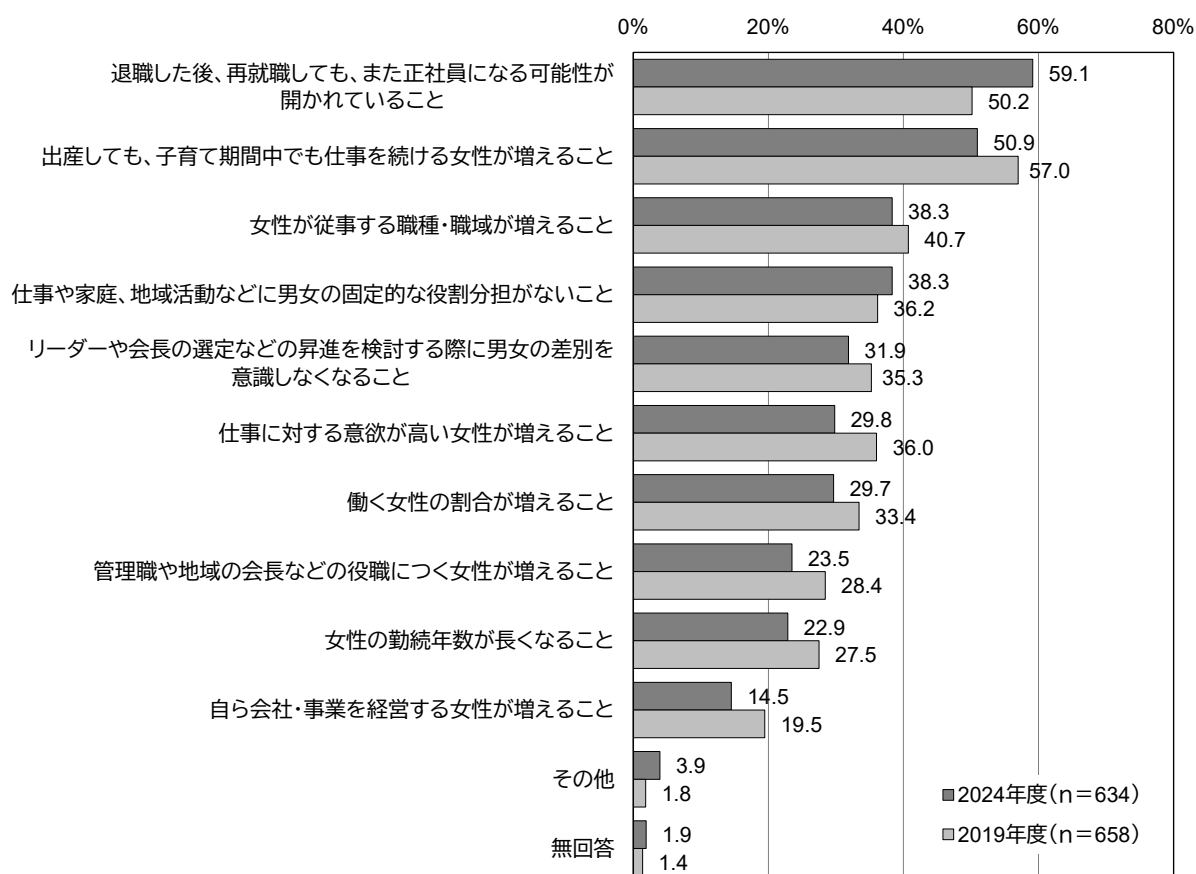
問 17. 職業生活において女性が個性と能力を発揮できる社会を目指すために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

◆「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が約6割で最も高く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が5割以上

◆前回調査より「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は高く、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」は低い

「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」(50.9%)が5割以上となっています。

前回調査と比較すると、「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」は高く、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」は低くなっています。



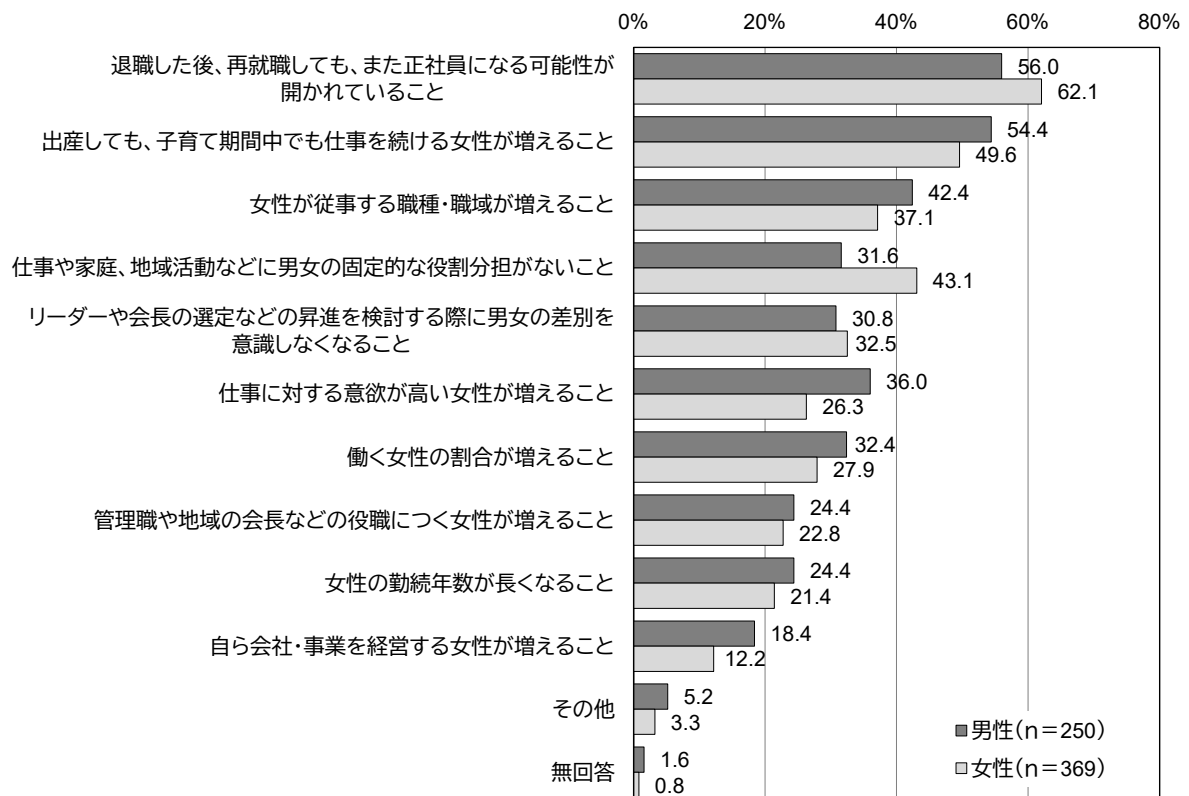
〈属性別〉

◆男女とも「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が最も高く、男性は「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が同程度に高い

◆男女差は「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」で最も大きく、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」（男性 56.0%、女性 62.1%）が最も高く、次いで「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」（男性 54.4%、女性 49.6%）が高くなっています。また、男性は上位2項目が同程度となっています。

男女差は「仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと」で最も大きく、女性（43.1%）が男性（31.6%）より 11 ポイント以上高くなっています。



◆いずれの年代も「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」の2項目が高い

◆年代差は「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」の2項目が高くなっています。

年代差は「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」で最も大きく、最も高い30歳代（66.7%）と最も低い18～29歳（42.9%）では約24ポイントの差がみられます。

	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
n	56	66	109	169	227
退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること	53.6	54.5	67.9	58.0	59.0
出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること	42.9	66.7	53.2	47.9	50.7
女性が従事する職種・職域が増えること	25.0	39.4	33.0	38.5	44.9
仕事や家庭、地域活動などに男女の固定的な役割分担がないこと	41.1	34.8	40.4	40.8	36.6
リーダーや会長の選定などの昇進を検討する際に男女の差別を意識しなくなる	32.1	33.3	33.0	29.0	33.0
仕事に対する意欲が高い女性が増えること	19.6	27.3	29.4	31.4	32.2
働く女性の割合が増えること	25.0	34.8	31.2	25.4	31.3
管理職や地域の会長などの役職につく女性が増えること	19.6	31.8	30.3	21.9	19.8
女性の勤続年数が長くなること	8.9	27.3	22.9	23.7	23.8
自ら会社・事業を営む女性が増えること	12.5	18.2	15.6	13.6	14.1
その他	3.6	6.1	5.5	4.7	2.2
無回答	0.0	1.5	0.0	2.4	1.8

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・ 家族の協力、意識が変わること。
- ・ 女性が全て男性より上になるべき。
- ・ 男性、女性と区別しないこと。
- ・ すべての人がキャリアウーマンになる必要はない。家庭にいたい人にプレッシャーをかけないでほしい。
- ・ 再就職後もこれまでのキャリアを持続できること
- ・ 女性に限らず、男女の個性と能力が発揮できる社会を目指すべき。
- ・ 子育てに専門性を持ってほしい。社会に出て、企業で能力を発揮し、経験をつんでスキルアップしていくことと同じくらいに、子どもを出産して、成人ま

で育てあげることが、専門的な能力ととらえてほしい（産む側も）。そのための福祉充実希望

- ・ 女性でも男性でも、自分の個性や能力を発揮できる職を見つけられる人は少ない。色々な職業を経験して自分で決めるしかない。
- ・ すでに発揮できる社会になっている。
- ・ 現在女性がどのくらい発揮できていないのかわからないので何とも言えませんが、女性は何をしたいかにもよると思います。何を発揮したいのか、全体的なサポートバランスが必要ではないでしょうか。
- ・ 男がしっかりする。家族のことを考えて行動する。

- ・産休の取得しやすい環境、男女問わず育休が取得しやすい環境を整えることに関する理解が広まること。
- ・最低賃金ではなく、働く環境がたくさんあること。
- ・寛容な世の中
- ・子どもが年を重ねるとお金がかかる。能力の発揮は個性とやる気の問題。大変なことはやりたがらないのが実際
- ・今以上に女性進出を促す必要はない。
- ・仕事で活躍したい女性にそのための機会を与えることは重要だが、全ての女性が働くことを望んでいるとは思わない。パートナーのどちらか働きたい方の収入で経済的に余裕を持って子育てができるよう賃金を上げるべき。
- ・自分で考えて、できる範囲で発揮すれば良い。
- ・平等を掲げたいのであれば「女性だから」って事を理由にしないでほしい。
- ・子育て世帯が共働きする社会である必要はない。

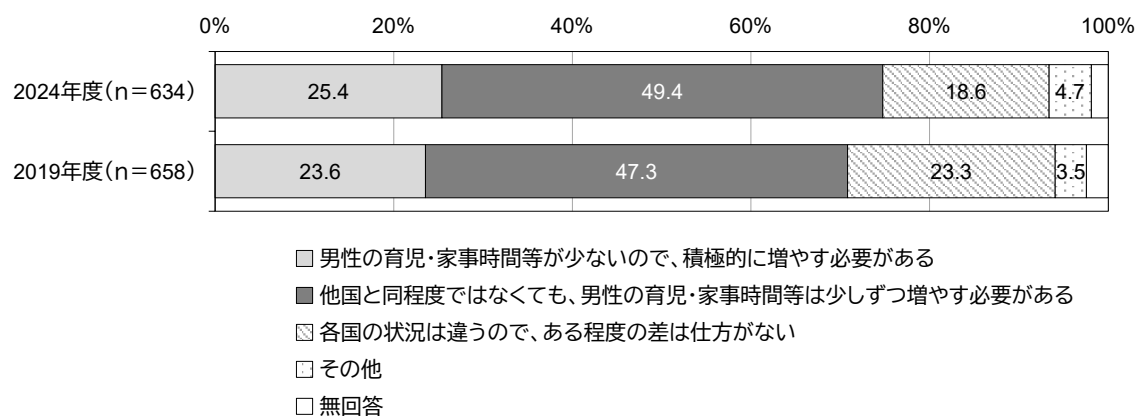
問 18. 日本の男性の働き方の現状についてどのように思いますか。（1 つだけに○）

◆「男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」が約5割で最も高く、次いで「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」が2割以上

◆前回調査と同様の傾向

「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」（49.4%）が約5割で最も高く、次いで「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」（25.4%）が2割以上となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「各国の状況は違うので、ある程度の差は仕方がない」（18.6%）は前回（23.3%）より若干低くなっています。



※問文の前に、「内閣府の『社会生活基本調査の国際比較』によると、男性の育児・家事関連時間が、イギリス、フランスは2時間30分以上、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、ノルウェーは3時間以上となっている中、日本は1時間23分と少なくなっています。また、日本では男性の長時間労働や育休制度の利用が極端に少ない等の現状もあります。」と表示

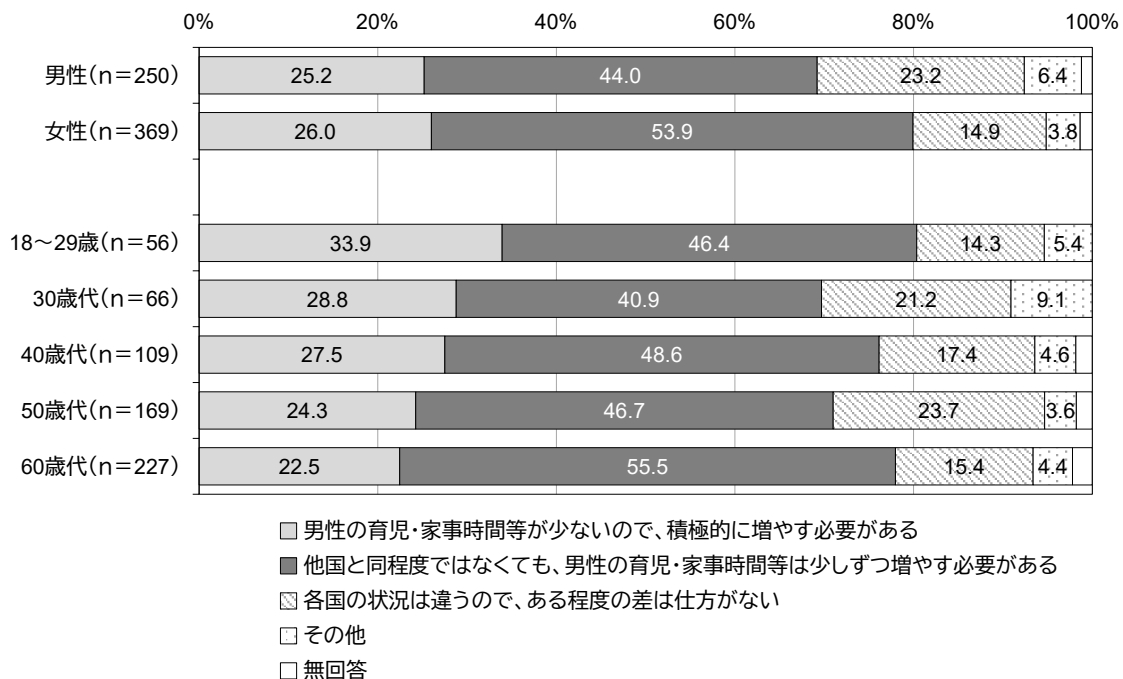
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」は、女性が男性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」が最も高く、「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」は若い年代ほど高い

性別でみると、男女とも「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」（男性 44.0%、女性 53.9%）が最も高く、女性が男性より約 10 ポイント高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」が最も高くなっています。また、18～29 歳は「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」（33.9%）が 3 割以上で比較的高く、若い年代ほど高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・政治、行政、企業の主要ポストの過半数が女性になること。
- ・男性に限らず、働きすぎ（勉強しすぎ）。
- ・男性の働く時間が長すぎる。
- ・男女ともに、労働時間が長すぎる。働き方を変える必要がある。
- ・男性が家庭責任を果たせるような、労働環境の整備が必要
- ・日本の経済成長は長時間労働で支えられてきたため、それしか知らない事が問題。何が正しい働き方なの

か分からないまま長時間労働だけを問題視する事が問題

- ・日本の伝統の結果だと思う。数字ではなく、日本で可能なやり方を考えるべき。
- ・法律で決め、育休ではなく育児をする。
- ・仕事の能力の高い人にはもっと仕事で働いてもらいたい。仕事よりも家事が得意な人ならば、仕事はそこそこでいいから家事に力を入れてほしい。平均とか、一律ではなく、各自の特性に合わせて得意分野

で能力を発揮させられる、個性を許す社会であってほしい。

- ・仕事に関する意識が変わっていき、社会全体で今よりも労働時間が短くなり、私生活と仕事どちらも大事にできるようになるとよいと思う(北欧のように)。
- ・時間を増やすのではなく、男性の意識改革が早急に必要である。
- ・男性の意識が変わる必要あり
- ・日本は日本、違うのは当たり前
- ・他と比較することではないと思う。
- ・社会全体の意識と連携が遅れているからではないですか。人はデータに基づき比較を始めますので。
- ・意識の持ち方の問題だと思う。男はやらなくてもいいとか、女が片付ければいいのか、教えてもらえば手伝うとかの考え。
- ・男性が育児に参加しないで仕事を優先するならば、女性が仕事をしなくても良いくらいの安定した収入を入れてほしい。
- ・そもそも長時間勤務をしなければ生活できないような、市や国のあり方が問題。また、育児制度を利用するにあたり、育児休手当がもらえるにしても、満額ではないために、諦める家庭もあると思う。
- ・表面的には推奨するが、根底には実現に対する否定的な意識や慣習が残っている。
- ・海外は給与所得の増加・労働時間の縮小、休日日数増加することで雇用が増えており、男性の育児や家事時間等が増えていることから、日本でも取り入れる必要があると考える。ただ、育休制度の利用が少

ないのは、家事や育児に「やり方が違う」「居ても役に立たない」などストレスの捌け口や余計にストレスが溜まるだけと言われる始末。減給されてまで取得する必要がないと考える夫婦は少なくないと思います。現に友達夫婦はそう言ったことから取得しませんでした。

- ・育児家事にかかわる時間と長時間労働、育休制度利用は別問題だと思う。仕事の休みさえ取れば育児や家事はできますとはならないと思う。
- ・社会環境的な問題、調査の仕方にもよるので、あてにならないと思う。
- ・そもそも収入に男女差があるので、現状では男性が働く環境なのは仕方がないので、できる限りで育児をする他ない。
- ・男性の労働時間を減らし、収入を上げる（日本全体の労働生産性を上げる）ことで、男性の家庭・育児参加の時間を増やす。労働時間を減らして家庭・育児時間が増えても収入が減っては幸せにならない。
- ・自分で考えて取得すれば良い。
- ・就労先の意識が低いから男性が早く帰って家事育児を行うのが困難な状況ではないかと思う。
- ・そもそも男性（日本人）は、仕事が家庭を支える一番の役目だと思い込んでいる。男女共に意識改革が必要です。
- ・出産は生物学的女性が行うため、今の社会では子育て期間中は、女性は家庭が主になり、収入の主が男性であることが多くなり、男性は人手不足の会社が多く、仕事の休みを取りづらくなり、男性が協力しづらくなっている。

問 19. あなたの職場では、次のようなことがありますか。（それぞれ1つに○）

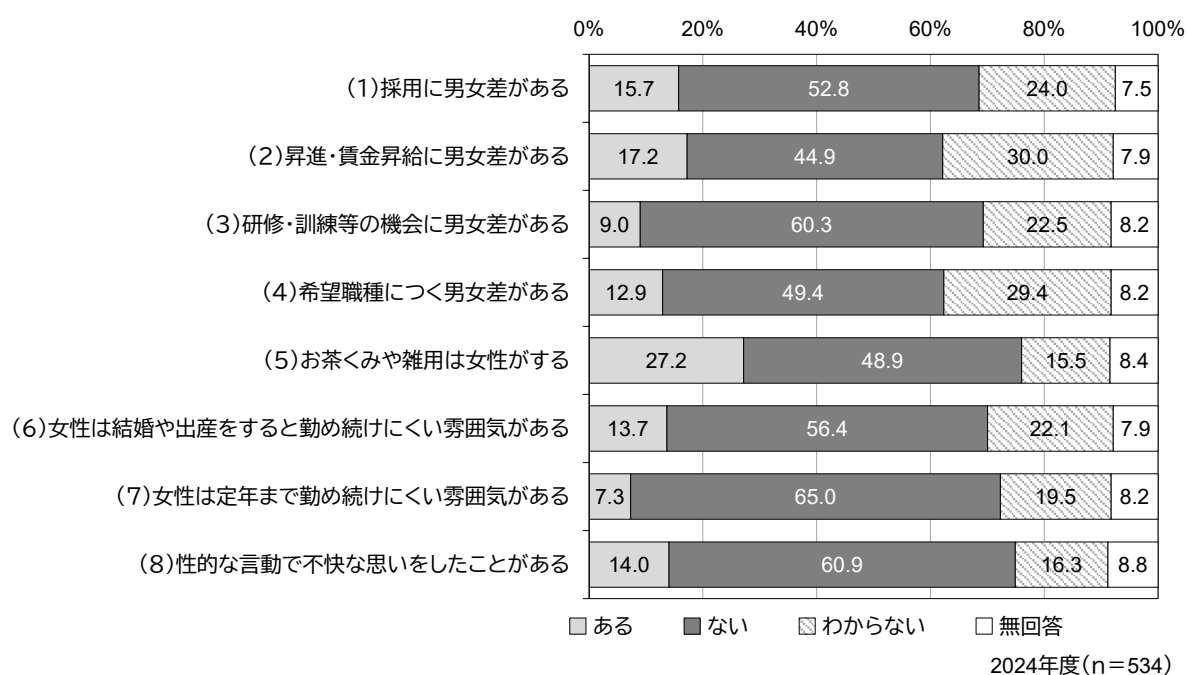
【現在、働いている場合】

◆いずれの項目も「ない」が最も高く、「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」が最も高い

◆「お茶くみや雑用は女性がする」は「ある」が約3割で他の項目より高い

いずれの項目も「ない」が最も高く、その中でも「(7) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」(65.0%)が8項目中で最も高くなっています。

一方、「(5) お茶くみや雑用は女性がする」は「ある」(27.2%)が約3割で他の項目より高くなっています。



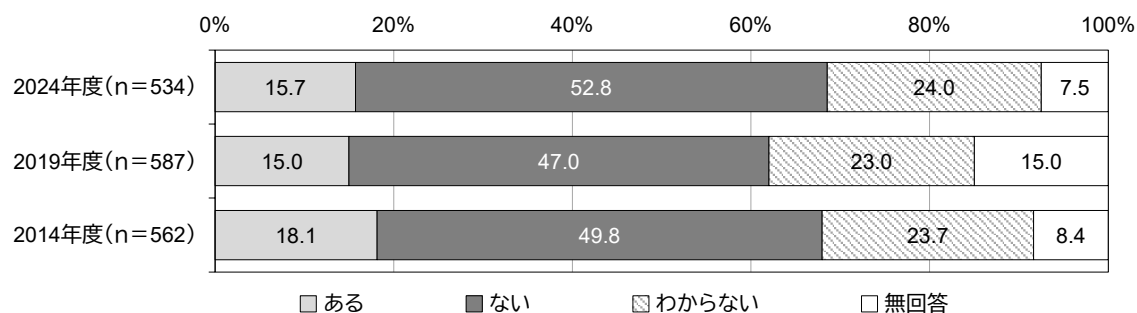
（１）採用に男女差がある

◆「ない」が５割以上で最も高く、次いで「わからない」が２割以上

◆過去２回の調査と同様の傾向

「ない」（５２．８％）が５割以上で最も高く、次いで「わからない」（２４．０％）が２割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高くなっています。

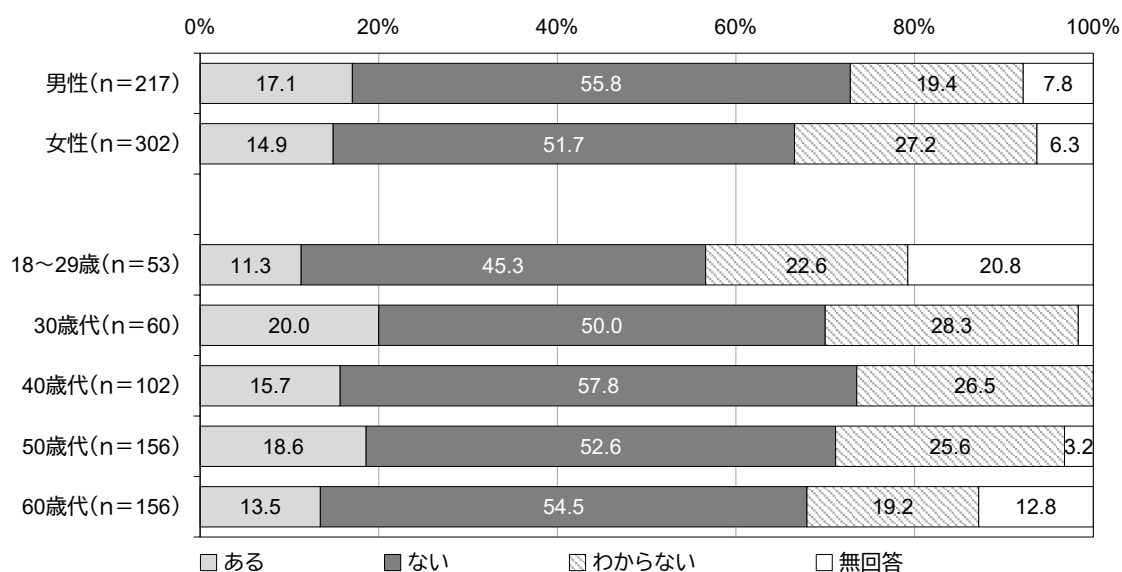


〈属性別〉

◆性別・年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「ない」（男性 ５５．８％、女性 ５１．７％）が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、１８～２９歳は無回答（２０．８％）が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高く、年代別による大きな差はみられません。



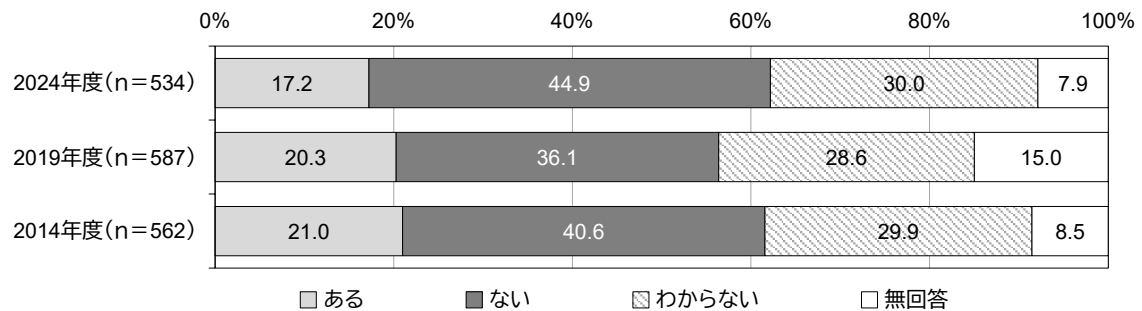
(2) 昇進・賃金昇給に男女差がある

◆「ない」が4割以上で最も高く、次いで「わからない」が3割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「ない」(44.9%)が4割以上で最も高く、次いで「わからない」(30.0%)が3割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高くなっています。



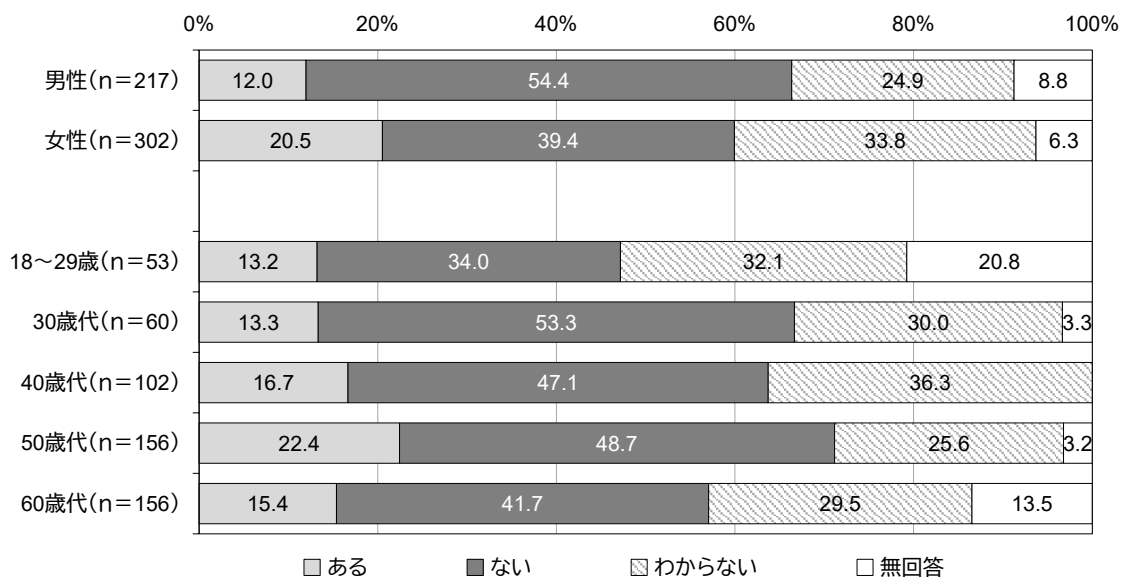
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「ない」は、男性が女性より高い

◆年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「ない」(男性 54.4%、女性 39.4%)が最も高く、男性が女性より15ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、18～29歳は無回答(20.8%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高く、年代別による大きな差はみられません。



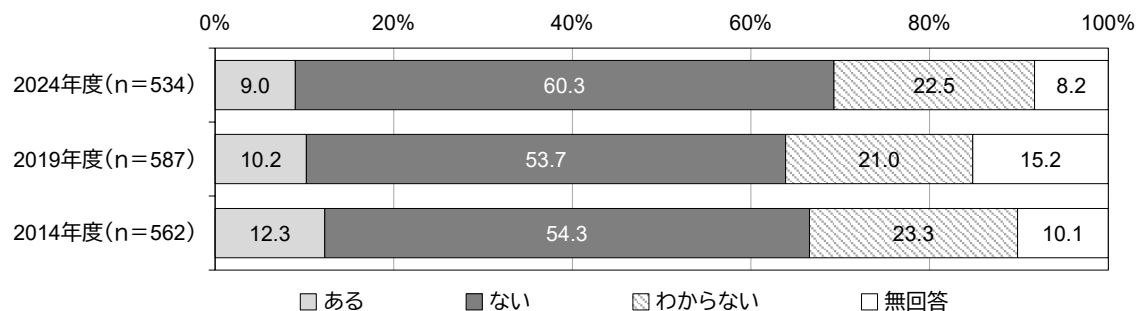
(3) 研修・訓練等の機会に男女差がある

◆「ない」が6割以上で最も高く、次いで「わからない」が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「ない」(60.3%)が6割以上で最も高く、次いで「わからない」(22.5%)が2割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高くなっています。



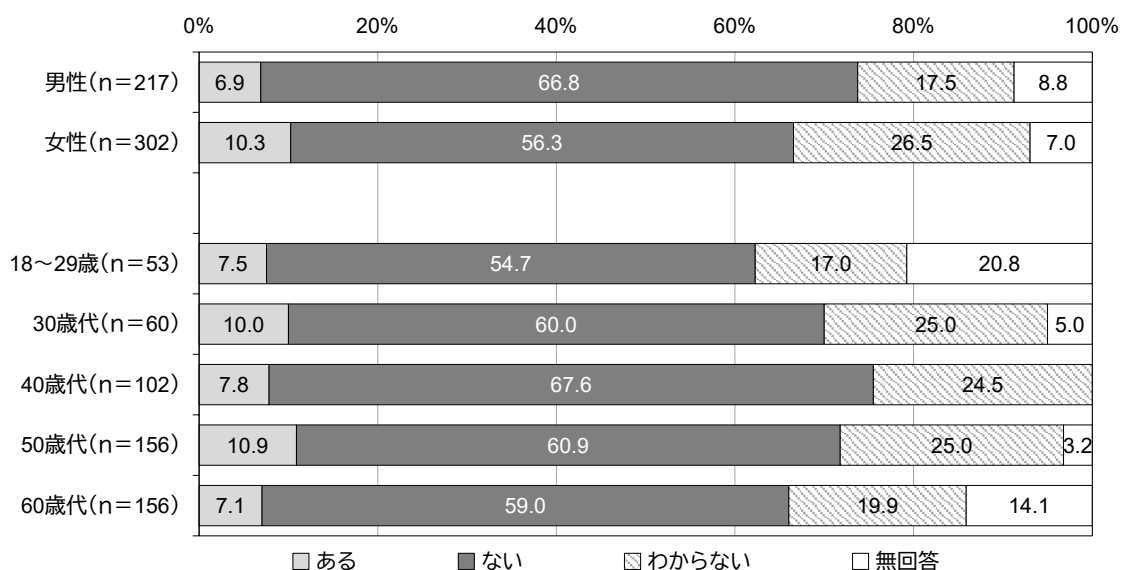
〈属性別〉

◆男女とも最も高い「ない」は、男性が女性より高い

◆年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「ない」(男性 66.8%、女性 56.3%)が最も高く、男性が女性より10ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、18~29歳は無回答(20.8%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高く、年代別による大きな差はみられません。



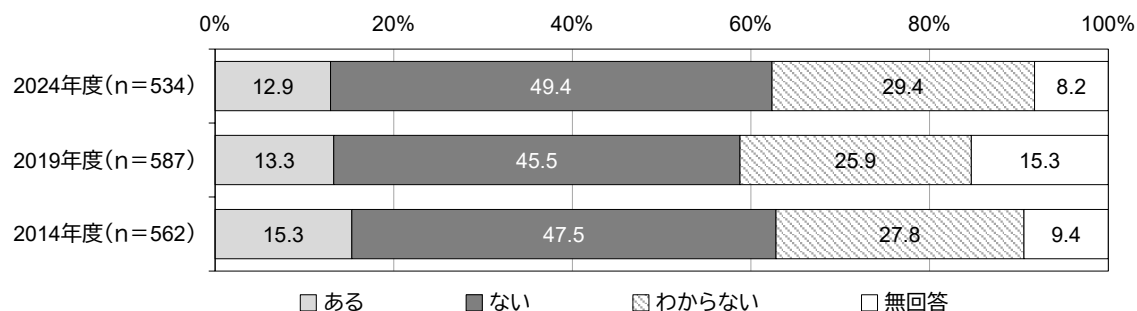
(4) 希望職種につく男女差がある

◆「ない」が約5割で最も高く、次いで「わからない」が約3割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「ない」(49.4%)が約5割で最も高く、次いで「わからない」(29.4%)が約3割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



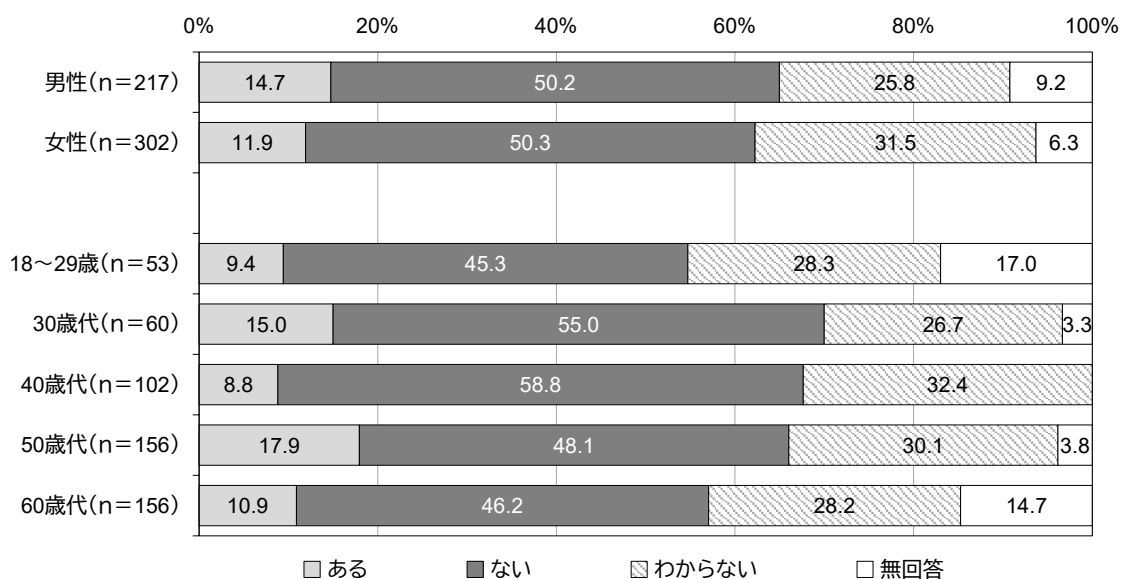
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、いずれの年代も「ない」が最も高い

性別でみると、男女とも「ない」(男性 50.2%、女性 50.3%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、18～29歳は無回答(17.0%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高く、その中でも40歳代(58.8%)は約6割で比較的高くなっています。



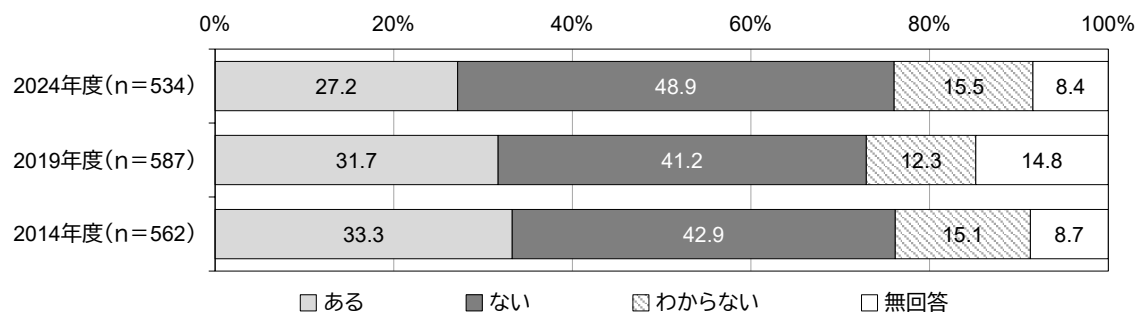
(5) お茶くみや雑用は女性がする

◆「ない」が約5割で最も高く、次いで「ある」が約3割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「ない」(48.9%)が約5割で最も高く、次いで「ある」(27.2%)が約3割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高く、「ある」は若干低くなる傾向がみられます。



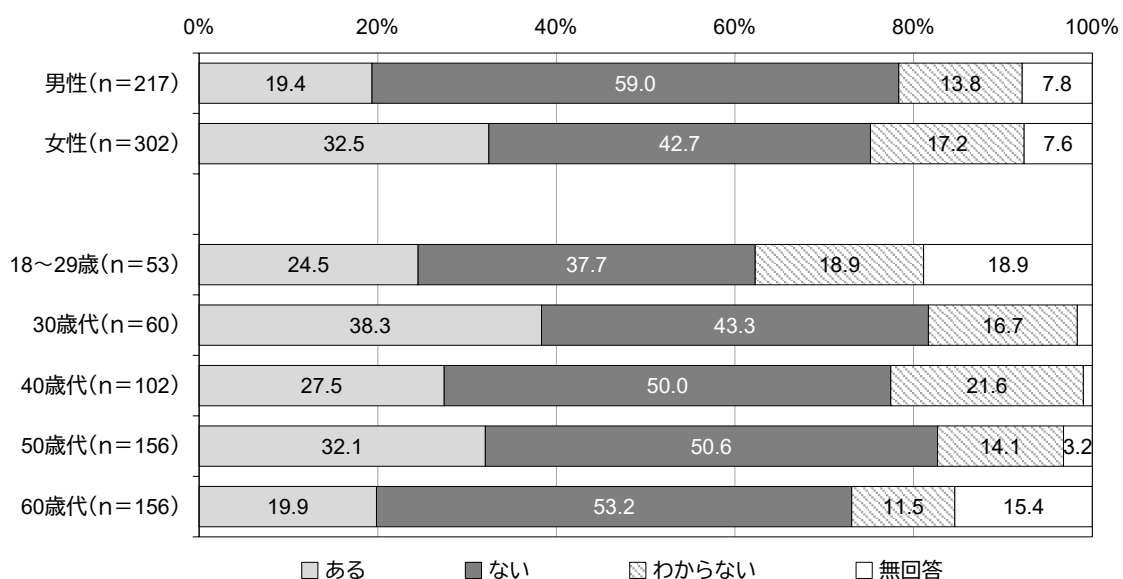
〈属性別〉

◆男女とも「ない」が最も高く、「ある」は女性が男性より高い

◆年代別では、30歳代は「ある」が約4割で他の年代より高い

性別でみると、男女とも「ない」(男性 59.0%、女性 42.7%)が最も高く、男性が女性より16ポイント以上高くなっています。また、「ある」(男性 19.4%、女性 32.5%)は女性が男性より13ポイント以上高くなっています。

年代別でみると、18～29歳は無回答(18.9%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高くなっています。また、30歳代は「ある」(38.3%)が約4割で比較的高くなっています。



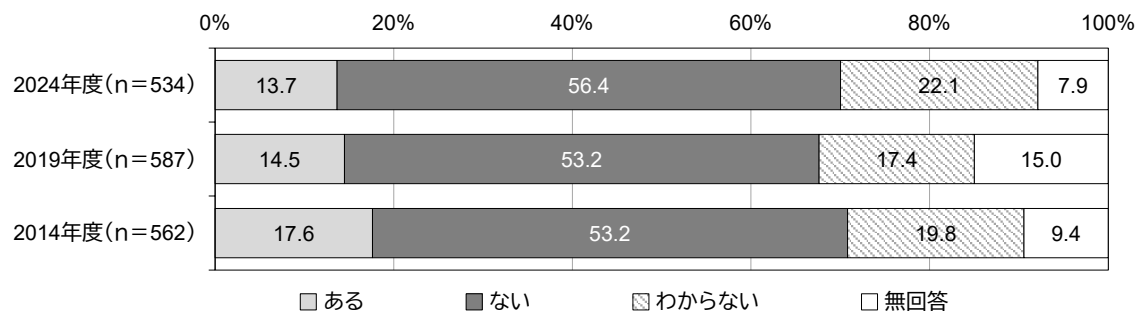
（６）女性は結婚や出産をすると勤め続けにくい雰囲気がある

◆「ない」が約５割で最も高く、次いで「わからない」が２割以上

◆過去２回の調査と同様の傾向

「ない」(56.4%)が５割以上で最も高く、次いで「わからない」(22.1%)が２割以上となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高くなっています。



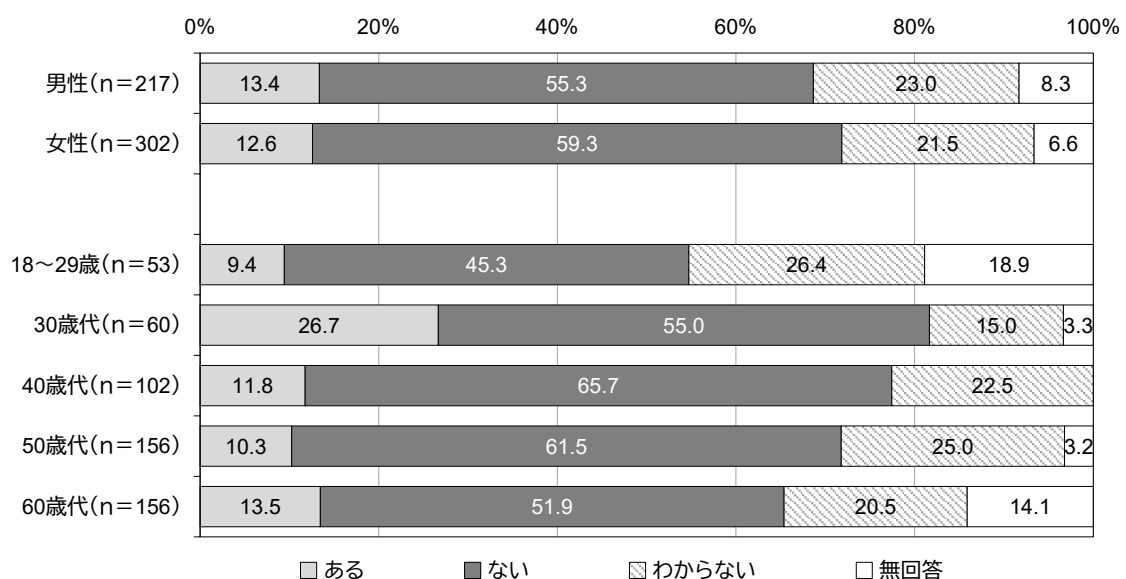
〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

◆年代別では、30歳代は「ある」が約３割で他の年代より高い

性別でみると、男女とも「ない」(男性 55.3%、女性 59.3%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、18～29歳は無回答(18.9%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高くなっています。また、30歳代は「ある」(26.7%)が約３割で比較的高くなっています。



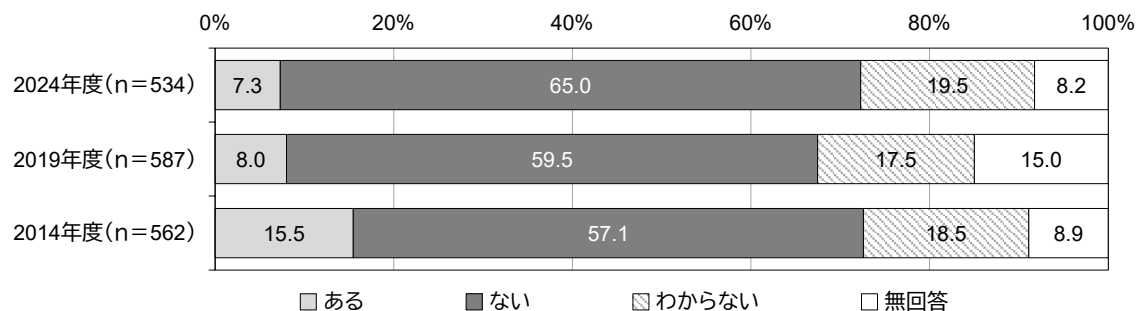
（７）女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある

◆「ない」が６割以上で最も高く、次いで「わからない」が約２割

◆過去２回の調査と同様の傾向

「ない」(65.0%)が６割以上で最も高く、次いで「わからない」(19.5%)が約２割となっています。

過去２回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、「ない」は若干高くなっています。

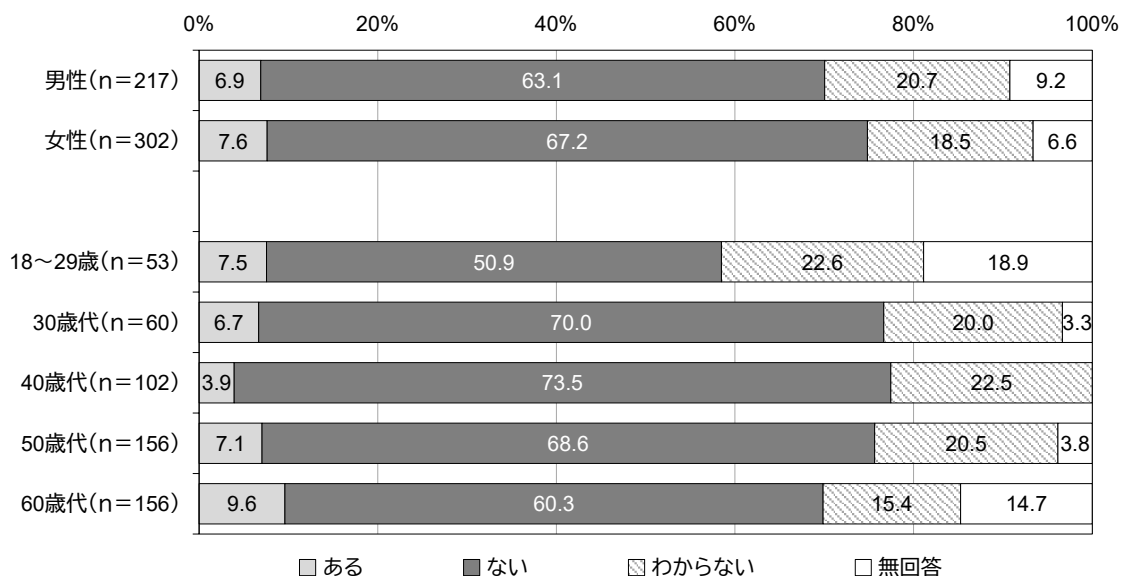


〈属性別〉

◆性別・年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「ない」(男性 63.1%、女性 67.2%)が最も高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、18～29歳は無回答(18.9%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高く、年代による大きな差はみられません。



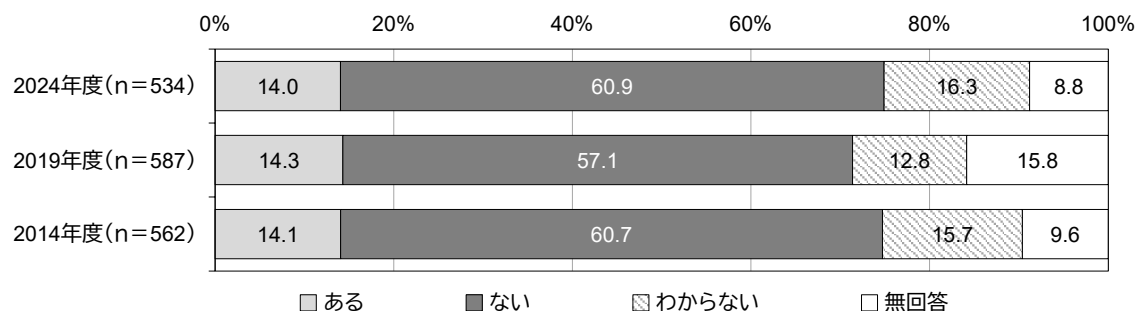
(8) 性的な言動で不快な思いをしたことがある

◆「ない」が6割以上で最も高く、次いで「わからない」「ある」が1割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「ない」(60.9%)が6割以上で最も高く、次いで「わからない」(16.3%)、「ある」(14.0%)の2項目が1割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

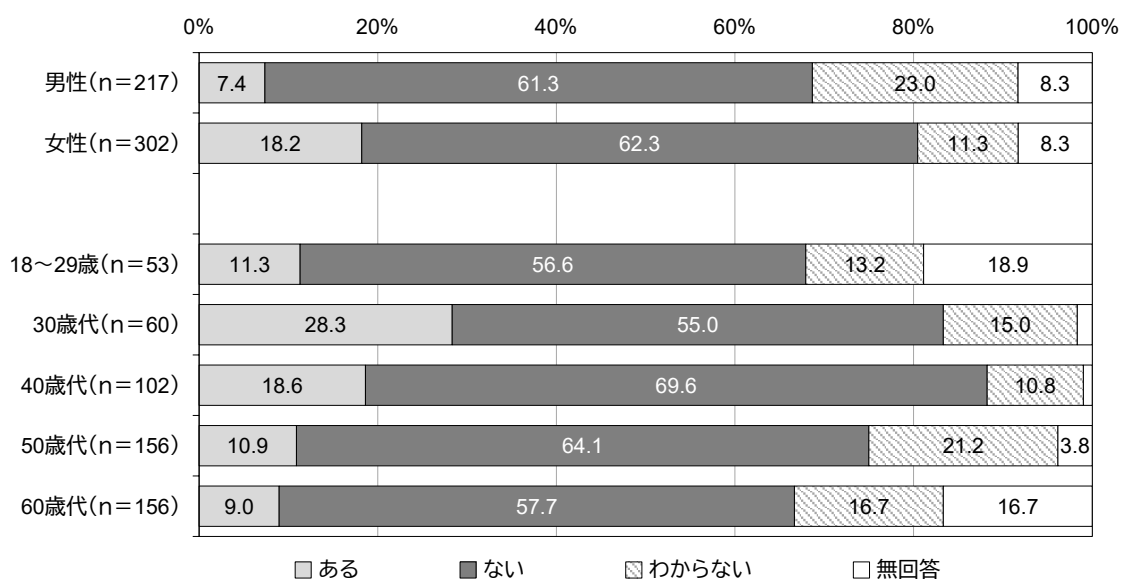


◆男女とも「ない」が最も高く、「ある」は女性が男性より高い

◆年代別では、30歳代は「ある」が約3割で他の年代より高い

性別でみると、男女とも「ない」(男性 61.3%、女性 62.3%)が最も高くなっています。また、「ある」(男性 7.4%、女性 18.2%)は、女性が男性より約11ポイント高くなっています。

年代別でみると、18～29歳は無回答(18.9%)が比較的高いことを考慮する必要がありますが、いずれの年代も「ない」が最も高くなっています。また、「ある」は、30歳代(28.3%)が約3割で比較的高くなっています。



(9) その他（自由記述）

- ・連携が取れない。説明不足の点が多い。
- ・女性の言うことに、男性はハイと言うべきだ。
- ・職業や職務によって個人を差別する。パワハラ、モラハラを受けていると訴えても「職場の雰囲気が悪くなるから」と改善されない。特に目下の者へ対しての当たりが強く、上司もそれを止めたりしてくれない。
- ・男女の差はよくわからないが、仕事内容、職種に差別はある。
- ・産休を取得するのに、代わりの人が直前まで決まらないばかりか、同じ条件で勤務できる人が見つからず、短時間勤務の方が代わりに入るようになった。職場の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいである。
- ・雇い主以外、従業員は全員女性の職場なのでわからない。

問 20. 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「個人・地域活動（趣味、町内会の活動、ボランティア活動など）」の優先度について、あなたの現実と希望に最も近いものを選んでください。（それぞれ1つに○）

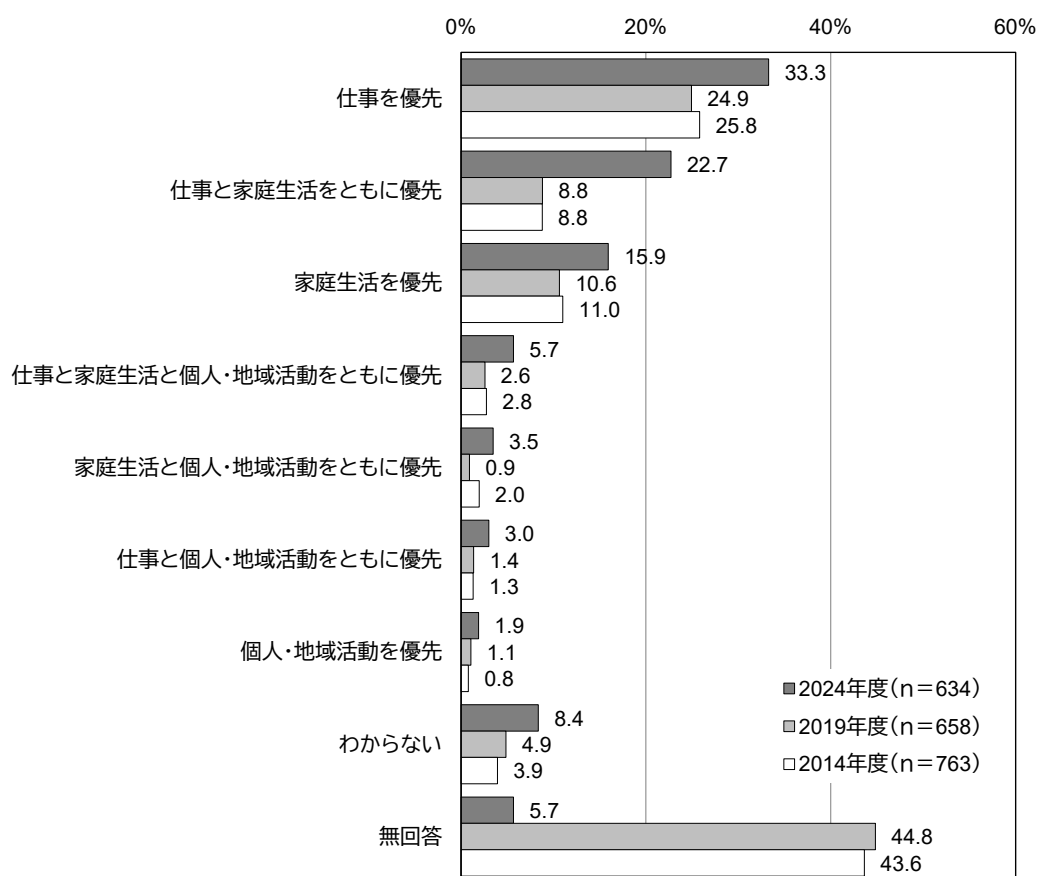
（１）現実（している）

◆「仕事を優先」が3割以上で最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」が2割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「仕事を優先」（33.3%）が3割以上で最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」（22.7%）が2割以上となっています。

過去2回の調査とは無回答の割合が大きく異なることを考慮する必要がありますが、おおむね同様の傾向となっています。



※「仕事」「家庭生活」「個人・地域活動」それぞれの「」を省略して表示

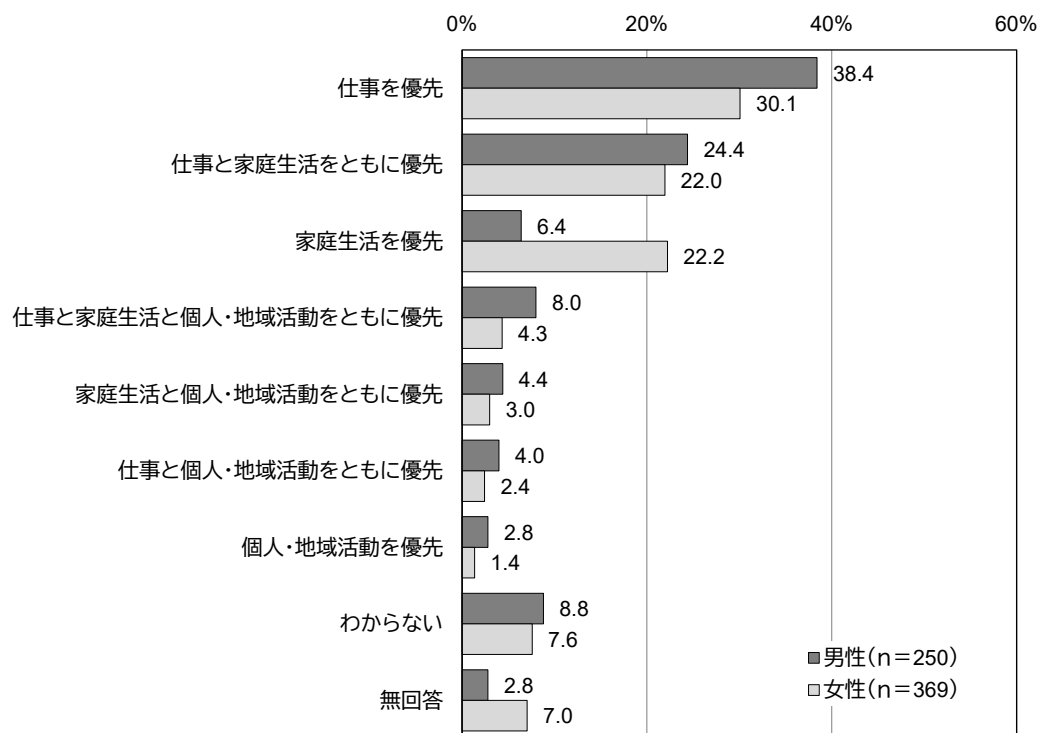
〈属性別〉

◆男女とも「仕事を優先」が最も高く、次いで男性は「仕事と家庭生活をともに優先」が高く、女性は「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活をともに優先」が同程度に高い

◆男女差は「家庭生活を優先」で最も大きく、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「仕事を優先」（男性 38.4%、女性 30.1%）が最も高く、次いで男性は「仕事と家庭生活をともに優先」（24.4%）が高く、女性は「家庭生活を優先」（22.2%）と「仕事と家庭生活をともに優先」（22.0%）が同程度に高くなっています。

男女差は「家庭生活を優先」で最も大きく、女性（22.2%）が男性（6.4%）より約 16 ポイント高くなっています。



◆いずれの年代も「仕事を優先」が最も高い

◆年代差は「仕事と家庭生活をともに優先」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「仕事を優先」が最も高く、次いで18～29歳は「わからない」(19.6%)、30歳代、40歳代、50歳代はいずれも「仕事と家庭生活をともに優先」、60歳代は「家庭生活を優先」(20.3%)が高くなっています。

年代差は「仕事と家庭生活をともに優先」で最も大きく、最も高い30歳代(30.3%)と最も低い18～29歳(14.3%)では16ポイント以上の差がみられます。

	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
n	56	66	109	169	227
仕事を優先	37.5	39.4	33.0	40.2	26.0
仕事と家庭生活をともに優先	14.3	30.3	24.8	26.0	19.4
家庭生活を優先	7.1	10.6	17.4	14.2	20.3
仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先	1.8	4.5	4.6	3.6	9.3
家庭生活と個人・地域活動をともに優先	5.4	1.5	0.9	2.4	5.7
仕事と個人・地域活動をともに優先	10.7	1.5	2.8	1.2	3.1
個人・地域活動を優先	1.8	0.0	3.7	0.6	2.6
わからない	19.6	7.6	6.4	8.3	6.6
無回答	1.8	4.5	6.4	3.6	7.0

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

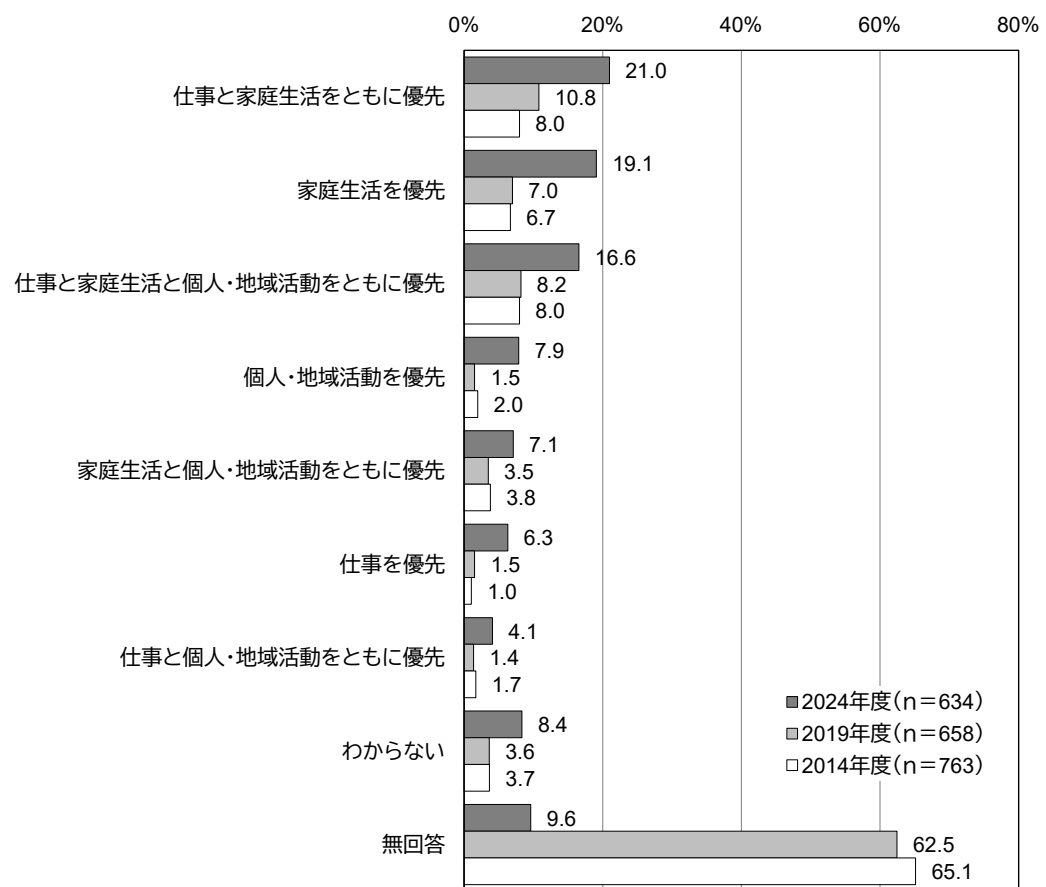
(2) 希望 (したい)

◆「仕事と家庭生活をともに優先」「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」の3項目が約2割で同程度に高い

◆過去2回の調査と同様の傾向

「仕事と家庭生活をともに優先」(21.0%)、「家庭生活を優先」(19.1%)、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」(16.6%)の3項目が約2割で同程度に高くなっています。

過去2回の調査とは無回答の割合が大きく異なることを考慮する必要がありますが、おおむね同様の傾向となっています。



※「仕事」「家庭生活」「個人・地域活動」それぞれの「」を省略して表示

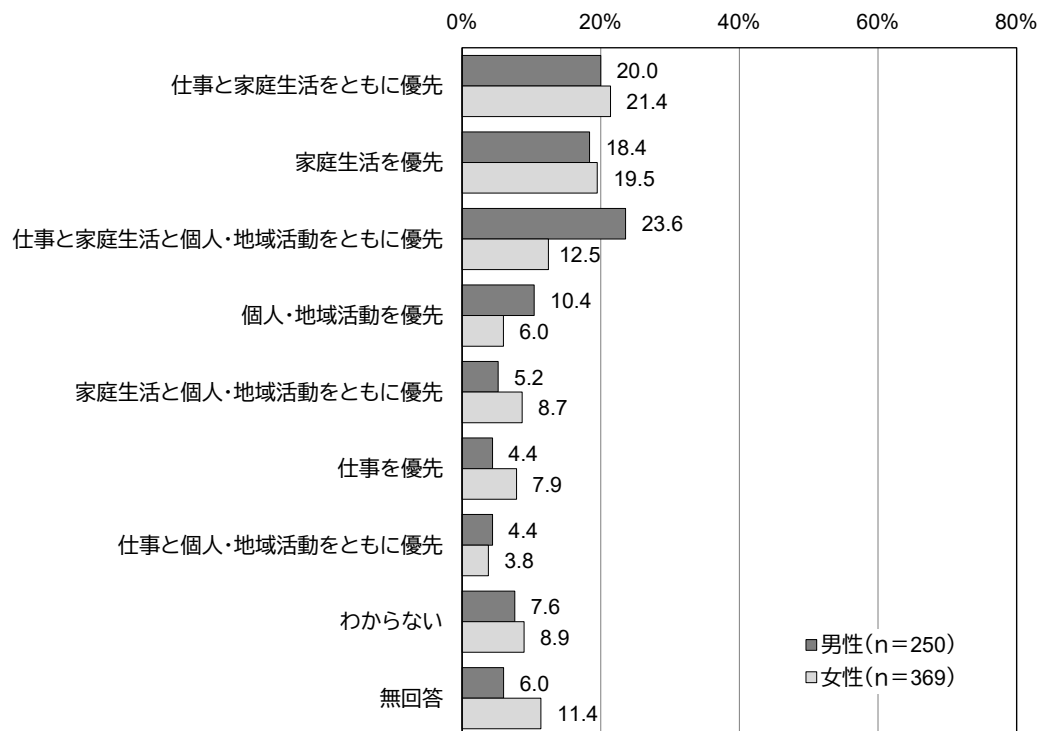
〈属性別〉

◆男性は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高い

◆男女差は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」で最も大きく、男性が女性より高い

性別でみると、男女とも「仕事と家庭生活をともに優先」（男性 20.0%、女性 21.4%）、「家庭生活を優先」（男性 18.4%、女性 19.5%）、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」（男性 23.6%、女性 12.5%）の3項目が高く、その中で男性は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」、女性は「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高くなっています。

男女差は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」で最も大きく、男性（23.6%）が女性（12.5%）より 11 ポイント以上高くなっています。



◆最も高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「仕事と家庭生活をともに優先」「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」で大きい

年代別でみると、18～29 歳、60 歳代は「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」（18～29 歳 25.0%、60 歳代 21.1%）、30 歳代、40 歳代は「仕事と家庭生活をともに優先」（30 歳代 31.8%、40 歳代 24.8%）、50 歳代は「家庭生活を優先」（22.5%）がそれぞれ最も高くなっています。

年代差は「仕事と家庭生活をともに優先」「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」で大きく、「仕事と家庭生活をともに優先」は最も高い 30 歳代（31.8%）と最も低い 60 歳代（17.2%）で約 15 ポイント、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」は最も高い 18～29 歳（25.0%）と最も低い 50 歳代（10.7%）で 14 ポイント以上の差がみられます。

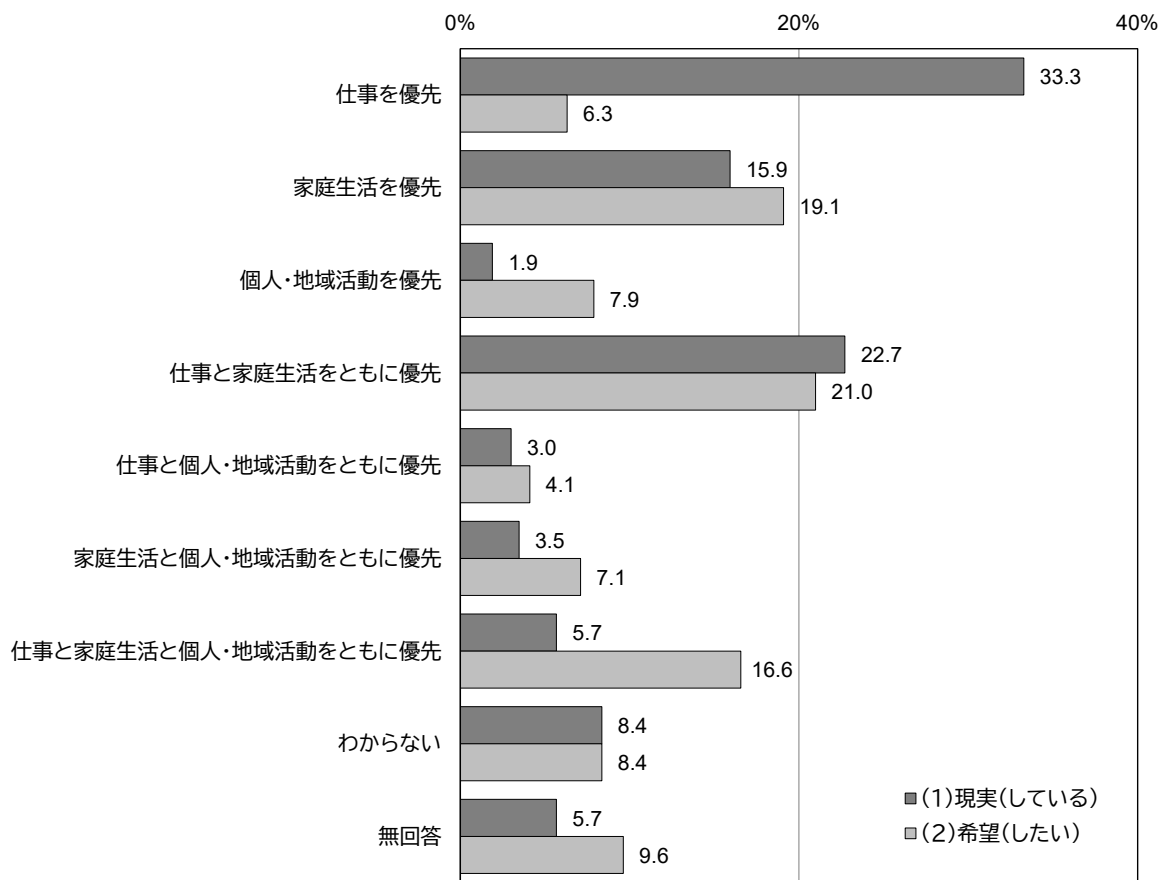
	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
仕事と家庭生活をともに優先	17.9	31.8	24.8	20.1	17.2
家庭生活を優先	12.5	19.7	22.9	22.5	16.3
仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先	25.0	13.6	14.7	10.7	21.1
個人・地域活動を優先	16.1	7.6	9.2	5.9	6.6
家庭生活と個人・地域活動をともに優先	8.9	6.1	4.6	8.3	7.5
仕事を優先	3.6	4.5	5.5	6.5	7.9
仕事と個人・地域活動をともに優先	5.4	6.1	2.8	4.1	4.0
わからない	10.7	7.6	9.2	10.1	6.6
無回答	0.0	3.0	6.4	11.8	12.8

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

◆現実と希望をあわせてみると、「仕事を優先」は現実が希望を上回り、その差が大きい

◆「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」は希望が現実を上回る

「(1) 現実 (している)」と「(2) 希望 (したい)」をあわせてみると、「仕事を優先」は「(1) 現実 (している)」(33.3%) が「(2) 希望 (したい)」(6.3%) より 27 ポイント以上高く、現実と希望の差が大きくなっています。また、「仕事と家庭生活と個人・地域活動をともに優先」は「(2) 希望 (したい)」(16.6%) が「(1) 現実 (している)」(5.7%) より約 11 ポイント高くなっています。



2024年度 (n=634)

6 人権について（問 21～問 23）

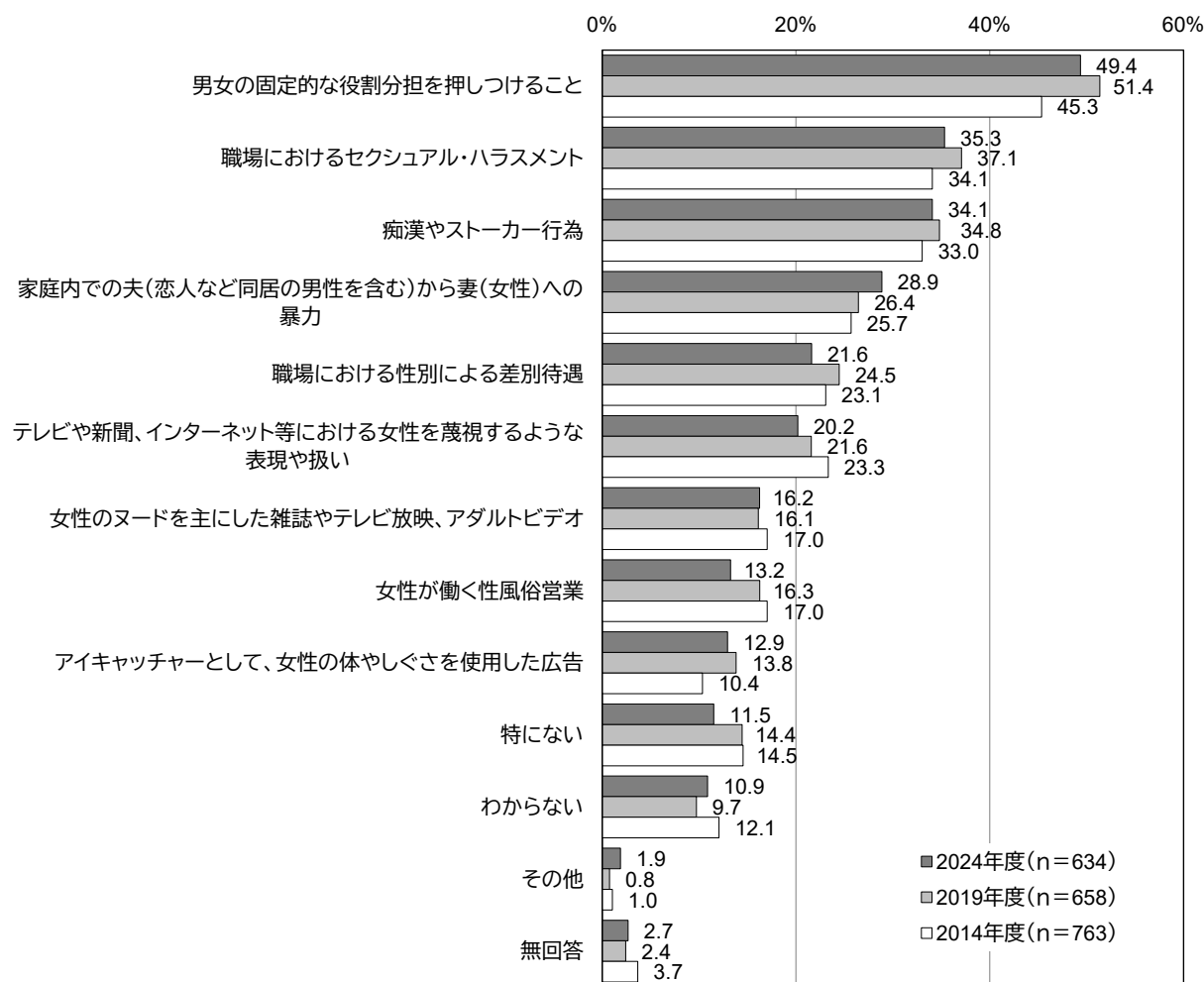
問 21. あなたは、どのようなことについて、女性の人権が尊重されていないと感じますか。（○はいくつでも）

◆「男女の固定的な役割分担を押しつけること」が約5割で最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「痴漢やストーカー行為」の2項目が3割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男女の固定的な役割分担を押しつけること」（49.4%）が約5割で最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」（35.3%）、「痴漢やストーカー行為」（34.1%）の2項目が3割以上で同程度となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。



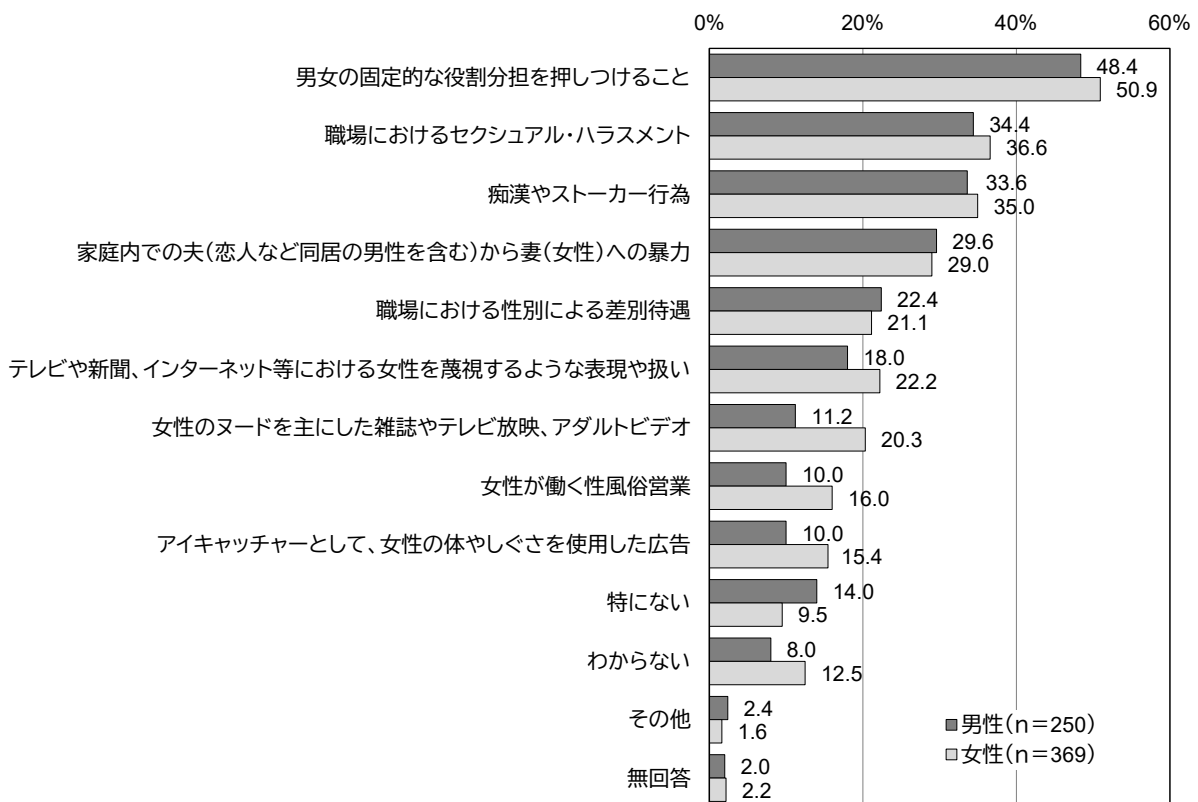
※項目はそれぞれ、以下の内容を()内に例示して設定

- ・男女の固定的な役割分担を押しつけること（「男は仕事、女は家庭」など）
- ・職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）
- ・アイキャッチャー（人目をひくためのもの）として、女性の体やしぐさを使用した広告

〈属性別〉

◆上位項目では性別による大きな差はみられないが、比較的下位の「女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ」は、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「男女の固定的な役割分担を押しつけること」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「痴漢やストーカー行為」が上位3項目となっており、性別による大きな差はみられません。その中で、比較的下位の項目では女性が男性より若干高い項目がみられ、「女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ」（男性 11.2%、女性 20.3%）は女性が男性より9ポイント以上高くなっています。



〈「その他」の内容〉

- ・結婚していない、子どもがいないなどの周りからの言動
- ・性被害を受けた女性に対しての非難
- ・男性優位の思想が沼田市は強い。
- ・女性がいい部分もある。
- ・男性がチームのリーダーに選ばれやすい。
- ・何でもかんでも女性のほうが常に軽視されているという前提で話が進む事、それ事態が女性軽視なのではないかと感じる時がある。
- ・これからは、男は、女性の言うことを（全て）聞くべき。逆らわない。
- ・この調査により与えられている選択肢で、これが人権侵害に当たるという歪んだ思想を植え付けられること。
- ・この設問は、女性の人権ではなく、全ての人の人権問題。男性にも当てはまる。
- ・女性の人権だけを問うことに疑問を感じる。
- ・なぜ、女性立場の設問しかないのか。
- ・この設問は、女性に限定している。

◆いずれの年代も「男女の固定的な役割分担を押しつけること」が最も高く、次いで高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」「テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い」で大きい

年代別でみると、いずれの年代も「男女の固定的な役割分担を押しつけること（「男は仕事、女は家庭」など）」が最も高く、次いで 18～29 歳、40 歳代、60 歳代は「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）」、30 歳代、50 歳代は「痴漢やストーカー行為」（30 歳代 37.9%、50 歳代 37.3%）が高くなっています。

年代差は「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）」「テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い」で大きく、いずれも 18～29 歳（それぞれ 48.2%、30.4%）が最も高く、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ・おどし・いじめ）」は最も低い 40 歳代（31.2%）と、「テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い」は最も低い 30 歳代（13.6%）と、それぞれ約 17 ポイントの差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
男女の固定的な役割分担を押しつけること	53.6	57.6	55.0	42.6	49.3
職場におけるセクシュアル・ハラスメント	48.2	36.4	31.2	36.1	33.9
痴漢やストーカー行為	44.6	37.9	30.3	37.3	30.8
家庭内での夫(恋人など同居の男性を含む)から妻(女性)への暴力	32.1	25.8	30.3	28.4	29.1
職場における性別による差別待遇	21.4	18.2	22.9	18.3	24.7
テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い	30.4	13.6	21.1	14.8	23.8
女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ	12.5	10.6	14.7	16.6	19.8
女性が働く性風俗営業	14.3	7.6	14.7	13.6	14.1
アイキャッチャーとして、女性の体やしぐさを使用した広告	12.5	12.1	14.7	9.5	15.4
特にない	10.7	9.1	13.8	12.4	10.1
わからない	14.3	7.6	13.8	10.7	9.7
その他	0.0	4.5	1.8	3.0	0.9
無回答	0.0	1.5	0.9	1.2	4.4

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

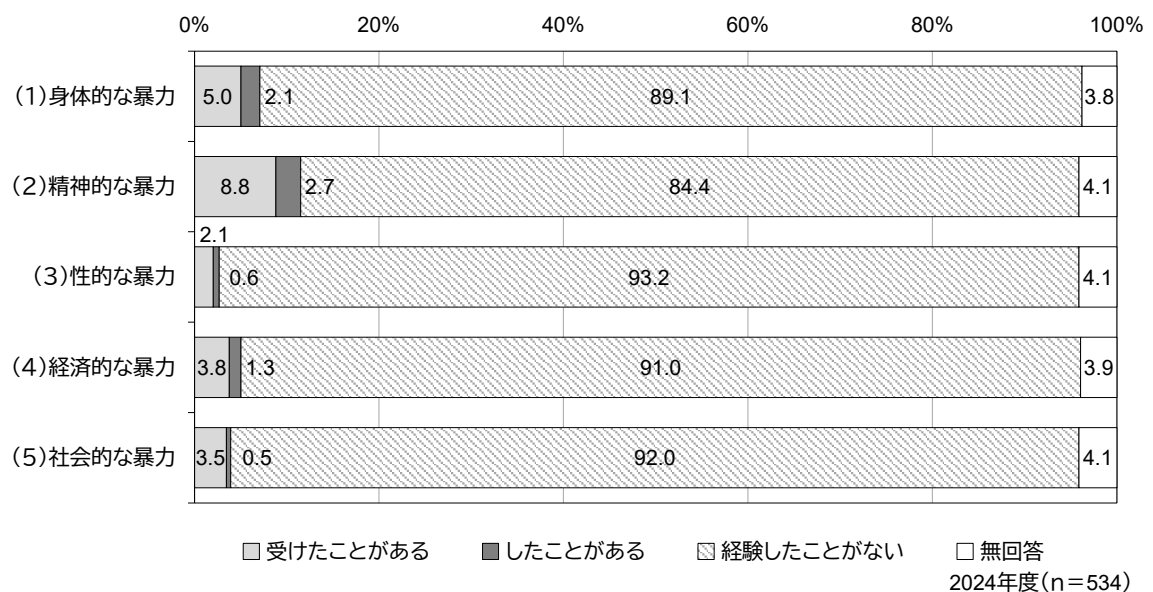
問 22. あなたは、ここ数年の間に、パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力（DV）について、経験したことがありますか。（それぞれ1つに○）

◆いずれの項目も「経験したことがない」が8～9割以上で特に高い

◆「精神的な暴力」は「受けたことがある」が約1割で比較的高い

いずれの項目も「経験したことがない」が8～9割以上で特に高くなっています。

その中で「(2) 精神的な暴力」は「経験したことがない」(84.4%)が8割程度で比較的低い一方、「受けたことがある」(8.8%)が約1割で比較的高くなっています。



※項目はそれぞれ、以下の内容を()内に例示して設定

- (1) 身体的な暴力（平手で打つ、なぐる、足でける、物を投げつける、突き飛ばすなど）
- (2) 精神的な暴力（なぐるふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす、何を言っても無視する、人格を否定するような暴言をはくなど）
- (3) 性的な暴力（嫌がっているのに性的な行為を強要する、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せるなど）
- (4) 経済的な暴力（生活費を入れないなど）
- (5) 社会的な暴力（交友関係や電話を細かく監視する、外出を制限する、家族や友人と会うことを制限するなど）

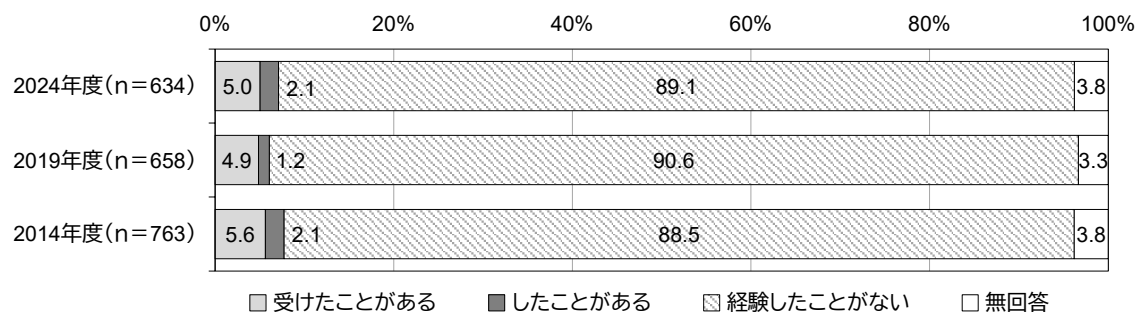
(1) 身体的な暴力

◆「経験したことがない」が約9割、「受けたことがある」が1割未満

◆過去2回の調査と同様の傾向

「経験したことがない」(89.1%)が約9割、「受けたことがある」(5.0%)が1割未満となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

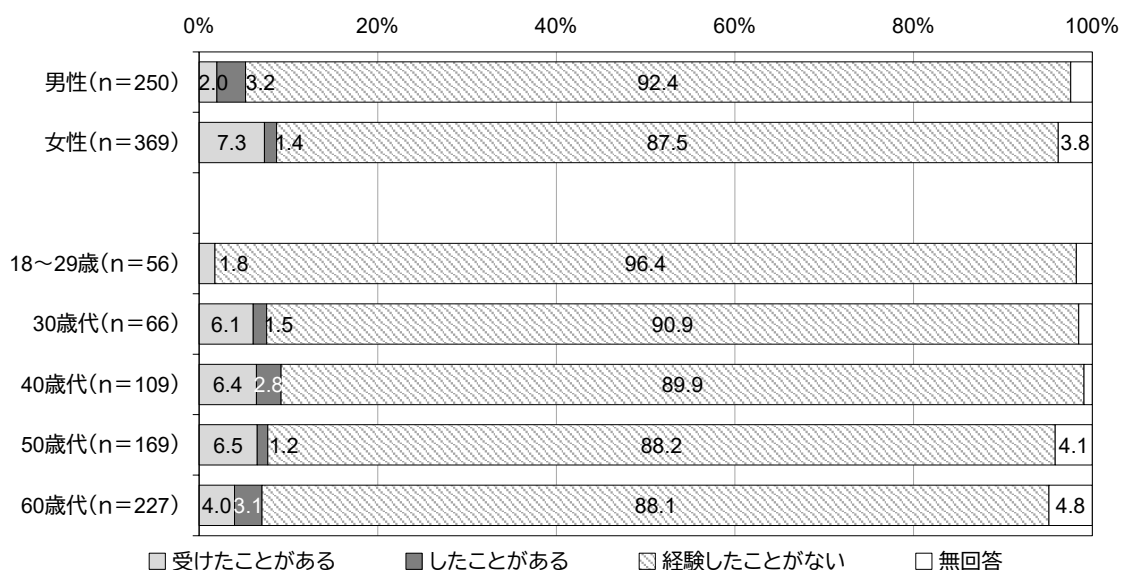


〈属性別〉

◆性別では女性、年代別では30～50歳代は「受けたことがある」が1割程度

性別でみると、男女とも「経験したことがない」(男性 92.4%、女性 87.5%)が高く、次いで女性は「受けたことがある」(7.3%)が約1割となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「経験したことがない」が高く、30～50歳代は「受けたことがある」が1割程度みられます。また、18～29歳を除き「したことがある」が若干みられます。



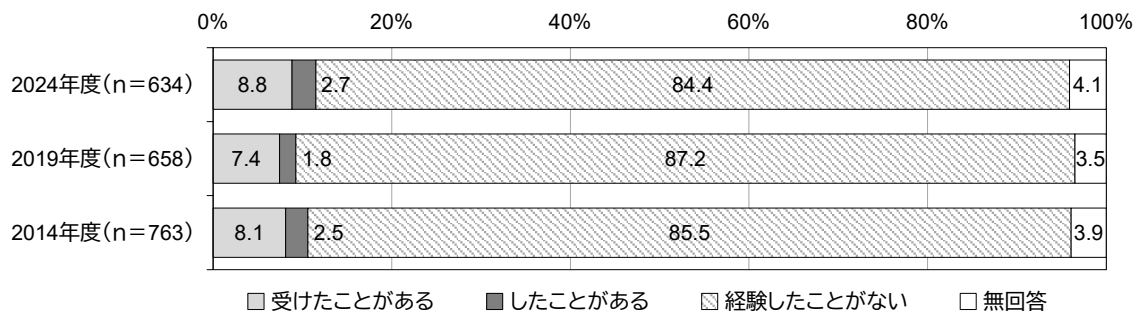
(2) 精神的な暴力

◆「経験したことがない」が8割以上、「受けたことがある」が約1割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「経験したことがない」(84.4%)が8割以上、「受けたことがある」(8.8%)が約1割となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

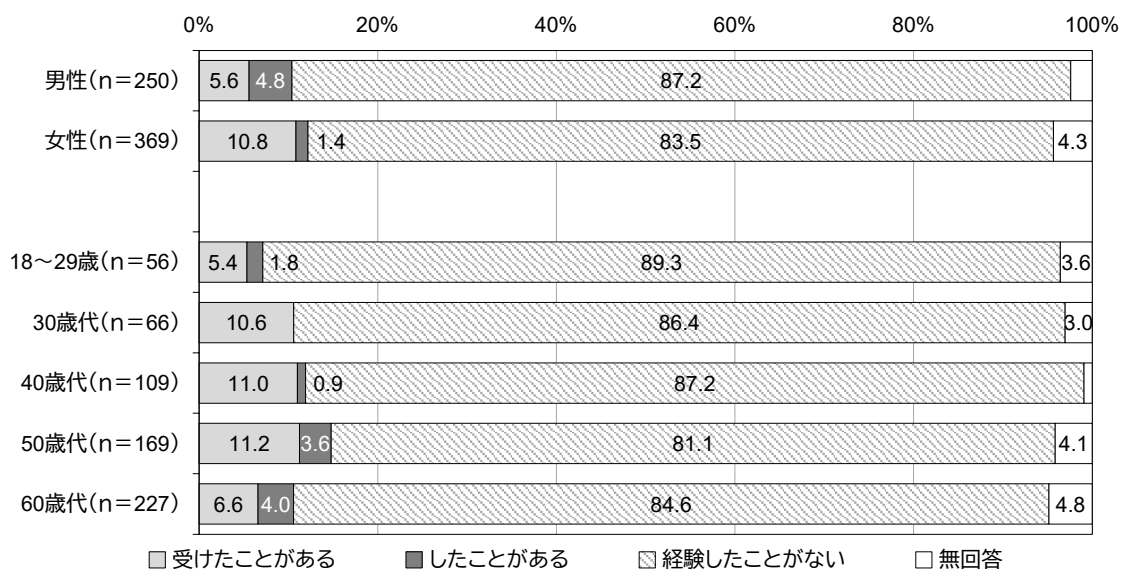


〈属性別〉

◆性別では女性、年代別では30～50歳代は「受けたことがある」が1割以上

性別でみると、男女とも「経験したことがない」(男性 87.2%、女性 83.5%)が高く、次いで女性は「受けたことがある」(10.8%)が1割以上となっています。

年代別でみると、いずれの年代も「経験したことがない」が高く、30～50歳代は「受けたことがある」が1割以上みられます。また、30歳代を除き「したことがある」が若干みられます。



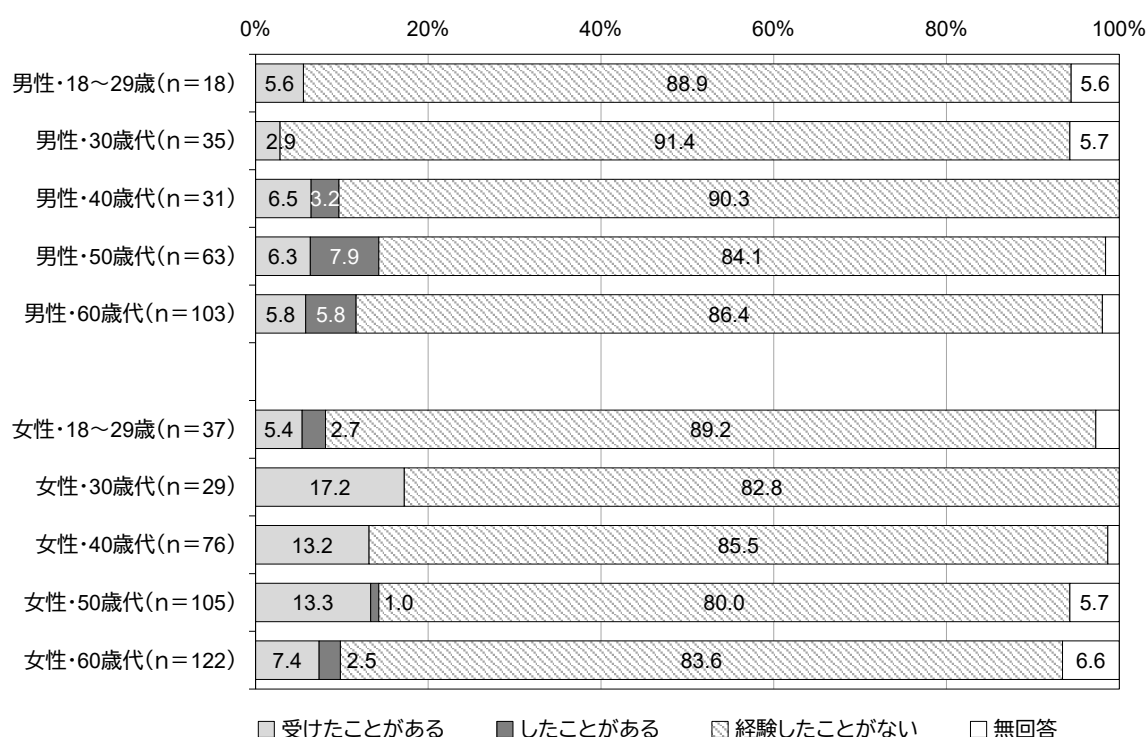
《参考》性・年代別

◆女性 30～50 歳代は「受けたことがある」が 1 割以上、その中で 30 歳代は約 2 割

◆男性 50 歳代は「したことがある」が約 1 割で比較的高い

「(2) 精神的な暴力」は、他の項目と比較して「受けたことがある」が高いため、参考に、性・年代別でみると、属性によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、「受けたことがある」は女性・30 歳代 (17.2%) が約 2 割、女性・40 歳代 (13.2%)、女性・50 歳代 (13.3%) が 1 割以上で比較的高くなっています。

また、「したことがある」は男性・50 歳代 (7.9%) が約 1 割で比較的高くなっています。



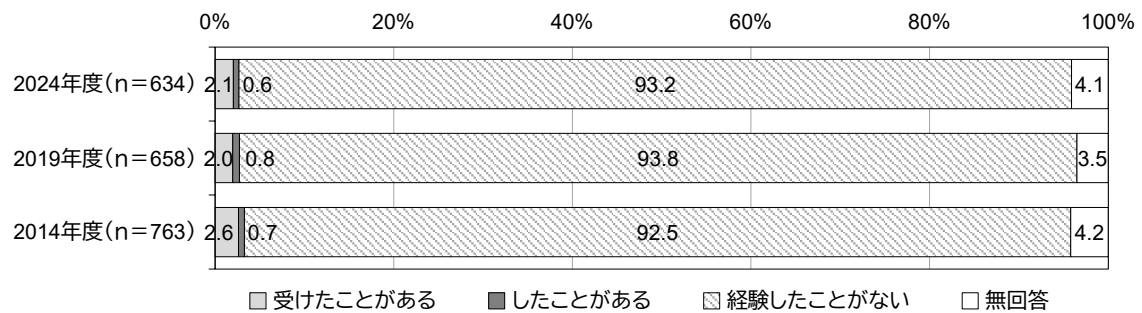
(3) 性的な暴力

◆「経験したことがない」が9割以上、「受けたことがある」が1割未満

◆過去2回の調査と同様の傾向

「経験したことがない」(93.2%)が9割以上で最も高く、次いで「受けたことがある」(2.1%)となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

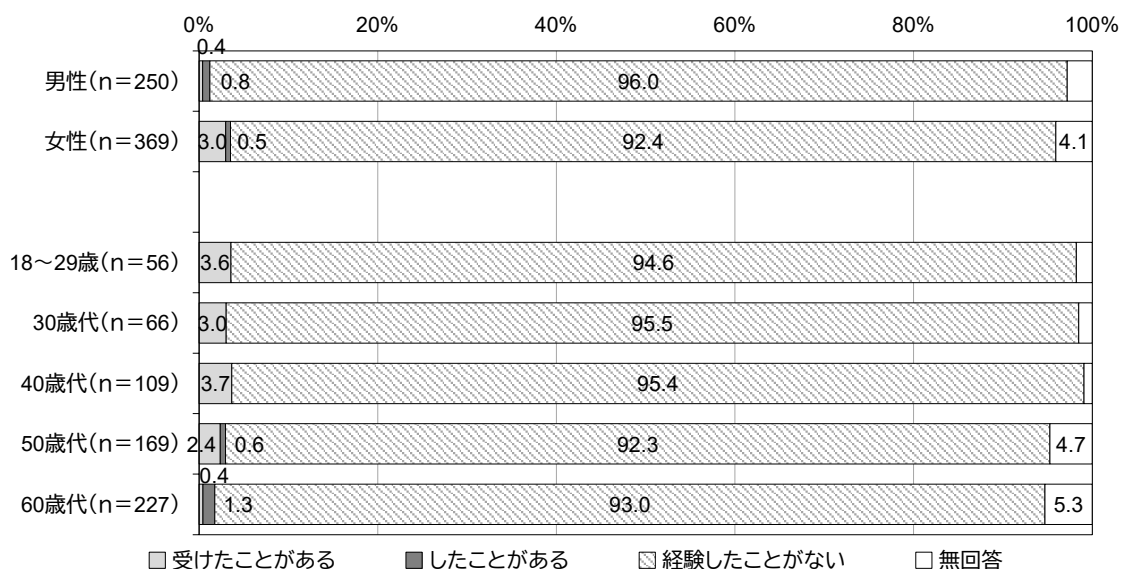


〈属性別〉

◆性別や年代別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「経験したことがない」(男性 96.0%、女性 92.4%)が高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「経験したことがない」が高く、50歳代、60歳代では「したことがある」が若干みられます。



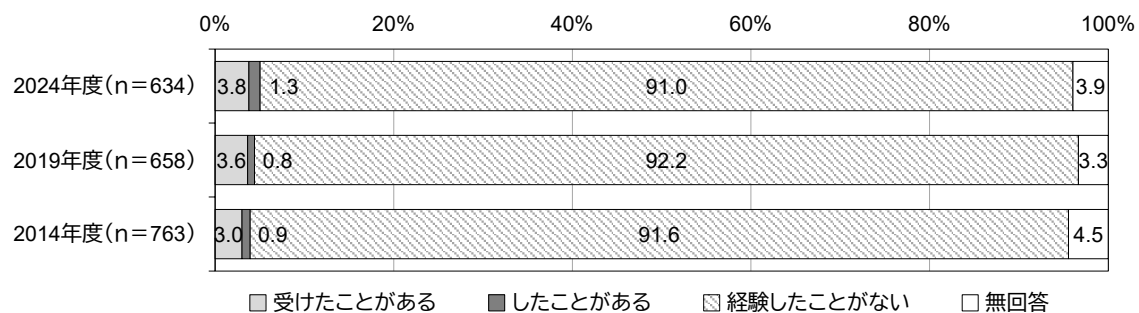
(4) 経済的な暴力

◆「経験したことがない」が9割以上、「受けたことがある」が1割未満

◆過去2回の調査と同様の傾向

「経験したことがない」(91.0%)が9割以上、「受けたことがある」(3.8%)が1割未満となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

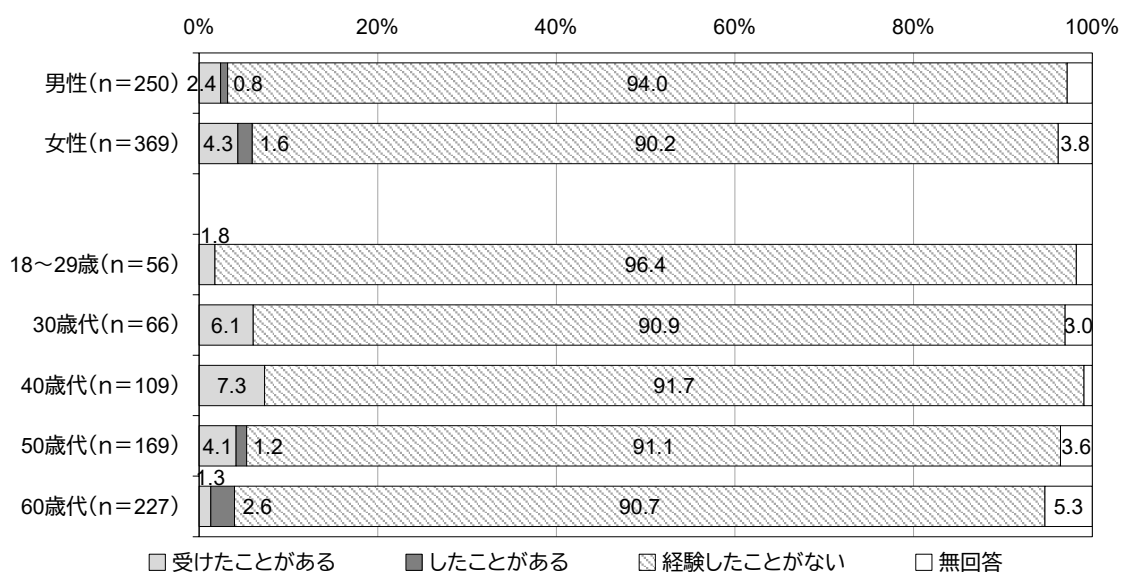


〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられないが、年代別では、30・40歳代は「受けたことがある」が1割程度

性別でみると、男女とも「経験したことがない」(男性 94.0%、女性 90.2%)が高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「経験したことがない」が高く、30歳代、40歳代は「受けたことがある」が1割程度みられます。また、50歳代、60歳代では「したことがある」が若干みられます。



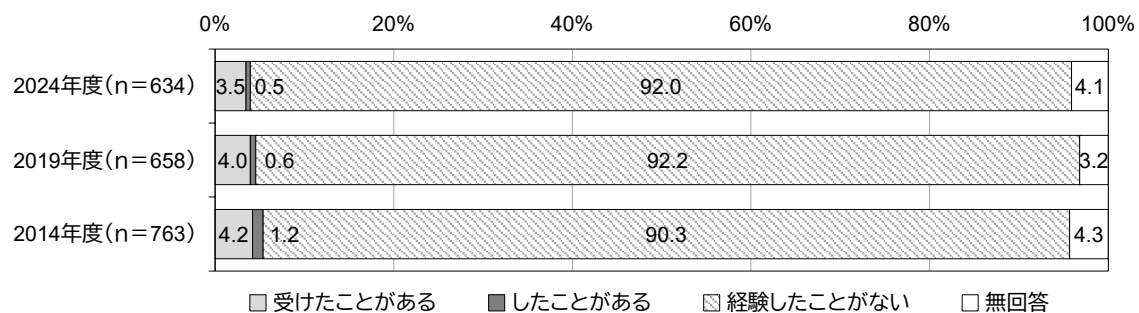
(5) 社会的な暴力

◆「経験したことがない」が9割以上、「受けたことがある」が1割未満

◆過去2回の調査と同様の傾向

「経験したことがない」(92.0%)が9割以上、「受けたことがある」(3.5%)が1割未満となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられません。

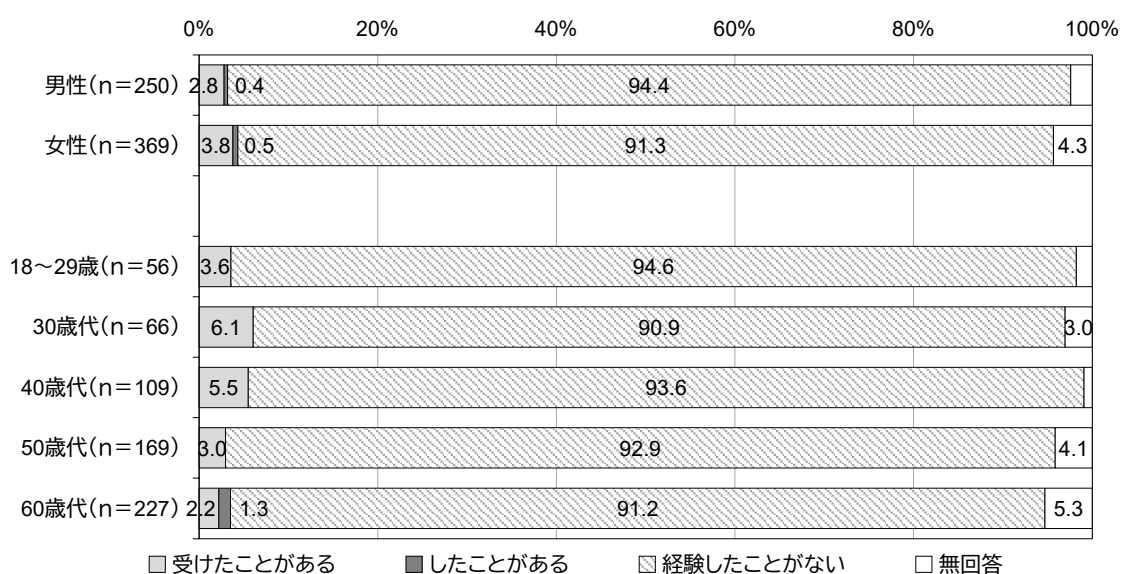


〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられないが、年代別では、30・40歳代は「受けたことがある」が1割程度

性別でみると、男女とも「経験したことがない」(男性 94.4%、女性 91.3%)が高く、性別による大きな差はみられません。

年代別でみると、いずれの年代も「経験したことがない」が高く、30歳代、40歳代は「受けたことがある」が1割程度みられます。また、60歳代では「したことがある」が若干みられます。



《参考》性・年代別

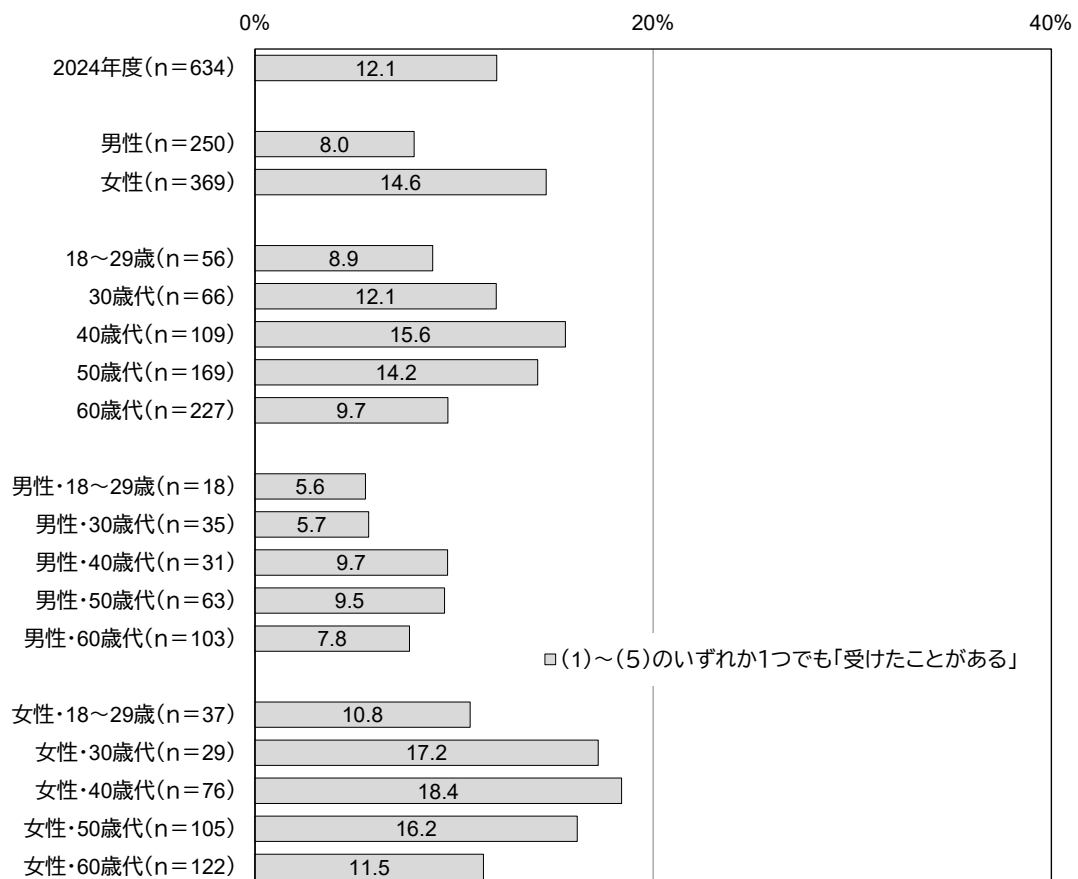
◆いずれか1つでも「受けたことがある」は女性・40歳代が最も高く、女性では30～50歳代は約2割、他の年代も女性は1割以上

◆男性では40・50歳代が約1割で比較的高い

◆男女差は30歳代で最も大きく、いずれの年代も女性が男性より高い

参考に、性・年代別を含めて(1)から(5)のいずれか1つでも「受けたことがある」場合をみると、性別では女性(14.6%)が男性(8.0%)より若干高く、年代別では40歳代(15.6%)が最も高くなっています。

性・年代別では、属性によって回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、いずれか1つでも「受けたことがある」のは、いずれの年代も女性が男性より高くなっています。女性はずべての年代が1割以上で、その中でも女性・40歳代(18.4%)が約2割で最も高く、次いで高い女性・30歳代(17.2%)、女性・50歳代(16.2%)も約2割となっています。また、男性では40歳代(9.7%)、50歳代(9.5%)が同程度に高くなっています。年代別の男女差は30歳代で最も大きく、女性(17.2%)が男性(5.7%)より11ポイント以上高くなっています。



問 22－１．あなたが受けたそのような行為について、どこか（だれか）に打ち明けた
り、相談しましたか。（○はい/△はいいえ/□はどちらでもない）

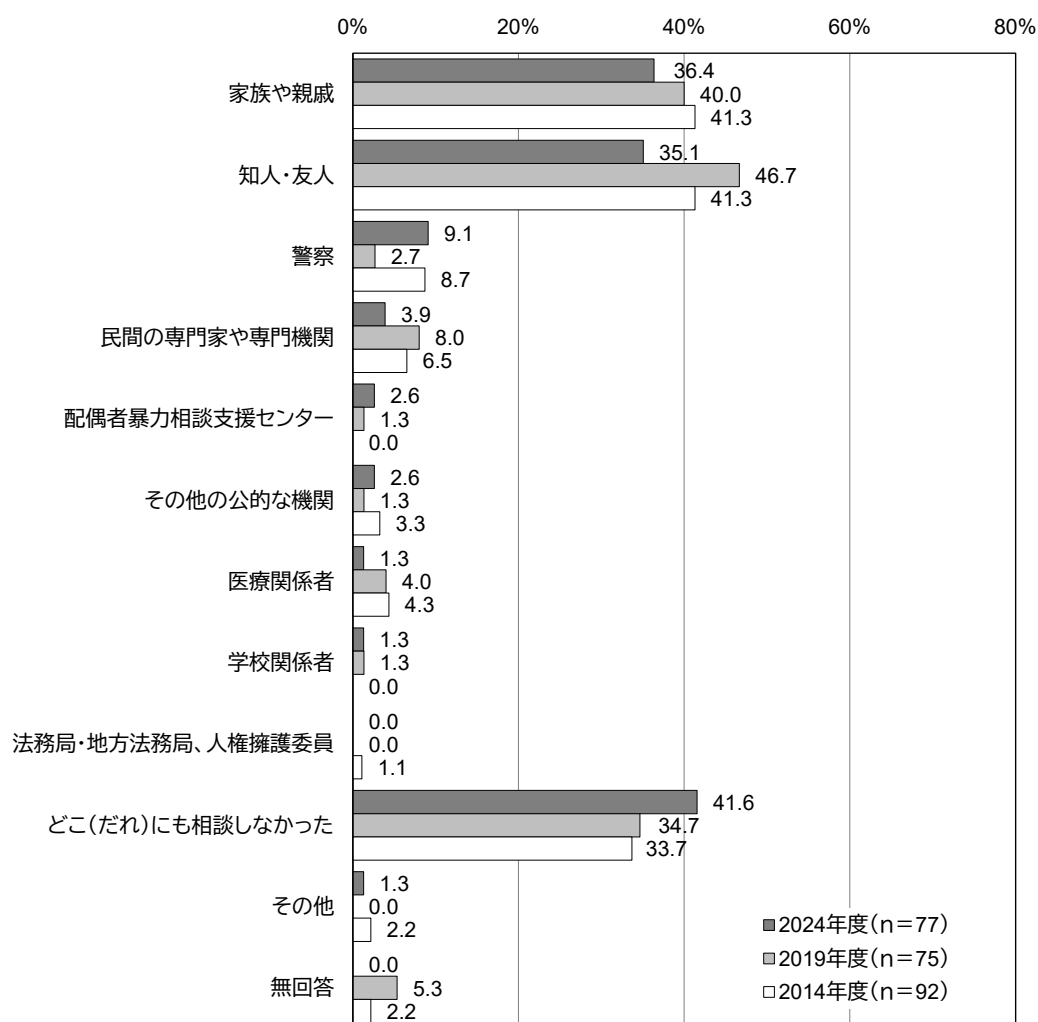
【問 22. で、1 つでも「受けたことがある」とした場合】

◆「どこ（だれ）にも相談しなかった」が4割以上、次いで「家族や親戚」「知人・友人」の2項目が3割以上

◆「知人・友人」は前回調査より低い

「どこ（だれ）にも相談しなかった」（41.6％）が4割以上で最も高く、次いで「家族や親戚」（36.4％）、「知人・友人」（35.1％）が3割以上で同程度となっています。

過去2回の調査と比較すると、「知人・友人」は前回（46.7％）より約12ポイント低くなっています。また、「家族や親戚」は若干低くなり、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は若干高くなる傾向がみられます。



※以下の選択肢はそれぞれ、内容を()内に例示して設定

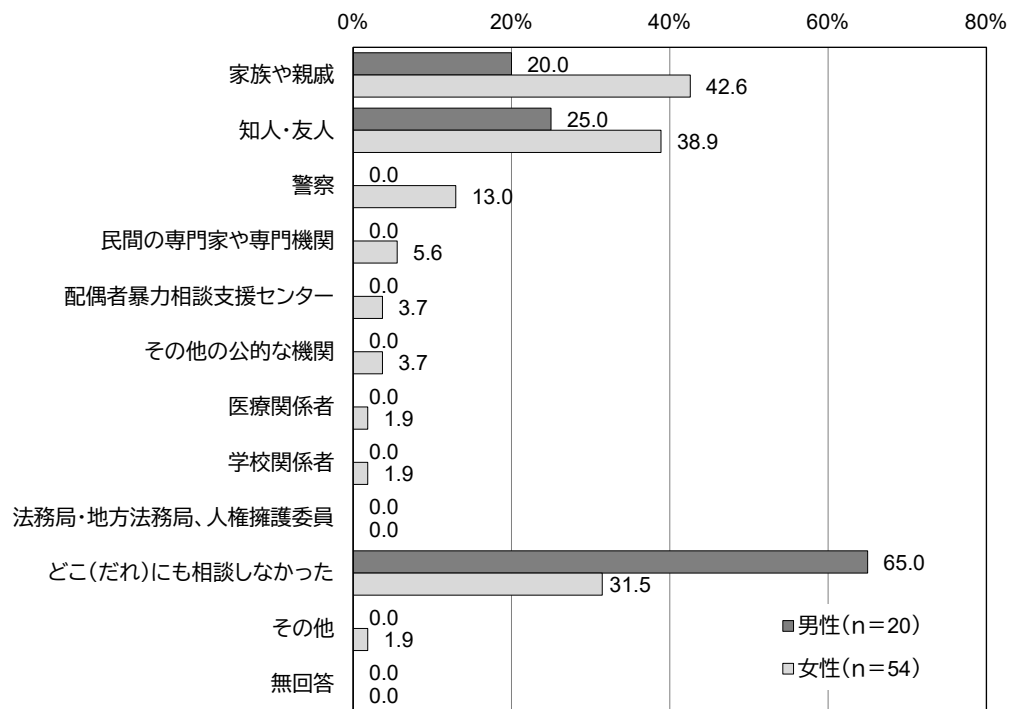
- ・民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）
- ・配偶者暴力相談支援センター（女性相談所、女性相談センター、その他の施設）
- ・医療関係者（医師、看護師など）
- ・学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）

〈「その他」の内容〉 ・ 本人に

〈属性別〉

◆男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、女性は「家族や親戚」「知人・友人」が同程度に高い

性別では、回答者数に差があることを考慮する必要がありますが、男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」（65.0％）が6割以上で最も高く、女性は「家族や親戚」（42.6％）、「知人・友人」（38.9％）の2項目が約4割で同程度に高くなっています。



年代別では、回答者数が少ない年代があるため、参考値として示します。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	5	8	17	24	22
家族や親戚	40.0	50.0	41.2	33.3	31.8
知人・友人	40.0	87.5	29.4	41.7	13.6
警察	0.0	12.5	23.5	4.2	4.5
民間の専門家や専門機関	0.0	0.0	0.0	4.2	9.1
配偶者暴力相談支援センター	0.0	12.5	5.9	0.0	0.0
その他の公的な機関	0.0	12.5	0.0	0.0	4.5
医療関係者	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0
学校関係者	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
法務局・地方法務局、人権擁護委員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どこ(だれ)にも相談しなかった	40.0	0.0	29.4	50.0	54.5
その他	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

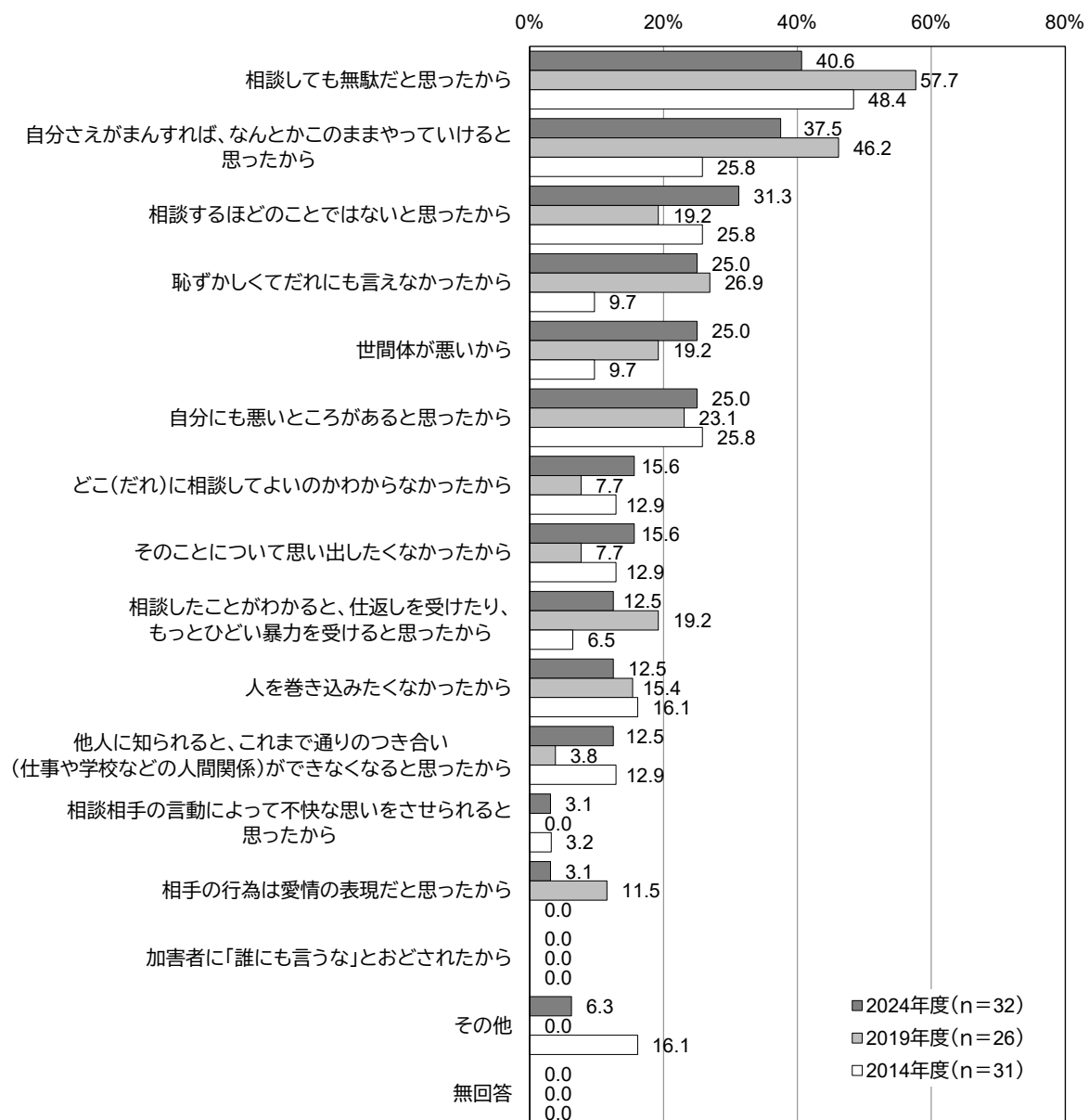
問 22－2. あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった理由は何ですか。
（〇はいくつでも）

【問 22－1. で、「どこ（だれ）にも相談しなかった」とした場合】

◆「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の2項目が約4割で高い

「相談しても無駄だと思ったから」（40.6%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（37.5%）の2項目が約4割で同程度に高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（31.3%）が3割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、回答者数が少ないことを考慮する必要がありますが、いずれの調査も「相談しても無駄だと思ったから」が最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」が高くなっています（前々回調査では複数の項目が同値）。



〈属性別〉

性別や年代別では、回答者数が少ない属性があるため、参考値として示します。

	男性	女性	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	13	17	2	-	5	12	12
相談しても無駄だと思ったから	23.1	47.1	0.0	-	80.0	41.7	25.0
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていける と思ったから	30.8	41.2	50.0	-	20.0	25.0	50.0
相談するほどのことではないと思ったから	38.5	29.4	100.0	-	40.0	33.3	16.7
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	7.7	35.3	0.0	-	20.0	16.7	33.3
世間体が悪いから	23.1	23.5	0.0	-	20.0	16.7	33.3
自分にも悪いところがあると思ったから	30.8	23.5	50.0	-	40.0	8.3	33.3
どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから	15.4	11.8	0.0	-	40.0	8.3	8.3
そのことについて思い出したくなかったから	15.4	17.6	50.0	-	0.0	25.0	8.3
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっと ひどい暴力を受けると思ったから	23.1	5.9	0.0	-	40.0	0.0	16.7
人を巻き込みたくなかったから	15.4	11.8	50.0	-	20.0	0.0	16.7
他人に知られると、これまで通りのつき合い (仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	7.7	17.6	0.0	-	0.0	8.3	25.0
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると 思ったから	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	0.0	5.9	0.0	-	0.0	8.3	0.0
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0
その他	7.7	5.9	0.0	-	0.0	16.7	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・加害者のカウンセリング、ケアを行い、自己解決したため。
- ・嫁さんの言うことは、全て正しい。逆らうとメン作ってもらえない。嫁さんの言うことに「ハイ」しか言えません。

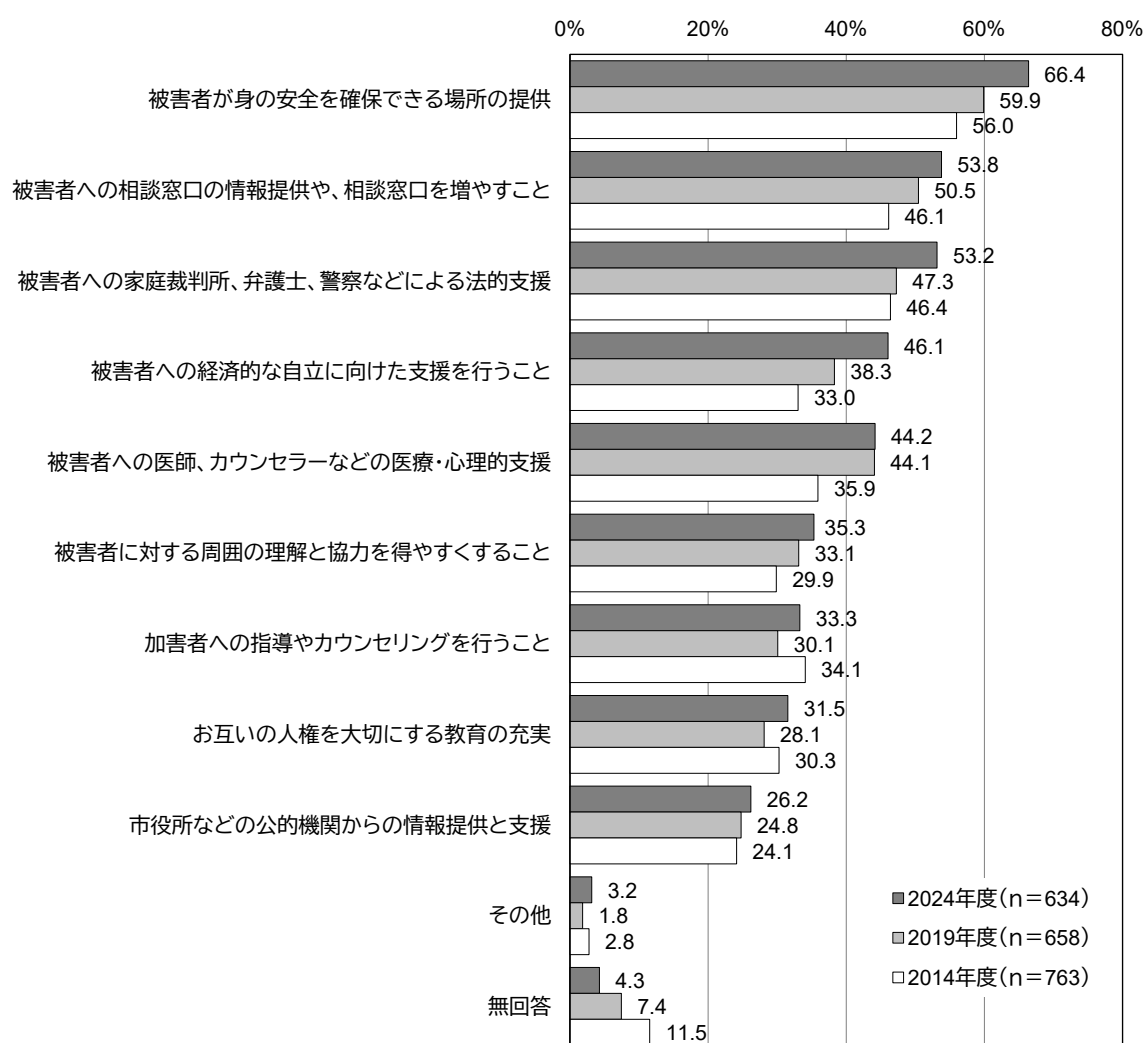
問 23. パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような支援が有効だと思いますか。（〇はいくつでも）

◆「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が6割以上、次いで「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援」の2項目が5割以上

◆ほとんどの項目が高くなる傾向

「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」（66.4%）が6割以上で最も高く、次いで「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」（53.8%）、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援」（53.2%）の2項目が5割以上で同程度となっています。

過去2回の調査と比較すると、上位項目を中心にほとんどの項目で高くなる傾向がみられます。

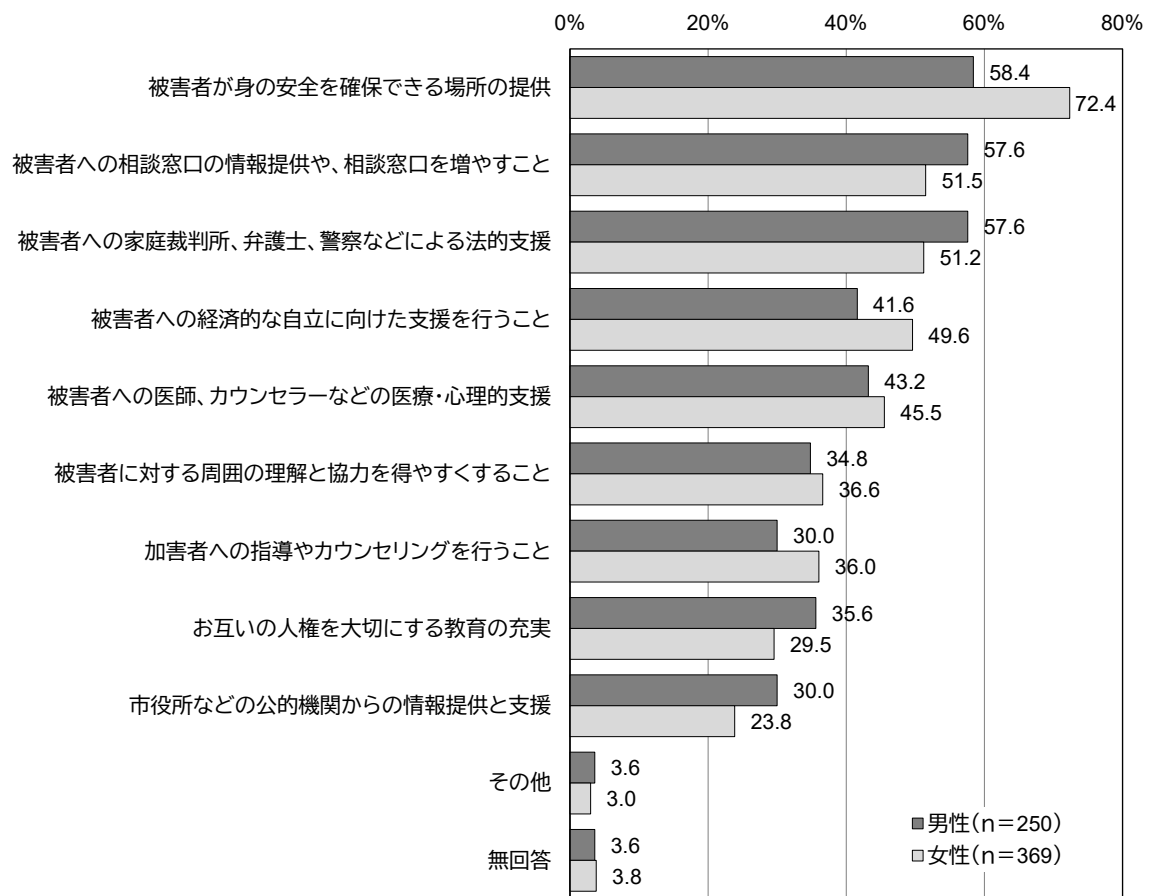


〈属性別〉

◆男女とも「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が最も高く、女性が男性より高い

性別でみると、男女とも「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」（男性 58.4%、女性 72.4%）が最も高く、女性が男性より 14 ポイント以上高くなっています。

次いで男女とも「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」（男性 57.6%、女性 51.5%）、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援」（男性 57.6%、女性 51.2%）が同程度に高く、いずれも男性が女性より若干高くなっています。



◆いずれの年代も「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が最も高く、次いで高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が最も高く、次いで 18～29 歳、30 歳代は「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援」（18～29 歳 60.7%、30 歳代 62.1%）、40 歳代は「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」（58.7%）、50 歳代は「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」（50.9%で同値）、60 歳代は「被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと」（55.1%）となっています。

年代差は「被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと」で最も大きく、最も高い 40 歳代（58.7%）と最も低い 18～29 歳（37.5%）では 21 ポイント以上の差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
被害者が身の安全を確保できる場所の提供	64.3	66.7	71.6	66.9	64.8
被害者への相談窓口の情報提供や、相談窓口を増やすこと	57.1	50.0	56.0	50.9	55.1
被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的支援	60.7	62.1	55.0	49.7	50.7
被害者への経済的な自立に向けた支援を行うこと	37.5	45.5	58.7	50.9	39.6
被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的支援	55.4	45.5	44.0	44.4	41.0
被害者に対する周囲の理解と協力を得やすくすること	42.9	36.4	39.4	34.9	32.2
加害者への指導やカウンセリングを行うこと	48.2	30.3	31.2	31.4	33.5
お互いの人権を大切に教育の充実	37.5	30.3	30.3	29.0	33.0
市役所などの公的機関からの情報提供と支援	33.9	24.2	29.4	26.0	23.3
その他	3.6	1.5	7.3	3.6	1.3
無回答	3.6	3.0	1.8	1.8	6.6

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・市役所は、事務的なことばかりで実際に動いてくれないので、しっかり動いてほしい。
- ・広報活動
- ・それは暴力なんだよ、逃げていいんだよって被害者に気づいてもらえるような広報
- ・子どもの時からの教育
- ・公的機関は、土・日が休みだったり、夜間は不在。そんな時期こそ事は起きる。
- ・地域社会の復興
- ・加害者側の親の教育
- ・加害者への厳罰、隔離
- ・加害者への法的罰
- ・DVは加害者の病気。犯罪。治療方法を確立する。
- ・積極的な警察の介入がまず大事。その他の項目は後の話になると思う。
- ・現実問題として、法で管理と対策が一番何より救える手段ですので、誰かの命がなくなる前に一刻も早く受け止める必要があります。
- ・自分だけなら逃げられても、親や子どもを連れて逃げるのは難しすぎるので、逃げられない。加害者への警告などを迅速に。相談した瞬間から被害者は身の危険にさらされてしまうので。
- ・自分にも原因があるかもしれないと、自分との向き合い方を学べる場所を提供する。
- ・被害を受けている人が、自分が置かれている状況が異常であると気づかせる仕組みづくり
- ・暴力を行うパートナーから別れやすいよう、被害者への経済支援が有効だと思う。

7 男女共同参画社会について（問 24～問 27）

問 24. あなたは、生活における各種の場で、その方針や政策が決められるときに、女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。（それぞれ1つに○）

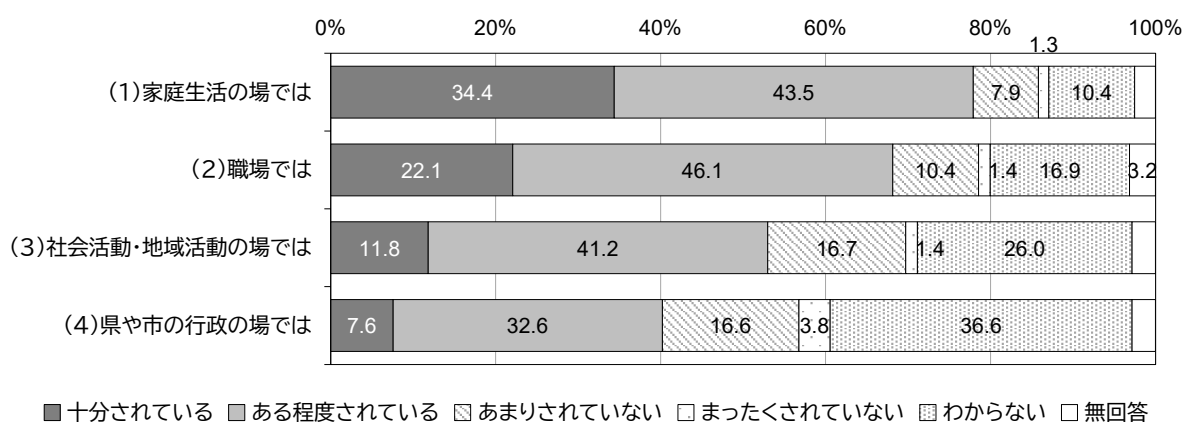
◆「県や市の行政の場」は「わからない」、他の項目はいずれも「ある程度されている」が最も高い

◆合計値『されている』は「家庭生活の場」が約8割で最も高く、合計値『されていない』は「県や市の行政の場」「社会活動・地域活動の場」が約2割で同程度に高い

「（4）県や市の行政の場では」を除き「ある程度されている」が最も高く、「（4）県や市の行政の場では」は「わからない」（36.6%）が最も高くなっています。

「十分されている」「ある程度されている」の合計値『されている』は「（1）家庭生活の場では」（77.9%）が約8割で最も高く、次いで「（2）職場では」（68.2%）が約7割となっています。

一方、「あまりされていない」「まったくされていない」の合計値『されていない』は「（4）県や市の行政の場では」（20.4%）、「（3）社会活動・地域活動の場では」（18.1%）が約2割と同程度に高くなっています。

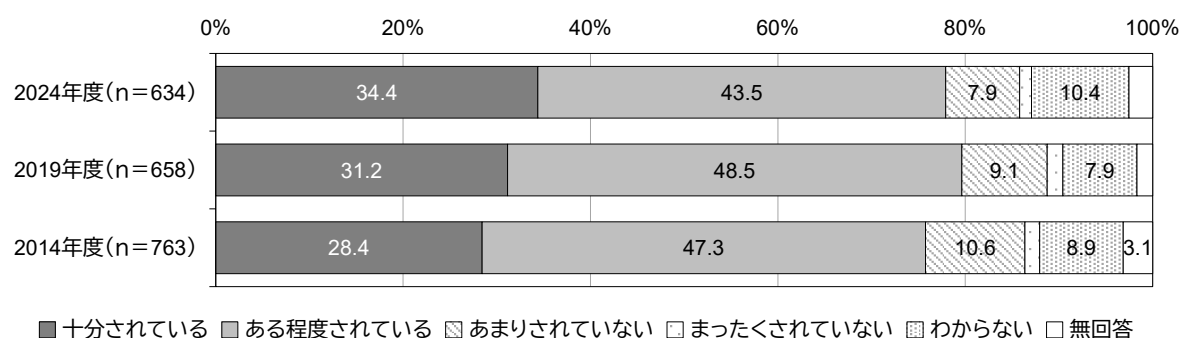


(1) 家庭生活の場では

◆合計値『されている』が約8割で、過去2回の調査と同様の傾向

「ある程度されている」(43.5%)が4割以上で最も高く、次いで高い「十分されている」(34.4%)との合計値『されている』(77.9%)は約8割となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『されている』は前回(79.7%)や前々回(75.7%)と同程度となっています。



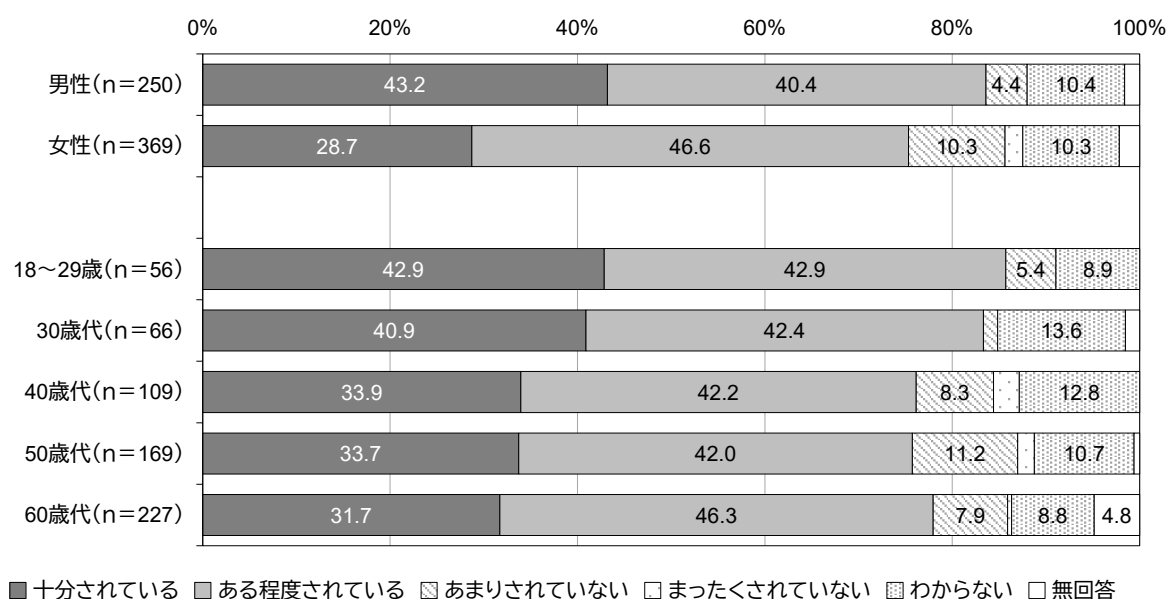
〈属性別〉

◆男性は「十分されている」、女性は「ある程度されている」が最も高い

◆年代別では、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高い

性別でみると、男性は「十分されている」(43.2%)、女性は「ある程度されている」(46.6%)が最も高くなっています。また、女性は「あまりされていない」(10.3%)が1割以上で比較的高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高くなっています(18～29歳(42.9%)は「十分されている」と同値)。また、50歳代は「あまりされていない」(11.2%)が1割以上で比較的高くなっています。

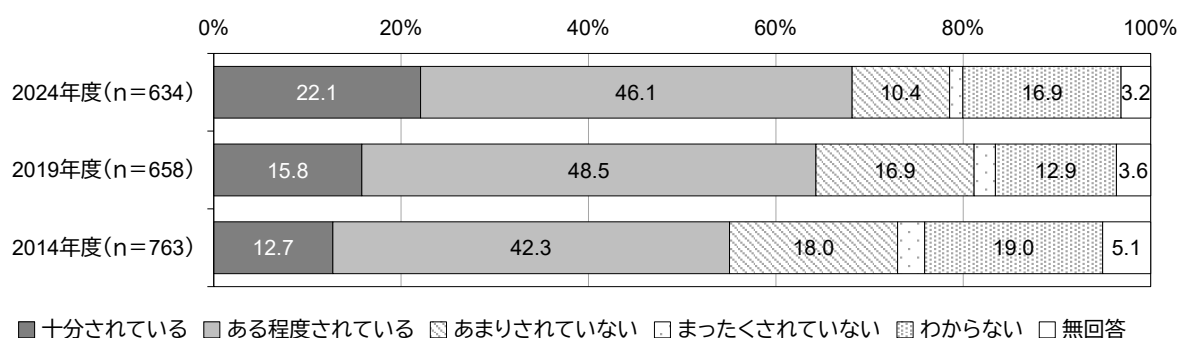


(2) 職場では

◆合計値『されている』が約7割で、高くなる傾向

「ある程度されている」(46.1%)が4割以上で最も高く、次いで高い「十分されている」(22.1%)との合計値『されている』(68.2%)は約7割となっています。

過去2回の調査と比較すると、合計値『されている』は前回(64.3%)や前々回(55.0%)より高くなる傾向がみられます。



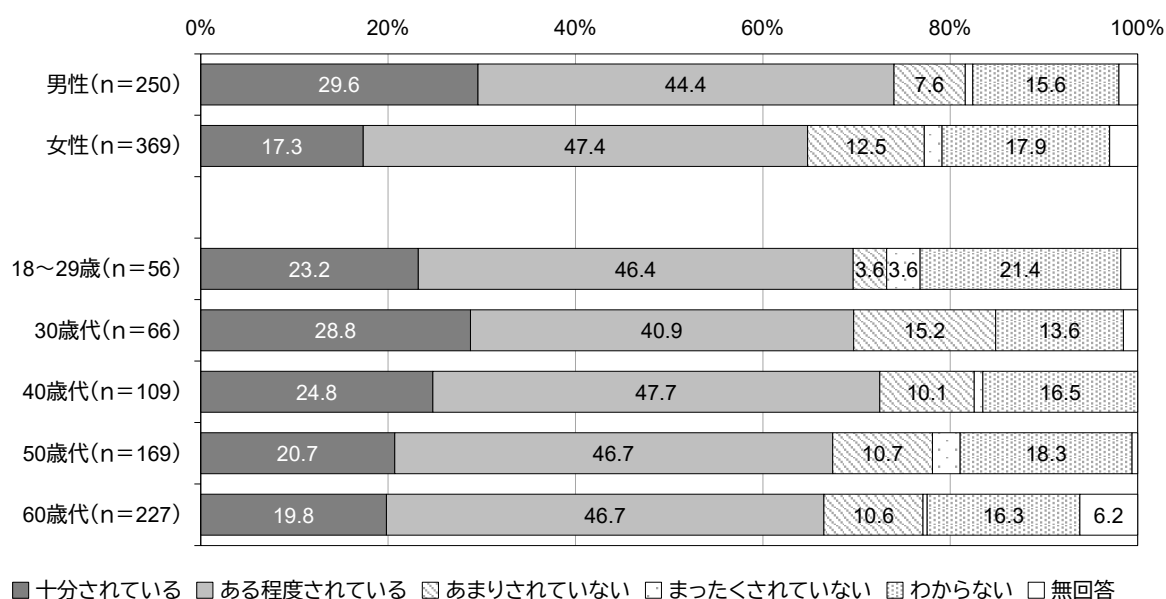
〈属性別〉

◆男女とも「ある程度されている」が最も高く、「十分されている」は男性が女性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高い

性別でみると、男女とも「ある程度されている」(男性 44.4%、女性 47.4%)が最も高く、「十分されている」は男性(29.6%)が女性(17.3%)より12ポイント以上高くなっています。また、女性は「あまりされていない」(12.5%)が1割以上で比較的高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高くなっています。また、18~29歳を除き「あまりされていない」が1割以上となっています。

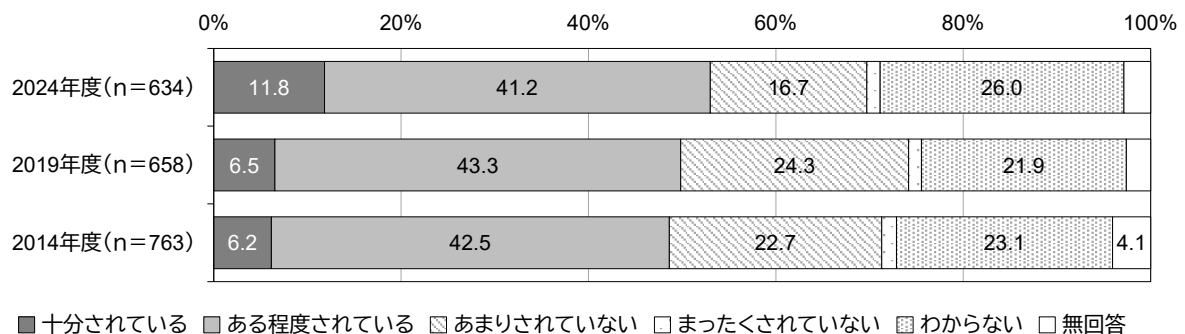


(3) 社会活動・地域活動の場では

◆合計値『されている』が5割以上で、過去2回の調査と同様の傾向

「ある程度されている」(41.2%)が4割以上で最も高く、次いで「わからない」(26.0%)が2割以上となっています。「十分されている」(11.8%)と「ある程度されている」との合計値『されている』(53.0%)は5割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、合計値『されている』は前回(49.8%)や前々回(48.7%)より若干高くなる傾向がみられます。



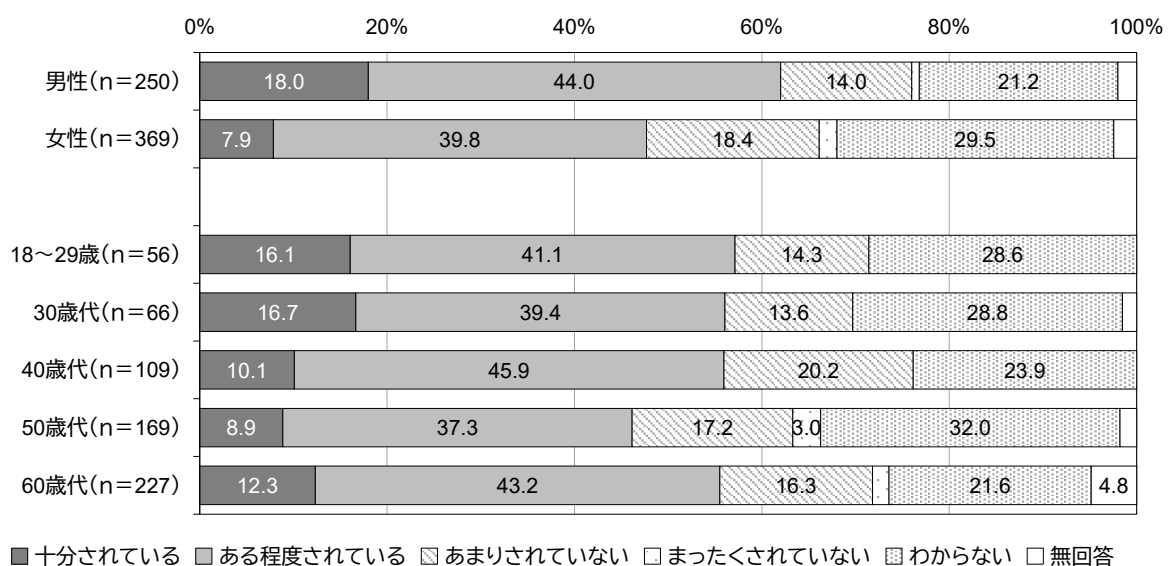
〈属性別〉

◆男女とも「ある程度されている」が最も高く、「十分されている」は男性が女性より高い

◆年代別では、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高い

性別でみると、男女とも「ある程度されている」(男性 44.0%、女性 39.8%)が最も高く、「十分されている」は男性(18.0%)が女性(7.9%)より10ポイント以上高くなっています。また、女性は「あまりされていない」(18.4%)が約2割で比較的高くなっています。

年代別でみると、いずれの年代も「ある程度されている」が最も高くなっています。また、40歳代は「あまりされていない」(20.2%)が2割以上で比較的高くなっています。



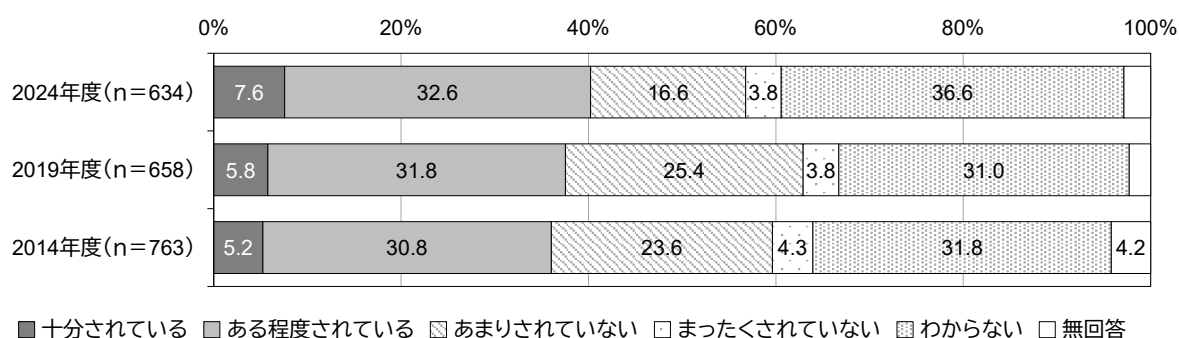
(4) 県や市の行政の場では

◆「わからない」が約4割で最も高い

◆合計値『されている』が4割以上で、過去2回の調査と同様の傾向

「わからない」(36.6%)が約4割で最も高く、次いで「ある程度されている」(32.6%)が3割以上となっています。「十分されている」(7.6%)と「ある程度されている」との合計値『されている』(40.2%)は4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、合計値『されている』は前回(37.6%)や前々回(36.0%)より若干高くなる傾向がみられます。



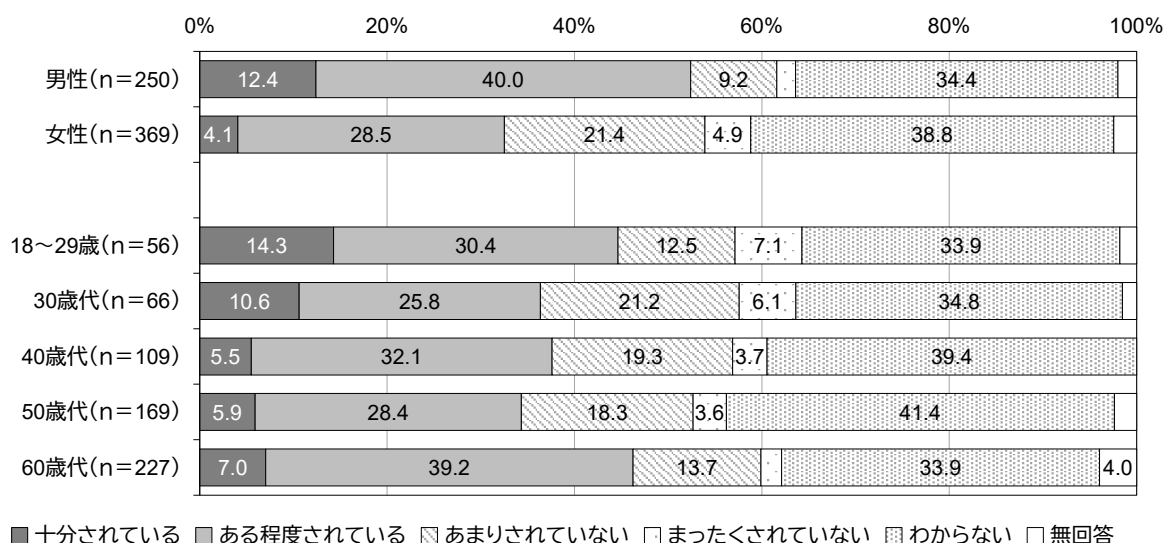
〈属性別〉

◆男性は「ある程度されている」、女性は「わからない」が最も高い

◆年代別では、60歳代は「ある程度されている」、他の年代は「わからない」が最も高い

性別でみると、男性は「ある程度されている」(40.0%)、女性は「わからない」(38.8%)が最も高くなっています。また、女性は「あまりされていない」(21.4%)が2割以上で比較的高くなっています。

年代別でみると、60歳代を除き「わからない」が最も高く、60歳代は「ある程度されている」(39.2%)が最も高くなっています。



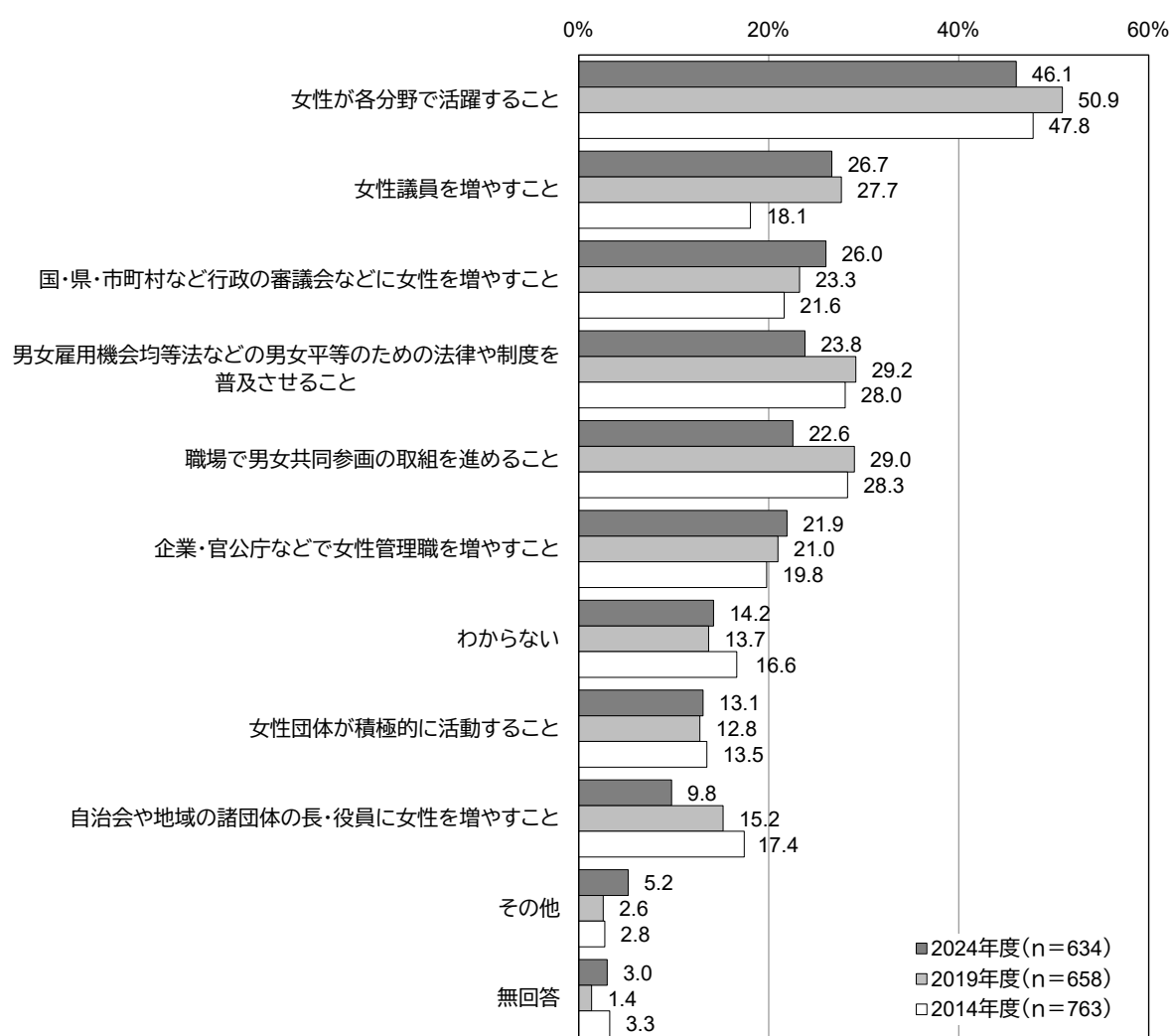
問 25. あなたは、行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図るうえで、どのようなことが大切だと思いますか。（3つまで○）

◆「女性が各分野で活躍すること」が4割以上、次いで「女性議員を増やすこと」「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」の2項目が約3割

◆過去2回の調査と同様の傾向

「女性が各分野で活躍すること」（46.1％）が4割以上で最も高く、次いで「女性議員を増やすこと」（26.7％）、「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」（26.0％）の2項目が約3割で同程度となっています。

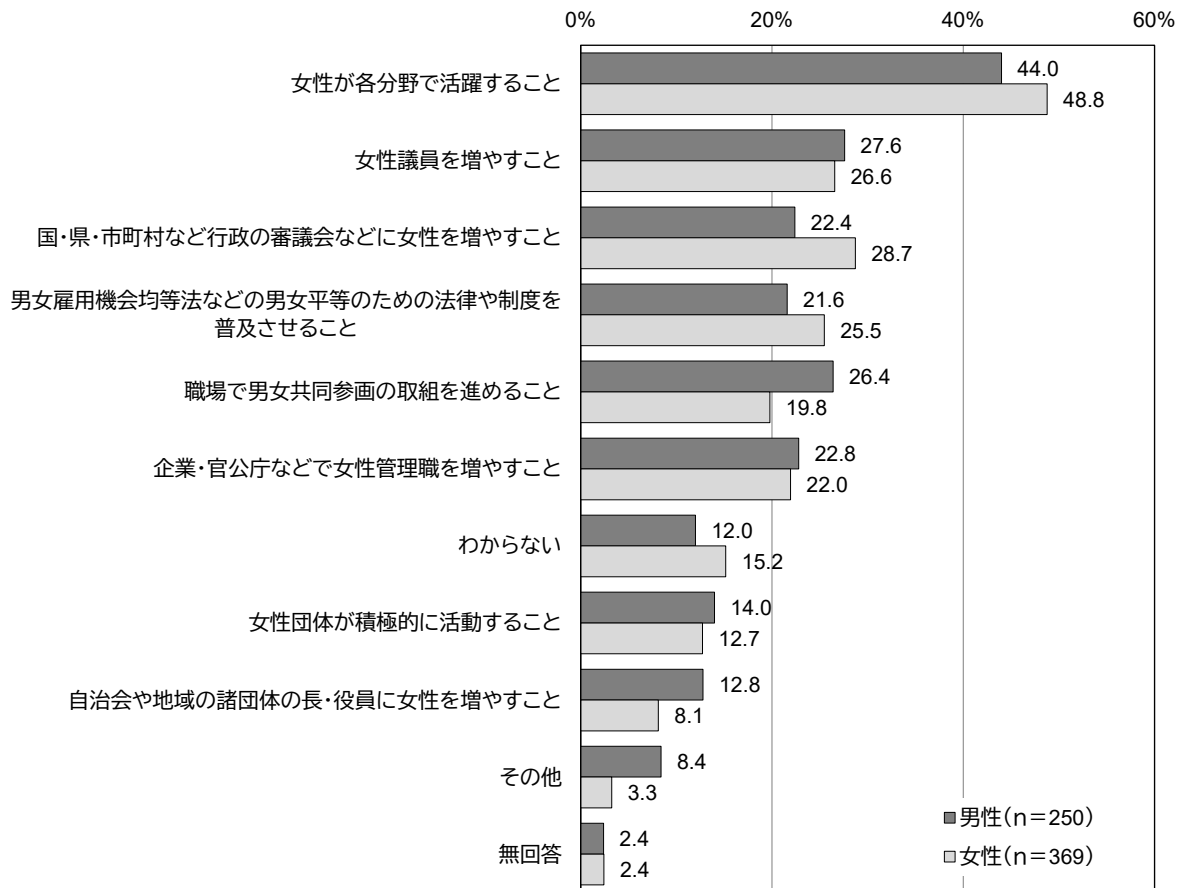
過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」は若干低くなる傾向がみられます。



〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「女性が各分野で活躍すること」（男性 44.0%、女性 48.8%）が最も高く、次いで「女性議員を増やすこと」（男性 27.6%、女性 26.6%）が高くなっており、性別による大きな差はみられません。



◆いずれの年代も「女性が各分野で活躍すること」が最も高く、次いで高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「女性が各分野で活躍すること」が最も高く、次いで18～29歳は「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を普及させること」(28.6%)、30歳代は「女性議員を増やすこと」(31.8%)、他の年代はいずれも「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」が高くなっています。

年代差は「国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと」で最も大きく、最も高い40歳代(30.3%)と最も低い30歳代(10.6%)では約20ポイントの差がみられます。

	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
n	56	66	109	169	227
女性が各分野で活躍すること	41.1	53.0	45.0	44.4	48.0
女性議員を増やすこと	23.2	31.8	28.4	24.3	27.3
国・県・市町村など行政の審議会などに女性を増やすこと	26.8	10.6	30.3	26.6	28.2
男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を普及させること	28.6	22.7	18.3	24.9	24.7
職場で男女共同参画の取組を進めること	26.8	21.2	16.5	17.8	27.3
企業・官公庁などで女性管理職を増やすこと	25.0	24.2	26.6	17.8	22.0
わからない	16.1	18.2	9.2	15.4	14.5
女性団体が積極的に活動すること	12.5	13.6	12.8	13.0	13.7
自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと	8.9	3.0	17.4	8.3	9.7
その他	3.6	7.6	7.3	5.9	3.5
無回答	1.8	1.5	0.9	3.0	3.5

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・男・女と分けないこと。
- ・役や職に女性を増やすというのはあまりにも安易な発想だと思います。大切なのは中味
- ・女性議員など増やしても、間違ったこともするのでなんとも言えない。
- ・男女が対等な構成員であるならば、真に能力を問い、能力に差異がないのであれば平等に採用される社会であるべき。
- ・女性が自由に意見を述べられる場を設けること。
- ・学校教育の中で教える。
- ・意見を聞き、大切にすれば、男性でもいいと思う。ただ女性が増えたところで変わらない。女性を前面に出して話をするのは平等ではない。平等に意見を聞ける人が多くなればいい。そうすれば自然と女性

は増える。それよりも、意見をどう伝えているのかわからない。こうしてほしいは、だれがだれに伝えているのか知らない。もう少し、意見がどう伝わっていくのかがわかりやすくなればいいと思う。

- ・教育。子どものころからの。
- ・子どものころより家庭教育、学校教育において、男女というより父と母の格差を意識させない教育が必要だと思う。
- ・小学校からの教育で組み入れる。女性の意識を高めるような講演会や女性団体に活躍の場を作る。
- ・実験的に選挙権を女性のみにあたえる。
- ・女性が各分野で活動するためには、権利と義務責任を勉強することです。社会で活動するためには、自分で責任をとる覚悟が必要。

- ・現実に女性格差がある事を目の当たりにし、理解している者が行政に参加すること。男女問わない、女でも分かってない人いる。
- ・小学校からの教育。
- ・TVなど、メインキャスターが男だったりするのを目にすると、なぜと思う。参画を図りたくても、決定権が男なのは。
- ・能力も必要。一緒ではない。
- ・女性の考え方を変えること。
- ・すでに過度に達成されている。
- ・男女差別意識自体がない世の中が無理です。何かを求めると同時に何かを失うのが道理ですので、分ける必要があるものはきちっと分け、分ける必要がないものは分けなくていいと思います。
- ・役職にかかわらず自由に参加できる体制をつくる。
- ・女性個々が、行政や企業、社会活動等に積極的に参画する意識をもってもらうこと。
- ・参画の受け皿は広くあるのに、参画希望者がまわりにいません。地域の役をお願いにいても断り続けます。
- ・優秀であれば当選するし、昇進もする。女性を優遇し過ぎることは、今後男性差別に繋がるし、現状その傾向もみられる。気にしすぎ。
- ・男女関係なく優秀な人が活躍できる社会になってほしい。
- ・昭和の考え、古典的な考えをもつ上の人間が辞職すれば良い。
- ・女性を増やせば良いってもんじゃない。女性だからといって能力がない方が選ばれるのも問題だと思う。
- ・共働きしなくてもすむ程度に世帯収入（賃金）を上げる。女性が働かなくてもよい、男性が長時間労働から解放されることで、女性に時間的な余裕が生まれ、各分野で活躍する人が現れる。
- ・女性が参加する意欲を持てる組織、地域をつくることや、何が男女共同参画している状態なのか、しっかり定義づけること。
- ・差別をする人間の思考を矯正し、事実が確認された場合は徹底的に排除すること。
- ・あまり気にならない、興味がない。
- ・今以上に促進する必要はない。
- ・もう必要ない。
- ・このアンケートをしている時点で女性を下に見ている。

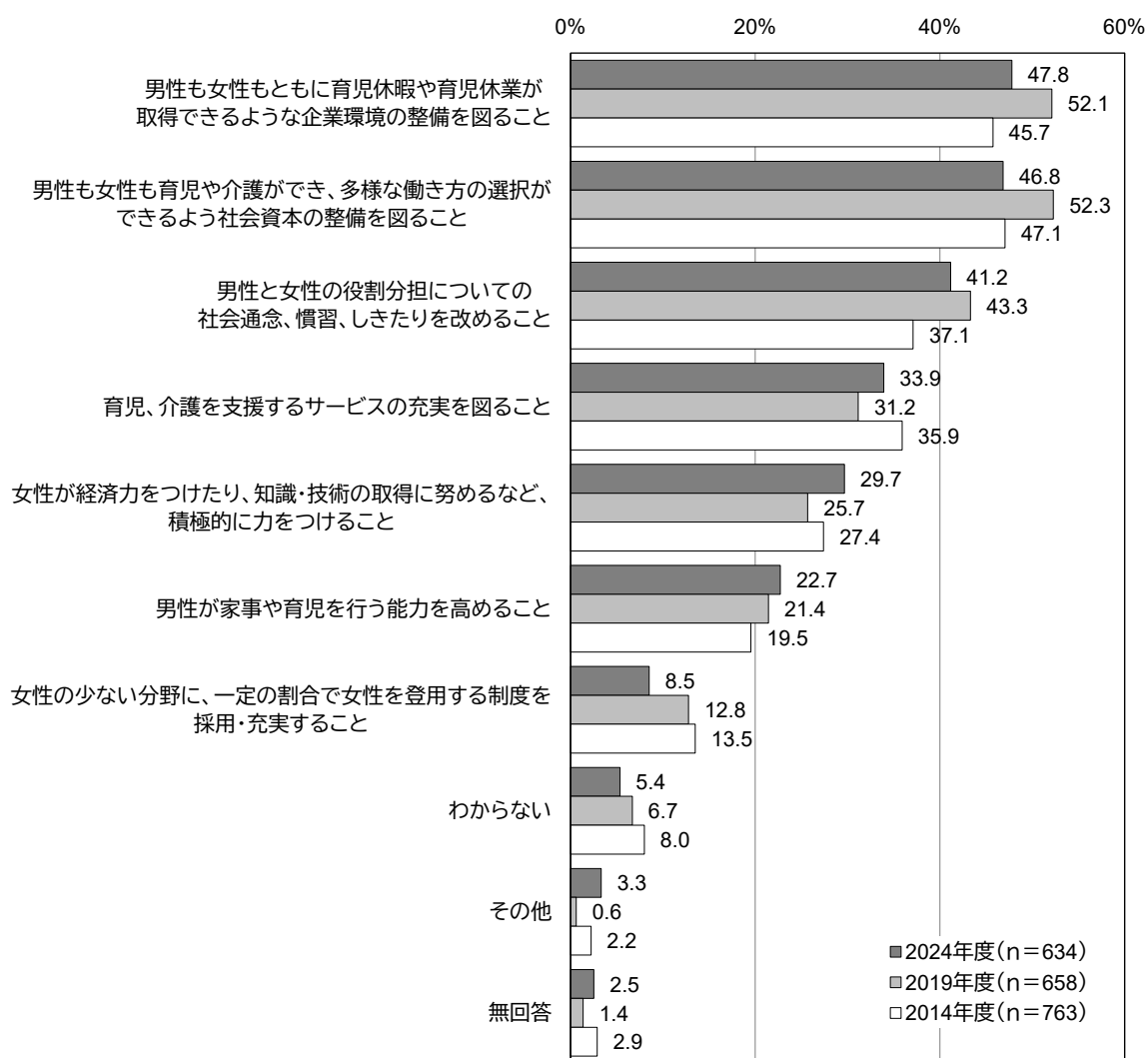
問 26. あなたは、今後、男性も女性もともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）

◆「男性も女性も育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備」「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備」の2項目が約5割、次いで「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が4割以上

◆過去2回の調査と同様の傾向

「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」（47.8%）、「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること」（46.8%）の2項目が約5割、次いで「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（41.2%）が4割以上となっています。

過去2回の調査と比較すると、大きな変化はみられませんが、その中で「女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」は若干低くなる傾向がみられます。

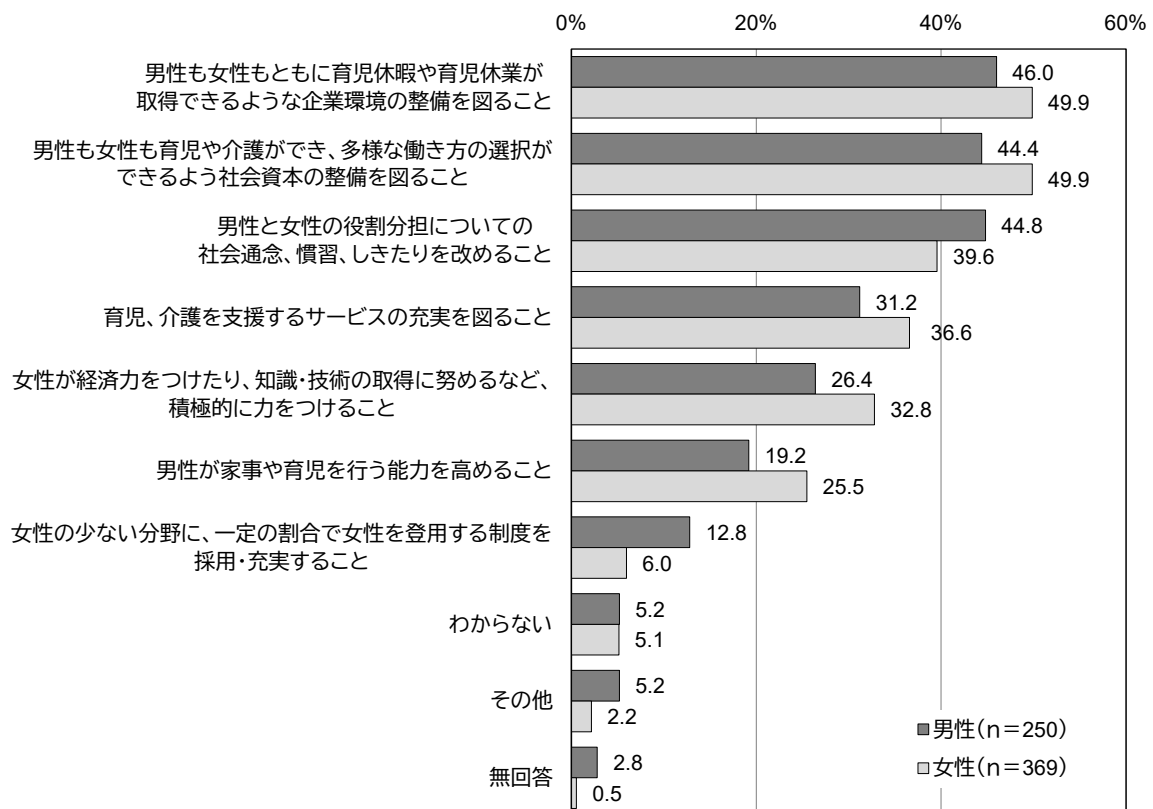


〈属性別〉

◆性別による大きな差はみられない

性別でみると、男女とも「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」（男性 46.0%、女性 49.9%）、「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること」（男性 44.4%、女性 49.9%）、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（男性 44.8%、女性 39.6%）の3項目が高く、性別による大きな差はみられません。

その中で「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること」は女性、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は男性が比較的高くなっています。



◆30 歳代以下は「男性も女性も育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備」、40 歳代以上は「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備」が最も高い

◆年代差は「男性も女性も育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備」「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」で大きい

年代別でみると、18～29 歳、30 歳代は「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」（18～29 歳 64.3%、30 歳代 60.6%）、40 歳代以上はいずれも「男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること」が最も高くなっています。

年代差は「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」で大きく、「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」は最も高い 18～29 歳（64.3%）と最も低い 60 歳代（44.5%）で、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は最も高い 30 歳代（48.5%）と最も低い 18～29 歳（28.6%）で、それぞれ約 20 ポイントの差がみられます。

	18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代
n	56	66	109	169	227
男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること	64.3	60.6	45.0	45.0	44.5
男性も女性も育児や介護ができ、多様な働き方の選択ができるよう社会資本の整備を図ること	44.6	33.3	50.5	49.1	49.3
男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	28.6	48.5	36.7	40.8	45.4
育児、介護を支援するサービスの充実を図ること	37.5	31.8	28.4	34.9	36.1
女性が経済力をつけたり、知識・技術の取得に努めるなど、積極的に力をつけること	19.6	22.7	34.9	32.5	30.4
男性が家事や育児を行う能力を高めること	30.4	25.8	25.7	21.3	20.3
女性の少ない分野に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	8.9	4.5	7.3	6.5	11.9
わからない	7.1	6.1	7.3	5.3	4.0
その他	0.0	7.6	2.8	3.6	3.1
無回答	0.0	3.0	0.0	1.2	2.6

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

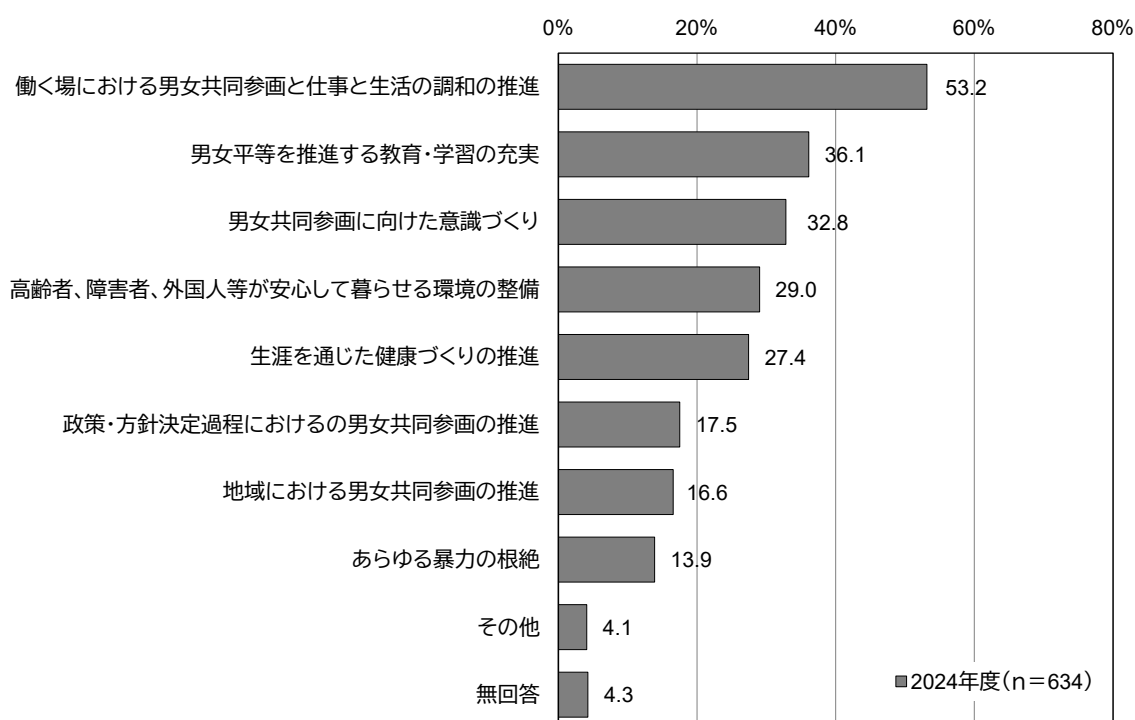
〈「その他」の内容〉

- ・区の役員を一度女性だけにしてみる。
- ・女性の意識改革
- ・子育てする母親が、男女の区別なく教育する事
- ・女性は妊娠・出産をすると、どうしてもキャリアにブランクができてしまう。その上で、社会で活躍できるモデルが少なく、ビジョンが描けない。仕事をしていない方が地域活動には積極的に参加できる。「あらゆる分野」に積極的に参画していくのは不可能。自分が参画したい分野に参画できる自由度が必要
- ・すべての成人男性、女性が他人事と思わず、自分自身の問題として考えること。A I の時代になれば、人間は必要とされなくなるかもしれない。
- ・男女共に休暇をあたえるということは企業の体力が必要（資金力）
- ・能力、知識のある人を性別に関係なく参画してもらう。
- ・勤務時間を減らす。
- ・何より男女互いに思いやる気持ちが必要だと思います。
- ・性別に伴う特性や個人の特性を尊重して、活躍しやすい風土づくりが必要。無理に女性を優先する事は、男性のやる気を損ねる。
- ・地域の問題を掘り起こすには、男女の意見が必要。
- ・育児休暇や育児休業に関しては、企業だけではなく、国としてももう少し取得する事へのメリットなど問題点を考えてほしい。
- ・積極的な参画を求めているのは、ほんのごく一部だと思いますが、参画をお願いにいても断られます。
- ・上層部が古い古典的な考えがあるのではないか。上が変われば下も変わる。
- ・日本の賃金（所得）を今の倍にする。
- ・本当にあらゆる分野でよいのでしょうか。そもそも不人気な分野とかを考慮する必要があるのでしょうか。もちろん、あえてその分野に参画したいという女性を拒絶してはいけないと思いますが、そこに向ける努力は相当なものが必要である割に、得られるものは少ない気がします。
- ・差別をする人間の思考を矯正し、事実が確認された場合は徹底的に排除すること
- ・俗にポリコレと呼ばれる女性の地位向上を目指す声の大きな方々を、同じ女性の立場で抑え込める社会ができ上がると良いですね。現状、ゴネ得に思える事や、何でもかんでも文句を言えばそれが通ってしまうという感があります。女性蔑視は良くないですが、だからといって女性のみ優遇するのもおかしい話であり、逆に男性蔑視になるのではとったりもします。
- ・現状で良いだろう。
- ・興味がない

問 27. あなたは、男女共同参画社会の実現に向け、沼田市として特にどのようなことに取り組むべきと思いますか。（3つまで○）

◆「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」が5割以上で最も高く、次いで「男女平等を推進する教育・学習の充実」「男女共同参画に向けた意識づくり」の2項目が3割以上

「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」（53.2%）が5割以上で最も高く、次いで「男女平等を推進する教育・学習の充実」（36.1%）、「男女共同参画に向けた意識づくり」（32.8%）の2項目が3割以上となっています。



※選択肢はそれぞれ、以下の内容を()内に例示して設定

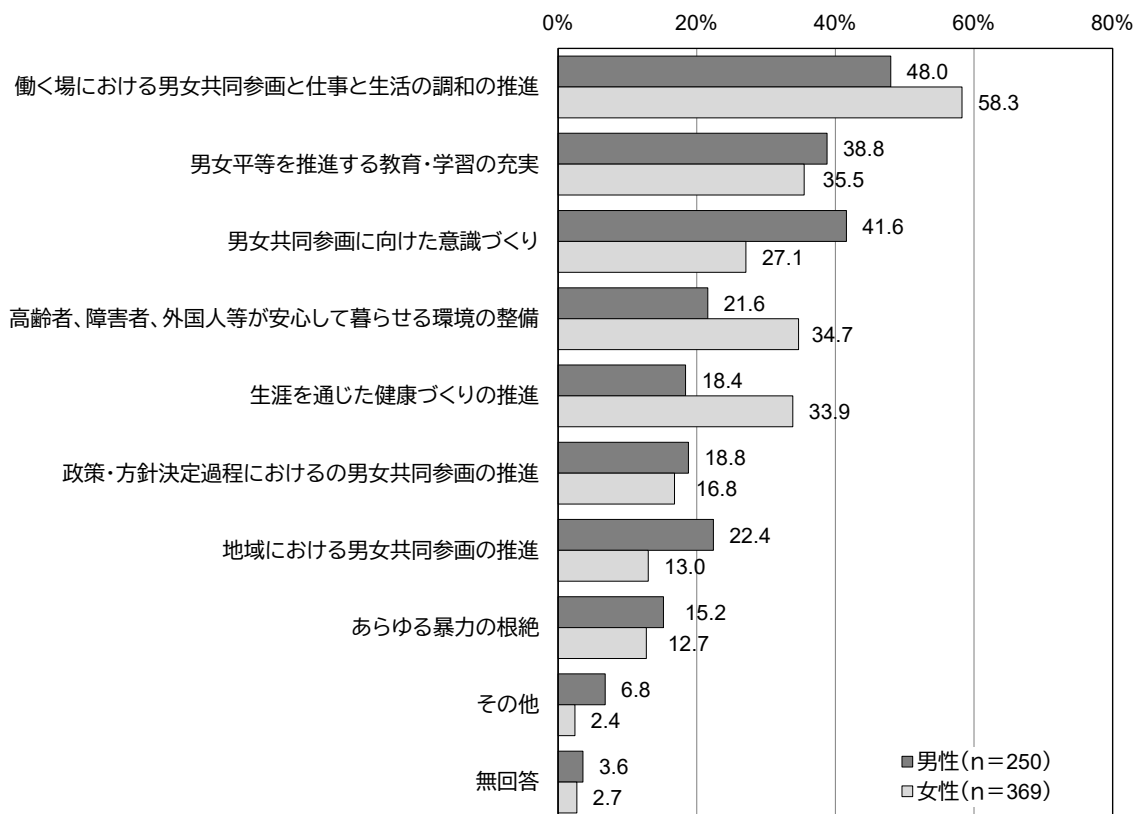
- ・働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進（事業所の取組促進、女性が働きやすい環境づくり、仕事と育児・介護の両立支援推進など）
- ・男女平等を推進する教育・学習の充実（市民の学習機会・学校教育の推進など）
- ・男女共同参画に向けた意識づくり（社会制度・慣行の見直し、広報・啓発活動の推進など）
- ・高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備（高齢者や障害者等の生活支援、国際理解と多文化共生の推進など）
- ・生涯を通じた健康づくりの推進（性差に配慮した健康支援の充実、妊娠・出産・育児の切れ目のない親子の健康づくりなど）
- ・政策・方針決定過程における男女共同参画の推進（市審議会や市管理職等への女性登用、市職員への研修、庁内の体制整備の推進など）
- ・地域における男女共同参画の推進（地域活動・社会活動の場・防災対策での推進、農業・商工業等自営業での促進など）
- ・あらゆる暴力の根絶（暴力を防ぐ環境整備、被害者への支援体制の充実など）

〈属性別〉

- ◆男女とも「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」が最も高い
- ◆男女差は「男女共同参画に向けた意識づくり」「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」「生涯を通じた健康づくりの推進」で大きく、「男女共同参画に向けた意識づくり」は男性、「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」「生涯を通じた健康づくりの推進」は女性が高い

性別でみると、男女とも「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」（男性 48.0%、女性 58.3%）が最も高く、次いで男性は「男女共同参画に向けた意識づくり」（41.6%）が高くなっています。女性は「男女平等を推進する教育・学習の充実」（35.5%）、「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」（34.7%）、「生涯を通じた健康づくりの推進」（33.9%）の3項目が同程度に高くなっています。

男女差は「男女共同参画に向けた意識づくり」（男性 41.6%、女性 27.1%）、「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」（男性 21.6%、女性 34.7%）、「生涯を通じた健康づくりの推進」（男性 18.4%、女性 33.9%）で大きく、「男女共同参画に向けた意識づくり」は男性が女性より 14 ポイント以上、「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」は女性が男性より 13 ポイント以上、「生涯を通じた健康づくりの推進」は女性が男性より 15 ポイント以上高くなっています。



◆いずれの年代も「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」が最も高く、次いで高い項目は年代によって異なる

◆年代差は「男女平等を推進する教育・学習の充実」で最も大きい

年代別でみると、いずれの年代も「働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進」が最も高く、次いで18～29歳は「男女共同参画に向けた意識づくり」(35.7%)、他の年代は「男女平等を推進する教育・学習の充実」が高くなっています(50歳代(32.0%)は「高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備」と同値)。

年代差は「男女平等を推進する教育・学習の充実」で最も大きく、最も高い30歳代(45.5%)と最も低い18～29歳(26.8%)では約19ポイントの差がみられます。

	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
n	56	66	109	169	227
働く場における男女共同参画と仕事と生活の調和の推進	60.7	57.6	59.6	49.1	51.1
男女平等を推進する教育・学習の充実	26.8	45.5	37.6	32.0	39.2
男女共同参画に向けた意識づくり	35.7	28.8	34.9	29.0	35.7
高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備	26.8	21.2	22.9	32.0	33.5
生涯を通じた健康づくりの推進	33.9	30.3	26.6	28.4	25.6
政策・方針決定過程における男女共同参画の推進	19.6	16.7	14.7	16.6	19.8
地域における男女共同参画の推進	19.6	13.6	14.7	10.7	22.5
あらゆる暴力の根絶	14.3	18.2	11.9	20.1	8.8
その他	5.4	6.1	3.7	4.7	3.1
無回答	0.0	4.5	1.8	3.0	4.8

※各年代で最も高い値を濃色、次いで高い値を淡色表示

〈「その他」の内容〉

- ・男性と女性の給料差別はなくすべき。女性の給料を上げるべき。
- ・女性優先ばかりでなく考えてほしい。
- ・女性がなぜ役員や重要職につかないのかの意識調査。「お父さんが出ていけばいい」と思うのはなぜか。
- ・人口を増やす＝産業を増やす＝女性の経済力を上げる。
- ・男性とか女性とかでなく、人として生活しやすい社会
- ・性差は事実存在するので、差があることは仕方がないと割り切るべき。
- ・女性が意見を述べられる場、機会の設営
- ・若者が安心して暮らせる社会の構築
- ・国際結婚(男性日本人)した場合、子どもは血のつながりがあるので、女性のファミリーとして受け入れられるが、男性(夫)は赤の他人なので、女性(妻)

は、気に入らなければ子どもを連れて国へ帰ってしまいます。特にアジア系の女性。田舎には男やもめがたくさんいます。結婚前に生活環境を考える必要があります。

- ・教育。今すでに大人の人の考えを変えるのは非常にむずかしい。
- ・縦割りの仕事をやめる。
- ・男女共同を強制すべきではない。
- ・若者も含め男女が働ける場所。優良企業を呼んだり、地元でできることを売って、コラボレーションによる連携を高め、まちづくりを複雑化させることによる、色々な可能性を生産しますと、活気が出て、若者男女も思いとどまるのではないのでしょうか。
- ・男女参画だけでなく、各窓口からの市民の声を各課やその上できちんと吸い上げ検討し、その回答をしてほしい。
- ・沼田市職員のやる気。

- ・人が減り続け、高齢化が進んでいて、働く場所がない沼田で、このようなこと言ってもどうかと。その前にしなくてはならない事は山積みでは。
- ・保育料無料化。子どもを産んでわかることは、子どもが体調を崩した時に誰も介抱してくれる人が周りにいないと、仕事を休まざるを得ない。そうになると男女共に仕事していると、休めない状況が生まれるため、どちらかが仕事に負担を抱えて育児しなければならない。会社に育児介抱休暇を設定してほしい。
- ・所得補助、減税
- ・特にない。浮かばない。
- ・このアンケート自体が意味不明、平等と思っていないからアンケートするのだからまずはそこを変える。
- ・男女は同権で平等だが、異質である事を踏まえた教育。差別や区別をする事なくカテゴリーを越えて、子ども達で遊ばせる。大人達が過剰に包摂しない。良い学校、良い会社、良い人生のような考え方は捨て、クズ人間を育成しない。
- ・現状で良いだろう。
- ・興味がない。

8 男女平等や男女共同参画について感じる事（自由記述）

最後に、あなたが日頃、家庭や職場などにおいて、男女平等や男女共同参画について感じる事がありましたら、下欄にご記入ください。

約 150 件のご意見等が寄せられました。これらの中には、沼田市としてすでに取り組んでいることや、検討・予定していることなどが含まれている場合があります。

男女共同参画全般

- ・「隼より始めよ」市役所が範となっている現状を市民に見てもらだけでも良いPRになると思います。
〈男性・60 歳代〉
- ・お互いを尊重する。〈男性・50 歳代〉
- ・スポーツが男女別であるように、男性の腕力にはとうていいきません。もちろん女性蔑視はよくありませんが、適材適所でいいのでは。全てを平等にするのも疑問です。例えばレスキュー隊は女性にできるのでしょうか。〈女性・50 歳代〉
- ・ゆとりがない時代になってしまい、やさしさ、おもいやりの少しでもある時代になってほしいと思う。
〈女性・60 歳代〉
- ・今の世の中、男の方が迫害を受けている印象が強い、なぜ今、男女平等なのか。今は女性の方が上に行っていると思う。男が弱い世になりました。〈男性・60 歳代〉
- ・雑用は女性にやらせる。面倒くさいことは女性にやらせる。職場も家庭内でもその傾向があると感じております。男性ってそんなに偉いのですか。〈女性・50 歳代〉
- ・私の場合は、親（自身の両親、夫の母）3 人の生活支援、介護が必要となり離職しましたが、女性だからではなく適しているからと考えているし、家事全般をすることも、女だからではなく、夫が収入の責任を負い、私が生活雑事を負う共同体と考えているので、家庭内でお互いどっちが優位などと思ったことがない。以前の職場でも男女差についてはお互い様だと思っていた。多分、とっとも恵まれていたのだと思う。また、今の時代において男女平等、男女共同という言葉すらおかしいのではないのでしょうか。その時点で真ん中の人弾かれてるように感じるから差別も含まれているのではないかと。人間平等人間みな共同参画社会であってほしいと思います。
〈女性・50 歳代〉
- ・身体的には男女平等ではないと思う。そのこと以外では様々なことを平等にすればよいと思っています
〈女性・60 歳代〉
- ・昔から比べれば少しは改善したが、ジェンダーギャップ指数はG7の中でも最下位なのは何故なのか。まだまだたくさんの格差が存在している証明だろう。
〈女性・60 歳代〉

- ・常に男女平等を意識している。〈男性・60 歳代〉
- ・男と女では身体面において体格、身体能力に違いがあるのは明白。個性の尊重、お互いを思いやる気持ちを持って人と接し、自分の能力を高めていくこと、広い視野を持って社会に貢献していく意識を高めていければよいと思う。〈女性・60 歳代〉
- ・男女が格差なく対等な立場で社会をつくっていくことは大切だと思いますが、社会・生活・職業等、様々な場面において必ずしも男女平等・対等が絶対ではないと感じます。1 人の人として対等ではあるべきですが、「男女」というより、「個人」として尊重され、評価される事が理想と考えます。〈女性・40 歳代〉
- ・男女とも体力も機能も違うので、平等というのはむずかしい。〈女性・50 歳代〉
- ・男女差別はあってはならないが、男女の区別はある程度必要。性別によって得意、不得意な事にも違いがあるため。〈男性・40 歳代〉
- ・男女平等といっても、体力や筋力は男性には絶対かなわないのが現実である。場面、場面で男女の役割を分けた方がうまくいくと思う。女性は男性には体力面では勝てないので、女性が男性と全く同等に社会進出は難しいと感じている。〈女性・50 歳代〉
- ・男女平等や男女共同参画または多様性という言葉を全く気にせず、自然に多様な状態であることが理想だと思う。しかし、周囲の空気感や、周囲の視線を気にしすぎたり、価値を完徹できない日本人には、男女平等も多様性も永久に不可能だと思う。〈男性・40 歳代〉
- ・男女平等社会の実現は、遠い未来のこのように感じます。日本の社会では、個人がこれに抗して戦うことはハードルが高く大変です。とりあえずは政治、行政、企業のトップは女性が多数派になること、日本人はどうもトップダウンが好きな国民のようです。本当は、ここを変えないと世の中は変わらないのですが。〈男性・60 歳代〉
- ・男性だから女性だからではなく、気がついたらお互いにやることが望ましいと思います。〈女性・60 歳代〉
- ・夫婦同姓制度の国は日本だけで、95%は夫の姓だそうです。政府は民法を改正し、選択的夫婦別姓制度を早期に導入すべきです。同制度の実現は、男女平等や男女共同参画のスタートになると思います。〈女性・60 歳代〉

- ・分ける必要がある物事は分け、分ける必要がない物事は分けなくてもいいと思います。男女差別とはそういうことだと思います。〈男性・40 歳代〉
- ・理解はしているが、現実はまだまだ差があるし、努力したいと思います。〈男性・60 歳代〉
- ・良く相談する。〈男性・60 歳代〉
- ・私は医療従事者(リハビリ職員)で理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の男女比はほぼ同程度です。男女関係なく意見を言い合える環境下であると思われる。ただ、医師や役員に意見やハラスメントなどの話や訴えが通りやすいのは女性であり平等ではないと思われます。女性が社会進出した際に生理や出産などあり、身体的な負担はあると思いますが、生理休暇や産休などの支援があり、男性は女性が抜けた分の負担や体格の差があるからと力仕事や責任を強いられることによる身体的疲労、家庭に帰ればパートナーからの子育てや介護による疲労からの罵倒や負担を軽減しようと家事に手を出して気に食わなければ罵倒され、しまいには親族や友達などに「うちの旦那は使えない」「給与も安くて役に立たない」などレッテルを貼られる。そんな負のスパイラルによってストレスの蓄積により、女性より男性のほうが寿命が短いのが現実ではないでしょうか。それに加えて給与も同等になれば、女性のほうが優遇されていると言われてもおかしくないと思います。少し前の話ではありますが、電車で痴漢をされたと嘘をついた女子高生が厳重注意で済み、冤罪の社会人男性の人生は全てを失ったということがありました。女性が触られたと言えば冤罪であっても信用されるのは女性、援助交際で女性から性的行為を誘ったとしても女性が襲われたといえれば女性が信用されて男性が冤罪であっても人生を狂わされる。これが現実です。女性は男性が優遇されている、男性は女性が優遇されていると交わることのない平行線だと思います。〈男性・30 歳代〉
- ・トイレ掃除はなぜ女子だけがやるのか。〈女性・40 歳代〉
- ・女性は、大変なことはやりたがらないと思っています。〈男性・60 歳代〉
- ・能力がないにもかかわらず、無理に数字だけをとらえて女性の数(参画する)を増やそうとする無意味な試みに疑問を感じざるをえない。〈男性・30 歳代〉
- ・日本はすでに平等な社会を実現しているので、これ以上税金を投入すべきではない。それより老朽化したインフラを整備すべき。男と女の違いを言うのは差別ではない。区別は必要。〈女性・60 歳代〉

教育・啓発

- ・こういった事は今すぐにできないので、学校教育から長い目で見る必要がある。〈男性・60 歳代〉
- ・高齢男性の価値観が変わらない限り男女平等にはならないと思う。まず沼田市議員から男女平等の考えを持ってほしい。〈女性・40 歳代〉
- ・時代によって考え方も違うと思うが、自分の中にも古いしきたりの固定観念を気にしてしまう部分があ

るので、自分の意識を変えていかなければならないと感じた。〈女性・40 歳代〉

- ・若い世代と私達との間には考え方の差が大きくなっていると感じています。例えば、共働きがあたり前、子育てや家事を夫婦で分担するのはあたり前、時代の流れに合った生き方を男女それぞれに分かち合うことが必須のように思われますが、具体的には「？」です。互いを認め、尊敬し合う事が大切であり、教育道德の場を強めることも解決の1つかと思います。〈女性・60 歳代〉
- ・女が家事をやる、できるのがあたり前で、男がやると「手伝い」(当たり前じゃない)となるのに違和感がある。親が昭和の人間なので、小さい頃から「女の子なんだから」とつけて、「かわいくない」とや「それくらいできないと(料理や家事)」と言ってくることも性差別だと思うし、男女不平等でもあると思う。次世代への教育だけでなく、親世代や高齢者にも含めて新しい時代の「あたり前」を広めるべきだと思う。〈女性・18~29 歳〉
- ・女性が活躍している職場(医療)なので、特に男女がどうのとは感じないが、女性が活躍する鍵が「資格」にあたりします。そういう意味で教育は大事。〈男性・50 歳代〉
- ・昔の人々の考え方は変えることはできないので、若い人々の考えるような生活・働き方が実現できたらよいと思う。〈女性・50 歳代〉
- ・昔よりは浸透してきていると実感するが、年配の方や固定概念を持ち続けている人間が一定数いることは事実であり、全てを一気に変えるのではなく、様々な人間に対してある程度の理解を得られるよう、少しずつ変革を行っていく他ないと思う。〈男性・30 歳代〉
- ・団体などの組織に女性部とか女性代表とかが残っているのを見ると、まだまだ意識改革が必要だと感じる。〈女性・60 歳代〉
- ・男女ともに古い考えを捨てるべき。女性が、男性がと言っていることがおかしい。人として、すべきことをすべき。男も女もない。〈女性・50 歳代〉
- ・男女平等、男女共同参画は男女の性質の違いをお互いに知って協力し合って生きていくという印象が個人的にあるので、男女の性質の違いをまず学ぶことも大事なのかなと思いました。〈女性・40 歳代〉
- ・男性だけでなく、女性も男女共同参画に関する意識が低いと感じます。まだまだ、男性は「女性のくせに」、女性は「私は女なのだから」という意識を持っている気がします。個人だけでなく社会的な意識、環境を整えるには相応な時間が必要になると考えます。〈男性・50 歳代〉
- ・悲しいですが、昔々からの「男の人の方が強い」という考えは未だに残っていると思います。これから生きる 10~20 代くらいの年代なら、少しはこの考えがなくなっているのではないかと感じますが。〈女性・50 歳代〉
- ・本課題は私達一人ひとりが、どれだけ自分ごととして受け止められるかが重要です。従って、改善しな

い場合のデメリットや改善した場合のメリットを分かりやすく情報提供したり、教育を進めることが必要だと思います。〈男性・60歳代〉

- ・例えば企業における女性登用を進めることで、本来、比較すれば役員として登用すべき男性の活躍機会を奪う可能性もあると思います。本調査の選択肢は、私には、全く共感できませんでした。差別の原因は、どこまでいっても個人です。弾劾すべきは個人の行動や思考であり、社会の仕組みの変化ではないのではというのが私の考え方です。そのための教育にぜひ注力してください。〈男性・30歳代〉

女性の社会進出や働く場

- ・「家庭・職場で男女平等かどうか」というのは、職種によっても違いが出てくると思います。〈女性・60歳代〉
- ・「長」のつく役員・役割について適格な女性は多い。ただ前例が少ない場合、候補として女性があがらない場合が多い。制度的に整えていけば、男女共同参画の社会がより近づいてくと思う。〈男性・60歳代〉
- ・20年以上前、市内で働いていたが、妊娠を理由に仕事を続けることができなかった。リストラが流行っている時だった。産休は何とかもらえたが、戻る場所がないと言われて辞めた。今でもとても悔しくて、ずっと忘れることができない。別の場所で同じ職業で今は働き、管理職になった。同じ思いをする人がいないよう、今の職場の環境は整えている。〈女性・50歳代〉
- ・医療職なので男女の不平等は特に感じていないが、女性も男性と同じ位の収入を得ることで、家庭や地域でもしっかり意見を言えることにつながっている。〈女性・40歳代〉
- ・一経営者です。パートさんが130万円、103万円の壁を気にしてそれ以上働きません。時給だけ上がったとしても、それ以上の報酬を求めたくても、扶養を気にして働けない状況です。その辺の整備もしないと共同参画にはならないかと。一意見です。〈男性・50歳代〉
- ・何が男女平等なのか、男女共同参画なのかというのを画一的に決めるのは良くないと思います。性差だけでなく、個性、個人の意志などで、どういう状態が男女ともに満足なのか千差万別だと思います。例えば仕事にしても、管理職の女性が少ないから増やしていきたいという流れがある一方で、管理職になりたくない女性の割合も一定の割合でいると思います。これは、最近は男性も増えているかもしれませんが。こうなっていきたいという魅力のあるものを増やすこと、それらに挑戦できる機会がしっかりと与えられることの両方を成していく必要があると思います。〈男性・40歳代〉
- ・現在、時代も変化し、女性も働いているので、女性が強くなって男性の立場が弱くなっているようにみえる。〈男性・40歳代〉
- ・現状では男女平等を唱えすぎて逆に息苦しい気がする。女性が社会進出をしてくると出生率が下がる、逆に家庭で子育てに専念すると女性だけ育児をして不平等となる。なかなか難しい問題だが、昭和のような、「産めよ増やせよ」は、もう無理なので、人が少なくとも生活できる環境づくりが大切になるのでは。〈男性・18～29歳〉
- ・今の若夫婦は共働きが多いですが、私の職場（スーパー）ではパートがほとんどで、正社員は店長含め5～6人しかいません。やはり子ども、介護する人がいれば、何かあった時は母親の方にくるので、正社員になるのは難しいと思います。〈女性・60歳代〉
- ・最も改善しなければならない問題は少子化。今以上に女性の社会進出を図る意義はない。〈男性・50歳代〉
- ・自衛隊の基準で男女区別なく評価する社会であればと思う。〈男性・60歳代〉
- ・自分が知る限りでは、働く女性が増えてきて充実してきていると思います。〈男性・30歳代〉
- ・自分の職場でも育休、産休取得する女性が多い。それは必要なことで、応援したいが、実際には常に人手不足の職場では、残された人達の負担があまりにも大きく、よい対応ができていないと思う。休んでも間の職場のことも対策してほしい。〈女性・60歳代〉
- ・女性、男性にかかわらず皆が働きやすいとよいと思います。〈女性・30歳代〉
- ・女性が高収入を得ることはとてもむずかしく、遅く帰っても家事全般を1人でやらないといけない生活。収入が多ければ外食やコインランドリーや家事代行などできるが、収入が少なく、相手におうかがいをたてないとできないことへの不満がある人は多いと思う（自分を含めて）。〈女性・40歳代〉
- ・女性が自立できる経済力を持つことが、男女平等のためには必要であると思う。お互いを尊重し、対等に意見をし、一人では難しいことでも二人でより良い生活を実現していくことが理想である。〈女性・60歳代〉
- ・女性が出産することで、職場での地位が下がり、育児で休みが多いことで、評価が下がる。子どもを産むことで女性ばかりが犠牲になっている。〈女性・40歳代〉
- ・女性の仕事に対する意識が低く、中小企業として男女平等の待遇は厳しいと思う。企業は育児等の休暇を与えると運営に支障をきたすため、人員確保が厳しい。もっと補助金等の制度を推進するのであれば、行政で考える必要があると思う。〈男性・60歳代〉
- ・女性の中にも積極的な人もいる。男性でも消極的な人もいる。結局は個々の能力であるので「男女共同」と言わない世の中になればいいと思う。〈男性・50歳代〉
- ・女性を優先的に管理職や要職に就けるのは素晴らしいが、形だけ、お飾りに感じることもある。性別関係なく個人の活躍を支援できるようにしてほしい

- い。子どもの時代から、平等を説き、多様化されている個人の特性を生かせる社会を望みます。〈女性・60 歳代〉
- ・女性、女性と言っているうちはまだまだと耳にします。能力のある女性が管理職につくことは当然であり、普通のことになるといいですね。〈女性・50 歳代〉
 - ・職業時に女性が強く、男性が息苦しく思われることがあるが、女性が生き生き働いている方の職場は業績もいいように感じる。最後は「思いやり」が大切なのではと思う。家庭でも職場でも社会でも。〈女性・50 歳代〉
 - ・職場での女性に対して甘いと感じることが多く見られて、差別だと思っています。〈男性・50 歳代〉
 - ・職場で男性社員に「女にはその仕事は無理だからしなくてよい」と言われることが多いです。バカにされている感じで凄くイヤです。〈女性・50 歳代〉
 - ・人間を性別で判断せず、その能力で役職や立場に立つ。制度があるのに利用できないのは、それなりの理由がある。〈男性・50 歳代〉
 - ・性別によらず、自由な競争を妨げないことが重要で、男女平等・共同参画の名のもとに、制度変革を急ぎ過ぎてはいないだろうか。女性を優遇した結果、同じ能力を持つ男性の処遇が不公平を生んでいる。〈男性・60 歳代〉
 - ・設問に関連してですが、審議会委員等への女性登用でかなり成果があるのではないのでしょうか。ただ、公募となるとなかなか積極的参加が少ないのかも。参加しづらいのか、そもそも意志がないのか、悩ましいところ。女性の区長・議長・市長なんかいいんじゃないですか。〈男性・60 歳代〉
 - ・全てのことに男女が均等に仕事をすべきとは考えませんが、女性が家事・育児・介護などを主にする場合、休暇を充実させてもらえる環境経済的支援をしてもらえる制度があればモチベーションを保てると思う。〈女性・50 歳代〉
 - ・全体的に女性の役職の人数が少ない。〈男性・60 歳代〉
 - ・体力面、指導力など、どうしても男女の力の差、格差はついてしまいます。男女平等とか共同参画とか、闇雲に唱えるのではなく、性別に関係なく個々の能力によって、登用するなどの判断が必要です。女性ばかり取り上げすぎると、今度は男性蔑視にもなりかねません。今回のアンケートで改めて物事の本質を捉えて考えないと、この問題は非常に危険だと思います。〈男性・50 歳代〉
 - ・大企業や中小企業といった組織の規模等を問わず、コンプライアンスを浸透させ、徹底していく。〈男性・40 歳代〉
 - ・男・女というくくりがもはやおかしい。その他の人もいるのはわかっているのに。長い間男性が決定権を持って今の世の中なのだから、この際全て女性に任せみては。少しはましな世界がみえるかも。〈女性・60 歳代〉
 - ・男も女と同じ仕事なので、給料も同じで良い。〈女性・60 歳代〉
 - ・男女「平等」なので、女性だけを優遇するのはおかしい。役職にふさわしい能力の有無ではなく、女性管理職〇%など数字ありきで登用されている。そのせいで本来のふさわしい役職に就けていない男性がいることもある。結果的に能力のない上司の下で働く「部下」、望んでいないのに役職を任された「女性」、その女性のせいで役職につけなかった「男性」、全員が不幸になる。そもそも「男性と女性」は「金と銀」と同じで、物質的な違いがあつて、それぞれに違った価値と特徴がある（男尊女卑ではなく）。同じ価値観ではかることがナンセンスだし、それを無理矢理「男女平等」と同じテーブルに並べようとしていることに違和感がある。〈男性・30 歳代〉
 - ・男女で区別するのではなく、個々の個性を認め尊重できる社会になってほしいです。男女の平等ではなく、人としての平等を考えられるとよいです。〈女性・18~29 歳〉
 - ・男女雇用機会均等法の成立から約 40 年、その間、育児休業法等整備がなされたが、まだまだ男女平等とはなっていないのが実態だと思う。職種・地域・年齢による差も大きいが、あらゆる場で女性が活躍できる社会に早期になることを願う。〈女性・60 歳代〉
 - ・男女平等とはなかなかむずかしい。まして建設業においては無理だと思う。事務職、特に女性は（給与が）低いままです。同じ仕事をして、男性と女性の差（給与）は、公務員とは比べものになりません。〈女性・50 歳代〉
 - ・男女平等にこだわらず、やりたいことがあれば、男でも女でも自由にやれば良い。やりたくないのに男女平等といって、無理に女も参加せよという社会になるのは面倒くさい。今までの経験で男女不平等を経験したことはない。〈女性・50 歳代〉
 - ・男女平等には賛成ですが、女性の立場を強くしようとする動きだけが大きくて、男性の立場が低いものに関して置き去りになっている気がします。女性の社会進出が課題とありますが、大部分は男が働くものだと思われていますし、「女の子くせに」という言葉はタブーですが、「男のくせに」は許されるなど、女性の権利を強くするがあまり、男性の権利がなく肩身が狭くなっているような気がします。優秀な人が議員や役員になればいいと思いますし、家庭でも理想はお互いの仕事量で役割分担するなど、お互い助けあえばいいと言います。なかなか難しいとは思いますが、男女共に納得できる社会になってほしいです。〈男性・40 歳代〉
 - ・男性と女性を平等にするというよりは、男女に関わらず（性別に関係なく）個々が尊重される世の中になればよいと思います。現在の働き方のシステムは、男性が働き、女性が支えることを前提にできたものをそのまま続けているので、男性も女性も働くことを前提にしたシステムの再構築が必要だと考えます。週 5 日で 8 時間労働では生活が破たんします。〈女性・30 歳代〉

- ・男性の育児休業取得はできるようになっても、女性に頼った夫婦が一緒（実質女性主導）の育児・家事ではなく、男性も一人で頑張れるような育児休業ではないと思います。また、育児休業を取得する人を一緒に働く人達があたたかく応援できるよう、人員の補充や確保など、フォローできる体制が整わなければ不満につながってしまうと思います。企業は、その部分を取り組んでほしいです。〈女性・40 歳代〉
- ・男性の方が仕事で残りがちなので、性別関係なく早く帰れると良い。そして、家事を分担できると良い 〈男性・30 歳代〉
- ・統計をとったわけではないのですが、女性が働くことで、メリットを受ける男性が少ない気がします。例えば、女性警察官が多くなると、女性が相談しやすくなって良い等と言われても、男の身としては積極的に動こうとはあまり思いません。〈男性・40 歳代〉
- ・無理に女性を会社役員や管理監督的地位にする必要はない。本当に能力がある者に任務させないと大変なことになる。女性管理者は、とても能力が高い方以外は絶対ダメ。女性の管理者が少ないから女性を起用するといった考えは危険！ 〈男性・50 歳代〉
- ・男女の脳の仕組みや身体の仕組み、得意不得意がある中で、男性が得意とする職業や役割に女性を参入させようと考えていることがそもそもの間違いであり、増えるはずがない。「男性が得意とする仕事」が高給で安定しているのに対して、「女性が得意とする仕事」が薄給の非正規雇用が当たり前となっている。その現状を変えることこそ、真の男女平等社会と言えるのでは。市役所こそ女性が得意とする仕事を、当たり前のように薄給で一年毎の更新の嘱託職員として募集しておきながら、こんな調査をして、男女平等を考えています（という）パフォーマンスを税金を使ってする位なら、市役所の雇用体制から改善する方が早いのではと感じております。〈女性・50 歳代〉

家庭

- ・家では 60 代の両親の固定概念である長く付き合う＝結婚という思考に悩まされています。職場では、もし結婚しても育児休暇が取りにくい雰囲気を感じ、お付き合いしている人がいると心配されることに不信感を感じている。〈性別その他・30 歳代〉
- ・家庭においても職場においてもまだ男性社会の風潮が残っている様に思います。〈女性・60 歳代〉
- ・家庭の中でも、食事づくりに男子が加わるとつい大げさにほめてしまうところがある。夫がつくる時にはなおさらほめてしまう。まあ、ご機嫌にしたいからとは思いますが、自分でも「なんだかな」と内心想ってしまう。〈女性・60 歳代〉
- ・家庭や職場において、年齢が上がることに男女平等から女性上位になっている現実だと思う。男女共同参画は若い人達で進めてほしいと感じる。〈男性・60 歳代〉
- ・仕事より帰宅後、家事負担が多く、男女平等の考え方がまだまだ理解できないと思う。〈女性・60 歳代〉
- ・専業主婦です。お金を稼いでいないので肩身が狭い。働いている人は、土・日が休みだが、私には休みがないので、土・日はやることが多いので、ストレスが溜まりイライラします。専業主婦にも給料と休日を与えてほしいです。ちゃんと働いているのだと評価して公表してほしいです。沼田市は男女共同参画情報紙ハピネスを出しているのですね。「誰もが自分らしく生きられる社会をめざして」キャッチフレーズがわかりやすい。〈女性・60 歳代〉
- ・男女と言うより、ふたりで得意分野を分担するのがベスト。〈男性・60 歳代〉
- ・年代的に家庭のことは全て女の仕事で、手伝ってくれず、仕事も普通にしているため、不平等を日々感じている。男の方が偉いと言うのですが、我慢している私の方が偉いと思う。〈女性・60 歳代〉
- ・普段、親の病院とか食事の支度は自分がしている。自分が子どもの頃は、家事は母がしていたので、自然にそうになってしまっている。これからの世の中は、家庭環境が男女差のない家庭だったら、世の中も男女格差のない世界になっていくのではないかと思う。〈女性・50 歳代〉

子育てや介護

- ・家庭生活が円満に送れるように、男女共に育児をしていても共働きできる社会になると良いと思う。育児は、子どもが成人になるまで続くので、男性も子どもの看護で休みやすい環境だとよい。〈男性・30 歳代〉
- ・ある程度仕方がないことだと思いますが、子育て世代とそれ以上の世代とで考え方に差が大きいと感じます。人手不足なので仕方がない面もありますが、育児短時間勤務の制度について、権利はあるが実際に申請されると迷惑と感じている方が多い印象です。子どもが小さいうちは子どもの面倒も見つつ、短時間勤務で働きたいですが、現実には厳しいです。実際は仕事を優先させるがために子どもの面倒は祖父母に負担をかけています。自分で子どものことを把握しきれないことも辛いです。職場に迷惑をかけながら家庭を優先させて短時間勤務で働かせてもらうか、子どもが小さいうちは退職をするか、いつも悩まされています。同じように悩んでいる同世代もとても多いです。制度の充実だけでなく、制度が使いやすい雰囲気づくりをお願いしたいです。短時間勤務をする分、他の方に負担がいくのは事実なので、短時間勤務で給与が減る人がいる分、他の方が増えるなどの制度があればお互いに気持ち良く働けると思います。〈女性・30 歳代〉
- ・お互い仕事を長く続けるためには、子どもは産まれない。なぜなら、子どもが急な風邪や怪我等で休まなければならないから。年に数回ならまだしも、幼児期はほぼ毎週のように風邪をひく。毎週休んでいたなら、会社からも非難される。だから、どちらかが仕事を辞める決断となる。せめて、小学生に上がるまでの間、育児休暇があればとつくづく感じる。男

と女どっちが仕事を辞めるかと言うと、現状女の人でしょう。それが適任であるから。家事育児が向いているからにすぎない。これは差別云々ではなく、得意なことであるからそう思う。男の方が得意とするならそうすればいいが、人間のメカニズムが、女が子どもを産み男が食い物を採ってくる。人間がこの世に生まれてからのルールだ。それを今更不平等だのなんだと言っているのはおかしい。そんなの自分が得意なことをすればいいと思う。〈男性・30 歳代〉

- ・育児時間の取得や、子どもの体調不良で保育園を休む時、それらは女性を中心となっている。家事はある程度分担は必要だが、向き不向きもあると思うので、お互いを思いやって、補い合えるような考え方にしたい。〈女性・40 歳代〉
- ・家事、育児、介護は女性だけが担うべきではない。男女とも安定した収入が保障されれば、共同参画が進むと思う。〈女性・60 歳代〉
- ・共働きの家庭が多い中、子どもを預ける所がなく、時間パートで働く現状。無料または格安で預けられる場を設けてほしい。子どもが遊べる公園や施設を増やしてほしい。子どもを安心して預け働けるようにしてください。〈女性・60 歳代〉
- ・結婚をするにあたり、沼田市にきました。子どもにもめぐまれましたが、以前働いていた会社が土・日休みではなく、また、子どもをみってくれる人もいなかったで離職しました。保育園に入れるにしても日曜日みってくれる人がいなかったの。保育園以外にも企業型託児所みたいな所があったらよかったと思いました。または、子連れ出勤OKの会社が増えたらいいのにな。〈女性・30 歳代〉
- ・仕事が忙しく、子どもをスポーツ少年団などの活動に参加させにくいのが現状です。職場も女性の人数が少ないですが、もう少し、男性職員の子どもの世話などの理解や協力が必要だと思います。〈男性・40 歳代〉
- ・子どもが風邪をひいた時、病院に連れて行ったり、家での看病もすべて私が行っているの、そういう時に仕事を休んだりする負担をもう少し交代でできたら嬉しいと思います。〈女性・40 歳代〉
- ・自宅介護をしています、夫は、わかることは手伝ってくれますが、男性が介護を手伝えるような講習会があると助かります。「何をするか」、それが不明なことが大きすぎます。介護を少しでも理解してほしいです。〈女性・60 歳代〉
- ・自分が勤めている職場は、育児や介護の制度が充実しており、男女共に取得している人が多く恵まれている。そういう職場が当たり前の社会になるといいと思う。〈女性・40 歳代〉
- ・実際に自身が、妊娠、出産、子育てを経験してみて、知らなかったことがたくさんありました。妊娠中の体調の変化や大変な事。子育てにおいてのお金のことや制度などなど。そのため、妊娠、出産、子育てに関して、もっとみんなが知ることができる機会があると、女性も働きやすい環境が生まれると思います

した。また、子育てしやすい環境や補助金があることにより、女性も働きやすい環境が生まれると思います。男性の育児休暇の取得も増えると思います。実際、子育て支援を充実させた兵庫県明石市への移住者が増えたなど、他にも移住してまでも、その場で子育てしたいと思ひ移住して人口が増えた所があります。沼田市は、好きですし、良い所です。でも、さらに子育てしやすく、2人目、3人目を考えやすくするためにも、このように成功している市町村のマネをすることは、悪いことではなく、むしろ良いことだと思うので、たくさんマネして取り入れてほしいです。今、2人目は妊娠中ですが、経済的な心配もあるし、3人目も欲しくても現実的に考えるとムリかなとも思います。実際に経済的理由で、2人目を諦めている人もいます。結婚したい人、しない人、様々な人がいる中で、今の子育て世帯への支援は、今後のためにも、かなり重要だと思います。〈女性・30 歳代〉

- ・主人が育児休業をとれなかったの、その時に一緒に子育てできていたら負担が少なかったと思います。私自身も育児休業とれずに仕事を辞めることになってしまったので、育児休業の充実を願います。〈女性・40 歳代〉
- ・女性は結婚して子どもができると、子どもを預ける所がないと身動きとれない。仕事をしないと保育所へも入れてもらえない。家事や育児を手伝ってくれない夫をもった人は、寝るひまもないほどの生活。周りも考えが変わらない限り、そういう人は多いと思います。〈女性・60 歳代〉
- ・沼田は子どもが少なく、成長すると進学してそのまま他県で就職してしまうパターンが多いので、この地で働いて、暮らしていく魅力ある地域づくりが必要です。みんな日々忙しく働いていますが、やはり家事や育児は女性の役割という認識が多く、女性の負担が多すぎます。そのためには、男女も協力して、仕事、家事、育児を分担できる様な働き方が必須です。男女共同参画も大事ですが、1人で生活を支えているシングルマザーも多いので、表には出ていませんが、日々の生活や子育てで、経済的に大変で苦しんでいる女性も多いです。育児支援を拡充してください。〈女性・60 歳代〉
- ・男が積極的に育児参加すべきと思うが、どうしても母親が必要な期間（母乳が必要な時期）は、母親がみるべき。その上で共同参画の推進が図られるとよい。人間本来の性差はどうにもならないので。〈男性・60 歳代〉
- ・男女でくられるものでなく、その人自身がイキイキとできる社会であれと思う。別に仕事に参画しているのが良いわけでもなく、子育てを、子どもいとしさにしっかり向きあい、時を分け、仕事することも良いことで、仕事をもちながらも子育てすることもありだと思う。〈女性・60 歳代〉
- ・男女などの性差には関係なく、少子化の時代だからこそ、一人ひとりが働く力を身に付け、社会に貢献する意識をもち、役割を果たしていくことが大切だと思います。育児だけに目を向けるのではなく、高

齢社会だからこそ、介護をしつつ仕事を続けられるような社会になればと思います。そのためには社会全体の理解が大切だと思います。〈女性・40 歳代〉

- ・男性が育児に「積極的に」参加するという表現にも違和感があります。女性が育てることが大前提になっているからです。こういった言葉ひとつひとつにもジェンダーを感じます。それがなくなる世の中にしていけたらいいと思います。〈女性・18～29 歳〉
- ・男性が育児参加している光景に、妻子が大事にされている家庭の姿を感じている。〈女性・60 歳代〉
- ・男性が子どもの学校行事に参加したり、家事をすることが珍しくなくなりましたが、まだまだ育児や家事の主体は女性です。いつになったら平等になるのでしょうか。このままでは少子化は続きます。〈女性・50 歳代〉
- ・男性の育休取得がなかなか見受けられないのを感じる。平等に育休取得ができる環境づくりが大切だと思う。〈女性・18～29 歳〉
- ・男性の育休取得が現実的ではない。仕事を休めない人の方が多いし、給料が減る、昇進に響くでは取得は無理だと思う。生活できない。〈女性・30 歳代〉
- ・男性の育児休業が取りにくい。同じ女性でも、子育て経験がない人は、子どもの病気等の欠勤に対して理解が全くないように見える。〈女性・50 歳代〉
- ・男性の良いところと女性の良いところがあるので、両方の力を合わせるといいと思います。仕事では、やる気のない男性はやる気がなくても男性だからと給料が高いのがおかしくて、女性は女性だからと給料が安く、やる気を出して男性よりもかなり頑張らない限り評価されないのがおかしいと思っていました。諦めずに頑張りを続けて評価されるようになったので、私はよかったと思っています。育児は女性がどうしてもやらないといけないこともあるので、そうすると、仕事を続けながら育児をするのは難しい部分があり、女性が時短勤務したり、休んだりする必要があるため、女性が仕事を続けていき昇進など難しいと思います。小さい子どもを保育園に預けるのが「かわいそうだ」や「家庭で育児するべきだ」という意見が強いと、結局女性が家で子どもを見る必要が出ると思います。男性も女性も仕事も育児もするという社会になれば、収入も安定して経済的不安もなく、子どもを産んで育てようという気持ちになると思います。私は3人の子どもの産んで（何で3人も産むのとたくさんの人に言われましたが）、仕事も辞めず、一番下の子どもは1歳5か月で、会社では役職になっています。大変ですが、収入は安定しています。経営者の理解があるため成り立っていると思いますが、仕事と家事や育児で、睡眠不足や自分の時間なんてない状況です。もっと楽に子育てと仕事を両立できたらよいと思いますが、子ども達が可愛すぎて、3人産んでよかったと思っています。大変ですが子どもがいることはとても幸せだと思いますので、社会の仕組みでみんなが幸せになるといいと思っていますので、よろしくお願いいたします。〈女性・40 歳代〉

- ・日本の男性は働きすぎであると思う。時間的にも精神的にも余裕がないから、家事育児の参加が減る。その分、女性（母親）に負担がくる。女性も働いているので負担感は重い。お互い余裕がなくなるから、育児も十分できず、子どもの話も聞けず、子どもの教育にも良くない。子どもがいる家庭にもっと経済的支援をお願いしたい。そうすれば働く時間も抑えることができ、子どもと接する時間も増える。〈女性・30 歳代〉
- ・平等という言葉で片付けてしまうのは無理だと思います。それぞれ環境が違います。男性が産休を取る事一つにしても中小企業でははっきり言って無理な事だと思います。きれいな事ですませるのは、これから先色々な事に行きづまると思います。それぞれの考え方が違うのだから、男女平等と言うより、沼田市はもっと高齢者の事を考えるべきだと思います。あと10年後をもっと真剣に考えてください。〈女性・60 歳代〉
- ・母親が働く→預け場所の開所時間を長くしてほしい→保育士の負担が増える→保育士にも家庭があり子どもがいる→離職者の増加→また保育士の負担が増えるという負の連鎖をなくすためにも、母親が家庭で子育てできるように何とかしてほしいです。最後は女性、母親に負担がかかっているのが現実です。〈女性・50 歳代〉

地域社会

- ・区長は男性、大変な仕事をする民生委員は女性。平等ではないですね。〈女性・40 歳代〉
- ・最近、意識的に性別で態度や役割などを決めるような場面がなくなって過ごしやすくなった。また時代に合わない慣習も見直されつつあって好ましい。ただ、自治会、PTA 活動などに性別による固定的な役割意識は根強い。〈女性・40 歳代〉
- ・私自身、地区の役員、学校関連の役員など「男性がやってあたり前」と思っていました。「でもそれってちょっとちがうよね」と気がつきました。2050 年、2100 年はどんな社会になっているのか見ることができないのは残念ですが、女性、男性、関係なく、みんなが自由に自分らしくいることができる社会になっていることを望みます。〈女性・50 歳代〉
- ・地域の集まりなどに行くと、必ず女性がお茶を出している。あたりまえのように、座っている男性達。〈女性・50 歳代〉

暴力・ハラスメント

- ・65 才以上の人でパワハラの意味がわからない人が多い。男の人はその日で「なみ」がある人がいるので、機嫌が悪いと同僚に八つ当たりする時があるのでやめてほしい。それでやめる人がいる。〈女性・50 歳代〉
- ・私は男性ですが、女性の人権や社会進出が少ないと思います。もっと充実させるべきです。ですが性別にとらわれず、男性はこうだの、女性はどうだのはいいいのですが、人間としては平等なので、

暴力、DV、どちらかの性かは関係なく、認め合うことが必要です。〈男性・50歳代〉

- ・男女平等といっても最近、女性の見えないパワハラ等がある。聞いた話だが、上司の1つの言動に対し、パワハラ、セクハラを言われたと上司の上司に言い処分されたと聞いた。コミュニケーションをとろうとした言葉がそうになると、やりにくさを感じる。〈男性・50歳代〉
- ・男性はハラスメントに対する意識が低く、問題となっているとは存じますが、女性の時風に乗った男性の言動全てを何かしらのハラスメントに当てこんで批判する極度の意識過剰もみえて吐き気がします。職場においても血反吐を吐いてこなすような重要で過酷なポストには望まぬとも男性が割り当てられており、そのような下手をすれば自殺を考えるほど過酷なポストには女性は就いていません。現代は女尊男卑となっている職場も多く、必要以上に男女共同参画を行政が声高らかに推進する意味は実際のところ無駄なことだと思います。〈男性・50歳代〉
- ・常識的な範囲での女性優遇措置は必要かと思うが、「女性なのだから」という理由をカサに、優遇、待遇の向上を期待するのはおかしいかなど。変な例えになりますが、電車の中で痴漢をされた女性は、犯人と思われる男性を問答無用で悪者にできますよね。それが人違いだとしても、痴漢被害に遭っていなかったとしても。この時点で女性の立場はかなり優遇されている訳です。冤罪を着せられた男性は、無罪を主張してもその主張が通ることはほぼ無いと聞きます。逆に女性が男性に痴漢行為を行った場合は、簡単に女性だからという理由で釈放されるのでは。同じ「痴漢」と言う行為であれば同等に裁かれるのが普通だろうけどそうじゃない。女性だから優遇されている。男性だから優遇されている。そんなケースを上手いこと減らしてほしいですね。〈男性・50歳代〉

市民意識調査

- ・こうしたアンケートをしても何も反映されていないように思う(過去の子育てや介護のアンケートなど)。何もしないなら、アンケートや計画書にお金をかけないで、市民に還元してほしい。男女平等も教育が大切、正職員と臨時職員の平等から取り組んでください。〈女性・50歳代〉
- ・ないです。質問が多すぎ 〈女性・18～29歳〉
- ・以前にも市役所から送られてきたものに答えたが、アンケートの設問が多すぎる。アンケートの結果がどのように使われ、どのような効果があったのか、広報等で誰もがわかりやすく見られるようにしてほしい。〈女性・50歳代〉
- ・質問が多くて、途中でやめようかと思いました。重要とか、内容ではなく。〈女性・50歳代〉
- ・全体的にくだらけなアンケートでした。何度も書いたが、実にナンセンス。〈男性・50歳代〉
- ・調査票を送った相手(私)の状況をどのくらい知ってのことでしょうか。当てはまらない質問が多く考えてしまいました。〈女性・60歳代〉

・長い。〈男性・50歳代〉

- ・この調査は公開されますか。産業がないこの町で男女共同参加社会、誰かが変えようなんて、この紙を見ている役所の職員が、変えようなんて思っていないし、この紙も伝わらない。沼田市の役所を見ればわかります。公務員は現状がよければいい。だから、意味なし。この紙は税金の無駄。〈男性・40歳代〉

その他

- ・(女性上位) 男は、女性の意見に全て逆らわない、女性の言うことには、全て「ハイ!」と言うべきだ。嫁さんの言うことに逆らえるわけじゃないじゃん。〈男性・50歳代〉
- ・よくわからない 〈男性・60歳代〉
- ・今のところ特に感じることはありません。〈男性・50歳代〉
- ・普段考えたことがない。〈男性・60歳代〉
- ・特になし。〈女性・18～29歳〉 〈女性・30歳代〉 〈男性・50歳代〉 〈女性・60歳代〉